

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書25

— 成田市倉水高台遺跡・倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・
稲荷山追分台遺跡・成井原山遺跡・成井原山向遺跡・成井猪穴崎遺跡 —

平成26年3月

国 土 交 通 省

公益財団法人 千葉県教育振興財団

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書25

なりた し くらみずたかだい くらみずうち の きた くらみずうち の みな あおやま こ みね
一 成田市倉水高台遺跡・倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・
とう か やまおいわけだい なる い はらやま なる い はらやまむかい なる い ししあなぎ
稲荷山追分台遺跡・成井原山遺跡・成井原山向遺跡・成井猪穴崎遺跡—



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第727集として、国土交通省の首都圏中央連絡自動車道建設事業（千葉県下総地区ほか）に伴って実施した成田市倉水高台遺跡ほか7遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡が発掘されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力いただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、発掘調査から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成26年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 錦 織 總 夫

凡 例

1. 本書は、国土交通省による首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書は、下記の遺跡を取録したものである。

倉水高台遺跡	成田市青山字富ノ木65-3ほか	211-082
倉水内野北遺跡(1)・(2)・(3)	成田市倉水内野64-1ほか、倉水字中山67-1ほか、字中山69-1ほか	211-068(1)・(2)・(3)
倉水内野南遺跡(1)・(2)・(3)	成田市倉水字内野62ほか、倉水小峰410-5ほか、倉水内野160-1ほか	211-070(1)・(2)・(3)
青山小峰遺跡(1)・(2)	成田市倉水小峰406-16、字小峰406-14ほか	211-073(1)・(2)
稲荷山追分台遺跡	成田市稲荷山字追分台408-13ほか	211-084
成井原山遺跡(1)・(2)・(3)	成田市成井原山298ほか、314-2ほか、320-4ほか	211-069(1)・(2)・(3)
成井原山向遺跡	成田市成井字寺ノ下向895-84ほか	211-085
成井猪穴崎遺跡	成田市成井字深作890-2ほか	211-079
3. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
4. 発掘調査及び整理作業の担当者・実施期間は、第1章に記した。
5. 本書の執筆は、第2章・第9章を主任主事 平井真紀子が、第3章の一部を主席研究員兼副所長(平成20年度当時) 相京邦彦が、残りを主任席文化財主事 蒔 淳一が行い、蒔が編集した。
6. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田市教育委員会、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の御指導・御協力を得た。
7. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第1・5図	国土地理院発行 1/50,000地形図「佐原」(NI-54-19-9)	
		「成田」(NI-54-19-10)
第2図	下総町役場発行 1/2,500地形図「下総町地形図No13」(IX-KF 52-2)	
第3図	下総町役場発行 1/2,500地形図「下総町地形図No13」(IX-KF 52-2)	
		「下総町地形図No17」(IX-KF 52-4)
	大栄町役場発行 1/2,500地形図「大栄町地形図No7」(IX-KF 52-4)	を編集
第4図	下総町役場発行 1/2,500地形図「下総町地形図No16」(IX-KF 52-3)	
		「下総町地形図No17」(IX-KF 52-4)
	成田市役所発行 1/2,500地形図「成田市地形図14」(平成13年)	
		「成田市地形図15」(平成12年)を編集
8. 図版1の周辺地形航空写真は、京業測量株式会社平成17年撮影のものを使用した。
9. 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。

10. 本書で使用した遺構番号は、調査時の番号を踏襲した。挿図に使用したスクリーントーンの用例は次のとおりである。繊維土器は断面に示す。須恵器は断面を黒塗りする。



カマド



焼土



黒色処理



赤彩・焼成赤色化痕



繊維土器

11. 遺物の色調については、農林水産省・(財)日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行「新版標準土色帖」1988年掲載の用語を使用した。
12. 本書で使用した遺構の略称は以下のとおりである。
- SI：住居跡 SK：土坑 SD：溝

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯と経過	1
第2節	遺跡の位置と周辺の歴史的環境	9
第3節	調査の方法	12
第2章	倉水高台遺跡	21
第1節	概要	21
第2節	検出した遺物	21
第3章	倉水内野北遺跡	27
第1節	概要	27
第2節	検出した遺構と遺物	27
第4章	倉水内野南遺跡	64
第1節	概要	64
第2節	検出した遺構と遺物	66
第5章	青山小峰遺跡	77
第1節	概要	77
第2節	検出した遺構と遺物	78
第6章	稲荷山道分台遺跡	81
第1節	概要	81
第2節	検出した遺構と遺物	81
第7章	成井原山遺跡	96
第1節	概要	96
第2節	検出した遺構と遺物	96
第8章	成井原山向遺跡	169
第1節	概要	169
第2節	検出した遺構と遺物	170
第9章	成井猪穴崎遺跡	186
第1節	概要	186

第2節 検出した遺構と遺物	186
第10章 まとめ	194
報告書抄録	巻末

挿 図 目 次

第1図 圏央道（常総国）路線内の遺跡	4	第22図 縄文早期遺物集中2出土遺物（2）	43
第2図 倉水高台遺跡周辺地形と調査区	6	第23図 縄文早期遺物集中2出土遺物（3）	44
第3図 倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・稲荷山道分台遺跡周辺地形と調査区	7	第24図 縄文早期遺物集中2出土遺物（4）	45
第4図 成井原山遺跡・成井原山向遺跡・成井猪穴崎遺跡周辺地形と調査区	8	第25図 縄文早期遺物集中3出土状況	47
第5図 周辺の主な遺跡	11	第26図 縄文早期遺物集中3出土遺物（1）	48
倉水高台遺跡		第27図 縄文早期遺物集中3出土遺物（2）	49
第6図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図・基本層序	22	第28図 縄文早期遺物集中3出土遺物（3）	50
第7図 縄文時代遺構外出土遺物	23	第29図 縄文時代遺構外出土遺物（1）	51
第8図 古墳時代以降遺構外出土遺物	24	第30図 縄文時代遺構外出土遺物（2）	52
倉水内野北遺跡		第31図 縄文時代遺構外出土遺物（3）	53
第9図 下層確認グリッド配置図	28	第32図 古墳時代土師器集中出土状況・出土土師器	54
第10図 上層確認トレンチ配置図	29	第33図 奈良・平安時代以降遺構外出土遺物	54
第11図 旧石器石器集中1器種別出土状況	30	倉水内野南遺跡	
第12図 旧石器石器集中1石材別出土状況	31	第34図 下層確認グリッド配置図	64
第13図 旧石器石器集中1出土石器	32	第35図 上層確認トレンチ配置図	65
第14図 旧石器石器集中2出土状況・出土石器	33	第36図 旧石器石器集中出土状況・出土石器、単独出土石器	66
第15図 旧石器石器集中3出土状況・出土石器、単独出土1・3出土石器	34	第37図 上層遺構配置図	68
第16図 旧石器単独出土2出土状況・出土石器	35	第38図 SI-001・002	69
第17図 上層土坑配置図	36	第39図 縄文時代土坑	70
第18図 縄文時代土坑・出土遺物	38	第40図 縄文時代遺構外出土遺物（1）	71
第19図 縄文早期遺物集中1出土状況・出土遺物	39	第41図 縄文時代遺構外出土遺物（2）	72
第20図 縄文早期遺物集中2出土状況	41	第42図 SI-003	74
第21図 縄文早期遺物集中2出土遺物（1）	42	第43図 SD-002	75
		青山小峰遺跡	
		第44図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図	77

第45図	旧石器石器集中器種別出土状況・石材別出土状況・出土石器……………79	第78図	SI-009・出土遺物……………122
第46図	縄文時代遺構外出土遺物……………80	第79図	SI-011・出土遺物(1)……………123
稲荷山道分台遺跡			
第47図	下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図……………81	第80図	SI-011出土遺物(2)……………125
第48図	縄文早期遺物集中出土状況(1)……………82	第81図	SI-012・出土遺物(1)……………126
第49図	縄文早期遺物集中出土状況(2)……………83	第82図	SI-012出土遺物(2)……………127
第50図	縄文早期遺物集中出土遺物(1)……………85	第83図	SI-013・出土遺物(1)……………128
第51図	縄文早期遺物集中出土遺物(2)……………86	第84図	SI-013出土遺物(2)……………129
第52図	縄文早期遺物集中出土遺物(3)……………87	第85図	SI-018・019……………131
第53図	縄文早期遺物集中出土遺物(4)……………88	第86図	SI-018・019出土遺物……………132
第54図	縄文早期遺物集中出土遺物(5)……………89	第87図	SI-020・出土遺物……………133
第55図	縄文時代遺構外出土遺物……………91	第88図	SI-021・出土遺物……………134
第56図	古墳時代・奈良時代遺構外出土遺物……………92	第89図	SI-024(1)……………136
成井原山遺跡			
第57図	下層確認グリッド配置図……………97	第90図	SI-024(2)・出土遺物(1)……………137
第58図	上層確認トレンチ配置図……………98	第91図	SI-024出土遺物(2)……………138
第59図	旧石器石器集中出土状況・出土石器……………99	第92図	SI-024出土遺物(3)……………139
第60図	上層遺構配置図……………100	第93図	SI-025(1)……………140
第61図	SK-025・出土遺物……………102	第94図	SI-025(2)・出土遺物(1)……………141
第62図	SK-029・出土遺物……………103	第95図	SI-025出土遺物(2)……………143
第63図	SK-030・出土遺物(1)……………104	第96図	SI-201・出土遺物……………145
第64図	SK-030出土遺物(2)……………105	第97図	SK-026・出土遺物……………146
第65図	縄文時代遺構外出土遺物(1)……………107	第98図	SD-007・出土遺物, SD-008, SD-010……………147
第66図	縄文時代遺構外出土遺物(2)……………108	第99図	SD-014・出土遺物……………148
第67図	縄文時代遺構外出土遺物(3)……………109	第100図	SD-015・出土遺物……………149
第68図	縄文時代遺構外出土遺物(4)……………111	第101図	SD-016, SD-023……………150
第69図	縄文時代遺構外出土遺物(5)……………112	第102図	SD-027・出土遺物, SD-028……………151
第70図	SI-001・出土遺物(1)……………114	第103図	古墳時代以降遺構外出土遺物……………153
第71図	SI-001出土遺物(2)……………115	成井原山向遺跡	
第72図	SI-002・出土遺物(1)……………116	第104図	下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図……………169
第73図	SI-002出土遺物(2)……………117	第105図	上層遺構配置図……………171
第74図	SI-003・出土遺物……………118	第106図	縄文時代遺構外出土遺物……………172
第75図	SI-004・出土遺物……………119	第107図	SI-001……………173
第76図	SI-005・出土遺物……………120	第108図	SI-001出土遺物(1)……………175
第77図	SI-006・出土遺物……………121	第109図	SI-001出土遺物(2)……………176
		第110図	SI-002・出土遺物……………177
		第111図	SI-003・出土遺物(1)……………178

第112図	SI-003出土遺物(2)……………	179	第117図	上層遺構配置図……………	188
第113図	SK-001・出土遺物……………	180	第118図	SI-001・出土遺物……………	189
第114図	奈良・平安時代遺構外出土遺物(1)…	181	第119図	SI-002・出土遺物……………	190
第115図	奈良・平安時代遺構外出土遺物(2)…	182	第120図	SI-003・出土遺物……………	191
成井猪穴崎遺跡					
第116図	下層確認グリッド配置図・上層確認トレ ンチ配置図……………	187	第121図	古墳時代以降遺構外出土遺物……………	192

目 次

第1表	圏央道(常総国)調査遺跡一覧……………	5	第23表	縄文土器観察表……………	78
第2表	周辺の遺跡一覧……………	13	第24表	縄文時代石器観察表……………	80
倉水高台遺跡					
第3表	縄文土器観察表……………	25	第25表	縄文土器観察表……………	92
第4表	縄文時代石器観察表……………	25	第26表	縄文時代石器観察表……………	95
第5表	土師器・須恵器観察表……………	25	第27表	土師器・須恵器観察表……………	95
第6表	鏡計測表……………	26	成井原山遺跡		
第7表	銭貨計測表……………	26	第28表	旧石器時代石器観察表……………	153
倉水内野北遺跡					
第8表	旧石器時代石器観察表……………	55	第29表	縄文土器観察表……………	153
第9表	縄文土器観察表……………	56	第30表	縄文土器片観察表……………	156
第10表	縄文土器片転用円板観察表……………	61	第31表	縄文時代石器観察表……………	156
第11表	縄文時代石器観察表……………	61	第32表	土師器・須恵器観察表……………	157
第12表	土師器観察表……………	63	第33表	土師器片転用砥石観察表……………	166
第13表	砥石観察表……………	63	第34表	土師器片転用円板観察表……………	166
第14表	鉄製品観察表……………	63	第35表	土製紡錘車観察表……………	166
第15表	銅製品観察表……………	63	第36表	土製切子玉観察表……………	166
第16表	銭貨計測表……………	63	第37表	土製支脚観察表……………	166
倉水内野南遺跡					
第17表	旧石器時代石器観察表……………	73	第38表	砥石・軽石観察表……………	167
第18表	縄文土器観察表……………	73	第39表	鉄製品観察表……………	167
第19表	縄文時代石器観察表……………	76	第40表	スラグ観察表……………	167
第20表	弥生土器観察表……………	76	第41表	銅製品観察表……………	168
第21表	弥生時代石器観察表……………	76	第42表	銭貨計測表……………	168
青山小峰遺跡					
第22表	旧石器時代石器観察表……………	78	第43表	泥メンコ観察表……………	168
成井原山向遺跡					
第44表	縄文土器観察表……………	182	第45表	縄文時代石器観察表……………	183

第46表	土師器・須惠器觀察表……………	183	成井猪穴崎遺跡
第47表	砥石・輕石觀察表……………	185	第50表 土師器・須惠器觀察表……………
第48表	鉄製品觀察表……………	185	第51表 土師器片軀用木板觀察表……………
第49表	炉壁觀察表……………	185	

圖版目次

圖版1	遺跡周辺航空写真	圖版23	SI-003
倉水高台遺跡		圖版24	SD-002, 土層
圖版2	調査状況, 縄文時代遺物	圖版25	旧石器時代遺物, 縄文時代遺物(1)
圖版3	古墳時代以降遺物	圖版26	縄文時代遺物(2), 弥生時代遺物
倉水内野北遺跡		青山小峰遺跡	
圖版4	調査前, 上層確認調査状況, 旧石器土層	圖版27	調査前, 旧石器31J
圖版5	旧石器集中1, 旧石器单独出土2	圖版28	旧石器時代遺物, 縄文時代遺物
圖版6	旧石器单独出土2出土状況, SK-001, SK-002, SK-003, SK-005	稲荷山道分台遺跡	
圖版7	SK-006, SK-008, SK-009, SK-011, 縄文早期遺物集中1・2・3	圖版29	縄文早期遺物集中, 灰跡, 土師器集中
圖版8	旧石器時代遺物	圖版30	縄文時代遺物(1)
圖版9	縄文時代遺物(1)	圖版31	縄文時代遺物(2)
圖版10	縄文時代遺物(2)	圖版32	縄文時代遺物(3)
圖版11	縄文時代遺物(3)	圖版33	縄文時代遺物(4)
圖版12	縄文時代遺物(4)	圖版34	縄文時代遺物(5), 古墳時代以降遺物
圖版13	縄文時代遺物(5)	成井原山遺跡	
圖版14	縄文時代遺物(6)	圖版35	調査前
圖版15	縄文時代遺物(7)	圖版36	上層確認調査状況
圖版16	縄文時代遺物(8), 古墳時代遺物	圖版37	旧石器, SK-025
圖版17	縄文時代遺物(9)	圖版38	SK-029, SK-030
圖版18	縄文時代遺物(10), 奈良・平安時代以降 遺物	圖版39	上層遺構配置
倉水内野南遺跡		圖版40	SI-001
圖版19	調査前, 旧石器25L-46	圖版41	SI-002, SI-003, SI-004
圖版20	上層確認調査状況, SI-001	圖版42	SI-005, SI-006
圖版21	SI-001, SI-002	圖版43	SI-009, SI-011
圖版22	SK-001, SK-002, SK-003, SK-005, SK-006, SK-007	圖版44	SI-011, SI-012
		圖版45	SI-012, SI-013
		圖版46	SI-013, SI-018, SI-019
		圖版47	SI-018, SI-020
		圖版48	SI-024

図版49 SI-024, SI-025
図版50 SI-025, SI-201
図版51 SK-026, SD-007, SD-008
図版52 SD-014, SD-015
図版53 SD-016, SD-023, SD-027
図版54 SD-023, SD-028
図版55 旧石器時代遺物, 縄文時代遺物 (1)
図版56 縄文時代遺物 (2)
図版57 縄文時代遺物 (3)
図版58 縄文時代遺物 (4)
図版59 縄文時代遺物 (5)
図版60 縄文時代遺物 (6)
図版61 縄文時代遺物 (7)
図版62 縄文時代遺物 (8)
図版63 古墳時代以降遺物 (1)
図版64 古墳時代以降遺物 (2)
図版65 古墳時代以降遺物 (3)
図版66 古墳時代以降遺物 (4)
図版67 古墳時代以降遺物 (5)
図版68 古墳時代以降遺物 (6)

図版69 古墳時代以降遺物 (7)
図版70 古墳時代以降遺物 (8)
図版71 古墳時代以降遺物 (9)
図版72 古墳時代以降遺物 (10)
図版73 古墳時代以降遺物 (11)
図版74 古墳時代以降遺物 (12)
図版75 古墳時代以降遺物 (13)

成井原山向遺跡

図版76 調査前, 上層確認調査状況, 土層
図版77 SI-001, SI-002, SI-003
図版78 SI-003, SK-001
図版79 縄文時代遺物 (1)
図版80 縄文時代遺物 (2), 奈良・平安時代遺物 (1)
図版81 奈良・平安時代遺物 (2)
図版82 奈良・平安時代遺物 (3)
図版83 奈良・平安時代遺物 (4)
成井猪穴崎遺跡
図版84 上層確認調査状況, 土層, SI-001
図版85 SI-002, SI-003
図版86 古墳時代遺物

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過（第1図、第1表）

首都圏中央連絡自動車道は、都心から半径およそ40km～60kmの位置を環状にめぐる総延長約300kmに及ぶ自動車専用道路である。千葉県内の区間は、北から利根川南岸の神崎ICに始まり、東関東自動車道との大栄JCT、千葉東金道路との山田台IC・JCTを経て館山自動車道との木更津JCTまでである。平成25年12月現在、このうち横芝松尾ICから木更津JCTの区間が共用されている。本書で報告する成田市倉水高台遺跡ほか7遺跡は、神崎ICから大栄JCTの区間に所在する。

首都圏中央連絡自動車道の建設にあたって、用地内の遺跡の取扱いについて、国土交通省と千葉県教育委員会の間で慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保存が困難な部分について、発掘調査を行って記録保存することとし、神崎IC～大栄JCTの区間について、国土交通省（常総国道事務所）が事業主体となり、公益財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査・整理作業を行うこととなった。上記の区間である首都圏中央連絡自動車道建設（下総地区ほか）に伴って記録保存される遺跡は、第1図と第1表のとおりである。そのうち本書の8遺跡の周辺地形と調査区は、第2～4図に示す。

調査組織及び担当者は以下のとおりである。

平成18年度 調査研究部長 矢戸三男 北部調査事務所長 古内 茂

(発掘) 倉水内野北遺跡（1）

調査期間：平成18年4月17日～平成18年7月3日

調査担当：上席研究員 鈴木弘幸

倉水内野北遺跡（2）

調査期間：平成18年11月1日～平成18年11月30日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

倉水内野南遺跡（1）

調査期間：平成18年7月3日～平成18年8月31日

調査担当：上席研究員 鈴木弘幸

倉水内野南遺跡（2）

調査期間：平成19年2月24日～平成19年2月25日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

青山小峰遺跡（1）

調査期間：平成19年2月1日～平成19年2月23日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

成井原山遺跡（1）

調査期間：平成18年4月24日～平成18年10月31日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

(整理) 整理担当：主席研究員兼副所長 池田大助

- 倉水内野北道跡（1） 作業内容：水洗・注記の一部
- 倉水内野北道跡（2） 作業内容：水洗・注記の一部
- 倉水内野南道跡（1） 作業内容：水洗・注記
- 倉水内野南道跡（2） 作業内容：水洗・注記
- 青山小峰道跡（1） 作業内容：水洗・注記
- 成井原山道跡（1） 作業内容：水洗・注記

平成19年度 調査研究部長 矢戸三男 北部調査事務所長 豊田佳伸

(発掘) 倉水内野南道跡（3）

調査期間：平成19年4月2日～平成19年6月26日

調査担当：主席研究員兼副所長 相京邦彦, 主席研究員 酒井 宏

成井原山道跡（2）

調査期間：平成19年4月2日～平成19年5月31日

調査担当：主席研究員兼副所長 相京邦彦

(整理) 整理担当：主席研究員兼副所長 相京邦彦

倉水内野南道跡（1） 作業内容：記録整理～実測・トレースの一部

倉水内野南道跡（2） 作業内容：記録整理～実測・トレースの一部

倉水内野南道跡（3） 作業内容：水洗・注記の一部

成井原山道跡（1） 作業内容：記録整理～実測・拓本の一部

成井原山道跡（2） 作業内容：水洗・注記。記録整理～分類・選別の一部

平成20年度 調査研究部長 大原正義 北部調査事務所長 豊田佳伸

(整理) 整理担当：主席研究員兼副所長 相京邦彦, 主席研究員 宮 重行, 主席研究員 安井健一, 研究員 黒沢 崇

倉水内野北道跡（1） 作業内容：水洗・注記の一部～原稿執筆・編集の一部

倉水内野北道跡（2） 作業内容：水洗・注記の一部～原稿執筆・編集の一部

倉水内野南道跡（1） 作業内容：実測・トレースの一部～挿図・図版作成

倉水内野南道跡（2） 作業内容：実測・トレースの一部～挿図・図版作成

倉水内野南道跡（3） 作業内容：記録整理～挿図・図版作成

青山小峰道跡（1） 作業内容：記録整理～挿図・図版作成

成井原山道跡（1） 作業内容：実測・拓本の一部～挿図・図版作成

成井原山道跡（2） 作業内容：分類・選別の一部～トレースの一部

平成21年度 調査研究部長 大原正義 北部調査事務所長 豊田佳伸

(発掘) 成井猪穴崎道跡

調査期間：平成21年12月1日～平成21年12月25日

調査担当：主席研究員 内山 健

平成22年度 調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄

(発掘) 倉水高台道跡

調査期間：平成22年10月15日～平成22年11月2日

- 調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助, 主席研究員 蒨 淳一・柴田龍司
 倉水内野北遺跡（3）
 調査期間：平成23年2月1日～平成23年3月14日
 調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助
- 稲荷山追分台遺跡
 調査期間：平成23年3月18日～平成23年3月30日
 調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助
- (整理) 整理担当：主席研究員 石倉亮治
 倉水内野北遺跡（3） 作業内容：水洗・注記, 記録整理の一部
 成井猪穴崎遺跡 作業内容：水洗・注記
- 平成23年度 調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄
- (発掘) 稲荷山追分台遺跡
 調査期間：平成23年4月6日～平成23年5月24日
 調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助
- 青山小峰遺跡（2）
 調査期間：平成23年5月25日～平成23年5月31日
 調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助
- 成井原山遺跡（3）
 調査期間：平成23年4月11日～平成23年5月31日
 調査担当：主席研究員 香取正彦
- 成井原山向遺跡
 調査期間：平成23年10月11日～平成23年12月8日
 調査担当：主席研究員 蒨 淳一
- (整理) 整理担当：主任主事 平井真紀子
 倉水高台遺跡 作業内容：水洗・注記～原稿執筆
 青山小峰遺跡（2） 作業内容：水洗・注記, 記録整理
 稲荷山追分台遺跡 作業内容：水洗・注記, 記録整理
 成井原山遺跡（3） 作業内容：水洗・注記
 成井猪穴崎遺跡 作業内容：記録整理～原稿執筆
- 平成24年度 調査研究部長 関口達彦 整理課長 高田 博
- (整理) 整理担当：主任主席文化財主事 蒨 淳一
 成井原山遺跡（1） 作業内容：原稿執筆・編集
 成井原山遺跡（2） 作業内容：トレースの一部～原稿執筆・編集
 成井原山遺跡（3） 作業内容：記録整理～原稿執筆・編集
 成井原山向遺跡 作業内容：水洗・注記～接合・復元
- 平成25年度 調査研究部長 伊藤智樹 整理課長 今泉 潔
- (整理) 整理担当：主任主席文化財主事 蒨 淳一



第1図 圏央道（常総国）路線内の遺跡 (1/50,000)

第1表 圏央道（常総圏）調査遺跡一覧

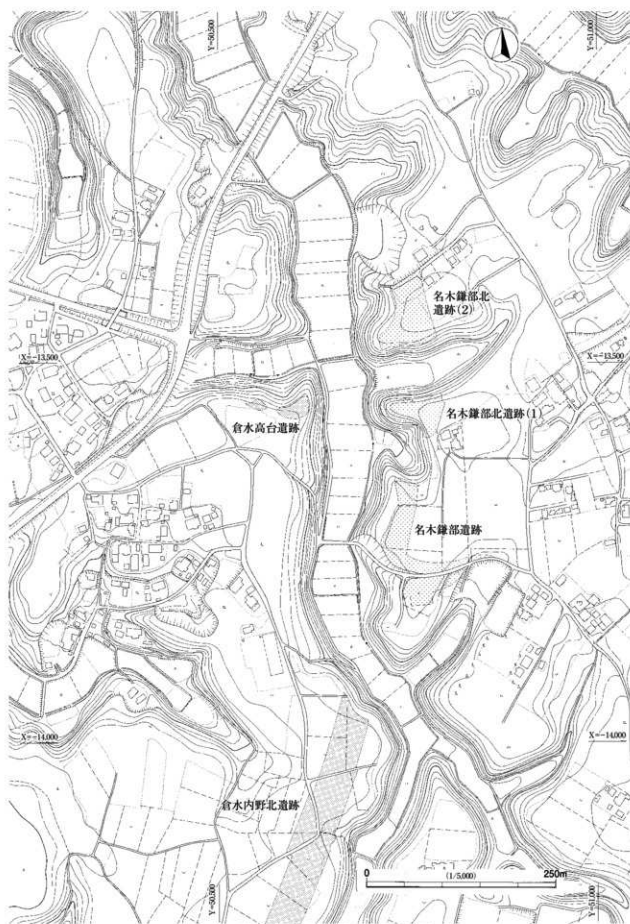
地図 番号	事業 番号	調査 年度	遺跡名	遺跡コード	調査対象 面積		確認調査	本調査		時代
					上層	下層		上層	古墳之基	
1	F1・2	H17	名水馬場遺跡・名水馬 場古墳群	341-011	7,700㎡	上層 1,090㎡	-	350㎡	古墳之基	縄文・弥生・古墳・近世
					古墳之基	下層 0㎡		0㎡		
2	F3・4	H17	名水の場台遺跡	341-012	1,590㎡	上層 122㎡	-	0㎡	0㎡	縄文・古墳・奈良・平安
					下層 0㎡	0㎡		0㎡		
3	-	H22	南城管線（1）	211-080（1）	3,330㎡	上層 334㎡	-	0㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 24㎡	0㎡		0㎡		
4	F6・7	H22	名水天神台遺跡	211-081	1,850㎡	上層 542㎡	-	3,400㎡	0㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
					下層 108㎡	0㎡		630㎡		
5	F8	H25	名水長峰遺跡	211-087	970㎡	上層 970㎡	-	158㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 32㎡	0㎡		0㎡		
6	F9	H23	名水藤部北遺跡（2）	211-083（2）	4,420㎡	上層 536㎡	-	646㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 85㎡	0㎡		480㎡		
7	F10	H22	名水藤部北遺跡（1）	211-083（1）	2,360㎡	上層 484㎡	-	0㎡	0㎡	縄文早期・平安
					下層 48㎡	0㎡		0㎡		
8	F11	H21	名水藤部遺跡（2）	211-078（2）	4,140㎡	上層 410㎡	-	3,380㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 83㎡	0㎡		0㎡		
9	F12	H20	名水藤部遺跡（1）	211-078（1）	1,750㎡	上層 193㎡	-	340㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 24㎡	0㎡		0㎡		
9	F13	H18	倉水内野北遺跡（1）	211-068（1）	11,350㎡	上層 1,187㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文・奈良・平安
					下層 474㎡	0㎡		0㎡		
					上層 368㎡	上層 1,070㎡		0㎡		
9	F13	H18	倉水内野北遺跡（2）	211-068（2）	2,880㎡	上層 100㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文
					下層 100㎡	0㎡		0㎡		
					上層 386㎡	上層 0㎡		0㎡		
10	F14	H22	倉水内野北遺跡（3）	211-068（3）	4,842㎡	上層 220㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文・古墳
					下層 220㎡	0㎡		0㎡		
					上層 594㎡	上層 290㎡		0㎡		
10	F14	H18	倉水内野南遺跡（1）	211-070（1）	5,480㎡	上層 248㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文・弥生
					下層 381㎡	0㎡		0㎡		
					上層 81㎡	下層 0㎡		なし		
10	F14	H19	倉水内野南遺跡（2）	211-070（2）	370㎡	上層 941㎡	-	520㎡	0㎡	旧石器・縄文・中世
					下層 248㎡	0㎡		0㎡		
					上層 220㎡	上層 0㎡		0㎡		
11	F15	H18	青山小峰遺跡（1）	211-073（1）	2,160㎡	上層 116㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文
					下層 12㎡	0㎡		0㎡		
					上層 260㎡	上層 0㎡		0㎡		
11	F15	H23	青山小峰遺跡（2）	211-073（2）	740㎡	上層 790㎡	-	540㎡	0㎡	縄文
					下層 156㎡	0㎡		0㎡		
					上層 156㎡	上層 4,600㎡		0㎡		
12	F16・17	H18	成井原山遺跡（1）	211-069（1）	11,380㎡	上層 1,100㎡	-	4,600㎡	0㎡	縄文・古墳・中世
					下層 450㎡	0㎡		2,700㎡		
					上層 312㎡	上層 0㎡		0㎡		
13	F16・17	H19	成井原山遺跡（2）	211-069（2）	3,120㎡	上層 64㎡	-	0㎡	0㎡	縄文・古墳・中世
					下層 64㎡	0㎡		0㎡		
					上層 766㎡	上層 0㎡		0㎡		
13	F16・17	H23	成井原山遺跡（3）	211-069（3）	6,610㎡	上層 172㎡	-	0㎡	0㎡	旧石器・縄文・中世
					下層 172㎡	0㎡		0㎡		
					上層 526㎡	上層 448㎡		0㎡		
14	F18・19・20	H23	成井原山向遺跡	211-085	5,260㎡	上層 68㎡	-	0㎡	0㎡	縄文・奈良・平安
					下層 68㎡	0㎡		0㎡		
15	F21 成1	H21	成井原穴崎遺跡	211-079	3,360㎡	上層 420㎡	-	275㎡	0㎡	古墳・奈良・平安
					下層 28㎡	0㎡		0㎡		
16	成2	H18	大冢石神遺跡	211-074	5,280㎡	上層 520㎡	-	1,300㎡	0㎡	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安
					下層 316㎡	0㎡		0㎡		
17	成3	H19	芝向芝遺跡（1）	211-075（1）	9,920㎡	上層 922㎡	-	3,800㎡	0㎡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世
					下層 216㎡	0㎡		0㎡		
17	成3	H19	芝向芝遺跡（2）	211-075（2）	250㎡	上層 16㎡	-	0㎡	0㎡	近代銅跡
					下層 0㎡	0㎡		0㎡		
18	成4	H19	芝西菟田遺跡	211-076	6,060㎡	上層 606㎡	-	1,850㎡	0㎡	縄文・奈良・平安・中世
					下層 121㎡	0㎡		0㎡		
19	成5	H18	芝菟田遺跡	211-071	8,800㎡	上層 1,180㎡	-	0㎡	0㎡	古墳時代前期
					下層 180㎡	0㎡		0㎡		
20	F22	H22	倉水高台遺跡	211-082	1,020㎡	上層 95㎡	-	0㎡	0㎡	縄文・古墳・近世
					下層 20㎡	0㎡		0㎡		

これまでに報告書を3冊発行している。

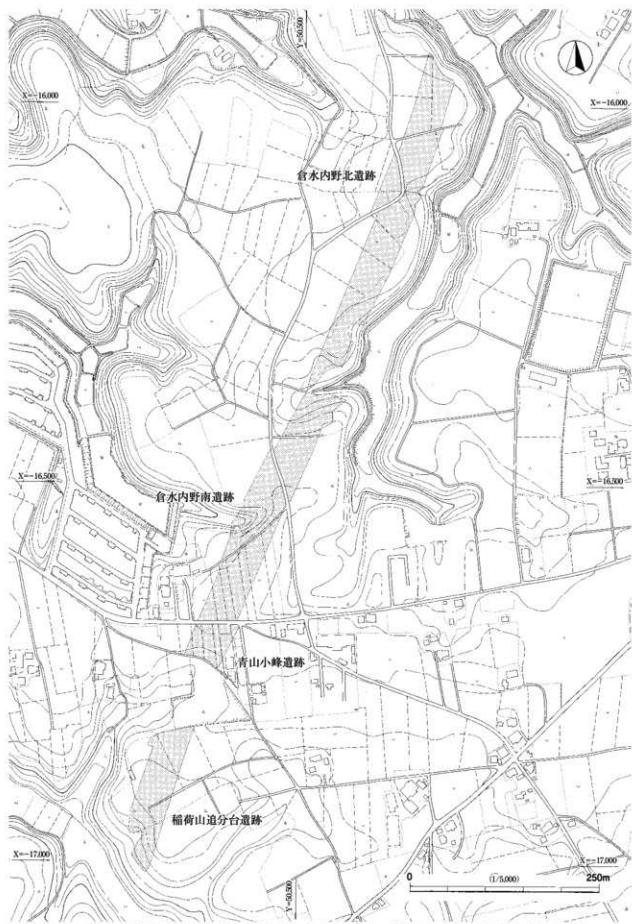
地図番号1・2 2009 「百部圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書9-成田市名水馬場遺跡・名水の場台遺跡」千葉県教育振興財団

地図番号8 2012 「百部圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書13-名水藤部遺跡」千葉県教育振興財団

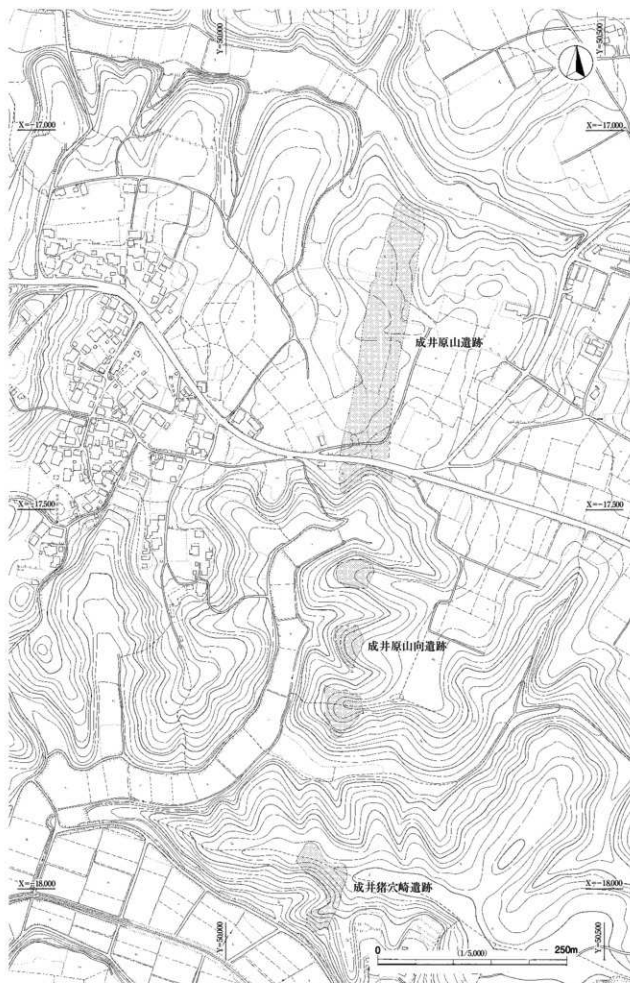
地図番号3・16・17・18・19 2012 「百部圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書17-成田市南城管線・大冢石神遺跡・芝向芝遺跡・芝西菟田遺跡・芝菟田遺跡」千葉県教育振興財団



第2図 倉水高台道跡周辺地形と調査区



第3図 倉水内野北道跡・倉水内野南道跡・青山小峰道跡・稲荷山追分台道跡周辺地形と調査区



第4図 成井原山遺跡・成井原山向遺跡・成井猪穴崎遺跡周辺地形と調査区

倉水高台遺跡	作業内容：報告書刊行
倉水内野北遺跡（1）	作業内容：原稿執筆・編集の一部～報告書刊行
倉水内野北遺跡（2）	作業内容：原稿執筆・編集の一部～報告書刊行
倉水内野北遺跡（3）	作業内容：記録整理の一部～報告書刊行
倉水内野南遺跡（1）	作業内容：原稿執筆～報告書刊行
倉水内野南遺跡（2）	作業内容：原稿執筆～報告書刊行
倉水内野南遺跡（3）	作業内容：原稿執筆～報告書刊行
青山小峰遺跡（1）	作業内容：原稿執筆～報告書刊行
青山小峰遺跡（2）	作業内容：分類・接合～報告書刊行
稲荷山道分台遺跡	作業内容：分類・接合～報告書刊行
成井原山遺跡（1）	作業内容：報告書刊行
成井原山遺跡（2）	作業内容：報告書刊行
成井原山遺跡（3）	作業内容：報告書刊行
成井原山向遺跡	作業内容：実測・トレース～報告書刊行

第2節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境（第5図、第2表、図版1）

本書で報告する8遺跡と同時期の周辺の遺跡は、第5図と第2表のとおりである。8遺跡は◎で、周辺遺跡は●で示す。圏央道のための調査遺跡は、第1図と第1表を参照されたい。なお、図の下総町・大栗町は、現在は成田市である。

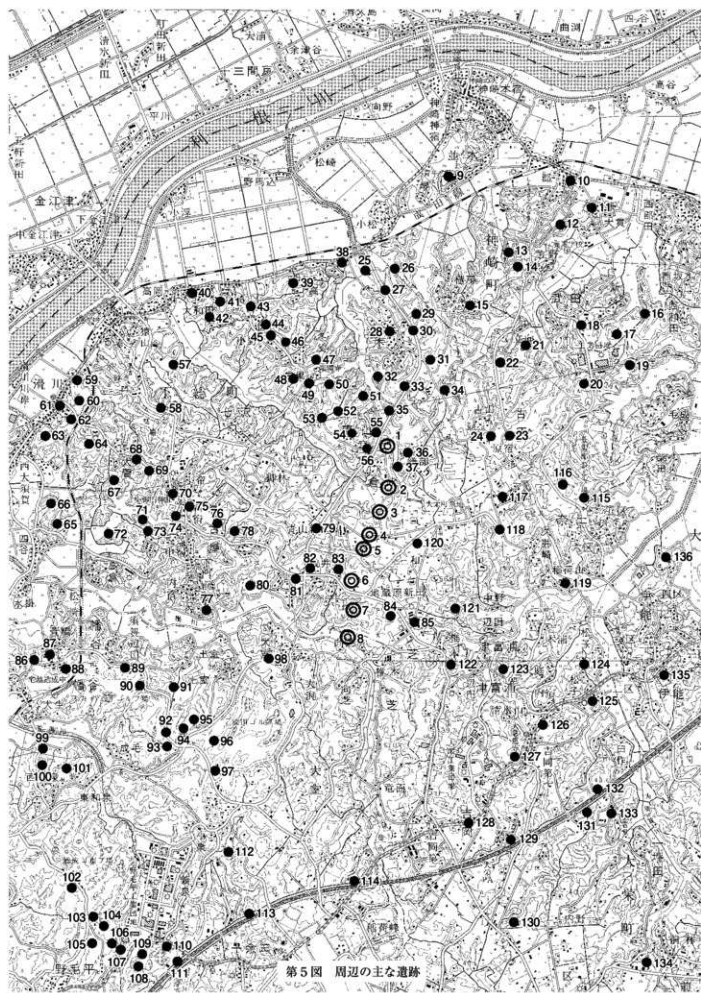
旧石器時代の遺跡は、倉水地区の北側の名木地区に前原遺跡・名木天神台遺跡・名木前原東遺跡、西側の青山地区に青山宮脇遺跡、成井地区に新シ山・柳和田遺跡、西側の名古屋地区に名古屋アサカ遺跡があり、このほか神崎町では杉内遺跡、成田市では東関東自動車道に沿って、十余三円妙寺遺跡・十余三四本木遺跡・椎ノ木遺跡・新堀第1遺跡・キサキ遺跡・天神山遺跡がある。

縄文時代の遺跡は、早期は名木地区に名木（鎌部）長峯遺跡・名木鎌部北遺跡、青山地区に青山甚太山遺跡があり、このほか神崎町では西之城貝塚・植房貝塚・久保向遺跡・台阿らく遺跡、成田市では轡谷桜谷津馬場下遺跡・山谷遺跡・土室第一遺跡・十余三稲荷峰遺跡・椎ノ木遺跡・水の上Ⅳ遺跡・キサキ遺跡がある。前期は青山地区に青山甚太山遺跡があり、このほか神崎町では植房貝塚、成田市では轡谷宮谷第1遺跡・轡谷萱橋遺跡・西和泉栗山台遺跡・十余三稲荷峰遺跡・水の上Ⅳ遺跡・キサキ遺跡がある。轡谷萱橋遺跡は大規模な集落跡である。中期は遺跡数が増え、青山地区に青山甚太山遺跡、名古屋地区に名古屋十二代遺跡・名古屋遺跡、成井地区の東側の稲荷山地区に稲荷山遺跡、同じく久井崎地区に久井崎Ⅱ遺跡があり、このほか神崎町では新貝塚・原山遺跡・台阿らく遺跡・稲場遺跡・古原貝塚、成田市では猿山勝棚遺跡・轡谷萱橋遺跡・土室坊前遺跡・林北遺跡・野毛平泉台Ⅰ遺跡・野毛平木戸下遺跡・野毛平植出遺跡・奈土貝塚・椎ノ木遺跡・中台遺跡・馬洗城跡・新山台（Ⅱ）遺跡・キサキ遺跡・伊能原遺跡がある。原山遺跡・稲荷山遺跡・野毛平木戸下遺跡は大規模な集落跡である。後期は少なく、名古屋地区に名古屋十二代遺跡・名古屋遺跡があり、このほか神崎町では新貝塚・古原貝塚、成田市では大菅東南部遺跡群・轡谷桜馬場下遺跡・山谷遺跡・野毛平平泉台遺跡・野毛平上之台遺跡・奈土貝塚がある。晩期はわずかに、利根川に面した成田市の大原野（龍正院）貝塚があるにとどまる。

弥生時代の遺跡は少ない。前期は無く、中期は成井地区の新シ山・柳和田遺跡で土器棺墓があるだけである。後期は名木地区に南城砦跡、成井地区に成井鶴ヶ峰遺跡があり、このほか成田市では大日山古墳群・大和田坂ノ上遺跡・中里原ノ台遺跡・長山遺跡・椎ノ木遺跡・馬洗城跡がある。後期かと思われる遺跡に成田市では名木長稲葉遺跡・名古屋横峰遺跡・大和田玉作稲荷峰遺跡がある。

古墳時代の遺跡は、古墳は多く、名木地区に名木木挽崎古墳群・名木馬場古墳群・名木長稲葉遺跡・名木不光寺遺跡・名木鎌部古墳群、成井地区に成井草塚古墳群・成井後荒句古墳群があり、このほか神崎町では北ノ内古墳・舟塚原古墳群・杉内遺跡、成田市では大日山古墳群・大和田坂ノ上遺跡・小野小仲内遺跡・中里紙敷口遺跡・清水台遺跡・菊水城主郭遺跡・カネヤキ遺跡・カネヤキ台遺跡・仏具田遺跡・猶作・栗山古墳群・西大須賀コモ田古墳群・幡谷宮谷第2遺跡・幡谷萱橋遺跡・土室古墳群・土室林第一遺跡・野毛平古墳群・野毛平上之内遺跡・野毛平植出遺跡・十余三門妙寺遺跡・稲荷山遺跡・地蔵原古墳群・来光台古墳群がある。集落跡は、前期は、成井地区の成井鶴ヶ峰遺跡があり、このほか成田市の大日山古墳群・大和田玉作稲荷峰遺跡・幡谷萱橋遺跡・野毛平泉台遺跡・野毛平上之内遺跡・キサキ遺跡がある。キサキ遺跡は大規模である。中期は、名木地区に名木小別当遺跡、成井地区に新シ山・柳和田台遺跡、稲荷山地区に久井崎城跡があり、このほか神崎町では稲場遺跡、成田市では大和田坂ノ上遺跡・大和田玉作治部台遺跡・小野小仲内遺跡・キサキ遺跡がある。後期は、多くの遺跡があり、名木地区に南城砦跡・名木小別当遺跡・名木長稲葉遺跡・名木木の場合遺跡・名木大台遺跡・名木不光寺遺跡・名木天神台遺跡、青山地区に青山甚太山遺跡・(中里)原南遺跡・青山内山遺跡、成井地区に成井寺ノ下遺跡、名古屋地区に名古屋横峰遺跡、稲荷山地区に久井崎城跡、久井崎地区に久井崎Ⅱ遺跡、成井地区の東側の地蔵原新田地区に地蔵原鳳凰遺跡があり、このほか神崎町では羽黒遺跡・仲台遺跡・立野西遺跡・堀込遺跡・堀込Ⅱ遺跡・大平遺跡・原山遺跡、成田市では大和田玉作稲荷峰遺跡・小野小仲内遺跡・小野権現原遺跡・小野女台遺跡・小野焼山遺跡・小野焼山Ⅱ遺跡・中里西口遺跡・中里原ノ台遺跡・中里原遺跡・中里原Ⅱ遺跡・中里曲田上遺跡・(中原)原南遺跡・清水台遺跡・菊水城主郭遺跡・カネヤキ遺跡・カネヤキ台遺跡・四谷内谷津遺跡・西大須賀コモ田古墳群・大菅向台遺跡・遠々地・上敷遺跡・幡谷宮谷第1遺跡・幡谷萱橋遺跡・幡谷桜谷津馬場下遺跡・山谷遺跡・野毛平泉台遺跡・野毛平東方遺跡・中台遺跡がある。名木大台遺跡・名木不光寺遺跡・名木鎌部遺跡・大平遺跡・小野女台遺跡・幡谷第1遺跡は大規模である。

奈良・平安時代も遺跡が多い。名木地区に名木木の場合遺跡・名木大台遺跡・名木不光寺遺跡・名木天神台遺跡・名木(鎌部)長峯遺跡・名木鎌部北遺跡・名木鎌部遺跡・名木庵寺、青山地区に青山甚太山遺跡・(中里)原南遺跡・青山内山遺跡・青山富ノ木遺跡・青山中峰遺跡、成井地区に新シ山・柳和田台遺跡・成井寺ノ下遺跡、名古屋地区に名古屋十二代遺跡・名古屋遺跡・名古屋薄立遺跡、久井崎地区に久井崎Ⅱ遺跡、地蔵原新田地区に地蔵原鳳凰遺跡があり、このほか神崎町では仲台遺跡・大平遺跡・原山遺跡・久保向遺跡・台阿らく遺跡、成田市では月輪神社遺跡・小野小仲内遺跡・小野権現原遺跡・小野女台遺跡・小野焼山遺跡・小野焼山Ⅱ遺跡・中里原ノ台遺跡・中里原遺跡・中里原Ⅱ遺跡・中里念仏塚遺跡・(中里)原南遺跡・高岡城遺跡・高岡清水遺跡・清水台遺跡・菊水城主郭遺跡・カネヤキ遺跡・カネヤキ台遺跡・仏具田遺跡・四谷内谷津遺跡・西大須賀コモ田古墳群・大菅向台遺跡・遠々地・上屋敷遺跡・大菅東南部遺跡群・幡谷宮谷第1遺跡・幡谷宮谷第2遺跡・幡谷萱橋遺跡・土室坊前遺跡・成毛石田遺跡・間野台遺跡・土室坊前遺跡・大室仲妻遺跡・大室石神遺跡・芝向芝遺跡・芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡・野毛平泉台遺跡・野毛平上之内遺跡・野毛平東方遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平木戸遺跡



第5図 周辺の主な遺跡

跡・野毛平植出遺跡・十余三円妙寺遺跡・小泉仲峯遺跡・十余三四本木遺跡・本郷山遺跡・椎ノ木遺跡・中台遺跡・馬洗城跡・新山台(Ⅱ)遺跡・キサキ遺跡・天神山遺跡・伊能原遺跡・長岡遺跡がある。大平遺跡・名木大台遺跡・小野焼山遺跡・青木富ノ木遺跡・大菅向台遺跡・轡谷宮谷第1遺跡・野毛平木戸下遺跡は大規模である。

中世の遺跡は、名木地区に名木城・南城砦跡・名木の場台遺跡・名木不光寺遺跡・名木天神台遺跡、青山地区に(中里)原南遺跡・青山内山遺跡・青山富ノ木遺跡、名古屋地区に名古屋十二代遺跡・名古屋遺跡・小帝城跡・名古屋横峰遺跡・助崎城跡、久井崎地区に久井崎城跡があり、このほか神崎町では神崎城跡・立野西遺跡、成田市では小野小仲内遺跡・小野権現原遺跡・小野女台遺跡・小野焼山遺跡・小野焼山Ⅱ遺跡・中里西口遺跡・中里原遺跡・中里原Ⅱ遺跡・(中里)原南遺跡・菊水城跡・仏具田遺跡・大菅向台遺跡・大菅東南部遺跡群・轡谷宮谷第1遺跡・轡谷萱橋遺跡・松子城跡・馬洗城跡・法願原遺跡・大慈恩寺・伊能原遺跡がある。城郭関連が目立つ。轡谷宮谷第1遺跡は大規模である。

言うまでもないが、ここに上げた各遺跡の遺構数の多寡は、その遺跡の規模をそのまま反映してはいない。少なくとも調査の地点や面積に左右されている。少数の遺構しか報告されていない遺跡も取り上げた所以である。

第3節 調査の方法(第6図)

調査は、上層から下層の順で確認調査を行い、その結果に基づいて、本調査が必要と決定された部分は本調査へ移行し、それ以外の部分は確認調査の範囲内で調査を終えた。

調査の記録は、平面位置を、日本測地系の第Ⅴ座標系に基づいて調査範囲を覆うように設定した40mまたは20m四方の大グリッドと、その中をさらに4mまたは2m四方の区画に100個に細分した小グリッドをもとに記録し、標高を、東京湾平均海面高をもとに記録した。小グリッドの00~99の命名法は、第6図の左下の概念図の通りである。大グリッドは、8遺跡のうち倉水高台遺跡を除く7遺跡では40m四方で、倉水高台遺跡だけは20m四方である。なお、倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・稲荷山追分台遺跡では、4遺跡を覆う共通の大グリッドを設定し、使用する。

第2表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	概要	文献No.
1	倉水高台遺跡	成田市青山	縄文・古墳・近世	縄文時代土器・石器、古墳～奈良・平土跡部、須恵器、近世陶磁・瓦葺、遺構なし	
2	倉水内野北遺跡	成田市倉水	旧石器、縄文、古墳	Ⅴ層石器集中地点3か所、Ⅵ～Ⅷ層単独出土3か所、縄文早期遺物集中地点3か所、陥穴1基、土坑10基、古墳前期土器集中地点1か所	
3	倉水内野南遺跡	成田市倉水	旧石器、縄文、弥生、中世	旧石器集中地点1か所、旧石器単独出土1か所、縄文早期住居2軒、陥穴3基、土坑3基、弥生後期住居1軒、中世溝1条	本書・47
4	青山小峰遺跡	成田市青山	旧石器、縄文	V層石器集中地点1か所	
5	稲荷山道台遺跡	成田市稲荷山	旧石器、縄文、古墳	縄文早期遺物集中地点1か所	
6	成井原山遺跡	成田市成井	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安	旧石器集中地点1か所、加曾利E式後半土1基、袋状土坑2基、古墳後期住居17軒、溝9条、奈良・平土跡部1基	
7	成井原山向遺跡	成田市成井	旧石器、縄文、奈良・平安	奈良・平住居3軒、土坑1基	
8	成井原崎遺跡	成田市成井	古墳、奈良・平安	古墳後期住居3軒	
9	西之城貝塚・神崎城跡	神崎町並木	縄文、弥生、中世	井草1～茅山式、井草式住居1軒、城郭	6-19-73
10	北ノ内古墳	神崎町並木	古墳	方墳	111
11	羽黒遺跡	神崎町大貫	縄文～奈良・平安	古墳後期住居15軒、掘立2棟、土坑15基	129
12	仲台遺跡	神崎町大貫	縄文～奈良・平安	陥穴1基、住居(弥生時期不明)、古墳後期19、奈良5、平安3、古墳～奈良・平安1)、奈良・平掘立2棟	75
13	立野西遺跡	神崎町立野	縄文～中世	住居(古墳後期3、奈良・平安14)、方形周溝基1基、地下式土坑3基	25
14	堀込遺跡・堀込Ⅱ遺跡	神崎町立野	古墳、奈良・平安	古墳後期住居4軒、方墳2基、古墳3基	39-103
15	植原貝塚	神崎町植原	縄文	夏貝～黒浜式	19
16	奇塚原古墳群	神崎町新	古墳	前方後円墳3基、円墳8基	109
17	新貝塚	神崎町新	縄文	加曾利E～安行式、加曾利E住居2軒	19
18	大平遺跡	神崎町新	古墳、奈良・平安	住居(古墳後期)8、奈良・平安38	31
19	杉内遺跡	神崎町毛成	旧石器、縄文、古墳	Ⅴ層石器集中2か所、陥穴1基、円墳1基	109
20	原山遺跡	神崎町武田	縄文、古墳、奈良・平安	住居(加曾利E33、古墳後期2、平安1)、加曾利E主体小穴穴・土坑313基、加曾利E主体土器地壘場1か所	600
21	久保向遺跡	神崎町古原	縄文、奈良・平安	約680基、奈良・平住居10軒、掘立1棟	68
22	台何久遺跡	神崎町古原	縄文、平安	陥穴4、住居(茅山式)3、加曾利E3、平安4)	39-61-68-130
23	福地遺跡	神崎町古原	縄文、古墳	加曾利E後半袋状土坑1基、古墳中期住居2軒	68
24	古原貝塚	神崎町古原	縄文	阿玉台・加曾利E本～安行3b式	19
25	名木大洗崎古墳群	成田市名木	古墳	前方後円墳1基、円墳4基、玉作工房跡1軒	47
26	名木小洞遺跡	成田市名木	縄文、古墳、中世	古墳中期～後期住居35軒(玉作工房跡あり)	117
27	名木稲妻遺跡	成田市名木	旧石器～古墳	住居(弥生後期)2、古墳後期16)、方墳1基、古墳1基	65
28	名木の場台遺跡	成田市名木	古墳～中世	住居(古墳後期)10、奈良・平安7)、中世土坑3基、溝2条	116-117
29	名木大台遺跡	成田市名木	古墳、奈良・平安	住居(古墳後期～奈良・平安)125軒	14-44-64-82-89-109
30	名木不光寺遺跡	成田市名木	縄文、古墳～中世	陥穴6基、住居(古墳後期)70、奈良・平安9)、前方後円墳1基、円墳1基、方墳3基、古墳1基、玉作製品、掘立(奈良・平安8、中世3)、地下式土坑10基、土坑壘70基	59-102-116
31	前原遺跡	成田市名木	旧石器、縄文	ナイフ形石器、槍先形尖頭器、彫削刀、掻器、貝殻糸痕土器土器	47
32	名木城	成田市名木	中世	城郭	47-73
33	名木天神台遺跡	成田市名木	旧石器、古墳～中世	石器集中地点2か所、古墳後期～奈良住居48軒、中世掘立2棟	99
34	名木原東遺跡	成田市名木	旧石器、縄文	石器集中地点1か所	83-88
35	名木(藤部)長華遺跡	成田市名木	縄文、平安	約7×7基、陥穴2基、平安住居2軒、火葬墓1基	77-79-98-103
36	名木庵寺	成田市名木	8世紀中葉	基壇跡	16-47
37	名木藤部古墳群	成田市名木	古墳	円墳4基	47-93
38	大日山古墳群	成田市高	弥生、古墳	住居(弥生後期～古墳前期)43軒、前方後円墳1基、円墳1基	3-47・109
39	月輪神社遺跡	成田市高	奈良・平安	奈良・平住居2軒	78
40	大和田坂ノ上遺跡	成田市大和田	縄文、弥生、古墳	住居(弥生後期1)、古墳中期1)、古墳中期玉作工房1軒、前方後円墳1基、石製織造品	32・47
41	大和田玉作治部台遺跡	成田市大和田	古墳	古墳中期玉作工房跡1軒	5-47-109
42	大和田玉作稲荷崎遺跡	成田市大和田	古墳	住居(弥生後期)1、古墳後期2、古墳2)、玉作工房(古墳前期1)、古墳後期1)	5-47・109
43	小野小神内遺跡	成田市小野	古墳～中世	住居(弥生後期)100軒、掘立10棟、玉作工房、古墳7基、地下式土坑1基、火葬墓3基	58
44	小野権現原遺跡	成田市小野	古墳～中世	住居(古墳後期～平安住居)16、古墳後期12、奈良・平安11)、地下式土坑1基	120
45	小野女台遺跡	成田市小野	古墳～中世	住居(古墳後期)33、奈良7、平安7)、地下式土坑1基	49
46	小野姥山遺跡・阿Ⅱ遺跡・中西西口遺跡	成田市小野・中里	縄文、古墳～中世	陥穴1基、住居(古墳後期～奈良・平安4、古墳後期)27、奈良・平安31)、古墳後期掘立柱穴10基、地下式土坑1基	53-55-79-83-97-111

No	遺跡名	所在地	時代	概要	文献%
47	中里飯敷1遺跡	成田市中里	古墳	方墳1基	121
48	中里原ノ台遺跡	成田市中里	縄文～奈良・平安	住居(弥生後期5、古墳後期10、奈良・平1)	43
49	中里原遺跡・中里原Ⅱ遺跡	成田市中里	縄文・古墳・奈良・平安・中世	住居(古墳後期6、奈良15、平安5)、地下式墳2基、欄列4条	66-72-77
50	中里曲田ノ台遺跡	成田市中里	縄文・古墳	陥穴5基、住居(古墳後期7、不明2)	116
51	青山藤太山遺跡	成田市青山	縄文～奈良	住居(縄文早期1、前期1、古墳後期8、奈良2)、縄文中期石器製作所1か所、縄文集石1か所、奈良火葬墓1基	96-108
52	中里念仏塚遺跡	成田市中里	縄文・古墳・奈良・平安	奈良・平住居1軒	131
53	(中里) 原南遺跡	成田市青山	縄文・古墳・奈良・平安	陥穴2基、住居(古墳後期8、奈良・平7)、地下式墳1基	82-88-95
54	青山山内遺跡	成田市青山	縄文・古墳～中世	陥穴1基、住居(古墳後期1、奈良3)、古墳後期掘立4棟、欄列1条	95
55	青山富ノ木遺跡	成田市青山	縄文～中世	奈良・平住居35軒、中世掘立12棟、地下式墳1基	98
56	青山宮脇遺跡	成田市青山	旧石器	石器集中地点(Ⅱ層1、Ⅲ層1)	70
57	高岡城遺跡・高岡清水遺跡	成田市高岡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	住居(古墳後期9、奈良・平6)、古墳後期玉作工房5軒	54-71
58	旗山藤原遺跡	成田市旗山	縄文・古墳・中世	阿玉台住居1軒	40
59	清水台遺跡・菊水山古墳群	成田市滑川	古墳・奈良・平安	古墳後期～奈良・平住居12軒、前方後円墳1基、古墳1基	48・66・109
60	菊水城主部遺跡、カキヤキ台遺跡	成田市滑川	旧石器、縄文・古墳～中世	住居(古墳後期～奈良・平23)、方墳1基、古墳1基	33-37-41-47-66
61	大原野(龍正院)貝塚	成田市滑川	縄文	千瀬・荒海式	17-47
62	龍正院瓦窯跡・龍正院	成田市滑川	奈良・平安・中世	瓦窯跡3基	18-20-47-91-108
63	弘貝田遺跡	成田市滑川	古墳～中世	住居(古墳46、奈良・平3)、古墳2基、掘立2棟、欄列1条	88
64	藤竹・重山古墳群	成田市滑川	弥生・古墳	前方後円墳3基、帆立貝式7基、円墳2基、方墳18基	52-109
65	四谷内谷津遺跡	成田市四谷	縄文・古墳・奈良	住居(古墳後期4、奈良1)	63
66	西大須賀コノ木古墳群	成田市西大須賀	弥生・古墳・平安	住居(弥生時期不明4、古墳後期15、平安4)、古墳18基	86-88-109
67	大菅向台遺跡	成田市大菅	古墳～中世	住居(古墳後期2、奈良・平41)、奈良・平掘立2棟、地下式墳20基、台地整形区画4か所	35・128
68	蓬ヶ池・土敷遺跡	成田市大菅	縄文～奈良・平安	古墳後期～奈良・平住居51軒	21-47
69	大菅東南部遺跡群	成田市名古屋	縄文・奈良～中世	住居(縄文後期3、奈良・平17)、欄列1条	52-57
70	名古屋貝塚	成田市名古屋	縄文	加曾利E～安行3式	38-42
71	名古屋アサカ台遺跡	成田市名古屋	旧石器、縄文・奈良～中世	旧石器、縄文住居14軒、土坑74基、奈良・平安住居3軒、掘立1棟、中世掘立6棟、地下式墳5基、土坑45基、溝3基、台地整形区画2か所	132
72	名古屋城ノ腰遺跡	成田市名古屋	奈良～中世	奈良・平住居8軒、中世掘立7棟、地下式墳18基、土坑115基、土忌3基、台地整形区画1か所	132
73	名古屋山ノ内遺跡	成田市名古屋	平安～中世	平安住居2軒、掘立1棟、中世土坑1基、溝3条	132
74	小前城	成田市名古屋	中世	城郭	47・73
75	名古屋十二代遺跡・名古屋遺跡	成田市名古屋	縄文・古墳・中世	阿玉台～安行3式、貝塚、加曾利E土坑1基、住居(縄文5、古墳2、奈良・平2)、中世土坑55基、柱穴131基	38-47-95-103-116
76	名古屋薄立遺跡	成田市名古屋	縄文・奈良・中世	奈良住居2軒	34-37-47
77	助崎城	成田市名古屋	中世	城郭	12-47-84
78	名古屋槇峰遺跡	成田市名古屋	旧石器～古墳・中世	住居(弥生後期前1、古墳後期5)、船跡	15-47-57
79	青山中峰遺跡	成田市青山	縄文・平安	奈良・平住居18軒、掘立1棟	70
80	成井鶴ヶ峰遺跡	成田市成井	弥生・古墳	住居(弥生後期6、古墳前期1)	36-37
81	新ノ山・柳田台遺跡	成田市成井	旧石器～弥生・平安	石器集中地点(Ⅱ層2、Ⅲ～Ⅴ層1)、弥生土器箱3個、平安住居3軒、掘立12棟	70
82	成井拳塚古墳群	成田市成井	古墳	円墳3基	93
83	成井後荒古墳群	成田市成井	古墳	円墳2基	93
84	成井寺ノ下遺跡	成田市成井	縄文・古墳・奈良・平安	古墳後期住居17軒、奈良・平住居6軒、掘立6棟	27・47
85	地蔵原風風遺跡	成田市地蔵原新田	縄文・古墳～中世	住居(古墳後期1、奈良・平9)	46
86	幡谷宮谷第1遺跡	成田市幡谷	旧石器、縄文・古墳～中世	陥穴15、住居(縄文1、縄文前期2、古墳後期30、奈良・平198)、掘立(奈良・平20、中世31)、台地整形区画4か所、地下式墳1基、地鎮遺構3基	76-81-87-94
87	幡谷宮谷第2遺跡	成田市幡谷	縄文・古墳～中世	方墳2基、円墳5基、奈良・平土坑墓8基	76-81-87
88	幡谷堂嶺遺跡	成田市幡谷	縄文・古墳～中世	陥穴1基、住居(縄文前期39、中期1、縄文24、古墳前期8後期23、奈良・平1)、方墳2基、土坑墓(奈良3、平安1)、欄列1条	81-87-101
89	幡谷板谷津馬場下遺跡・山谷遺跡	成田市幡谷	縄文・古墳～中世	畑穴4基、住居(堀之内2、古墳後期2)	10
90	山谷遺跡	成田市幡谷	縄文・奈良・平安	平安住居7軒	11
91	上草坊前遺跡	成田市土室	縄文・奈良・平安	住居(陶山・黒浜6、加曾利E1、古墳後期7、平安1)	7

No	遺跡名	所在地	時代	概要	文献%
92	成毛石道跡	成田市成毛	縄文・弥生	奈良・平住居2軒	8
93	間野台道跡	成田市成毛	縄文・古墳・平安	平安住居1軒	13
94	林北道跡	成田市土室	縄文・弥生・平安	焼土人土17基、加曾利E住居1軒	45
95	長山道跡	成田市土室	旧石器～弥生	燧石器出土1か所、陥穴1基、弥生後期住居1軒	45
96	土室古墳群	成田市土室	古墳	円墳8基	85
97	土室林第一道跡	成田市土室	縄文・古墳・奈良・平安	陥穴2基、印穴5基、円墳1基、方墳1基、奈良・平土塚墓1基	29・56・62
98	大宮仲妻道跡	成田市大宮	旧石器、縄文、古墳～中世	住居（古墳後期1、奈良・平2）	107-110
99	西和泉栗山道跡	成田市西和泉	奈良・平安、中世	奈良・平住居3軒、大形土塚1基	115
100	西和泉和田道跡	成田市西和泉	奈良・平安、中世	奈良・平住居1軒	115
101	西和泉栗山台道跡	成田市西和泉	旧石器、縄文、奈良・平安	ハ～Dローム層石器集中1か所、縄文前期土塚15基、平安	115
102	野毛平古墳群	成田市野毛平	古墳	前方後円墳1基、円墳7基、方墳2基	85
103	野毛平泉台道跡	成田市野毛平	古墳・平安	古墳後期住居1軒	124
104	野毛平泉台1道跡	成田市野毛平	縄文・古墳・奈良・平安	加曾利E住居1軒	124
105	野毛平泉台道跡	成田市野毛平	古墳・奈良・平安	阿玉台袋状ビット1基、住居（古墳前期2、後期1、奈良・平2）	80
106	野毛平上之内道跡	成田市野毛平	縄文・古墳・奈良・平安	住居（縄文後期4、古墳前期1、奈良・平7）、古墳1基	124
107	野毛平東方道跡	成田市野毛平	古墳・奈良・平安	古墳後期住居1軒、奈良・平住居8軒、掘立2棟	124
108	野毛平向山道跡	成田市野毛平	縄文・奈良・平安	住居（阿玉台か1、奈良・平43）、掘立（平安1、平安か9）、平安鍛冶工房1基	50-51
109	野毛平水戸道跡	成田市野毛平	縄文・奈良・平安	住居（加曾利E28、縄文中期12、奈良・平114）、奈良・平掘立6棟、平安鍛冶工房1基、製錬炉2基、炭窯2基	50-51-56
110	野毛平植出道跡	成田市野毛平	縄文・古墳・奈良・平安	住居（縄文中期1、奈良・平29）、円墳1基、周溝1基、奈良・平掘立17棟	50-51
111	十三間寺道跡	成田市十三間	旧石器、縄文、古墳	磨石石器集中1か所、古墳1基、方形周溝1基、奈良・平住居40軒	26-51-56
112	小泉仲妻道跡	成田市小泉	奈良・平安	平安住居3軒	127
113	十三間寺本木道跡	成田市十三間	旧石器、奈良・平安	石器集中（磨石1、V層1）、車敷出土1か所、奈良・平住居1軒	26
114	十三間寺稲荷道跡	成田市十三間	縄文、中世	縄文早・前期住居5軒	26
115	奈土貝塚	成田市奈土	旧石器、縄文	加曾利E～安行重a式、縄文住居3軒、土塚墓1基	1-90
116	馬場塚古墳群	成田市奈土	古墳	円墳1基、古墳5基	93
117	稲荷山道跡（久井崎1道跡）	成田市稲荷山	縄文・古墳	縄文中期後半住居32軒、土塚516基、方墳1基、古墳1基、奈良・平安火葬墓1基、特殊土塚1基	23-74-113
118	久井崎2道跡	成田市久井崎	旧石器、縄文・古墳・奈良・平安	住居（縄文中期18、古墳後期～平安2、奈良・平33）、縄文中期小塚穴11基、土塚137基	88-90-122
119	久井崎城跡	成田市稲荷山	弥生、古墳、中近世	住居（弥生時期不明5、古墳中期6、後期21）、中近世掘立築込以上1、竪穴4、溝12、土塚70	58-92
120	地蔵塚古墳群	成田市稲荷山	古墳	円墳5基、古墳1基	93
121	本郷山道跡	成田市津富浦	奈良・平安	奈良・平安住居11軒	96
122	雅ノ木道跡	成田市芝	旧石器～奈良・平安	燧石石器集中1か所、印穴28基、陥穴3基、住居（縄文早期8、加曾利E1、弥生後期6、平安2）	30
123	長作（1）道跡	成田市津富浦	縄文・古墳	古墳後期住居1軒	95
124	松子城跡・中台道跡	成田市松子	縄文・古墳～中世	住居（縄文中期3、古墳後期～奈良4）、中世掘立10棟以上、地下式墳2基、井戸2基、土坑群、台地整形、堀	2-4・73-92・111
125	馬後城跡	成田市松子	縄文～中世	陥穴2基、縄文小塚穴37基、住居（加曾利E17、弥生後期1、古墳中期3、奈良・平2）、火葬坑2基、地下式墳3基、土塚、堀	42・92
126	法願塚道跡	成田市松子	中世	中世掘立5棟以上、土塚・ビット182基	111
127	大慈忍寺	成田市吉岡	中世	基壇跡	60-92-105
128	米光古墳群	成田市吉岡	古墳	円墳7基	93
129	塚原第1道跡	成田市吉岡	旧石器、縄文	V層石器集中1か所	28
130	水の上古墳群	成田市十三間	縄文	住居（縄文早期1、前期5）	112
131	新林道跡	成田市白作	縄文	陥穴1基、八辺土塚2基	96-126
132	新山内（日）道跡	成田市白作	旧石器、縄文	石器集中（磨石2・V～V層1）、住居（加曾利E4、平安1）、縄文土塚3基	28-126
133	キヤキ道跡	成田市白作	旧石器、縄文・古墳・奈良・平安	V～V層石器集中2か所、印穴1基、住居（黒浜2、加曾利E12、古墳前期28、中期4、奈良・平3）、古墳前期土塚1基	67-114-123・125・126
134	天神山道跡	成田市	旧石器、平安	V～V層石器集中5か所、陥穴4基、平安住居1軒	22
135	伊能原道跡	成田市伊能	縄文・平安、中世	陥穴1基、加曾利E埋薬1基、住居（縄文中期1、平安3）、掘立（平安3、中世1）	95-103-106-108-117-118
136	長岡道跡	成田市伊能	弥生～平安	住居（弥生後期5、古墳後期16、平安3）	117-119

参考文献（発行年順・書名五十音順）

1. 1958「千葉県香取郡奈土貝塚発掘調査報告書 早稲田大学高等学院史学研究誌 第1号」早稲田大学高等学院史学研究会
2. 1970「千葉県香取郡大栄町松子城跡調査概報」松子城跡調査団
3. 1971「千葉県香取郡下総町大日山古墳」大日山古墳調査団
4. 1971「千葉県山武郡成東町成東城跡調査報告書」〔Ⅲ松子城跡調査報告書追記〕成東城跡調査団
5. 1973「下総国の玉作遺跡」寺村光晴
6. 1974「千葉県香取郡神崎町神崎城跡調査報告書」千葉県教育委員会
7. 1974「成田市の文化財 第5輯」成田市教育委員会
8. 1976「千葉県成田市荒海台所在旧久住中南・右田両遺跡調査報告書」旧久住中南・右田遺跡調査団
9. 1976「成田市林西遺跡発掘調査報告」林西遺跡発掘調査団
10. 1977「桜谷津」桜谷津遺跡調査団
11. 1977「成田市の文化財 第7・8輯」成田市教育委員会
12. 1978「千葉県香取郡下総町助崎城址」助崎城址遺跡調査団
13. 1979「成田市間野台遺跡発掘調査報告」間野台遺跡発掘調査会
14. 1982「千葉県下総町名木大台遺跡 名木小学校移転新築に伴う埋蔵文化財調査」下総町教育委員会
15. 1982「千葉県下総町名古屋横峰遺跡」名古屋横峰遺跡調査会
16. 1983「下総町名木庵寺跡確認調査報告」千葉県教育委員会
17. 1983「奈和」第21号 奈和同人会
18. 1984「下総・龍正院瓦窯跡群」立正大学考古学研究室
19. 1984「石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－」西村正衛
20. 1984「千葉県下総町文化財調査報告Ⅰ－町道1－3線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」下総町教育委員会
21. 1984「千葉県下総町文化財調査報告Ⅱ－町道1－3線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」下総町教育委員会
22. 1984「天神山遺跡発掘調査報告書」天神山遺跡調査会
23. 1984「稲荷山遺跡発掘調査概報」稲荷山遺跡調査団
24. 1985「神崎町史 史料集Ⅰ」神崎町
25. 1985「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－昭和58年度－」千葉県教育委員会
26. 1985「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－成田地区－」千葉県文化財センター
27. 1986「千葉県下総町成井寺ノ下Ⅰ遺跡発掘調査報告書」成井寺ノ下遺跡調査会
28. 1986「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－大栄地区（Ⅰ）－」千葉県文化財センター
29. 1987「印旛郡市文化財センター年報3－昭和61年度－」印旛郡市文化財センター
30. 1987「稚ノ木遺跡 成田市産業廃棄物処理場予定地内埋蔵文化財調査報告書」印旛郡市文化財センター
31. 1987「千葉県神崎町大平遺跡発掘調査報告書」大平遺跡調査会
32. 1988「大和田坂ノ上遺跡」大和田坂ノ上遺跡調査会
33. 1988「千葉県香取郡下総町菊水城址主郭部調査報告書」下総町遺跡調査会

34. 1988 「千葉県香取郡下総町名古屋薄立遺跡発掘調査報告書」下総町遺跡調査会
35. 1988 「千葉県下総町大首台遺跡発掘調査報告書」下総町遺跡調査会
36. 1988 「千葉県下総町成井鶴ヶ峰遺跡発掘調査報告書」下総町遺跡調査会
37. 1988 「千葉県下総町文化財調査報告書Ⅲ」下総町教育委員会
38. 1988 「名古屋貝塚－千葉県香取郡下総町名古屋貝塚の調査－」下総町史編さん委員会
39. 1989 「神崎町南部遺跡群発掘調査報告書－阿らく遺跡・堀込遺跡－」神崎町南部遺跡群調査会
40. 1989 「狼山膳棚遺跡 文化財調査報告6集」下総町教育委員会
41. 1989 「千葉県香取郡下総町内遺跡群発掘調査報告 カネヤキ遺跡・カネヤキ台遺跡」下総町教育委員会
42. 1989 「千葉県大栄町馬洗城址発掘調査報告書」大栄町教育委員会
43. 1989 「中里原ノ台遺跡 町道名古屋中里線改良事業に伴う弥生・古墳・奈良時代集落址の調査 千葉県香取郡下総町文化財調査報告書Ⅵ」下総町教育委員会
44. 1989 「名木大台遺跡第2次調査」下総町教育委員会
45. 1989 「成田市北遺跡・長山遺跡－一般県道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－」千葉県文化財センター
46. 1990 「地蔵原鳳凰遺跡」香取郡市文化財センター
47. 1990 「下総町史 原始・古代・中世編 史料集」下総町
48. 1990 「千葉県香取郡下総町内遺跡群発掘調査報告 清水台遺跡」下総町教育委員会
49. 1990 「千葉県香取郡下総町小野女台遺跡」香取郡市文化財センター
50. 1990 「千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平山遺跡・野毛平植出遺跡・野毛平千田ケ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡 ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)」印旛郡市文化財センター
51. 1991 「印旛郡市文化財センター年報7－平成2年度－」印旛郡市文化財センター
52. 1991 「香取郡市文化財センター事業報告Ⅰ－昭和63・平成元年度－」香取郡市文化財センター
53. 1991 「千葉県香取郡下総町小野焼山遺跡発掘調査概報－町道大和田倉水線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－」下総町教育委員会
54. 1991 「千葉県香取郡下総町高岡埴遺跡－下総町総合運動公園造成事業に伴う発掘調査－」下総町教育委員会
55. 1991 「千葉県香取郡下総町中里西口遺跡」香取郡市文化財センター
56. 1992 「印旛郡市文化財センター年報8－平成3年度－」印旛郡市文化財センター
57. 1992 「千葉県香取郡下総町内遺跡発掘調査報告 大和田城址・名古屋横峰遺跡」下総町教育委員会
58. 1993 「香取郡市文化財センター事業報告Ⅱ－平成2・3年度－」香取郡市文化財センター
59. 1993 「下総町不光寺遺跡－一般県道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－」千葉県文化財センター
60. 1993 「大慈恩寺遺跡」大栄町教育委員会
61. 1993 「千葉県香取郡神崎町阿らく遺跡－神崎町浄水場建設予定地の調査－」香取郡市文化財センター
62. 1993 「千葉県成田市土室林第一遺跡発掘調査報告書－成田ゴルフ倶楽部付帯施設工事に伴う埋蔵文化財調査－」印旛郡市文化財センター
63. 1993 「四谷内谷津遺跡」香取郡市文化財センター
64. 1994 「香取郡市文化財センター事業報告Ⅲ」香取郡市文化財センター
65. 1994 「下総町長桶業遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－」千葉県文化財センター

66. 1995「香取郡市文化財センター事業報告Ⅳ－平成5年度－」香取郡市文化財センター
67. 1995「キサキ遺跡」香取郡市文化財センター
68. 1995「神崎カントリークラブ埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 台阿らく遺跡・久保向遺跡・草毛Ⅰ遺跡・草毛Ⅱ遺跡・稲場遺跡・荒神台遺跡」香取郡市文化財センター
69. 1995「神崎カントリークラブ埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 原山遺跡」香取郡市文化財センター
70. 1995「下総町新シ山・柳和田台遺跡・青山中峰遺跡・青山宮脇遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－」千葉県文化財センター
71. 1995「高岡清水遺跡」香取郡市文化財センター
72. 1995「千葉県香取郡下総町内遺跡群発掘調査報告 名古屋三ツ矢Ⅱ遺跡・中里原Ⅱ遺跡」下総町教育委員会
73. 1995「千葉県所在中近世城館詳細分布調査報告書Ⅰ－旧下総国地域－」千葉県教育委員会
74. 1995「稲荷山 千葉県香取郡大栄町稲荷山遺跡の整理Ⅰ」筑波大学第一学群人文学類稲荷山遺跡整理グループ
75. 1995「仲台遺跡」香取郡市文化財センター
76. 1996「印旛郡市文化財センター年報11－平成6年度－」印旛郡市文化財センター
77. 1996「香取郡市文化財センター事業報告Ⅴ－平成6年度－」香取郡市文化財センター
78. 1996「月輪神社遺跡」香取郡市文化財センター
79. 1996「千葉県香取郡下総町内遺跡群発掘調査報告 名木長峰遺跡・小野焼山Ⅱ遺跡」下総町教育委員会
80. 1996「野毛平泉台遺跡－道路改良工事野毛平西泉－」印旛郡市文化財センター
81. 1997「印旛郡市文化財センター年報12－平成7年度－」印旛郡市文化財センター
82. 1997「香取郡市文化財センター事業報告Ⅵ－平成7年度－」香取郡市文化財センター
83. 1997「千葉県香取郡下総町内遺跡群発掘調査報告 名木前原東遺跡・中里紙敷遺跡・小野焼山Ⅱ遺跡」下総町教育委員会
84. 1997「千葉県中近世城跡研究調査報告書第17集－助崎城跡測量調査報告－」千葉県教育委員会
85. 1997「千葉県埋蔵文化財分布地図（1）－東葛飾・印旛地区（改訂版）－」千葉県教育委員会
86. 1997「西大須賀コモ田古墳群」香取郡市文化財センター
87. 1998「印旛郡市文化財センター年報13－平成8年度－」印旛郡市文化財センター
88. 1998「香取郡市文化財センター事業報告Ⅵ－平成8年度－」香取郡市文化財センター
89. 1998「下総町名木大台遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－」千葉県文化財センター
90. 1998「大栄町内遺跡発掘調査報告書 平成9年度 奈土貝塚遺跡・久井崎Ⅱ遺跡」大栄町教育委員会
91. 1998「千葉県の歴史 資料編 考古3（奈良・平安時代）」千葉県史料研究財団
92. 1998「千葉県の歴史 資料編 中世1 考古資料」千葉県史料研究財団
93. 1998「千葉県埋蔵文化財分布地図（2）－香取・海上・匝瑳・山武地区（改訂版）－」千葉県教育委員会
94. 1999「印旛郡市文化財センター年報14－平成9年度－」印旛郡市文化財センター
95. 1999「香取郡市文化財センター事業報告Ⅶ－平成9年度－」香取郡市文化財センター
96. 1999「香取郡市文化財センター事業報告Ⅷ－平成10年度－」香取郡市文化財センター
97. 1999「下総町内遺跡群発掘調査報告1997年度 小野焼山Ⅱ遺跡・名古屋冷井戸」下総町教育委員会
98. 1999「下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－」

千葉県文化財センター

99. 1999 「下総町名木天神台遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－」 千葉県文化財センター
100. 1999 『杉内遺跡』 香取郡市文化財センター
101. 2000 『印旛郡市文化財センター年報15－平成10年度－』 印旛郡市文化財センター
102. 2000 『名木不光寺遺跡』 香取郡市文化財センター
103. 2001 『香取郡市文化財センター事業報告Ⅹ－平成11年度－』 香取郡市文化財センター
104. 2001 『大栄町史 通史編上巻 原始古代・中世』 大栄町
105. 2001 『大栄町内遺跡発掘調査報告書－大慈悲寺遺跡（2）－』 大栄町教育委員会
106. 2002 『香取郡市文化財センター事業報告ⅩⅠ－平成12年度－』 香取郡市文化財センター
107. 2003 『印旛郡市文化財センター年報19－平成14年度－』 印旛郡市文化財センター
108. 2003 『香取郡市文化財センター事業報告ⅩⅡ－平成13年度－』 香取郡市文化財センター
109. 2003 『千葉県の歴史 資料編 考古2（弥生・古墳時代）』 千葉県史料研究財団
110. 2004 『印旛郡市文化財センター年報20－平成15年度－』 印旛郡市文化財センター
111. 2004 『香取郡市文化財センター事業報告ⅩⅢ－平成14年度－』 香取郡市文化財センター
112. 2004 『大栄町内遺跡群発掘調査報告書 平成15年度－水の上Ⅳ遺跡・矢芝原Ⅱ遺跡－』 大栄町教育委員会
113. 2004 『稲荷山』 稲荷山遺跡調査会
114. 2004 『キサキ遺跡2・3地点』 香取郡市文化財センター
115. 2005 『印旛郡市文化財センター年報21－平成16年度－』 印旛郡市文化財センター
116. 2005 『香取郡市文化財センター事業報告ⅩⅣ－平成15年度－』 香取郡市文化財センター
117. 2006 『香取郡市文化財センター事業報告ⅩⅤ－平成16・17年度－』 香取郡市文化財センター
118. 2006 『携帯電話無線基地局埋蔵文化財発掘調査報告書』 香取郡市文化財センター
119. 2006 『大栄町内遺跡群発掘調査報告書－平成17年度－』 大栄町教育委員会
120. 2007 『千葉県成田市小野権現原遺跡－下総小野浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査－』 印旛郡市文化財センター
121. 2007 『千葉県成田市中里紙敷口遺跡－下総小野浄水場（2号取水場）建設予定地内埋蔵文化財調査－』 印旛郡市文化財センター
122. 2009 『千葉県成田市久井崎Ⅱ遺跡・宮田台遺跡－津宮浦成井線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査－』 印旛郡市文化財センター
123. 2010 『千葉県成田市キサキ遺跡4地点－（仮称）大栄野球場整備に伴う埋蔵文化財調査委託Ⅰ－』 印旛郡市文化財センター
124. 2010 『千葉県成田市野毛平東方遺跡・野毛平上之内遺跡・野毛平泉台Ⅰ遺跡・野毛平泉台Ⅱ遺跡・野毛平西泉線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査－』 印旛郡市文化財センター
125. 2011 『千葉県成田市キサキ遺跡5地点－（仮称）大栄野球場整備に伴う埋蔵文化財調査委託Ⅱ－』 印旛郡市文化財センター
126. 2011 『千葉県成田市新林遺跡・新山台Ⅱ遺跡・キサキ遺跡6地点－市道松子白作線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査委託－』 印旛郡市文化財センター
127. 2011 『平成22年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会

128. 2012『印旛郡市文化財センター年報27-平成22年度-』印旛郡市文化財センター
129. 2012『神崎町羽黒遺跡-県単道路改良(一般)委託埋蔵文化財発掘調査報告書-』千葉県教育振興財団
130. 2012『千葉県香取郡神崎町阿らく遺跡-第5地点発掘調査報告書-』神崎町
131. 2012『平成23年度成田市内遺跡発掘調査報告書』成田市教育委員会
132. 2013『印旛郡市文化財センター年報28-平成23年度-』印旛郡市文化財センター

第2章 倉水高台遺跡

第1節 概要(第2・6図, 図版2)

利根川に注ぐ小河川に面した標高38m前後の台地上に位置する。小河川が流れる谷を挟んで東側の台地上には、名木庵寺・名木鎌部遺跡・名木鎌部北遺跡が存在する。発掘調査は、平成22年10月15日～平成22年11月2日の期間で行った。調査区は、東側と西側に分かれる。2地点とも台地縁部である。

上層については遺構は検出しなかったが、東側調査区の南寄り、第2トレンチで古墳時代以降の土師器・須恵器片がまとめて出土したため、拡張して遺物を回収した。これらの遺物は、出土地点に現代の擾乱が目立つことから、本来は調査区の南側に接する台地中央に位置する畑にあったもので、耕作などで出てきて調査区に捨てられたと思われる。下層については遺構・遺物ともに検出しなかった。このように調査は上層・下層とも確認調査で終了した。

第2節 検出した遺物

縄文時代

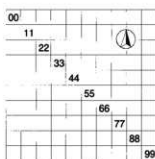
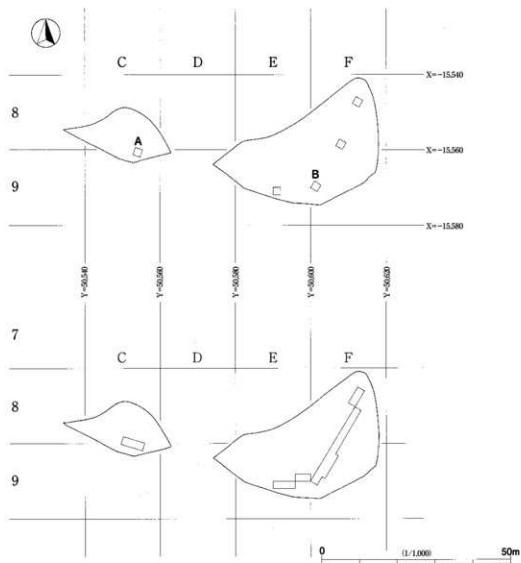
遺構外出土遺物(第7図, 第3・4表, 図版2)

1・2は早期の田戸下層式である。1は横位・斜位の太沈線で区画した中を弧線で充填する。2も横位太沈線で区画する。細沈線を充填する箇所がある。3は後期の加曾利B式の浅鉢である。口唇部に刻みを施し、内外面ともミガキで仕上げる。4～6は後期安行式の粗製深鉢で、横位及び斜方向の条線文を施す。7は安山岩製の打製石斧である。暗灰色で白色と黒色の細かい鉱物粒が目立つ。表裏に自然面を残し、折り部分を調整する。全体に摩耗する。

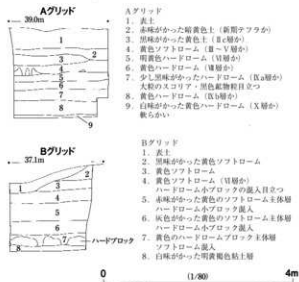
古墳時代以降

遺構外出土遺物(第8図, 第5～7表, 図版3)

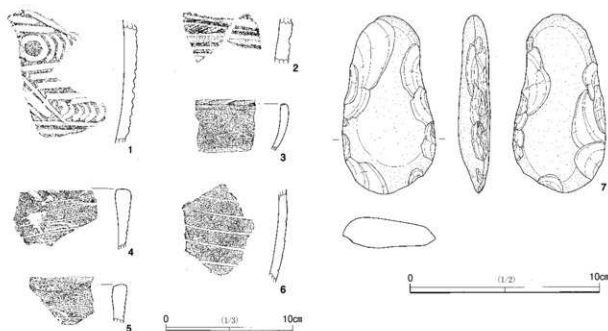
1～5は非ロクロの土師器杯である。7世紀後葉～8世紀前葉であろう。1は深く平底で、口縁部と体部の境の外面に輪積痕が残る。内面はミガキを施す。2は浅く平底と思われ、3は浅く平底で盤とすべきか、共に内外面ともミガキで、赤彩する。4は口唇部内外面にススが附着する。胎土は混和物が多い。5も口縁部の内外面に灯明による油煙が附着する。附着部分が一部浅く欠け、灯明の芯を置くのにわざと欠いた可能性がある。6・7はロクロ成形の土師器杯である。6は底部から口縁部へ直線的に開く。胎土に砂粒とやや大粒のスコリアが混ざる。8世紀後半か。7は底部から内湾しながら口縁部へ開き、口唇部は外反する。10世紀後半か。8・9は須恵器杯で、胎土に雲母が多く混ざり、常陸産である。8は体部内面に1か所油煙が附着する。9世紀前半であろう。9は内外面赤彩する。胎土断面は黒色である。10世紀後半か。10・11は土師器小型甕の底部である。10は赤彩のように見えるが、断面も赤褐色である。底面はナデる。11の底部外面はヘラケズリする。12は土師器甕の口縁部で、直線的な胴部に強く外反する口縁部が付く。口唇部外面は面取りし、下方に突出させる。8世紀半ばであろう。13は甕の底部で、内面下端は面取りする。12・13は胎土・色調が似るので同一個体の可能性がある。14～17は須恵器甕である。14は口縁部片で、櫛掻波状文を2段施す。工具は7本一組と思われるが、明瞭なのは4本である。文線帯の下端を



本書小グリッド命名法示意图



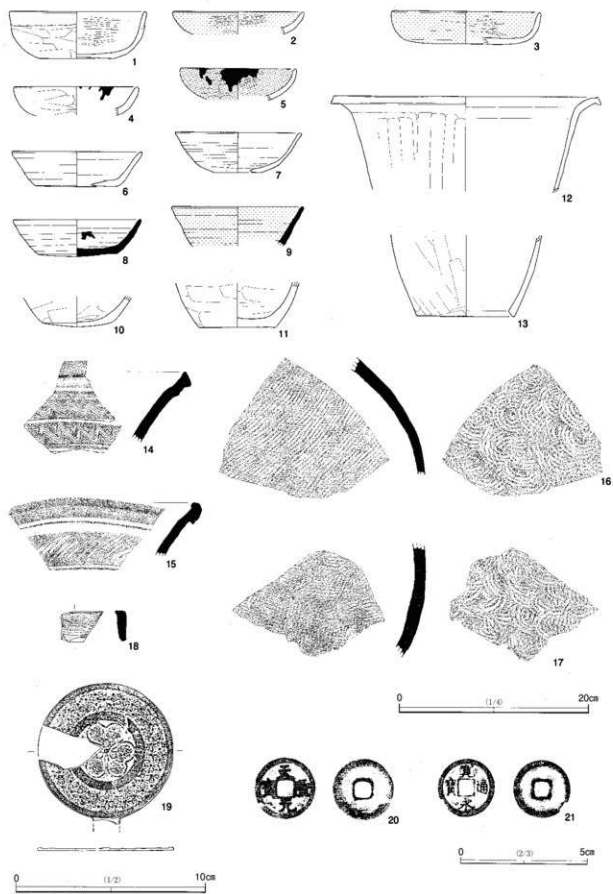
第6図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図・基本層序



第7図 縄文時代遺構外出土遺物

横位の沈線で画すようである。胎土に白色の小礫が目立つ。焼成は甘く、断面の中側が茶色である。7世紀後葉か。15も口縁部片で、やや幅広い斜条線を施す。所々灰釉が付着する。外面は光沢がある。8世紀後半であろう。16・17は胴部片で、共に外面は叩きしめる前に木口の荒れた工具で器面を調整したようで、横走するハケ目状の痕がみえる。内面は同心円状の当て具痕がはっきり残る。焼成は甘く、断面に褐色の部分がある。当て具痕はよく似るが、外面の色調はちがう。14と同時期であろう。18は須恵器甕の頸部との境の胴部片を転用した砥石である。横方向の平行タキ目があり、胎土に雲母が目立つことから常陸産である。上端と下端の割れ口に研磨痕がある。8世紀初めであろう。

近世は、19の小形の柄鏡が出土した。柄は失われ、鏡部は波打ち、一部欠けて3片に割れる。鏡部も薄い。柄はさらに一段薄い。鏡部の背面は、中央の内区にカタバミ、外区に麻の葉の吉祥文を配する。17世紀末から18世紀初め頃のものである（石倉亮治氏による）。20・21は銭貨で、20は北宋の天聖元寶、初铸年1023年である。21は寛永通寶で新寛永である。



第8图 古墳時代以降遺構外出土遺物

第3表 倉水高台遺跡 縄文土器観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
7	1	T-4	1	深鉢	明褐色	明褐色	白色粒	沈線文	早期	田戸下層	
7	2	T-4	1	深鉢	明褐色	明褐色	白色粒	沈線文	早期	田戸下層	
7	3	T-1	1	深鉢	暗褐色	明褐色	白色粒	シ字文、口唇部押除痕	後期	加曾田B	
7	4	2T	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	白色粒、雲母(少)	斜条線	後期	安行(粗製)	外面ヌス付着
7	5	2T	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	白色粒、雲母(少)	斜条線	後期	安行(粗製)	外面ヌス付着
7	6	2T	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	白色粒、雲母(少)	斜条線	後期	安行(粗製)	外面ヌス付着

第4表 倉水高台遺跡 縄文時代石器観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
7	7	2T	1	石斧	安山岩	94.4	49.2	17.4	100.74	

第5表 倉水高台遺跡 土師器・須恵器観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	器種	容量 (cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	技法		備考				
										内面	外面					
8	1	2T T-3	1	土師器	杯	口径 (14.3)	50%	スコリア	内面 7.5YR5-41C, 赤い焼	内面 ココナデ、ミザキ	外面 ココナデ、ヘラケズリ	外部面 ココナデ	外部面 輪転機付着			
						底径 (8.0)								外面 7.5YR5-41C, 赤い焼	外面 ココナデ、ヘラケズリ	外部面 ココナデ
						器高 (5.0)								地成 良好	外部面 ヘラケズリ	外部面 ココナデ
8	2	2T	1	土師器	杯	口径 (13.8)	破片	精製 白色粒	内面 赤系、2.5YR5-6明赤系	内面 ミザキ	外面 赤系、2.5YR5-6明赤系	外面 ミザキ				
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ミザキ
						器高 (2.4)								内面 赤系、2.5YR5-6明赤系	内面 ミザキ	外面 赤系、2.5YR5-6明赤系
8	3	2T	1	土師器	杯	口径 (15.5)	破片	精製 白色粒	内面 赤系、2.5YR5-6明赤系	内面 ミザキ	外面 赤系、2.5YR5-6明赤系	外面 ミザキ				
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ミザキ
						器高 (3.45)								内面 赤系、2.5YR5-6明赤系	内面 ミザキ	外面 赤系、2.5YR5-6明赤系
8	4	2T	1	土師器	杯	口径 (12.8)	破片	砂質 白色粒 (多)	内面 5YR4-6赤系	内面 ナデ	外面 5YR5-6明赤系	外面 ヘラケズリ	口唇部内 面輪転機付 着			
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ヘラケズリ
						器高 (3.0)								焼成 良好	外部面 -	外部面 -
8	5	2T	1	土師器	杯	口径 (12.0)	破片	精製 白色粒	内面 7.5YR4-3焼	内面 ココナデ、ミザキ	外面 7.5YR4-3焼	外面 ココナデ、ヘラケズリ後ナデ	口唇部内 面輪転機付 着			
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ココナデ
						器高 (2.3)								内面 7.5YR4-3焼	内面 ココナデ、ミザキ	外面 7.5YR4-3焼
8	6	2T	1	土師器	杯	口径 (13.6)	破片	砂質 白色粒 (多) スコリア	内面 7.5YR6-41C, 赤い焼	内面 ココナデ	外面 7.5YR6-41C, 赤い焼	外面 ココナデ				
						底径 (8.6)								地成 良好	外部面 ココナデ	外部面 ココナデ
						器高 (3.7)								内面 7.5YR6-41C, 赤い焼	内面 ココナデ	外面 7.5YR6-41C, 赤い焼
8	7	2T	1	土師器	杯	口径 (13.2)	破片	精製 白色粒 スコリア	内面 7.5YR5-6明赤系	内面 ココナデ、器面割傷	外面 5YR5-6明赤系	外面 ココナデ、ヘラケズリ				
						底径 (5.0)								地成 良好	外部面 ココナデ	外部面 ココナデ
						器高 (4.2)								内面 7.5YR5-6明赤系	内面 ココナデ、器面割傷	外面 5YR5-6明赤系
8	8	2T	1	須恵器	杯	口径 13.4	75%	雲母(多) スコリア (少)	内面 2.5Y6-31C, 赤い黄	内面 ココナデ	外面 2.5Y6-31C, 赤い黄	外面 ココナデ、回転ヘラケズリ	外部面内 面輪転機付 着			
						底径 8.4								地成 良好	外部面 回転ヘラケズリ後ナデ	外部面 ココナデ
						器高 4.0								内面 2.5Y6-31C, 赤い黄	内面 ココナデ	外面 2.5Y6-31C, 赤い黄
8	9	T-1	1	須恵器	杯	口径 (13.8)	破片	雲母(多)	内面 7.5YR5-41C, 赤い焼	内面 ココナデ	外面 7.5YR5-41C, 赤い焼	外面 ココナデ、ヘラケズリ				
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ココナデ
						器高 (8.1)								内面 7.5YR5-41C, 赤い焼	内面 ココナデ	外面 7.5YR5-41C, 赤い焼
8	10	2T	1	土師器	壺	口径 -	底部70%	砂質 砂粒(多)	内面 5YR5-6明赤系	内面 ヘラケズリ	外面 5YR5-6明赤系	外面 ヘラケズリ				
						底径 7.2								地成 良好	外部面 -	外部面 ヘラケズリ
						器高 (3.25)								内面 5YR5-6明赤系	内面 ヘラケズリ	外面 5YR5-6明赤系
8	11	2T	1	土師器	壺	口径 -	底部30%	白色粒 スコリア	内面 10YR6-41C, 赤い黄褐色	内面 ヘラケズリ、器面割傷	外面 7.5YR6-41C, 赤い焼	外面 ヘラケズリ	外部面内 面輪転機付 着			
						底径 (8.0)								地成 良好	外部面 -	外部面 ヘラケズリ
						器高 (4.8)								内面 10YR6-41C, 赤い黄褐色	内面 ヘラケズリ、器面割傷	外面 7.5YR6-41C, 赤い焼
8	12	2T	1	土師器	瓶	口径 (28.0)	口唇部上平 20%	白色粒	内面 5YR5-8明赤系	内面 ココナデ、ナデ	外面 5YR5-8明赤系	外面 ココナデ、ヘラケズリ	口唇部内 面輪転機付 着			
						底径 -								地成 良好	外部面 -	外部面 ココナデ
						器高 (10.0)								内面 5YR5-8明赤系	内面 ココナデ、ナデ	外面 5YR5-8明赤系
8	13	2T	1	土師器	瓶	口径 -	胴部下平 →底平 20%	白色粒	内面 5YR5-8明赤系	内面 ナデ	外面 5YR5-8明赤系	外面 ヘラケズリ				
						底径 (10.0)								地成 良好	外部面 -	外部面 ヘラケズリ
						器高 (8.6)								内面 5YR5-8明赤系	内面 ナデ	外面 5YR5-8明赤系

棟号	No.	遺構番号	遺物番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調 (色地埋)・地成	装 法	備考	
8	14	T-5	1	灰容器	甕	口径	-	白緑部片	内面	10Y4/1R	内面	ナテ
						底径	-		外面	10Y4/1R	外面	襷縁流紋文
						器高	-		地成	やや不貞	底外面	-
8	15	T-5	1	灰容器	甕	口径	-	白緑部片	内面	10Y4/1R	内面	ナテ
						底径	-		外面	7.5Y2/1R	外面	斜条縁
						器高	-		地成	堅緻	底外面	-
8	16	T-5	1	灰容器	甕	口径	-	破片	内面	10Y3/1R	内面	同心円状の当て目痕
						底径	-		外面	10Y3/1R	外面	襷縁状工具によるナテの残平行クナキ全
						器高	-		地成	やや不貞		
8	17	T-5	1	灰容器	甕	口径	-	破片	内面	10Y3/1R	内面	同心円状の当て目痕
						底径	-		外面	7.5Y3-2Rオリーブ	外面	襷縁状工具によるナテの残平行クナキ全
						器高	-		地成	やや不貞		
8	18	2T	1	灰容器	甕	長さ	3.2	破片	内面	5Y5-2Rオリーブ	内面	ナテ
						幅	4.4		外面	5Y5-2Rオリーブ	外面	平行クナキ (縦)
						厚さ	1.15		地成	良好	底外面	-

第6表 倉水高台遺跡 鏡計測表

棟号	No.	遺構番号	遺物番号	鏡名	重さ g	現存具 mm	内 区		外 区		内縁 帯幅 mm	外縁 帯幅 mm	厚mm					
							外径 mm	内径 mm	外径 mm	内径 mm			中心	内区	内縁帯	外区	外縁帯	柄
8	19	2T	1	柄鏡	36.42	73.3	40.5	32.3	71.5	64.0	4.0	2.3	1.5	1.0	1.4	1.2	1.7	1.3

第7表 倉水高台遺跡 鏡貨計測表

棟号	No.	遺構番号	遺物番号	鏡名	重さ (g)	縁外径(mm)		縁内径(mm)		郭外径(mm)		郭内径(mm)		縁厚 (mm)			内面厚 (mm)				
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	上	右	下	左
8	20	2T	1	天聖元寶	2.31	24.7	24.7	20.0	20.0	8.7	8.5	6.3	6.1	1.3	1.1	0.9	1.0	0.7	0.7	0.5	0.7
8	21	2T	1	寛永通寶	2.57	23.3	23.2	18.9	18.6	7.3	7.3	6.2	6.0	1.2	1.3	1.3	1.3	0.8	0.8	0.8	0.7

第3章 倉水内野北遺跡

第1節 概要(第3・9・10図, 図版4)

利根川に注ぐ小河川に面した標高38m前後の台地上に所在する。同じ台地上の南側に北から順に倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・稲荷山追分台遺跡が続く。今回の調査区は、以上の遺跡を南北に縦断する形である。発掘調査は(1)～(3)の3次に分けて行った。(1)は平成18年4月17日～平成18年7月3日、(2)は平成18年11月1日～平成18年11月30日、(3)は平成23年2月1日～平成23年3月14日の期間であった。(1)～(3)の調査範囲は、第9・10図のとおりである。

旧石器時代の石器集中3か所と石器単独出土3か所、縄文時代の早期の土坑群と遺物集中3か所、古墳時代の土器集中1か所を検出した。

第2節 検出した遺構と遺物

旧石器時代

石器集中1(第11～13図, 第8表, 図版5・6・8)

概要と分布 13Q-05・06・14・15・24グリッドで検出した。05・15グリッドの3.6m×3.0mの範囲に特に集中する。出土層位は、関東ロームV層～Ⅲ層である。黒曜石の剥片・砕片と焼礫片からほぼ成る。(3)第2拡張区として調査記録する。拡張区一括(遺物番号244)にメノウの砕片が1点含まれる。

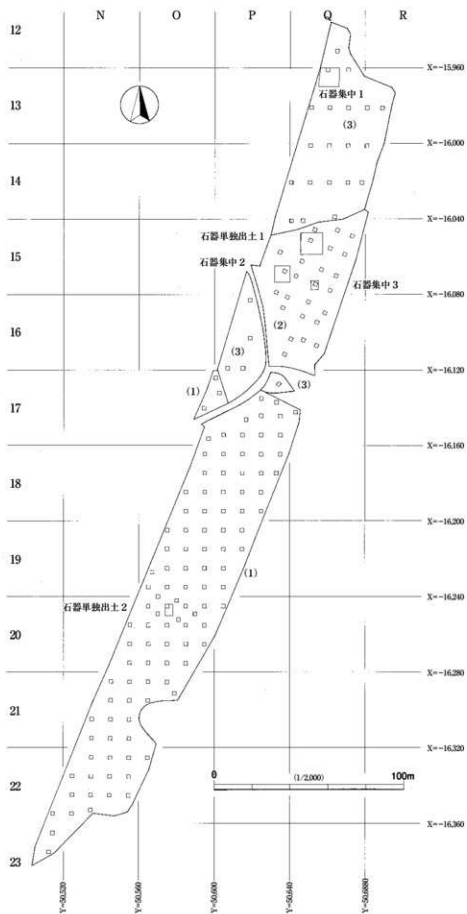
器種別検討 定形的な石器は、敲石1点である。他は刃部調整剥片6点、石刃か1点、剥片20点、砕片6点、石核1点、焼礫片12点、礫片6点、礫1点であり、資料は総数54点である。刃部調整剥片は1～6で、1は上縁、2は上縁・下縁、3は左図右側縁の挟れた部分、4は左図右側縁中ほど、5は左図左下角縁、6は左図右上縁の刃部を調整する。7は石刃かと思われる。上部は折れる。剥片として8～10を示す。9は分厚い。石核は11である。多方向から剝離する。敲石は12で楕円形の比較的扁平な砂岩の礫を用い、両端で敲打する。全体に焼けていて赤味がかかる。焼礫片・礫片は接合した資料を示す。剥片は北側に焼礫、礫は南側に集中する。以上のことから、この場において、剥片を取る作業が行われたこと、刃が存在したことが推測できる。剥片の刃部調整も行われたと思われるが、その際に出る微細な剥片が検出されなかったので、断定できない。

石材別検討 剥片資料では、黒曜石が31点(39.79g)、頁岩は10の1点(5.6g)、チャートは8の1点(2.83g)である。黒曜石の剥片・砕片の母岩は同一と思われる。8のチャートは、片岩に似て、焼礫片・礫片のチャートとは異なる。同じ石材の資料は他にない。焼礫・礫・礫片資料ではチャート・砂岩・安山岩・花崗岩・礫岩が見える。頁岩はない。

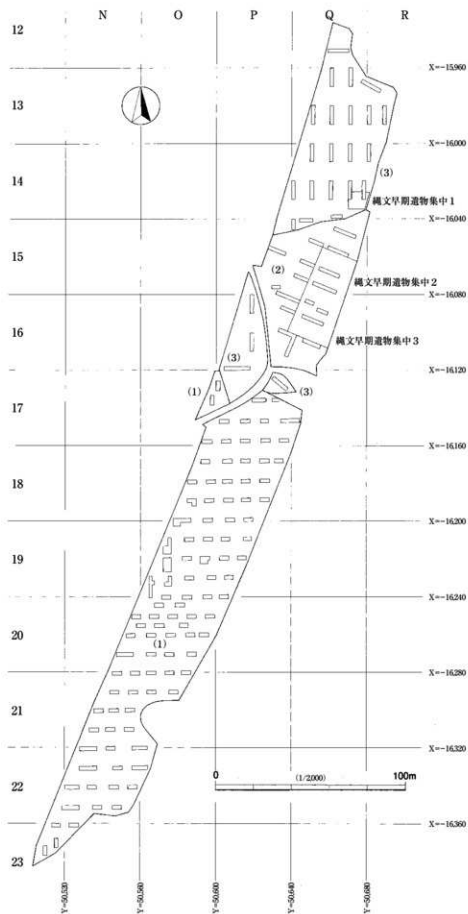
石器集中2(第14図, 第8表, 図版8)

概要と分布 15P-78グリッドで検出した。石器の出土範囲は2.0m×1.0mである。出土層位は、関東ロームV層と台帳に記す。黒曜石の刃部調整剥片2点・石核1点から成る。

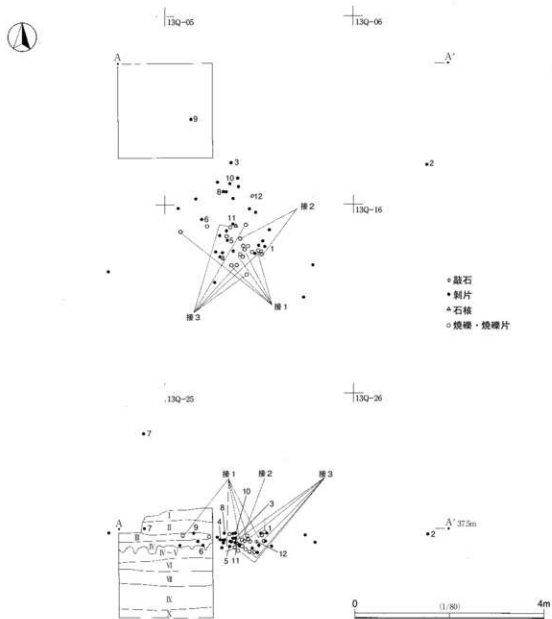
器種別検討 刃部調整剥片は1・2で、1は左右の側縁の中ほどと下縁、2は左図の左下縁の刃部を調整する。石核である3は多方向から剝離する。3点とも母岩は同じと思われる。石器集中1の黒曜石と比



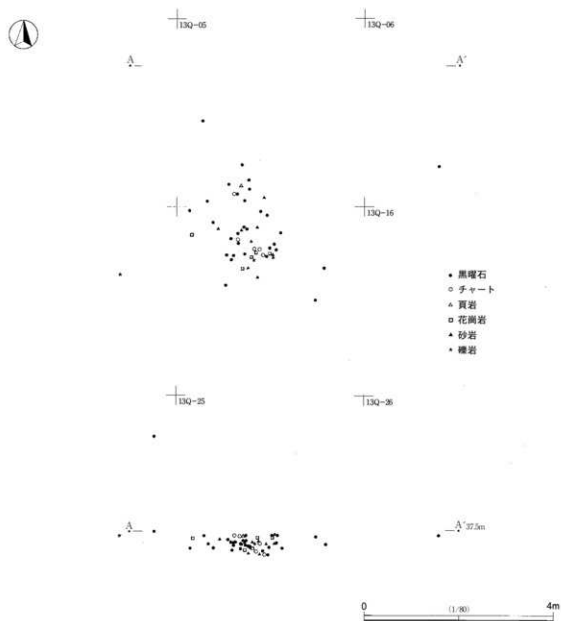
第9図 下層確認グリッド配置図



第10図 上層確認トレンチ配置図



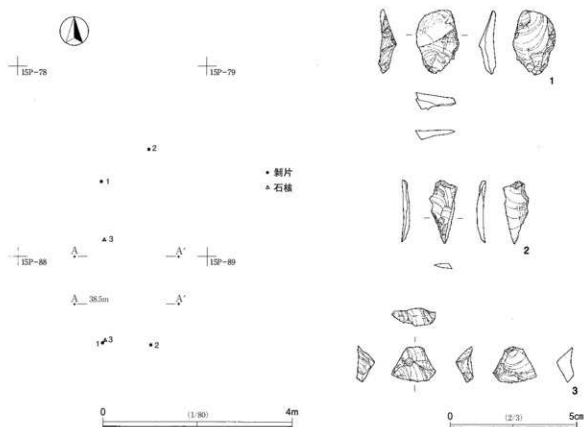
第11图 旧石器石器集中I器種别出土状况



第12図 旧石器石器集中1石材別出土状況



第13图 旧石器石器集中1出土石器



第14図 旧石器石器集中2出土状況・出土石器

べて、無色の部分が多く、不純物粒が少ない。

石器集中3 (第15図、第8表、図版8)

概要と分布 15Q-83・93グリッドで検出した。石器の出土範囲は0.3m×0.7mである。出土層位は、関東ロームⅢ層と台帳に記す。黒色で硬質の安山岩の礫片と灰色で軟質の安山岩の焼礫片から成る。図示はせず、写真を掲載する。調査範囲内の一括遺物中の剥離痕のある石英質の礫も報告する。礫は一端に剥離痕がある。

単独出土1 (第15図、第8表、図版8)

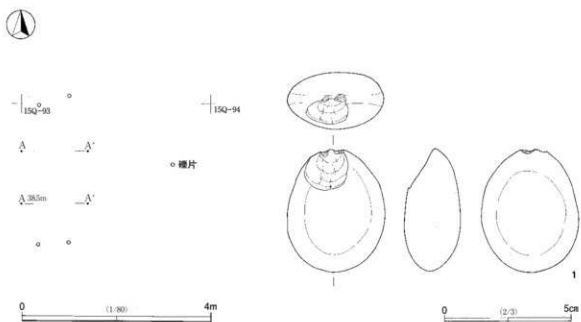
15Q-45の下層確認グリッドでメノウの剥片が出土した。位置・レベルは不明である。関東ロームⅥ層出土と台帳に記す。拡張して調査したが、新たな石器は出土しなかった。

単独出土2 (第16図、第8表、図版6・8)

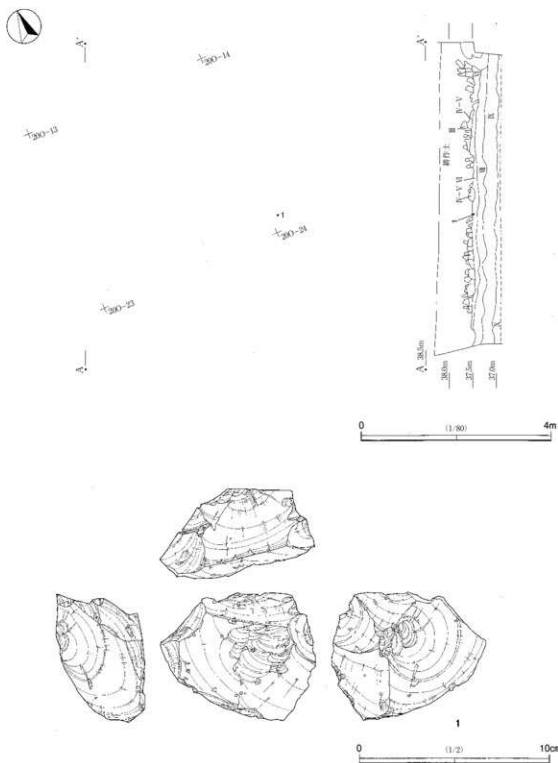
20Q-14の下層確認グリッドで黒曜石の石核が出土した。調査時の所見に関東ロームⅤ層～Ⅳ層の出土とする。剥離面が大きく、大きな剥片を取っている。黒曜石の質は石器集中1のものに似る。拡張して調査したが、新たに石器は出土しなかった。

単独出土3 (第15図、第8表、図版8)

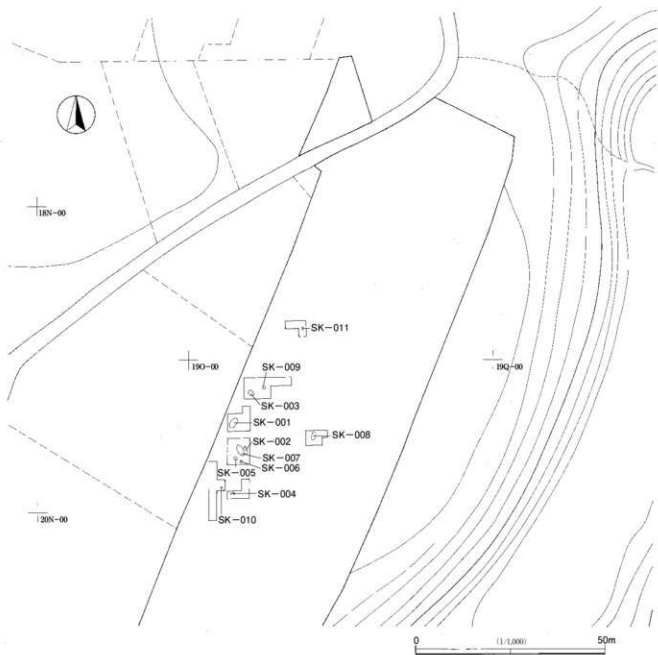
21N-63グリッドで石英の石核が出土した。地点・レベルは不明である。関東ロームⅤ層～Ⅳ層出土と台帳に記す。石核は多方向から剥離する。石質は大理石に似る。



第15图 旧石器石器集中3出土状況・出土石器、单独出土1・3出土石器



第16圖 旧石器单独出土2 出土状況・出土石器



第17図 上層土坑配置図

縄文時代

SK-001 (第17・18図, 図版6)

190-33・42・43に位置する。北西側を攪乱に壊される。北東から南西方向に長い楕円形で、長径2.9m、短径0.7m以上、深さ0.5mである。出土遺物はない。

SK-002 (第17・18図, 図版6)

190-53・63に位置する。SK-007を切る。南北に長い楕円形で、長径2.2m、短径1.0m、深さ0.4mである。出土遺物はない。

SK-003 (第17・18図, 図版6)

190-23・24に位置する。東半分の上部を擾乱に壊される。南北に長い楕円形で、長径1.6m、短径(推定)0.9m、深さ1.0mである。出土遺物はない。楕円形で底へ向って狭まり、底面が平坦である形から陥穴である。

SK-004 (第17・18図)

190-83・84に位置する。東西に長い不整形で、最大長1.4m、最大幅0.6m、深さ0.2mである。覆土の上層は炭化物主体であるが、壁・底に焼けた様子はない。出土遺物はない。

SK-005 (第17・18図, 第11表, 図版6・18)

190-63に位置する。南側を木の根に壊される。北東から南西方向に長い楕円形で長径(推定)1.2m、短径0.8m、深さ0.4mである。石鎌が1点出土した。灰色チャート製で、基部が抉れるタイプである。先端が欠ける。

SK-006 (第17・18図, 図版7)

190-63に位置する。ほぼ円形で径0.6m、深さ0.2mである。出土遺物はない。

SK-007 (第17・18図)

190-53・63に位置する。SK-002に南東側を壊される。北西から南東方向に長い楕円形で、長径3.3m、短径1.7m、深さ0.8mである。出土遺物はない。

SK-008 (第17・18図, 図版7)

190-49・59に位置する。輪郭の一部が不明瞭であった。南北に長い楕円形で、長径2.1m、短径(推定)1.2m、深さ0.7mである。出土遺物はない。

SK-009 (第17・18図, 図版7)

190-14・15に位置する。西側を擾乱に壊される。ほぼ円形で、径1.0m、深さ0.4mである。底部の南西側が一段深くなる。出土遺物はない。

SK-010 (第17・18図)

190-82に位置する。北東側を擾乱に壊される。ほぼ円形で、径0.8m、深さ0.2mである。出土遺物はない。

SK-011 (第17・18図, 図版7)

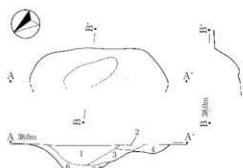
180-77に位置する。西側を擾乱に壊される。ほぼ円形で、径0.7m、深さ0.2mである。出土遺物はない。

早期遺物集中1 (第19図, 第9・11表, 図版7・9・17)

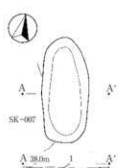
概要と分布 14Qグリッドの南東部に検出した。(3)第1拡張区として調査記録する。土器と石器から成る。集中範囲は11.0m×9.5mである。集中の中心からやや東で炉跡と思われる焼土を検出したが、その周囲に古墳時代の土師器片が集中して出土したため、古墳時代の遺構として報告する。

出土土器 摺糸文系・沈線文系・条痕文系が出土した。主としては沈線文系の三戸式・田戸下層式である。1～4は沈線文系である。1は口唇の外にも沈線を施す。胴部の沈線は、細沈線の中に太沈線が混じる。2は小波状口縁である。4は貝殻腹縁で細かい縄文のように施文する。5は条痕文系の底部片である。

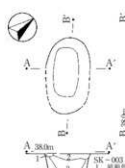
出土石器 6は尖頭器未製品かと思われる。上下両端とも欠けていない。石鎌としては厚い。集中の礫



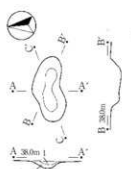
- SK-001
1. 黒色土 少量のローム粒が散状に混入、しまり強い。
 2. 黒色土 ローム粒やや多く混入、しまり強い。
 3. 黒色土 ローム粒多く混入、1cm×5cm程度の線状を呈す。
 4. 黒色土 腐植土に同化。
 5. 黒色土 ローム粒子・ローム粒少量混入。
 6. 黒褐色土 ローム粒子・ローム粒多く混入。



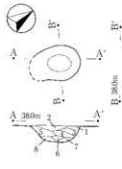
- SK-002
1. 黒褐色土 ローム粒が線状(1cm)に混入、しまり強い。
 2. 黒色土 ローム粒、ロームブロック主体。
 3. 黒褐色土 1層よりやや明るく、ローム粒子の混入多。
 4. 黒褐色土 1層よりやや明るく、ローム粒子・ローム粒やや多く混入、しまり強い。



- SK-003
1. 黒褐色土 ローム粒子が主体的に混入、しまり強い。
 2. 黒褐色土 ローム粒少量混入、しまり強い。
 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、腐植土に同化してローム粒の混入減少。
 4. 黒土 腐植土に同化してローム粒の混入減少。
 5. 黒褐色土 4層よりやや明るく、ローム粒・ローム粒少量混入。
 6. 黒褐色土 4層よりローム粒子。
 7. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒少量混入。
 8. 黒褐色土 4層よりローム粒・ローム粒少量混入。
 9. 黒褐色土 4層よりローム粒。



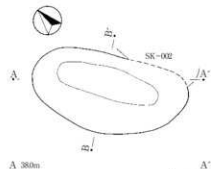
- SK-004
1. 黒色土 炭化土主体層、褐色土が若干混入。
 2. 黒褐色土 炭化土が少量混入。



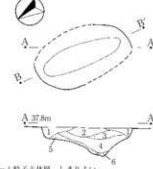
- SK-005
1. 黒褐色土 5mm大のローム粒混入。
 2. 黒褐色土 1mm前後のローム粒が少量混入。
 3. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒が少量混入。
 4. 黒褐色土 ローム粒、ローム粒子が少量混入。
 5. 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子主体層。
 6. 黒褐色土 4層より同化。
 7. 黒褐色土 ローム粒が多く混入。
 8. 赤褐色土 ローム粒が少量混入。



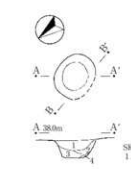
- SK-006
1. 黒褐色土 黒色土・ローム粒子ともに線状に混入。
 2. 黒褐色土 黒色土が少量混入、ローム粒子主体層、しまり強い。



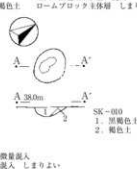
- SK-007
1. 褐色土 ローム粒・ローム粒子主体層、しまり強い。
 2. 褐色土 1層よりやや明るく、1cm大のロームブロック混入。
 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(5mm大)が少量混入。
 4. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒子主体層、1・2層より明るい。
 5. 黒褐色土 3層よりやや明るく、しまり強い。
 6. 黒褐色土 5層よりロームブロックが多く混入。
 7. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量混入。
 8. 褐色土 鉄粒の黒色土が多数に混入。



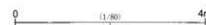
- SK-008
1. 褐色土 黒色土主体、ローム粒(2mm大)が若干混入有り。
 2. 黒褐色土 ローム粒子1・3cm大の線状に混入。
 3. 黒褐色土 2層より明るく、ローム粒子の混入少ない。
 4. 黒褐色土 中層部にローム粒子の混入、少ない。
 5. 黒褐色土 腐植土に同化してローム粒子の混入が増えるようになる。
 6. 褐色土 ローム粒子主体層に混入、黒色土が外周にやや多く混入。



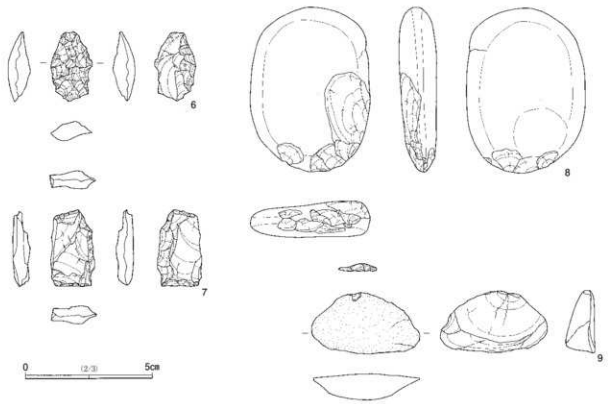
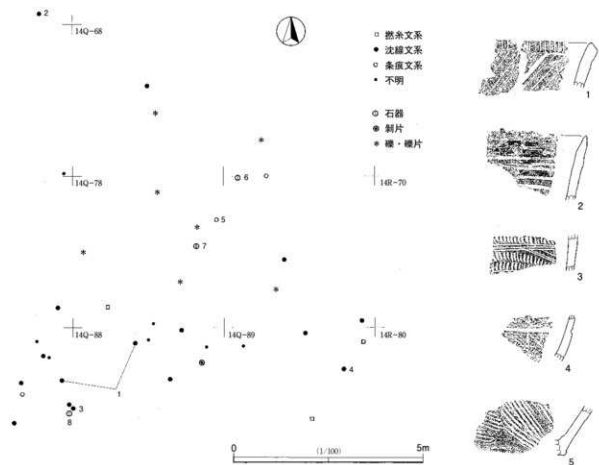
- SK-009
1. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒子少量混入。
 2. 黒褐色土 炭化粒(2mm大)若干混入、しまり強い。
 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量混入、しまり強い。
 4. 褐色土 ロームブロック主体の混入、褐色土混入、ややしまり強い。
 5. 褐色土 ロームブロック主体層、しまり強い。



- SK-010
1. 黒褐色土 ローム粒子が散状に混入、しまり強い。
 2. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒子が主体的に混入、黒色土少量混入、しまり強い。



第18図 縄文時代土坑・出土遺物



第19図 縄文早期遺物集中1出土状況・出土遺物

片のチャートとは母岩が違う。7は楔形石器で、上下縁にまとまった小剝離痕がある他、背面の左側縁に小剝離痕が並ぶ。8は扁平な礫の一端を使った敲石で、表裏の剝離の境目はつぶれる。9は分厚い横長剝片で、石器の材料として取られたものであろう。このほかに剝片・焼礫片・礫片が出土した。

早期遺物集中2（第20～24図、第9～11表、図版7・9～12・17）

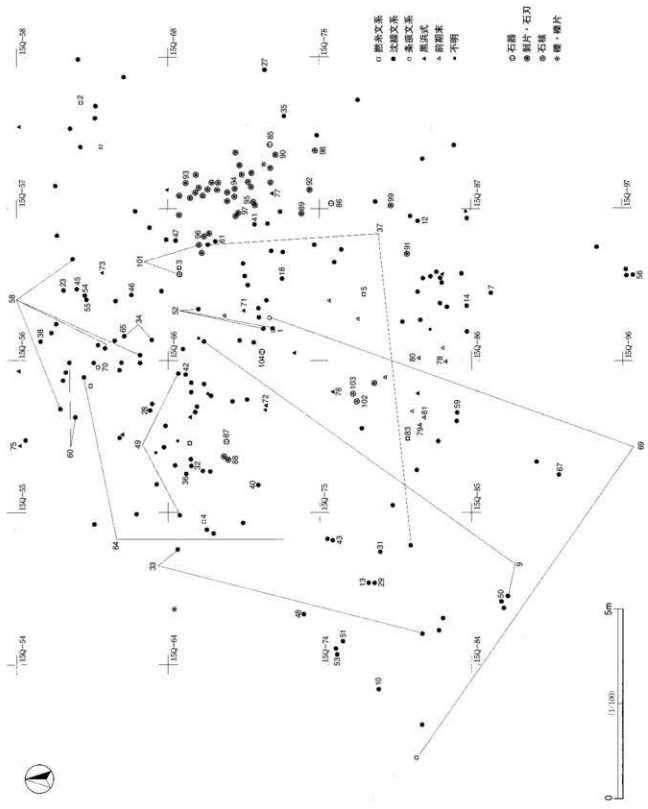
概要と分布 15Qグリッドの南東部で検出した。(2)第4拡張区として調査記録する。土器と石器から成る。集中範囲は15.0m×20.0mである。集中の東側で石器がまとまって出土した。中に間室ローム層から出土したのが見られ、細石刃に近い石刃も出土しているが、同じチャート製の石鏃・楔形石器も出土し、縄文早期の土器片が同じ範囲から多数出土していることから、縄文早期の石器群として報告する。

出土土器 早期の燃糸文・押型文系・沈線文系・条痕文系、前期の黒浜式などが出土した。その中では圧倒的に沈線文系が多い。ほかに前期・中期の土器も出土した。1～5は燃糸文系である。1・5は燃糸文で、2～4は縄文である。6は押型文系である。押型文系はこれだけである。7～68は沈線文系である。三戸式か田戸下層式である。沈線主体の類、刺突の加わる類、腹縁文の加わる類、無文の類と示す。9は器面が荒れる。10の横向き帯状の空白はキズである。11は上部に補修孔がある。13は斜行沈線の間に沈線と平行に腹縁文を入れる。23は器面が荒れる。上部は細沈線を斜行、横走させ、下部は大沈線を斜行させる。30はゆるい波状口縁である。35～38は沈線が浅く、胎土が砂質で器面が荒れたように見える。45～47は同一個体と思われる。45・46の下に47が位置する。50・51は同一個体と思われる。54も竹管の外面を押しして沈線を引くが、浅く、平行ではなく放射状に近い。53は上部に補修孔がある。55は半截竹管を外面を下にして器面に右から斜めに刺すことのできる凹みと高まりを文様とする。56・57では同じ刺突をする際に、より太い竹管を使い、左から刺す。58は縦走の沈線で区画した後短い沈線を横走させる。60はキズのせいで曖昧になっているが、縦の沈線は横走する沈線を切らない。61は口唇下に斜めに平行に、その下に横6段平行に腹縁を押し付ける。さらに左下は細沈線である。62は貝の殻表圧痕を横向きに平行に付け、細沈線を縦走させる。63は細沈線の区画の中に腹縁文があるが、磨り消す。64～66は無文である。67・68は尖底の底部である。69・70は、内外面とも条痕はないが、胎土と調整から条痕文系であろう。70は尖底の底部に近い。71～77は前期の黒浜式である。71は燃糸文、74は腹縁文である。78～81は前期末の縄文土器である。胎土の色調は明灰褐色で堅緻である。78・79は同一個体と思われ、RLの縄文原体を口縁下で縦横に押捺し、その下は横に回転施文する。82は中期の加曾利E式である。

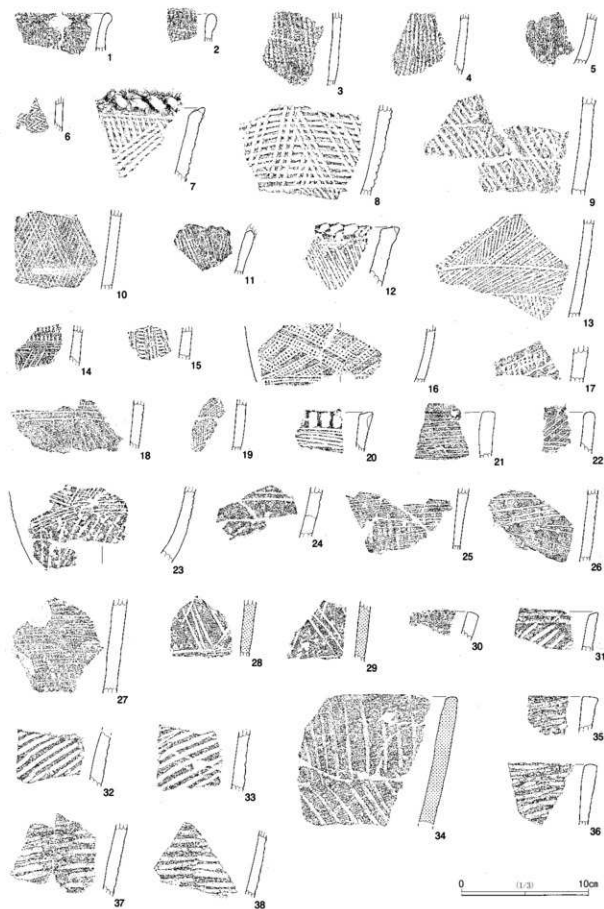
出土土製品 83は燃糸文系の深鉢片を加工した円板、84は三戸・田戸下層式の深鉢片を加工した円板で一部欠ける。ともに縁は摩耗していない。

出土石器 チャートの剝片・砕片が15Q-67に集中して出土した。その中と周辺では石鏃・楔形石器・刃部調整剝片・石刃・石核も出土した。チャート以外の石材では、黒曜石・安山岩の剝片石器が出土したほか、流紋岩製の敲石が出土し、一括取り上げであるが、砂岩の焼礫小片も1点出土している。

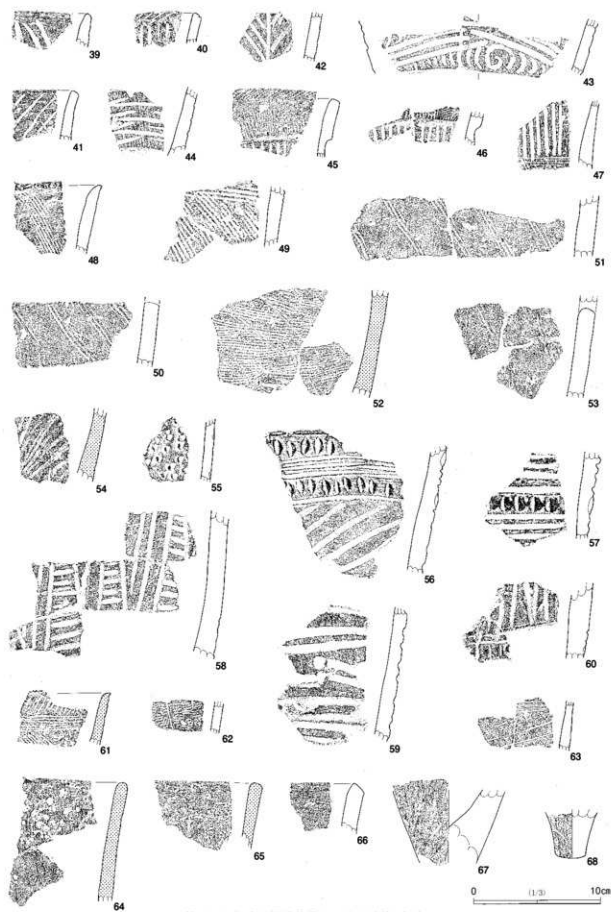
85・86はチャート製石鏃である。85は左右の側縁が内湾する。黒色に近く、暗灰色である剝片類と異なる。86は先端部片である。暗灰色であるが、光沢がある点、剝片類と違う。87は暗灰色チャート製の楔形石器で、自然面が残る。左図の上下と右側縁に剝離がある。88～90は暗灰色チャート製の刃部調整剝片である。88は左図の上縁に、89は左図の左縁・右上縁に、90は下縁に小剝離痕が並ぶ。91は透明部分の多い黒曜石製の刃部調整剝片で、左右縁に小剝離痕が並ぶ。92～95は暗灰色チャート製の石刃である。92は85ほどではないが黒っぽい。96・99は92に似た黒っぽい暗灰色チャートの剝片、97は灰色頁岩の剝片、98は



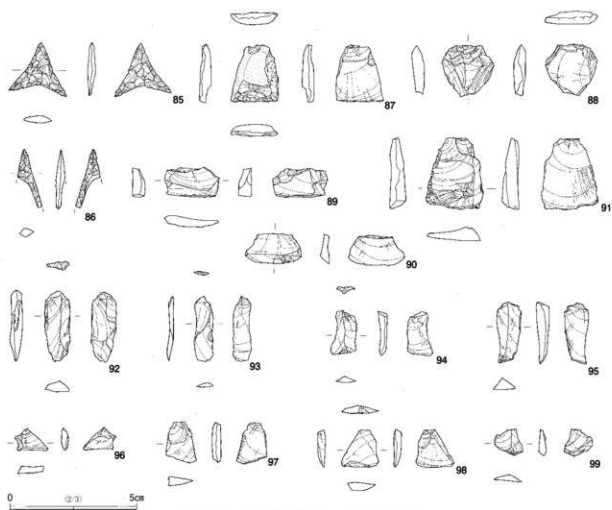
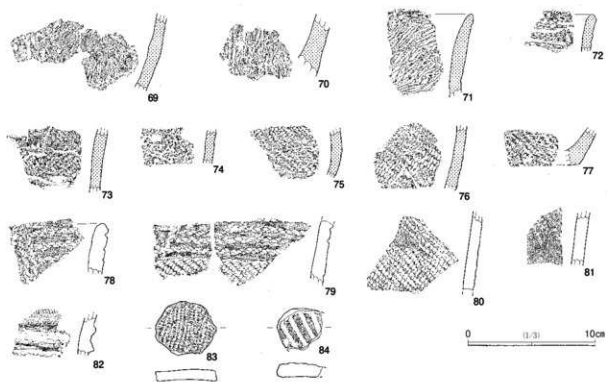
第200回 縄文早期遺物集中2出土状況



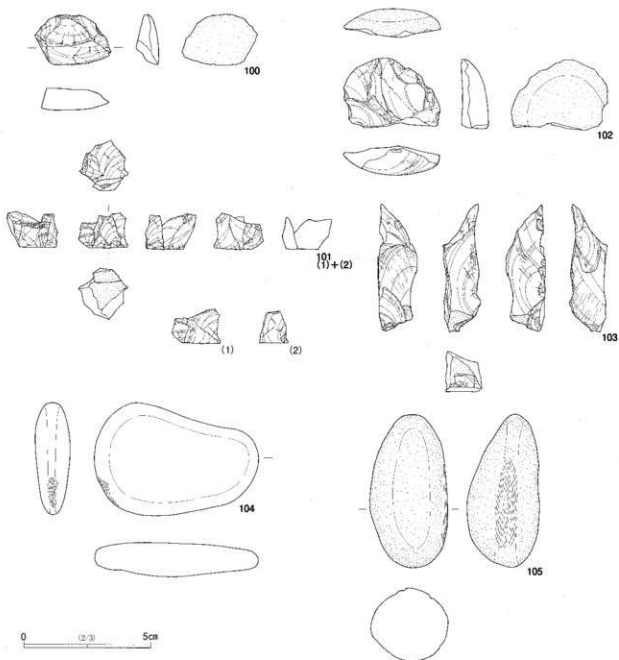
第21図 縄文早期遺物集中2出土遺物(1)



第22図 縄文早期遺物集中2出土遺物(2)



第23図 縄文早期遺物集中2出土遺物(3)



第24図 縄文早期遺物集中2出土遺物（4）

灰色に濁って黒い筋の入るメノウの剥片, 100は安山岩の横長剥片である。101は暗灰色チャートの石核（1）と剥片（2）の接合資料である。102は暗灰色チャートの石核で、多方向から剥離する。片面に自然面が残る。103は透明部分のある黒曜石の石核で、最右図の下側の面は風化しているため、自然面の可能性はある。下図の面は自然面が残る。右から2番の図と下図のように1個縁に小剥離痕が並ぶ。104は全体に茶色っぽい流紋岩の敲石で左下縁で敲打する。105は表面のザラザラとした砂岩の磨石である。側面

の一部を磨る。チャートの剥片・破片が多数出土したことから、石器製作跡と考えられる。

早期遺物集中3（第25～28図、第9・11表、図版7・12・14・17・18）

概要と分布 16Qグリッドの北西部で検出した。（2）第1拡張区として調査記録する。土器と石器から成る。集中範囲は15.0m×20.0mである。

出土石器 早期の燃糸文・押型文系・沈線文系・条痕文系、前期の黒浜式、中期の加曽利E式が出土した。やはり沈線文系が圧倒的に多い。1・2は燃糸文系である。1は内面が荒れる。2は口縁下に燃糸を押し塗るだけである。大きめの砂粒が目立つ。3は押型文系である。4～68は沈線文系である。三戸式か田戸下層式である。7～14は斜格子状沈線文である。12～14は横走沈線に対して斜沈線を交差させる。9は斜格子沈線文区画の下側に沈線を引く。11は沈線施文後に条痕を付ける。12の縦の沈線は横走沈線間で短く止まる。15の口唇は刻んで小波状にする。17は斜めに沈線を引いた後、その間に半載竹管の刺突を連ねる。18・19は沈線の間を端部方形の施文具で刺突する。20～22は帯状格子目文である。20・21は同じ施文法で、平行な3本の浅い沈線の帯に直角に深く方形に刺突して格子目にする。浅い沈線は半載竹管の側縁といった刃状のものを押しつけるか。22は細沈線を格子目に引く。23は条痕を斜格子に引く。24～31は細沈線文で、24・25は口唇下に刺突がある。26は沈線文の下側に条痕も付くが、磨り消す。28～30は斜沈線である。33は口唇の外縁に斜めの刻みが並ぶ。36の口唇は、薄い上に欠けるので、形が不明瞭である。沈線の間を刺突のようなものは、沈線が砂粒で途切れる。37は縄文が加わる。38は沈線を隣合わせに引く。39は沈線を一定の長さごとに切って引く。42～45は条痕文である。42の口唇下の凹みは調整でできたものである。44は間隔の空いた低い小波状口縁である。46～50は沈線に刺突が加わる。47は半載竹管による横向き左凸の刺突2段の下に円形竹管の刺突を横に連ねる。48は半載竹管による横向き左凸の刺突を散らす。49は47に似るが、色調が微妙に異なる。欠けて不明瞭であるが、半載竹管の刺突2段の上に円形刺突のような文様が見える。50は沈線の帯の中に刺突と腹縁文がある。51～57は沈線に腹縁文が加わる。51は小波状口縁である。52は腹縁文の向きを場所で縦と横に違えて連ねる。53は腹縁だけでなく殻表も押す。57は上端に腹縁文が見える。58～62はナデのみである。63～68は尖底底部である。63は条痕があるようにも見える。64は外面が荒れる。67は縦の2本の沈線による区画が全周で6個ある。68の横の沈線はどこどころ途切れる。69・70は条痕文系である。70の内面は無文である。71は前期黒浜式である。72～74は中期加曽利E式の後半である。どれも小形の個体と思われる。いずれもLRの縄文を上から下に転がす。

出土石器 75は流紋岩製の磨製石斧である。表面は平滑でやや光沢がある。頭部には自然の凹みがある。76・77は黒曜石の刃部調整剥片で、76は左図の右縁に、77は下縁に小刺離痕が並ぶ。共に無色部分のある類で、似た石材の剥片が他に1点出土する。78は安山岩の縦長剥片である。79～81は敲石・磨石の類である。79は黒色に近いチャート製で、上端と下縁を表面が白くなるほど敲く。全体に赤みがかり、焼けているか。80は流紋岩の敲石・磨石で、焼けて赤くなる。81も流紋岩の磨石で、下縁の中ほどの凹んだ部分で磨る。集中では他に焼礫片2点、礫片2点が出た。なお、安山岩の剥片1点が、掲載しないが、集中の西側の16P-64グリッドで出土している。

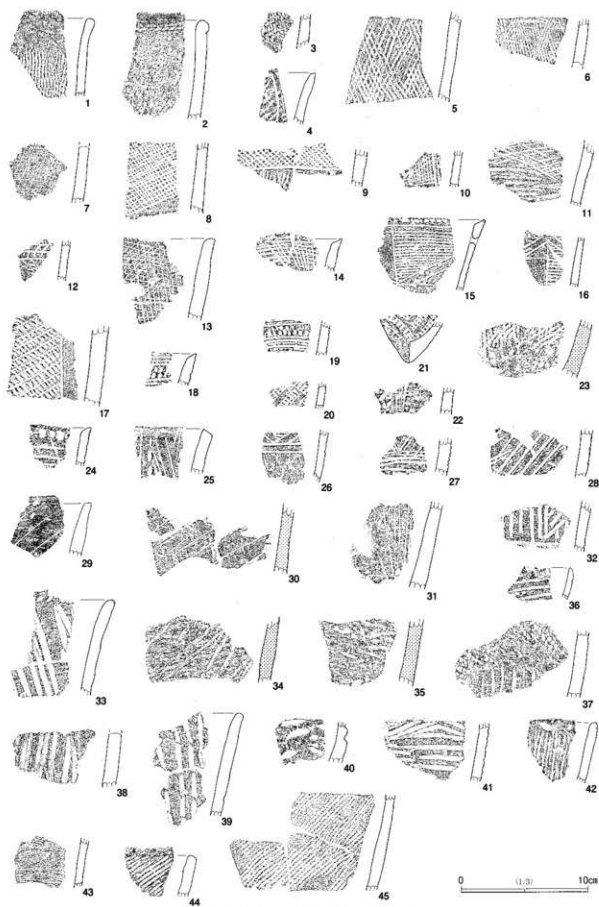
遺構外出土遺物（第29～31図、第9・11表、図版14～16・18）

上記の遺物集中以外で出土した縄文時代の土器・石器を示す。

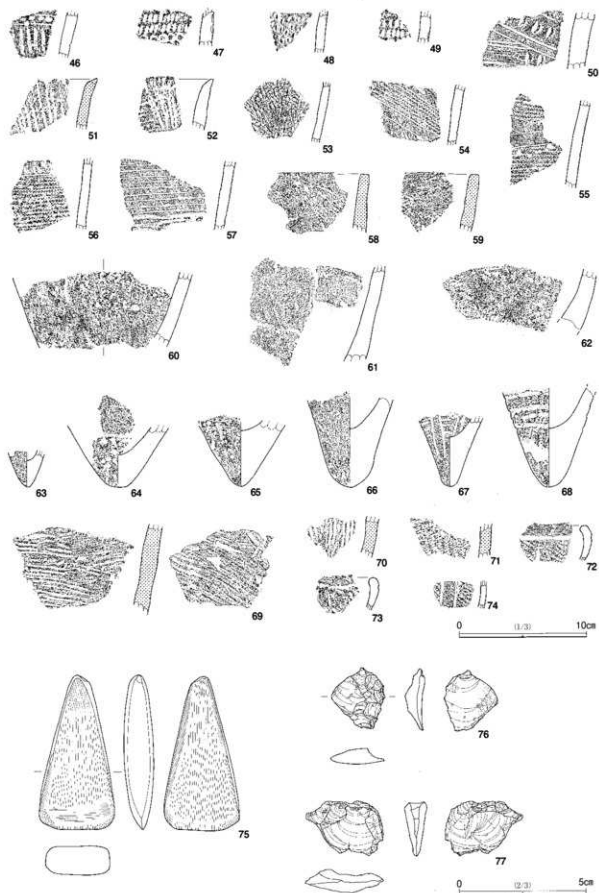
土器 1～3は早期燃糸文系である。2は燃糸文を部分的に磨り消す。3は上の方の燃糸文を浅い沈線で消す。また、右側で燃糸の回転方向を変える。4・5は早期平坂式かと思われる。無文である。4は口



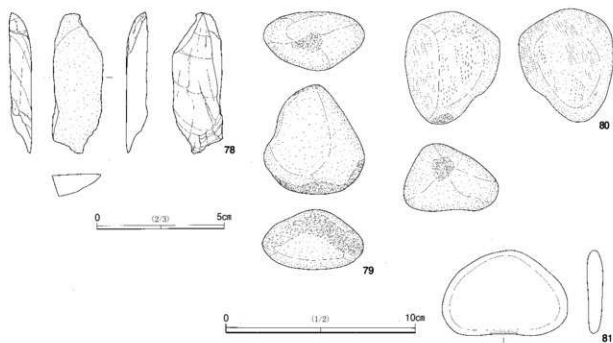
第25圖 織文早期遺物集中3出土状況



第26图 縄文早期遺物集中3出土遺物(1)



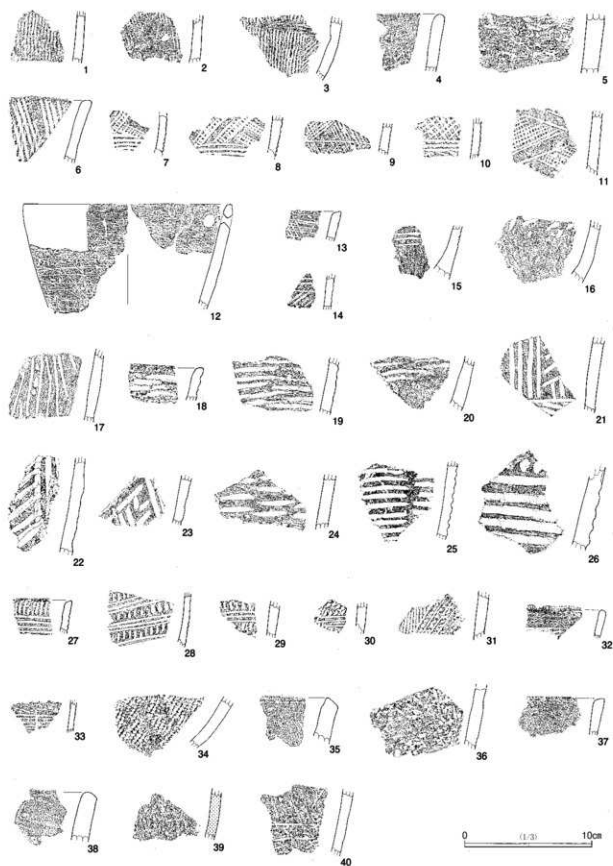
第27図 縄文早期遺物集中3出土遺物(2)



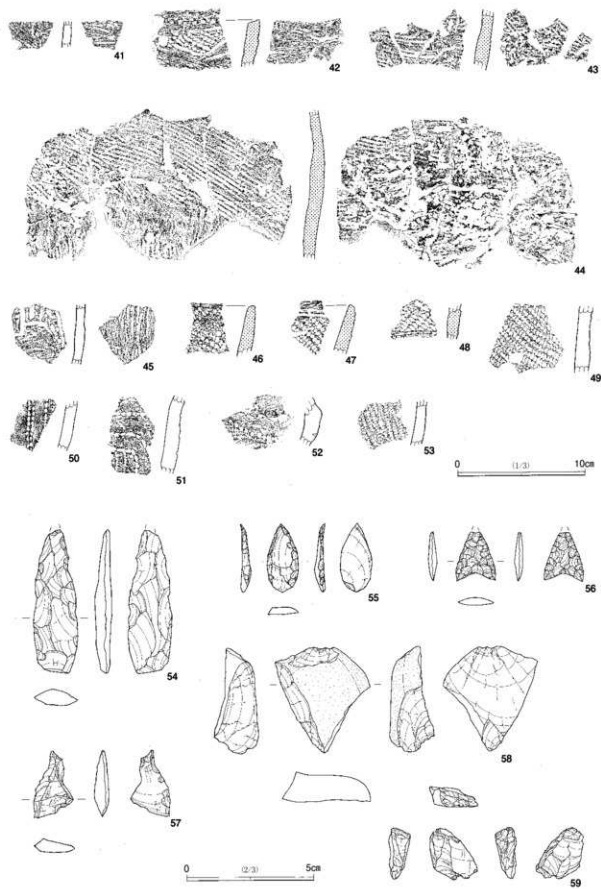
第28図 縄文早期遺物集中3出土遺物(3)

唇の形が丸くて熱糸文系に近い。5は4と胎土が似る。6～40は早期沈線文系である。6は斜沈線。7～13は格子目的な沈線文の類である。12は上部に補修孔がある。16・17は斜沈線で、17は沈線の間に沈線の施文具より幅広い施文具で刺突する。18～26は太沈線の類である。18～20は沈線は浅く、砂質である。21～23は太沈線を縦横、斜めに走らせ、内面を磨く。24～26は太沈線を横走させる。26は沈線の上に刺突を連ねる。27は口唇に爪形の刺突を並べた下に細沈線を引く。28・29は細沈線の間に刺突する。27・28は同一個体かもしれない。30～33は沈線に腹縁文が加わる。34は丸底の底部に近く、腹縁の刺突で縄文を模す。35・36は条線が付く。37・38は無文である。39は繊維が入る。40は浅い細沈線が縦横、斜めに走る。田戸上層式か。41～45は条痕文系である。41は縦に微隆起線が、斜めに沈線が走る。42は小波状口縁で、沈線で三角形に区画した中に押し引きの刺突を並べる。区画の左角に凹形の刺突もある。45は右端に刺突のある縦の微隆起線があり、左側は浅い沈線が縦横に走り、左端に腹縁痕がある。46～48は前期黒浜式である。49は集中2でも見られた前期末の縄文の類である。50・51は中期阿玉台式である。52は中期加曾利E式で、53も同じであろう。

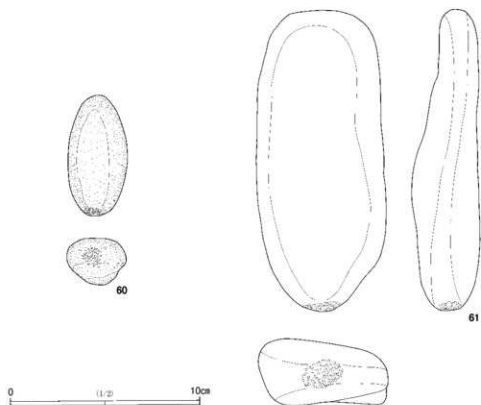
石器 54は凝灰質安山岩製の尖頭器で、先端が欠ける。55は大きさから石鏃と思われる。両側縁を細かく調整する。安山岩製である。56は暗赤色頁岩製の石鏃である。先端が欠ける。57は灰色チャートの刃部調整剥片で、右側の右側縁に小剝離痕が並ぶ。58は57より明るい灰色チャートの剥片で、自然面がある。59は黒色に近い頁岩の石核で、多方向から剝離する。60は流紋岩の、61は砂岩の敲石で、1端で敲打する。



第29図 縄文時代遺構外出土遺物（1）



第30回 縄文時代遺構外出土遺物 (2)



第31図 縄文時代遺構外出土遺物（3）

古墳時代

土師器集中（第32図、第12表、図版16）

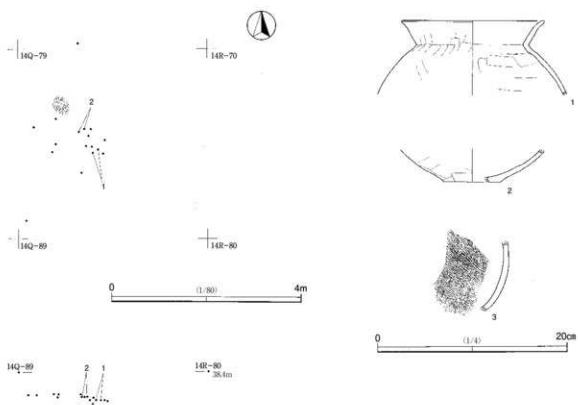
14Q-79グリッドの北西隅近くで焼土を検出し、その周囲の2.0m×4.0mの範囲で土師器片がまとまって出土した。ほとんどが甕の破片で、ハケ目のある壺の破片があることから、古墳時代前期、4世紀と判断される。明確な掘り込みがなく、竪穴住居と断定できないが、周辺では古墳時代前期の住居の報告例が少ないので、注目される。1と2は土師器の甕の口縁部片と底部片であり、3は外面にハケ目のある胴部片である。

奈良・平安時代以降

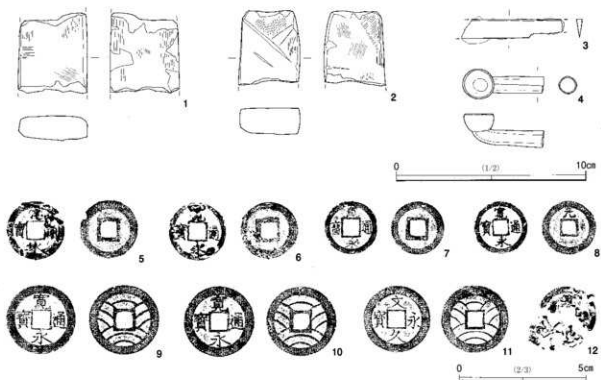
遺構外出土遺物（第33図、第13～16表、図版18）

奈良・平安時代と思われる砥石2点と鉄製刀子1点が出土した。砥石は、1が流紋岩製、2が砂岩製で、共に両端が欠ける、表面に傷がつく。3の刀子は刃部から柄にかけての破片である。

近世のキセルと銭貨が出土した。4はキセルの銅製の火皿である。5～10は寛永通寶の新寛永で、5～7の裏無文、8の裏元字、9・10の裏十一波の3種類である。11は文久通寶である。このほかに12の銅銭5枚以上が錆ついた資料も出土したが、銭種は不明で、辛うじてわかる1枚は寛永通寶である。六道銭であろうか。鉄銭も出土し、2枚が錆付くと思われる。銭文は見えない。図版に写真のみ示す。



第32図 古墳時代土師器集中出土状況・出土土師器



第33図 奈良・平安時代以降遺構外出土遺物

第8表 倉水内野北遺跡 旧石器時代石器観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
		(3)第2坑張区	1	刮片	メノウ	14.5	9.4	4.5	0.62	1は一括
		(3)第2坑張区	1	刮片	黒曜石	21.7	13.6	8.6	2.13	
13	9	(3)第2坑張区	2	横長刮片小	黒曜石	16.3	27.7	8.2	3.30	
		(3)第2坑張区	2	刮片	頁岩	37.7	29.6	8.5	5.60	
13	8	(3)第2坑張区	4	刮片	チャート	21.7	20.5	6.8	2.83	
		(3)第2坑張区	5	刮片	黒曜石	9.1	4.9	5.5	0.82	
		(3)第2坑張区	6	刮片	黒曜石	16.4	13.9	8	1.29	
		(3)第2坑張区	7	焼礫片	チャート	26.7	17.6	10.1	3.61	
		(3)第2坑張区	8	焼礫片	花崗岩	-	-	-	66.47	接合資料1
		(3)第2坑張区	9	砕片	黒曜石	5.9	13.1	4.6	0.18	
13	1	(3)第2坑張区	10	刃部調整横長刮片	黒曜石	12.1	19.8	7.3	1.56	
		(3)第2坑張区	11	焼礫片	砂岩	-	-	-	44.87	接合資料2
		(3)第2坑張区	12	礫	礫岩	36.2	30.8	21.1	23.04	
		(3)第2坑張区	13	刮片	黒曜石	17.5	11	5.1	0.79	
13	7	(3)第2坑張区	14	石刃小	黒曜石	19.8	12.3	3.4	0.57	
13	2	(3)第2坑張区	15	刃部調整横長刮片	黒曜石	14.1	24.8	4.3	1.33	
		(3)第2坑張区	16	焼礫片	花崗岩	-	-	-	-	接合資料1
13	3	(3)第2坑張区	17	刃部調整刮片	黒曜石	23.8	17.3	6.7	1.96	
13	12	(3)第2坑張区	18	敲石・焼礫	砂岩	56.2	35.8	19.4	50.92	
		(3)第2坑張区	19	焼礫片	砂岩	-	-	-	47.33	接合資料3
		(3)第2坑張区	20	刮片	黒曜石	27.3	19.8	9.1	3.16	
		(3)第2坑張区	21	礫片	砂岩	-	-	-	-	接合資料3
		(3)第2坑張区	22	刮片	黒曜石	20.7	18	6.9	2.14	
		(3)第2坑張区	23	礫片	砂岩	-	-	-	-	接合資料2
		(3)第2坑張区	24	礫片	砂岩	-	-	-	-	接合資料3
		(3)第2坑張区	25	礫片	砂岩	35.1	37.4	18.7	19.67	
		(3)第2坑張区	27	焼礫片	花崗岩	-	-	-	-	接合資料1
		(3)第2坑張区	28	砕片	黒曜石	4.3	6.5	0.5	0.02	
		(3)第2坑張区	29	礫片(内部)	チャート	11.8	10.5	10.2	1.38	
		(3)第2坑張区	30	焼礫片	礫岩	37.7	24.1	19.3	17.63	
		(3)第2坑張区	31	砕片	黒曜石	13.3	11.5	4.8	0.36	
13	4	(3)第2坑張区	32	刃部調整刮片	黒曜石	37.2	14.3	9.7	3.38	
		(3)第2坑張区	34	砕片	黒曜石	21.3	12	6.9	0.99	
		(3)第2坑張区	35	刮片	黒曜石	8.2	11.7	3.7	0.28	
		(3)第2坑張区	36	刮片	黒曜石	20.2	14.8	5.3	1.16	
13	5	(3)第2坑張区	37	刃部調整刮片	黒曜石	16.8	10.4	3	0.51	
		(3)第2坑張区	38	刮片	黒曜石	21.5	8.8	3.7	0.67	
13	11	(3)第2坑張区	39	石核	黒曜石	18.9	17.4	10.2	3.31	
		(3)第2坑張区	40	砕片	黒曜石	7.8	10.4	4.1	0.23	
13	6	(3)第2坑張区	41	刃部調整横長刮片	黒曜石	12.2	25.1	6.8	1.30	
		(3)第2坑張区	42	刮片	黒曜石	18.7	8.1	6.4	0.55	
		(3)第2坑張区	43	砕片	黒曜石	14	13.2	5.2	0.57	
		(3)第2坑張区	44	焼礫片	花崗岩	-	-	-	-	接合資料1
		(3)第2坑張区	45	刮片	黒曜石	20.6	18.8	10.1	2.75	
		(3)第2坑張区	46	刮片	黒曜石	12.9	6.5	2.4	0.16	
		(3)第2坑張区	47	刮片	黒曜石	15.8	5.6	1.3	0.11	
		(3)第2坑張区	48	刮片	黒曜石	23.6	24.9	7.2	3.19	
		(3)第2坑張区	49	刮片	黒曜石	12.5	6.2	1.9	0.1	
		(3)第2坑張区	50	刮片	黒曜石	16.7	13.8	5.4	0.92	

棟号	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長さ	最大幅	最大厚	重量	備考
		(3)第2拡張区	51	焼煉片	チャート	27.7	20.5	12	8.13	
		(3)第2拡張区	52	焼煉片	花崗岩	-	-	-	-	接合資料1
		(3)第2拡張区	53	焼煉片	砂岩	-	-	-	-	接合資料3
		(3)第2拡張区	54	煉片	チャート	16.1	15.8	8.3	1.85	
		(3)第2拡張区	55	焼煉片	砂岩	-	-	-	-	接合資料3
14	3	(2)第3拡張区	1	石核	黒曜石	13.2	16.8	6.8	1.19	
14	1	(2)第3拡張区	2	刃部調整削片	黒曜石	25.3	17.5	5.7	1.66	
14	2	(2)第3拡張区	3	刃部調整削片	黒曜石	24.6	10.3	2.7	0.58	
		(2)第2拡張区	1	煉片	安山岩	50.6	34.6	32.1	29.57	
		(2)第2拡張区	2	焼煉片	凝灰質安山岩	39.2	15.9	13.6	6.89	焼けて一部赤くなる
15	1	(2)第2拡張区	3	煉片	石英	48.6	39.1	22.3	56.40	剥離もある
15	単線1	15Q-45	1	削片	メノウ	37.0	25.5	12.6	9.29	
16	1	200-14	1	石核	黒曜石	68.0	80.8	47.0	171.99	
15	単線3	21N-63	1	石核	石英	21.2	31.5	13.2	9.29	

第9表 倉水内野北遺跡 縄文土器観察表

棟号	No	遺構番号	遺物番号	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
				内面	外面					
19	1	(3)第1拡張区	57-58	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	細砂、スコリア	口唇部沈線、沈線	早期	田戸下層	
19	2	(3)第1拡張区	2	深鉢 明灰褐色	黒褐色	細砂(多)	沈線	早期	三戸	
19	3	(3)第1拡張区	60	深鉢 灰褐色	灰褐色	白色微細砂(多)、スコリア	沈線、刺突文	早期	田戸下層	
19	4	(3)第1拡張区	46	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	微細砂	沈線、散線文	早期	三戸・田戸下層	
19	5	(3)第1拡張区	16	深鉢 赤褐色	赤褐色	細砂(多)	刺突文	早期	赤坂文系	
21	1	15Q-66 (2)第4拡張区	105 244	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	砂礫(多)	細線糸	早期	井草Ⅱ	
21	2	15Q-56	55	深鉢 黒褐色	黒褐色	微細砂	RL	早期	井草Ⅱ	55は出土状況図では15Q-57所在
21	3	15Q-66 (2)第4拡張区	94 244	深鉢 褐色	褐色	微細砂	LR	早期	熱赤文系	
21	4	15Q-64	63	深鉢 黒色	暗褐色	細砂(多)	RL	早期	熱赤文系	
21	5	15Q-75	179	深鉢 黒褐色	赤褐色	微細砂	熱赤R	早期	熱赤文系	179は出土状況図では15Q-76所在
21	6	(2)第4拡張区	244	深鉢 黒褐色	黒褐色	白色砂(多)	押型文(山形)	早期	押型文系	
21	7	15Q-86	157	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	細砂	口唇部刷目、斜沈線	早期	三戸	
21	8	(2)第4拡張区	244	深鉢 明橙灰褐色	明橙灰褐色	細砂	沈線による幾何学文	早期	三戸	
21	9	15Q-56 15Q-84 (2)第4拡張区	195 149 244	深鉢 黒褐色	黒褐色	細砂(多)	斜格子状沈線	早期	三戸	
21	10	15Q-73	110	深鉢 暗灰褐色	暗灰褐色	細砂、スコリア	斜格子状沈線	早期	三戸	
21	11	(2)第4拡張区	244	深鉢 褐色	褐色	微細砂、スコリア	斜格子状沈線	早期	三戸	上部に補修口製
21	12	15Q-76	140	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	砂(多)	口唇部刷目、斜沈線	早期	三戸	
21	13	15Q-74	119	深鉢 暗褐色	黒褐色	微細砂(多)	沈線、散線文	早期	三戸	
21	14	15Q-76	201	深鉢 暗褐色	暗褐色	微細砂(多)	沈線、刺突	早期	三戸	
21	15	(2)第4拡張区	244	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	細砂(多)	沈線、刺突	早期	三戸	
21	16	(2)第4拡張区 (2)4トレンチ	244 1	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	細砂	帯状格子目文	早期	三戸	遺構列6・7と同一個体か
21	17	(2)第4拡張区	244	深鉢 暗褐色	暗褐色	微細砂	帯状格子目文	早期	三戸	
21	18	(2)第4拡張区 (2)第1拡張区	244 197	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	微細砂	沈線	早期	三戸	
21	19	(2)第4拡張区	244	深鉢 黒褐色	灰褐色	微細砂	格子目状斜沈線	早期	三戸	
21	20	(2)第4拡張区	244	深鉢 褐色	黒色	微細砂	細沈線	早期	三戸	
21	21	(2)第4拡張区	244	深鉢 明灰褐色	明灰褐色	微細砂、スコリア	沈線	早期	三戸	
21	22	(2)第4拡張区	244	深鉢 褐色	褐色	細砂	細沈線	早期	三戸・田戸下層	

棟号	No	遺構番号	遺物番号	部種	色		調	胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面						
21	23	15Q-56 (2)第4拡張区	40 244	深鉢	黒褐色	明褐色	確(多)	縦沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	24	(2)第4拡張区	244	深鉢	黒色	黄褐色	微細砂	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	25	(2)第4拡張区	244	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	細砂、スコリア、 確	縦沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	26	(2)第4拡張区	244	深鉢	黒褐色	褐色	微細砂、スコリア	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	27	15Q-67	106	深鉢	褐色	褐色	細砂(多)	条線	早期	三戸、田戸下層	底部付近	
21	28	15Q-55	13	深鉢	明橙灰褐色	明橙灰褐色	微細砂、多孔質 (繊維少)	沈線、刺突	早期	三戸、田戸下層		
21	29	15Q-74	118	深鉢	明橙灰褐色	明橙灰褐色	微細砂、多孔質 (繊維少)	沈線、刺突	早期	三戸、田戸下層		
21	30	(2)第4拡張区	244	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	細沈線	早期	田戸下層	波状口縁	
21	31	15Q-74	122	深鉢	黒褐色	黒褐色	細砂(多)	沈線	早期	三戸		
21	32	15Q-65	73	深鉢	黒褐色	黒褐色	細砂(多)	沈線	早期	三戸		
21	33	15Q-64 15Q-74	64 116	深鉢	明褐色	明褐色	細砂(多)	沈線	早期	三戸		
21	34	15Q-56	33 34	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	多孔質(繊維少)	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	35	15Q-67	107	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	白色砂(多)	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	36	15Q-65	71	深鉢	明灰褐色	暗灰褐色	白色砂	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	37	15Q-66 15Q-74	96 123	深鉢	明灰褐色	黒灰褐色	白色礫	沈線	早期	三戸、田戸下層		
21	38	15Q-56	27	深鉢	灰褐色	暗灰褐色	白色礫	沈線	早期	三戸、田戸下層		
22	39	(2)第4拡張区	244	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	沈線	早期	田戸下層		
22	40	15Q-65	86	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	沈線	早期	田戸下層		
22	41	15Q-66	98	深鉢	褐色	黒褐色	微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層		
22	42	15Q-65	79	深鉢	褐色	褐色	微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層		
22	43	15Q-74 (2)第4拡張区	121 244	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	沈線	早期	田戸下層		
22	44	(2)第4拡張区	244	深鉢	黒色	明褐色	微細砂	沈線	早期	田戸下層		
22	45	15Q-56	43	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	45・46・47は同一個体か	
22	46	15Q-56 (2)第4拡張区	36 244	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層		
22	47	15Q-66	95	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層		
22	48	15Q-64	87	深鉢	褐色	褐色	細砂	口唇部刷み、斜沈線	早期	三戸		
22	49	15Q-64 15Q-65	62 80	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	沈線	早期	三戸		
22	50	15Q-84	150	深鉢	橙灰褐色	橙灰褐色	細砂(多)	斜沈線	早期	三戸、田戸下層	51と同一個体か	
22	51	15Q-74 (2)3トレンチ	115 1	深鉢	橙灰褐色	橙灰褐色	細砂(多)	斜沈線	早期	三戸、田戸下層		
22	52	15Q-66	92- 105- 168	深鉢	灰褐色	灰褐色	繊維、微細砂	沈線文	早期	三戸、田戸下層		
22	53	15Q-75 (2)第4拡張区 (2)3トレンチ	113 244 1	深鉢	明橙褐色	明橙褐色	細砂(多)	斜沈線	早期	田戸下層	113は出土状況図では15Q-74所在上部に補修孔1個	
22	54	15Q-56	42	深鉢	黒褐色	明褐色	繊維少、白色砂	斜沈線小	早期	三戸、田戸下層		
22	55	15Q-56	39	深鉢	褐色	褐色	微細砂	刺突	早期	三戸、田戸下層		
22	56	15Q-96	156	深鉢	橙褐色	橙褐色	白色砂(多)	沈線、刺突	早期	田戸下層		
22	57	(2)第4拡張区	244	深鉢	明橙褐色	明橙褐色	白色砂(多)	沈線、刺突	早期	田戸下層		
22	58	15Q-55 15Q-96	5 31- 41- 44	深鉢	橙褐色	橙褐色	砂	沈線	早期	田戸下層		
22	59	15Q-75 (2)第4拡張区	131 244	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	白色砂(多)	太沈線、刺突	早期	田戸下層		
22	60	15Q-35	6- 19	深鉢	明褐色	暗褐色	細砂(多)	沈線	早期	田戸下層		
22	61	15Q-66	97	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	繊維、細砂	条線、散線文	早期	三戸		
22	62	(2)第4拡張区	244	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	沈線、段表圧痕	早期	三戸、田戸下層		

棟号	No	遺構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時 期	型 式 号	備 考
					内面	外面					
22	63	(2)第4区張区	244	深鉢	褐色	褐色	細砂	沈線、散線文	早期	田戸下層	
22	64	15Q-55 15Q-74	30 120	深鉢	黒色	暗褐色	織織、白色礫(多)	縦方向ナデ	早期	三戸・田戸下層	
22	65	15Q-56	32	深鉢	暗褐色	暗褐色	織織、細砂(多)	ナズリ ナデ	早期	三戸・田戸下層	
22	66	(2)第4区張区	244	深鉢	明褐色	明褐色	細砂(多)、スコリア	斜沈線	早期	田戸下層	
22	67	15Q-85	152	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	細砂(多)	ナデ	早期	三戸・田戸下層	尖底近く
22	68	(2)第4区張区	244	深鉢	輝灰褐色	輝灰褐色	微細砂	ナデ	早期	田戸下層	尖底
23	69	15Q-66 15Q-73	104 112	深鉢	黒色	褐色	砂(多)、多孔質(織織小)	ナズリ	早期	条痕文系	
23	70	15Q-55	23	深鉢	黒色	褐色	織織、砂礫	条痕文	早期	条痕文系	
23	71	15Q-66	102	深鉢	褐色	褐色	織織、微細砂	横反ししか	前期	黒浜	
23	72	15Q-65	84	深鉢	褐色	黒色	織織、微細砂	地文状文・沈線	前期	黒浜	
23	73	15Q-56	38	深鉢	暗褐色	暗褐色	織織、微細砂	LR	前期	黒浜	
23	74	(2)第4区張区	244	深鉢	黒色	褐色	織織、微細砂	散線文	前期	黒浜	
23	75	15Q-55	3	深鉢	褐色	黒褐色	織織、微細砂	RL	前期	黒浜	
23	76	15Q-75	174	深鉢	褐色	褐色	織織、微細砂	RL	前期	黒浜	
23	77	15Q-67	214	深鉢	黒褐色	褐色	織織、微細砂	RL	前期	黒浜	
23	78	15Q-75	178	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	RL押捺	前期	前期末織文	78と同一個体か
23	79	15Q-75 (2)第4区張区	128 244	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	RL押捺	前期	前期末織文	
23	80	15Q-76	132	深鉢	明灰褐色	黒褐色	微細砂	RL	前期	前期末織文	
23	81	15Q-75	129	深鉢	明灰褐色	褐色	スコリア	RL	前期	前期末織文	
23	82	(2)第4区張区	244	深鉢	褐色	褐色	スコリア	細条線、隆帯	中期	加曾利E古か	
26	1	(2)第1区張区	37	深鉢	灰褐色	黒褐色	砂礫(多)	熱赤R	早期	丹草目	口唇部施文不明
26	2	(2)第1区張区	197	深鉢	黒色	黒褐色	長石、石英(多)	口縁部熱赤R押捺	早期	花輪台	外面寛れる、文様の有無不明
26	3	(2)第1区張区	197	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色礫(長石)、片岩礫	押型文(格子目)	早期	押型文系	
26	4	(2)第1区張区	155	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	5	(2)第1区張区	154	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	6	(2)第1区張区	26	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	7	(2)第1区張区	30	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	8	(2)第1区張区	140	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	9	(2)第1区張区	149・150	深鉢	褐色	褐色	微細砂	斜格子状沈線、沈線	早期	三戸	
26	10	(2)第1区張区	141	深鉢	明褐色	黒褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	内面寛れる
26	11	(2)第1区張区	175	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	斜格子状沈線、条痕文	早期	三戸	
26	12	(2)第1区張区	174	深鉢	黒褐色	黒褐色	白色礫	沈線による幾何学文	早期	三戸	
26	13	(2)第1区張区	142	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	14	(2)第1区張区	197	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	斜格子状沈線	早期	三戸	
26	15	(2)第1区張区	35	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	口唇部刷み、沈線	早期	三戸	補修孔1個
26	16	(2)第1区張区	197	深鉢	褐色	褐色	微細砂	沈線	早期	三戸	
26	17	(2)第1区張区	197	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂	沈線、刺突	早期	三戸	
26	18	(2)第1区張区	197	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	沈線、刺突	早期	三戸	
26	19	(2)第1区張区	197	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	沈線、刺突	早期	三戸	
26	20	(2)第1区張区	104	深鉢	黒色	灰褐色	白色細礫	帯状格子目文	早期	三戸	
26	21	(2)第1区張区	60	深鉢	黒色	明褐色	白色礫	帯状格子目文	早期	三戸	尖底
26	22	(2)第1区張区	152	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	白色礫(長石、石英)(多)	帯状格子目文、刷み	早期	三戸	外面寛れる
26	23	(2)第1区張区	41	深鉢	黒色	明褐色	織織、微細砂	斜格子状沈線文	早期	三戸	外面寛れる
26	24	(2)第1区張区	197	深鉢	暗褐色	暗褐色	細砂	細沈線、刺突	早期	三戸	
26	25	(2)第1区張区	44	深鉢	暗褐色	暗褐色	微細砂	細沈線、刺突	早期	三戸・田戸下層	
26	26	(2)第1区張区	15	深鉢	黒色	明褐色	細砂	沈線、条痕	早期	三戸・田戸下層	
26	27	(2)第1区張区	197	深鉢	黒色	褐色	微細砂	細沈線	早期	三戸・田戸下層	

棟号	No	遺構番号	遺物番号	色	調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
26	28	(2)第1拡張区	34・71	深鉢 黒褐色	褐色		細砂	斜沈線	早期	三戸・田戸下層	
26	29	(2)第1拡張区	164	深鉢 黒褐色	黒褐色		細砂(多)	斜沈線	早期	三戸・田戸下層	
26	30	(2)第1拡張区	99・181	深鉢 暗灰色	褐色		繊維、微細砂	斜沈線	早期	三戸・田戸下層	
26	31	(2)第1拡張区	143	深鉢 黒色	褐色		細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	
26	32	(2)第1拡張区	197	深鉢 褐色	暗褐色		微細砂(多)	沈線	早期	三戸	
26	33	(2)第1拡張区	108・144	深鉢 暗灰色	明灰色		微細砂	口唇部削み、沈線	早期	三戸	
26	34	(2)第1拡張区	170・172	深鉢 明灰色	明灰色		微細砂、多孔質(繊維少)	沈線	早期	三戸	
26	35	(2)第1拡張区	168	深鉢 明灰色	明灰色		微細砂、多孔質(繊維少)	沈線	早期	田戸下層	
26	36	(2)第1拡張区	59	深鉢 黒褐色	明灰色		細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	ミニチュアか
26	37	(2)第1拡張区	146	深鉢 褐色	褐色		微細砂	RLか、沈線	早期	三戸小	
26	38	(2)第1拡張区	197	深鉢 明灰色	黒褐色		細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	
26	39	(2)第1拡張区	30・45	深鉢 黄褐色	黄褐色		微細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	
26	40	(2)第1拡張区	14	深鉢 黒色	明灰色		微細砂	沈線	早期	田戸下層	
26	41	(2)第1拡張区	179	深鉢 明灰色	明灰色		白色砂(多)	沈線	早期	田戸下層	
26	42	(2)第1拡張区	106	深鉢 暗褐色	暗褐色		微細砂	朱灰文	早期	三戸・田戸下層	
26	43	(2)第1拡張区	142	深鉢 灰褐色	灰褐色		白色細砂(多)	沈線	早期	三戸・田戸下層	
26	44	(2)第1拡張区	94	深鉢 明灰色	明灰色		微細砂、スロリア	斜沈線	早期	三戸・田戸下層	
26	45	(2)第1拡張区	133・135・197	深鉢 明灰色	明灰色		細砂	斜沈線	早期	三戸・田戸下層	
27	46	(2)第1拡張区	42	深鉢 明褐色	明褐色		細砂(多)	沈線、刺突	早期	田戸下層	
27	47	(2)第1拡張区	134	深鉢 黒褐色	黒褐色		礫	円形竹管刺突	早期	三戸・田戸下層	
27	48	(2)第1拡張区	180	深鉢 明褐色	明褐色		細砂	刺突	早期	三戸・田戸下層	
27	49	(2)第1拡張区	65	深鉢 黒褐色	黒褐色		礫	円形竹管刺突	早期	三戸・田戸下層	
27	50	(2)第1拡張区	197	深鉢 褐色	褐色		細砂(多)	沈線、刺突、数線文	早期	田戸下層	
27	51	(2)第1拡張区	33	深鉢 明灰色	明灰色		繊維、細砂	口唇部削み、数線文	早期	田戸下層	
27	52	(2)第1拡張区	121	深鉢 暗褐色	暗褐色		細砂	数線文	早期	三戸・田戸下層	
27	53	(2)第1拡張区	197	深鉢 暗灰色	暗灰色		礫	口唇部削みもしくは押引き	早期	三戸・田戸下層	
27	54	(2)第1拡張区	197	深鉢 黒褐色	明灰色		細砂	沈線区画、数線文	早期	田戸下層	
27	55	(2)第1拡張区	3	深鉢 黒褐色	明灰色		細砂	沈線区画、数線文	早期	田戸下層	
27	56	(2)第1拡張区	197	深鉢 黒褐色	明灰色		細砂	沈線区画、数線文	早期	田戸下層	
27	57	(2)第1拡張区	42	深鉢 黒褐色	明灰色		細砂	沈線区画、数線文	早期	田戸下層	
27	58	(2)第1拡張区	58	深鉢 褐色	褐色		繊維、砂(多)	斜めケズリ	早期	田戸下層	
27	59	(2)第1拡張区	97	深鉢 明褐色	明褐色		繊維少、微細砂	ケズリ	早期	田戸下層小	
27	60	(2)第1拡張区	90・197	深鉢 黒色	橙褐色		白色礫(多)	ナデ	早期	三戸・田戸下層	内外面荒れる
27	61	(2)第1拡張区	185・197	深鉢 黒色	褐色		砂礫(多)	ナデ	早期	三戸・田戸下層	
27	62	(2)第1拡張区	120	深鉢 暗褐色	褐色		白色礫(多)	ナデ	早期	三戸・田戸下層	底部(尖底)付近
27	63	(2)第1拡張区	105	深鉢 明灰色	明灰色		微細砂	朱灰文か	早期	三戸・田戸下層	尖底
27	64	(2)第1拡張区	91・197	深鉢 黒灰色	黒灰色		白色礫(多)	ナデ	早期	三戸・田戸下層	尖底、外面荒れる
27	65	(2)第1拡張区	53	深鉢 黒褐色	暗褐色		微細砂	ナデ	早期	三戸・田戸下層	尖底
27	66	(2)第1拡張区	96	深鉢 明褐色	明褐色		細砂(多)	縦ナデ	早期	三戸・田戸下層	尖底
27	67	(2)第1拡張区	115	深鉢 褐色	明褐色		細砂(多)	沈線	早期	田戸下層	尖底
27	68	(2)第1拡張区	31・192・193・194	深鉢 明灰色	明灰色		白色礫(多)	沈線	早期	田戸下層	尖底
27	69	(2)第1拡張区	18	深鉢 明褐色	明褐色		繊維、微細砂	朱灰文	早期	朱灰文系	
27	70	(2)第1拡張区	43	深鉢 褐色	褐色		繊維	朱灰文か	早期	朱灰文系	
27	71	(2)第1拡張区	64	深鉢 黒色	黒色		繊維(多)	RL	前期	黒浜	

種別	No	遺構番号	遺物番号	品種	色		調	胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面						
27	72	(2)第1拡張区	197	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	LR		中期	加曾利E重カ	
27	73	(2)第1拡張区	197	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	LR		中期	加曾利E重カ	
27	74	(2)第1拡張区	197	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂	LR		中期	加曾利E重カ	
29	1	(2)3トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂	RL		早期	燃赤文系	
29	2	(2)4トレンチ	1	深鉢	黒褐色	明褐色	砂目立たない		燃赤糸	早期	燃赤文系	
29	3	19P	1	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂		燃赤R、一部織紗状	早期	燃赤文系	底部付近
29	4	(2)3トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	暗灰褐色	白色礫(多)	ナデ		早期	平版式カ	
29	5	(2)4トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	白色礫(多)	断面		早期	平版式カ	転用砥石カ、内面平滑
29	6	(2)第2拡張区	3	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂		斜沈線	早期	三戸	
29	7	(2)4トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂		帯状格子目文	早期	三戸	
29	8	(2)4トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂		帯状格子目文	早期	三戸	
29	9	(2)6トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂		格子状沈線	早期	三戸	
29	10	(2)2トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	白色礫、雲母片		格子状沈線	早期	三戸	
29	11	(2)5トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂		斜格子状沈線	早期	三戸	
29	12	(2)第2拡張区 (2)4トレンチ (2)8トレンチ	3 1 1	深鉢	褐色	暗褐色	微細砂、スコリア		沈線(格子目状)	早期	三戸、田戸下層	
29	13	(2)6トレンチ	1	深鉢	暗灰褐色	暗灰褐色	微細砂		沈線による幾何学文	早期	三戸	
29	14	(2)6トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	微細砂		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	15	(2)2トレンチ	1	深鉢	明橙灰褐色	明橙灰褐色	細砂		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	16	(2)1トレンチ	1	深鉢	黒色	褐色	砂雜		沈線	早期	田戸下層	
29	17	(2)4トレンチ	1	深鉢	明褐色	明褐色	細砂(多)		沈線、刺突	早期	田戸下層	
29	18	(2)3トレンチ	1	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色砂		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	19	(2)2トレンチ	1	深鉢	灰褐色	明灰褐色	微細砂		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	20	(2)3トレンチ	1	深鉢	黒色	明灰褐色	細砂(多)		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	21	(2)2トレンチ	1	深鉢	褐色	暗褐色	細砂		沈線	早期	三戸、田戸下層	
29	22	(2)3トレンチ	1	深鉢	暗褐色	黒褐色	微細砂		沈線	早期	田戸下層	
29	23	(2)3トレンチ	1	深鉢	明褐色	明褐色	微細砂(多)		沈線	早期	田戸下層	
29	24	(2)3トレンチ	1	深鉢	明橙褐色	明橙褐色	細砂		沈線	早期	田戸下層	
29	25	16P-14	1	深鉢	暗褐色	明灰褐色	細砂(多)		沈線	早期	田戸下層	
29	26	(2)4トレンチ	1	深鉢	灰褐色	黒褐色	白色砂(多)		沈線、刺突	早期	田戸下層	
29	27	(2)2トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	白色砂(多)		沈線、刺突	早期	三戸	
29	28	(2)2トレンチ	1	深鉢	灰褐色	灰褐色	白色礫、雲母(多)		キヤタビラ文	早期	田戸下層	
29	29	(2)2トレンチ	1	深鉢	黒色	明褐色	細砂(多)		沈線、刺突	早期	田戸下層	
29	30	(2)第2拡張区	3	深鉢	黒色	明灰褐色	微細砂		沈線、刺突	早期	田戸下層	
29	31	(2)4トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	微細砂		沈線、数縁文	早期	田戸下層	
29	32	(2)4トレンチ	1	深鉢	褐色	黒色	微細砂		沈線区画、数縁文	早期	田戸下層	
29	33	(2)4トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	細砂		沈線、数縁文	早期	田戸下層	
29	34	(3)T-5	1	深鉢	暗灰褐色	暗灰褐色	微細砂		数縁文	早期	田戸下層	底部(丸底)付近
29	35	(2)4トレンチ	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	細砂(多)		条線	早期	三戸、田戸下層	
29	36	(2)6トレンチ	1	深鉢	黒色	明褐色	微細砂		条線	早期	三戸、田戸下層	
29	37	(2)1トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	細砂(多)		ナデ	早期	三戸	
29	38	(2)第2拡張区	3	深鉢	橙灰褐色	橙灰褐色	砂(多)		ナデ	早期	田戸下層	
29	39	(2)トレンチ35	1	深鉢	褐色	褐色	織雜、微細砂		縦ナデ	早期	三戸、田戸下層	
29	40	(2)トレンチ35	1	深鉢	黒色	明灰褐色	微細砂		沈線	早期	田戸上層カ	
30	41	(2)1トレンチ	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	微細砂		撒隆起線、沈線	早期	野島・鶴ヶ島台	
30	42	19P	1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	織雜、微細砂		沈線区画、円押押引き、円形刺突文	早期	鶴ヶ島台	
30	43	19O 19P	1 1	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	織雜、微細砂		条痕文	早期	条痕文系	
30	44	SD-001	2	深鉢	明褐色	明褐色	織雜、細砂		条痕文	早期	条痕文系	
30	45	(1)1トレンチ	1	深鉢	赤褐色	赤褐色	微細砂		条痕文、沈線、数縁粗、撒隆起線、刺突	早期	条痕文系	

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
30	46	(2)3トレンチ	1	深鉢	黒褐色	黒褐色	織織、微細砂	RL	前期	黒浜	
30	47	(2)7トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	黒褐色	織織、微細砂	沈線、RL	前期	黒浜	
30	48	(2)5トレンチ	1	深鉢	灰褐色	黒褐色	織織、微細砂	LR	前期	黒浜	
30	49	(2)3トレンチ	1	深鉢	明灰褐色	黒褐色	微細砂	RL	前期	前期未確定	
30	50	(3)16P-93	1	深鉢	赤褐色	赤褐色	細砂	刺突文	中期	阿玉台	
30	51	(3)16P-93	1	深鉢	赤褐色	赤褐色	細砂	刺突文	中期	阿玉台	
30	52	19P	1	深鉢	明褐色～黒色	明褐色～黒色	微細砂	刺突、LR	中期	加曾利E	
30	53	19O	1	深鉢	黒褐色	灰褐色	長石、石英霽	RL	中期	加曾利Eカ	

第10表 倉水内野北遺跡 縄文土器片転用甲板観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
								内面	外面					
23	83	15Q-75	176	4.23	4.78	0.85	19.2	明灰褐色	明灰褐色	細砂(多)	LR	早期	徳永文丞	
23	84	(2)第4批張区	244	3.26	3.79	1.09	12.67	暗褐色	暗褐色	微細砂(多)	沈線	早期	三戸・田川下層	

第11表 倉水内野北遺跡 縄文時代石器観察表

種別	No	遺構番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考	
18		SK-005	1	石磯	チャート	(18.0)	16.0	3.5	(0.76)	先端欠ける
19	9	(3)第1批張区	1	橋長刺片	安山岩	24.9	43.1	11.4	11.85	14は一括
		(3)第1批張区	5	礫片	チャート	14.5	12.4	6.9	0.76	5・6・15・35は同一母岩か
		(3)第1批張区	6	礫片	チャート	19.3	14.6	11.5	2.52	
19	6	(3)第1批張区	11	尖頭器未製品か	チャート	27.9	16.4	9.3	3.07	
		(3)第1批張区	14	礫	チャート	50.8	39.6	17.9	57.29	定存
		(3)第1批張区	15	礫片	チャート	24.1	11.5	7.9	0.95	
19	7	(3)第1批張区	17	楔形石器	頁岩	30.3	17.8	7.4	4.28	
		(3)第1批張区	33	礫片	凝灰質安山岩	48.7	19.4	14.7	15.22	
		(3)第1批張区	35	礫片(内部)	チャート	16.5	10.7	6.3	0.84	
		(3)第1批張区	37	焼礫片	流紋岩	38.3	28.3	21.7	25.81	
19	8	(3)第1批張区	59	礫石	砂岩	65.6	48.1	14.8	63.74	
		(3)第1批張区	63	剥片	頁岩	13.1	16.9	2.9	0.53	赤色
		15Q-64	60	礫片	安山岩	31.1	21.6	10.9	2.29	自然面あり
23	88	15Q-65	67	刃部調整剥片	チャート	20.0	19.7	4.8	2.22	
		15Q-65	68	剥片	チャート	12.5	17.7	4.6	0.51	
23	87	15Q-65	69	楔形石器	チャート	22.6	19.0	5.2	2.53	
24	104	15Q-66	88	礫石	流紋岩	65.1	45.5	14.2	55.28	
24	101-1	15Q-66	89	石核	チャート	14.2	18.4	14.9	3.76	89と90接合
24	101-2	15Q-66	90	剥片	チャート	12.8	12.5	5.5	0.85	
		15Q-67	109	礫片	安山岩	30.5	21.7	11.0	9.02	自然面あり
24	102	15Q-75	125	石核	チャート	28.3	38.5	10.3	12.01	
24	103	15Q-75	126	石核	黒曜石	51.3	18.9	14.6	9.16	1層縁に小割痕痕並ぶ
		15Q-75	173	剥片	チャート	23.7	10.6	6.7	1.09	
		15Q-66	203	剥片	チャート	23.5	15.2	5.8	1.53	自然面あり
23	89	15Q-66	204	刃部調整剥片	チャート	11.8	21.5	6.3	1.88	
23	91	15Q-76	205	刃部調整剥片	黒曜石	28.3	22.5	6.3	3.45	
		15Q-66	206	剥片	チャート	27.2	17.8	10.5	3.89	
23	86	15Q-77	208	石磯	チャート	22.9	9.1	4.5	0.33	先端部片
23	90	15Q-69	209	刃部調整剥片	チャート	11.0	22.3	3.6	0.82	
23	98	15Q-67	210	剥片	メノウ	14.8	5.1	3.7	0.76	

種別	No	遺構番号	遺物番号	器 種	石 材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	備 考
23	85	15Q-67	211	石鏃	チャート	20.4	23.2	3.2	0.79	
		15Q-67	212	砕片	チャート	8.4	8.3	1.4	0.07	
		15Q-67	213	削片	チャート	10.3	13.9	3.1	0.30	
23	92	15Q-67	215	石刃	チャート	27.7	10.1	4.7	1.59	
		15Q-67	216	削片	チャート	1.7	16.3	3.7	0.30	
		15Q-67	217	削片	チャート	14.8	8.2	1.8	0.15	
		15Q-67	218	削片	チャート	9.5	14.2	2.4	0.15	
		15Q-67	219	削片	チャート	32.2	15.8	6.5	2.76	
		15Q-67	220	削片	チャート	17.2	8.5	3.8	0.35	自然面あり
		15Q-67	221	砕片	チャート	12.8	5.6	0.9	0.05	
		15Q-67	222	削片	チャート	11.3	8.5	2.2	0.12	
23	94	15Q-67	223	石刃	チャート	17.6	10.3	3.4	0.49	
		15Q-67	224	砕片	チャート	10.2	7.2	3.4	0.18	
		15Q-67	225	削片	チャート	12.3	10.9	2.0	0.28	
		15Q-67	226	削片	チャート	13.8	14.5	3.5	0.50	
		15Q-67	227	砕片	チャート	7.3	6.0	1.8	0.05	
		15Q-67	228	削片	チャート	25.5	12.3	4.0	0.65	
		15Q-67	229	砕片	チャート	11.6	4.3	1.7	0.08	
23	93	15Q-67	230	石刃	チャート	26.0	7.5	2.2	0.33	
			230	砕片	チャート	7.0	6.4	1.3	0.06	230とだけ注記
		15Q-67	231	削片	チャート	14.5	9.5	2.1	0.31	
		15Q-67	232	削片	チャート	11.0	13.4	1.7	0.27	
		15Q-67	233	砕片	チャート	9.7	2.9	1.6	0.02	
		15Q-67	234	砕片	チャート	8.7	4.4	1.6	0.04	
		15Q-66	235	砕片	チャート	19.1	11.6	5.7	0.59	自然面あり
		15Q-67	236	削片	チャート	11.8	13.8	2.5	0.28	
		15Q-67	237	砕片	チャート	9.5	5.8	1.0	0.04	
		15Q-66	238	削片	チャート	14.7	10.4	2.6	0.29	
		15Q-67	239	削片	チャート	8.6	11.2	1.5	0.12	
23	99	15Q-77	240	削片	チャート	10.2	11.9	3.0	0.26	
23	96	15Q-66	241	削片	チャート	9.5	13.3	3.7	0.35	
23	97	15Q-66	242	削片	頁岩	16.7	11.9	4.2	0.64	
23	95	15Q-67	243	石刃	チャート	24.5	9.6	5.2	0.93	
24	100	(2)第4区	244	削片	安山岩	20.2	27.9	19.3	5.49	自然面あり
24	105	(2)第4区	244	磨石	砂岩	81.6	40.4	37.8	163.77	
		(2)第4区	244	焼礫片	砂岩	29.1	25.0	11.2	8.60	自然面あり
		(2)第1区	2	削片	黒曜石	14.5	20.3	4.9	1.11	
27	75	(2)第1区	5	磨製石斧	板状岩	82.5	40.7	16.2	73.93	
28	78	(2)第1区	6	削片	安山岩	55.8	9.1	19.9	10.89	
28	81	(2)第1区	8	磨石	流紋岩	45.4	66.5	8.8	47.19	
		(2)第1区	11	削片	黒曜石	16.6	15.5	5.6	0.79	黄褐色がかる
28	79	(2)第1区	51	磨石	チャート	59.7	52.9	31.8	113.19	
28	80	(2)第1区	52	磨石・磨石	流紋岩	80.6	46.9	37.4	140.82	焼ける
		(2)第1区	72	焼礫片	流紋岩	35.2	31.9	16.5	21.87	
		(2)第1区	93	礫片	片岩	27.5	17.2	4.2	2.39	
27	76	(2)第1区	136	刃部調整削片	黒曜石	24.0	21.5	8.1	4.23	
27	77	(2)第1区	175	刃部調整削片	黒曜石	21.9	31.7	10.0	4.26	
		(2)第1区	182	焼礫片	流紋岩	30.7	20.8	13.6	7.98	

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
		(2)第1墓室区	197	贈片	チャート	30.2	23.9	4.5	3.28	
30	54	190	1	尖頭器	安山岩	(57.0)	18.0	6.8	6.56	先端欠ける
30	55	190	1	石鏃	安山岩	27.0	12.5	4.5	1.34	
30	56	16P-64	1	石鏃	頁岩	(19.8)	16.1	4.1	(0.86)	先端欠ける
30	57	(1)T22	1	刃部調整削片	チャート	26.0	15.8	5.7	1.68	
30	58	(3)T1	1	削片	チャート	41.8	37.7	17.7	21.62	自然面あり
30	59	20N	1	石核	頁岩	20.4	19.4	8.9	2.76	自然面あり
31	60	18P	1	隕石	流紋岩	64.0	31.4	24.5	62.66	
31	61	(3)T5	1	隕石	砂岩	119.1	52.1	27.7	225.58	

第12表 倉水内野北遺跡 土師器観察表

() : 断面図 < > : 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	法量(mm)	遺存度	出土	色調(色処理)/地味		技法		備考
									内面	外面	内面	外面	
32	1	(3)第1墓室区	28-30	土師器	甕	口径 (15.0) 底径 - 器高 (7.8)	口縁・胴部 土厚15%	精緻 スクリヤ	内面	5YR6/6暗	内面	ロコナデヘラナデ	
									外面	5YR6/6暗	外面	ロコナデヘラナデ	
32	2	(3)第1墓室区	1-22-23	土師器	甕	口径 (6.0) 底径 (3.6)	胴部下平 底部20%	精緻 網砂	内面	5YR4.1暗赤	内面	ハナナデ、器面割漆	
									外面	2YR5/6明赤	外面	ハナナデ	
32	3	(3)第1墓室区	30	土師器	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部下平片	精緻 白色砂粒	内面	10YR7/6明黄地	内面	ハナナデ	外面に埋漆
									外面	10YR7/6明黄地	外面	ハナナデ	

第13表 倉水内野北遺跡 砥石観察表

< > : 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
33	1	190	1	砥石	流紋岩	(4.02)	3.06	1.44	(32.73)	両端欠ける
33	2	190	1	砥石	砂岩	(3.96)	3.20	1.42	(29.27)	両端欠ける

第14表 倉水内野北遺跡 鉄製品観察表

< > : 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	長 cm	幅 cm	厚・径 cm	重量 g	備考
33	3	190	1	刀子	<5.4>	<1.0>	0.3	<7.42>	刃部から柄部片

第15表 倉水内野北遺跡 銅製品観察表

< > : 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	長 cm	幅 cm	厚・径 cm	重量 g	備考
33	4	190	1	キセル	<4.25>	1.8	1.6	<5.97>	鑿首

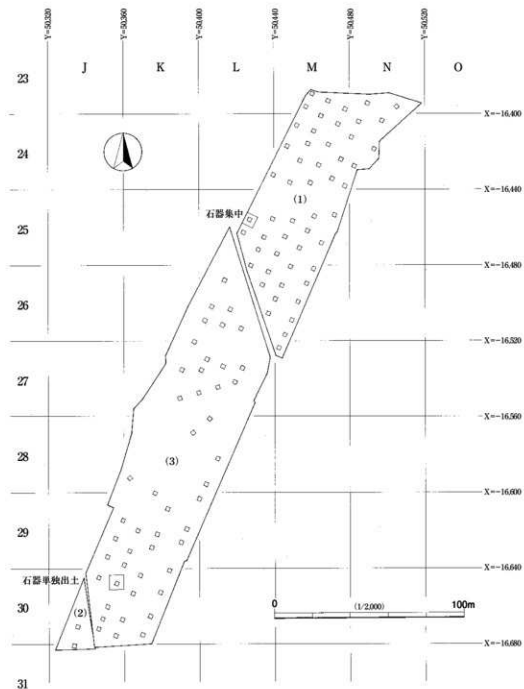
第16表 倉水内野北遺跡 銭貨計測表

種別	No	遺構番号	遺物番号	銭名	重量 (g)	縁外径(mm)		縁内径(mm)		郭外径(mm)		郭内径(mm)		縁厚(mm)		内面厚(mm)					
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	上	右	下	左
33	5	16P-04	1	寛永通宝	2.35	23.3	23.2	17.8	18.2	7.9	6.7	6.3	0.8	0.8	0.8	0.9	0.7	0.7	0.7	0.7	
33	6	16P-14	1	寛永通宝	2.60	23.2	23.2	19.1	18.9	8.5	8.2	6.3	6.3	1.0	1.0	1.1	0.9	0.6	0.6	0.6	0.6
33	7	T-1	1	寛永通宝	1.90	21.1	21.2	17.2	16.9	8.0	7.6	6.3	6.3	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8	0.9
33	8	T-1	1	寛永通宝 (元字銭)	2.20	21.4	21.8	16.9	17.0	6.8	6.6	5.5	5.5	0.9	0.9	1.0	1.0	0.8	0.6	0.6	0.6
33	9	16P-14	1	寛永通宝 (背銭)	4.71	27.9	28.0	20.4	20.5	8.1	8.0	7.0	6.6	1.1	1.1	1.1	1.1	0.9	1.0	0.9	0.9
33	10	16P-04	1	寛永通宝 (背銭)	4.14	28.0	28.1	20.8	20.7	8.0	8.0	6.6	6.2	0.9	0.9	0.9	1.0	0.7	0.8	0.8	0.8
33	11	21N-27	1	文久永寶	3.32	26.9	26.8	19.6	19.3	7.9	7.9	5.8	5.7	0.8	0.8	0.9	0.9	0.7	0.6	0.6	0.6
33	12	16P-04	1	寛永通宝 他 5枚	12.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	16P-14	1	鉄銭 他 2枚	6.32	27.8	25.4	-	-	-	-	5.7	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-

第4章 倉水内野南遺跡

第1節 概要 (第3・34・35・37図, 図版19・20)

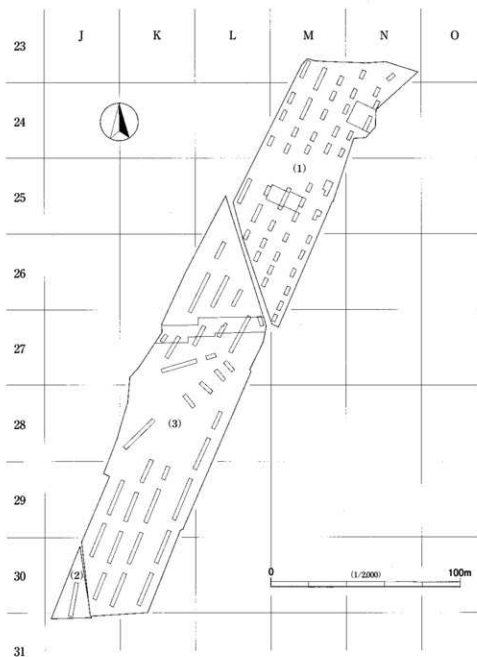
倉水内野北遺跡の南側に、谷を隔てて位置する。標高38m~39mで、南側が高く、北側が低く、北端は斜面にかかる。発掘調査は(1)~(3)の3次に分けて行った。(1)は平成18年7月3日~平成18年



第34図 下層確認グリッド配置図

8月31日、(2)は平成19年2月24日～平成19年2月25日、(3)は平成19年4月2日～平成19年6月26日の期間であった。(1)～(3)の調査範囲は、第34・35図のとおりである。

旧石器時代石器集中1か所、単独出土1か所、縄文時代早期住居跡2軒、土坑6基、弥生時代後期住居跡1軒、中世の溝1条を検出した。



第35図 上層確認トレンチ配置図

単独出土（第36図，第17表，図版25）

30J-34の下層確認グリッドで黒曜石製のスクレイパーが1点出土した。表面の左側を垂直に割がした後、裏面を右から敲打して長方形に近い剥片を取り、裏面の左縁を斜離して刃部をつくる。内湾する上縁にも刃部調整の細かい斜離痕が並ぶ。出土の位置・層位は不明である。拡張して調査したが、新たに石器は出土しなかった。

縄文時代

SI-001（第38図，第18表，図版20・21・25）

25M-41・51に位置する。南北に長い形で、南北3.3m、東西2.5mである。深さは0.2mで、床面標高は38.0mである。炉は住居跡の中央よりやや西寄りにある。焼土の範囲は2か所に分かれるが、1基の炉と考えて良からう。柱穴は4個検出した。床面には10か所余りの根痕を記録する。

早期と思われる胎土に繊維が混じる無文の土器片が、小片ながら11点出土した。口縁部片1点を示す。沈線文系の三戸ないし田戸下層式である。住居の時期は早期後半と考えられる。

SI-002（第38図，図版21）

SI-001の東隣の25M-52・53に位置する。正方形で、一辺2.7mである。深さは0.05mとごく浅い。床面標高は38.1mである。炉は中央よりわずかに東寄りにある。柱穴は4個検出した。床面は、1点鎖線で囲んだ範囲2か所が硬化していた。床面は、焼土が覆っていた。

遺物は出土しなかったが、SI-001と隣接することから、早期後半と思われる。

SK-001（第39図，図版22）

25L-37に位置する。境界に近く、南側半分強だけ調査した。楕円形で長径（推定）1.6m、短径1.0m、深さ0.8mである。底の中央に径0.4m、深さ0.4mのビットがある。出土遺物はない。楕円形で下へ行くほど狭まり、底面が平坦で、底面に逆水を立てたと思われる坑がある形から陥穴である。

SK-002（第39図，図版22）

25M-37・38に位置する。楕円形で長径1.1m、短径0.7m、深さ0.7mで、北東側はオーバーハングする。出土遺物はない。

SK-003（第39図，図版22）

25M-47に位置する。SK-002と同じ形で、長径0.8m、短径0.5m、深さ0.7mで、東側はオーバーハングする。出土遺物はない。

SK-005（第39図，図版22）

25M-76に位置する。隅丸方形で、長さ1.1m、幅0.8m、深さ0.9mである。底に2個の径0.2m、深さ0.2mのビットがある。出土遺物はない。形から陥穴である。

SK-006（第39図，図版22）

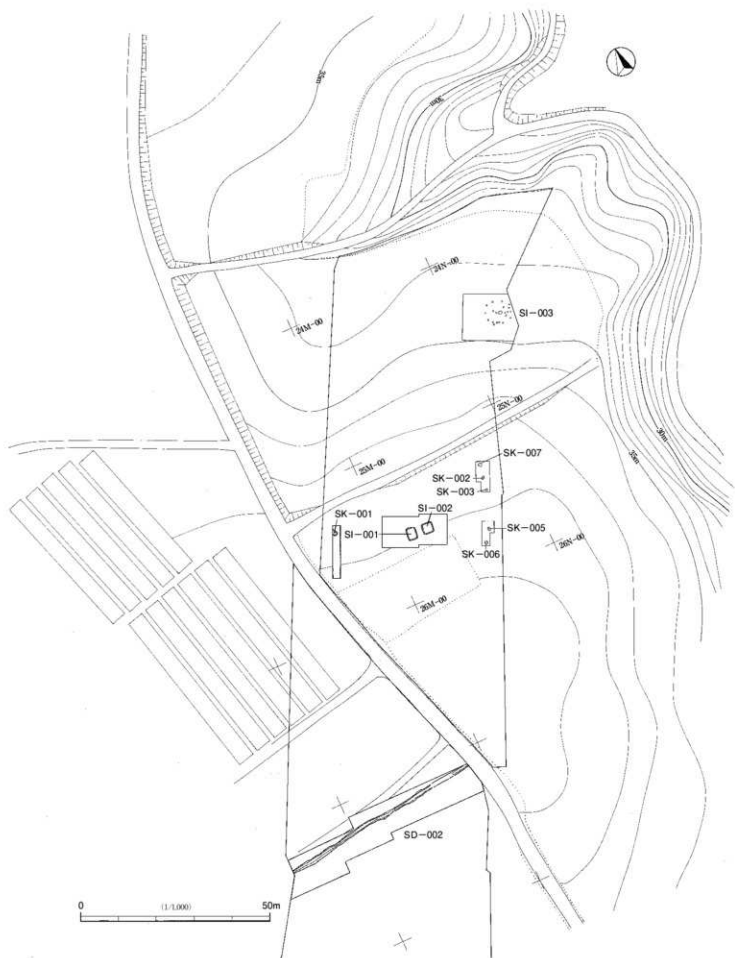
25M-86に位置する。楕円形で、長径0.9m、短径0.8m、深さ0.3mである。出土遺物はない。

SK-007（第39図，図版22）

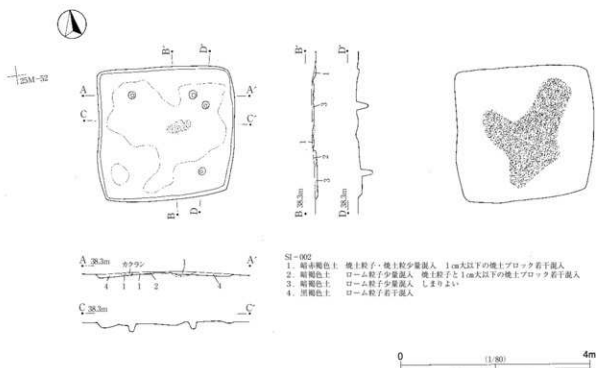
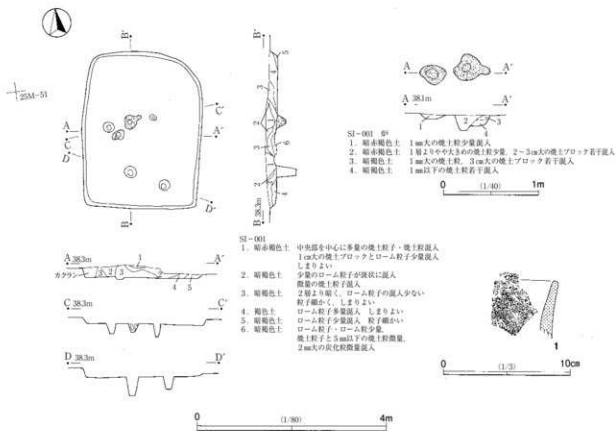
25M-28・38に位置する。ほぼ円形で、径1.0m～1.2m、深さ1.0mである。底は楕円形で中央に径0.2m、深さ0.1mの浅いビットがある。出土遺物はない。形から陥穴である。

遺構外出土遺物（第40・41図，第18・19表，図版25・26）

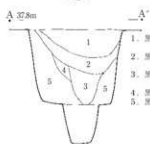
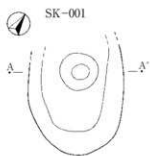
土器・石器が出土した。27Kグリッド・27Lグリッドの上層確認トレンチでややまとまっていた。



第37图 上層結構配置図

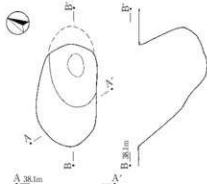


第38図 SI-001・002



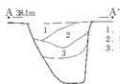
- 5 cm以下のローム粒と
ローム粒子少量混入
1. 黒色土 1層よりローム粒・ローム粒子の混入少ない
 2. 黒色土 2層よりローム粒・ローム粒子の混入少ない
 3. 黒色土 2層よりローム粒子が強く混入
 4. 黒色土 3cm大の塊状ローム粒少量混入
 5. 黒褐色土

SK-002



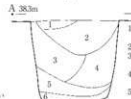
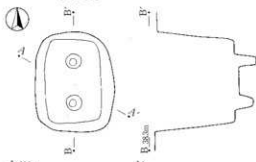
1. 黒褐色土 ローム粒子少量混入、しまりよい
2. 暗褐色土 ローム粒子多量混入、しまりよい
3. 褐色土 ローム粒子主体、ローム粒若干混入

SK-003



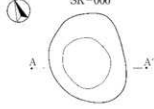
1. 黒褐色土 ローム粒子少量混入、しまりよい
2. 暗褐色土 ローム粒子多量混入、しまりよい
3. 褐色土 ローム粒子主体、ローム粒若干混入

SK-005



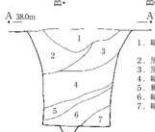
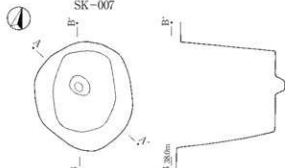
1. 黒褐色土 1cm-3cm大の塊状を伴う
ローム粒少量混入
2. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒少量混入
3. 黒褐色土 2層に比べローム粒・
ローム粒の混入少ない
4. 黒褐色土 3層に比べローム粒・
ローム粒の混入多し
5. 黒褐色土 3層・4層に比べ強く
ローム粒の混入少ない
6. 黒褐色土 ローム粒・ローム粒少量、
ロームブロック若干混入

SK-006

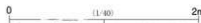


1. 暗褐色土 ローム粒子少量混入
2. 黒褐色土 1層に比べローム粒の混入少ない
3. 褐色土 ローム粒子、2cm-3cm大のロームブロック
主体に混入、黒色土が1cm大で散在的に混入

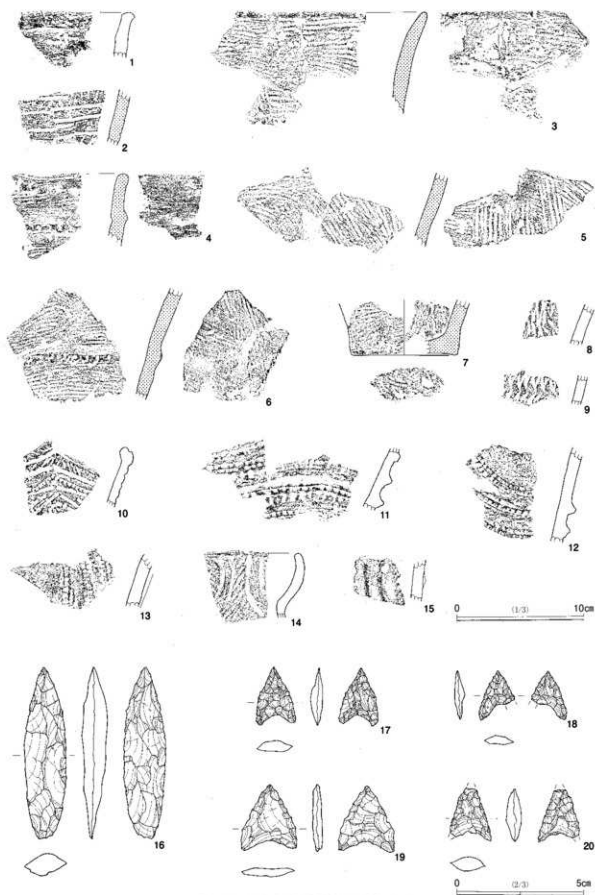
SK-007



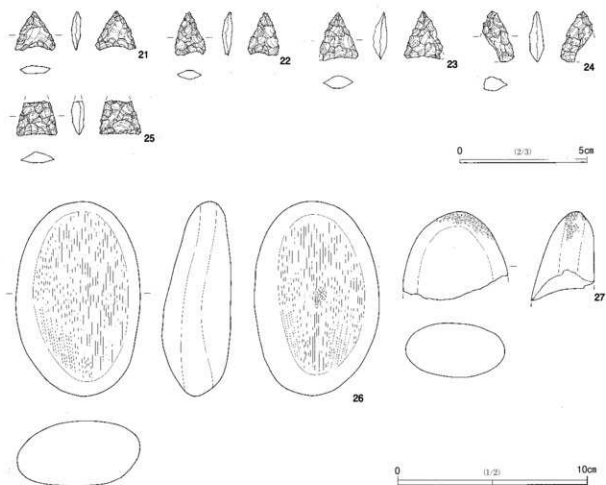
1. 暗褐色土 ローム粒子少量、
5mm前後のローム粒微量混入、しまりよい
2. 暗褐色土 ローム粒・ローム粒少量混入、しまりよい
3. 暗褐色土 2層に比べローム粒・ローム粒の混入多い
4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量混入
5. 褐色土 ローム粒・ロームブロック強的に混入
6. 暗褐色土 ローム粒子多量、ローム粒少量混入
7. 暗褐色土 ローム粒子多量混入、ロームブロック若干混入



第39図 縄文時代土坑



第40図 縄文時代遺構外出土遺物 (1)



第41図 縄文時代遺構外出土遺物（2）

土器 1・2は早期沈線文系である。1は外面が荒れてわかりにくい、口縁に平行あるいは斜めに腹縁文を付ける。口唇は外側につまんでいる。2は全体に斜めの腹縁文を付けた後に沈線を横走させる。3～7は条痕文系である。3・4・6は条痕文のみで茅山式になろう。内面の一部には二次焼成で赤みがある。4・6は横走する刺突の付く隆帯がある。5は胴部、7は底部である。8・9は前期浮島式である。10は中期五領ヶ台式であろう。波状口縁で、口唇は、内側に張り出し、中央に沈線を引き、その内外の土手にハの字形に刻みを入れる。その下は端部方形の施文具による沈線と押し文である。11～13は中期阿玉台式である。14・15は中期加曽利E式である。14は左側はLR、右側はRLの縄文を上下に転がした後、沈線を引き、無文帯で磨り消す。

石器 16は安山岩製の尖頭器で、先端部に近いところが最も厚い。17～25は石鏃である。17・18は無色透明部分のある黒曜石製で、18は尾部片方が欠ける。19は安山岩製、20は光沢のある明灰色の頁岩製で、先端と片翼端が欠ける。21・22は灰色のチャート製、23・24は黒灰色のチャート製で、23は基部片端が欠け、24は基部側が欠ける。25は17・18と同じ質の黒曜石製で、先端側が欠ける。26は流紋岩の磨石で、焼けていて全体に赤味がかかる。27は砂岩の敲石片と思われる。

弥生時代

SI-003 (第42図, 第20・21表, 図版23・26)

24N-32・33・42・43に位置する。東西に並ぶ大・小2基の炉跡とそれを中心をめぐるピット群を検出した。掘り込みは見られなかった。検出面の標高は35.4mである。ピット群は、北西から南東に長い楕円形に分布し、その範囲は長径7.0m×短径6.0mである。柱穴に当たるもの不明瞭である。大きい炉跡は、調査時にSK-004とする。底部に2か所の特に焼けて赤い部分があった。

遺物は、後期の壺の胴部小片が5点出土した。うち2点を示す。そのほか明黄褐色のメノウの礫が1点出土した。住居の時期は、土器から後期であろう。

中世

SD-002 (第43図, 図版24)

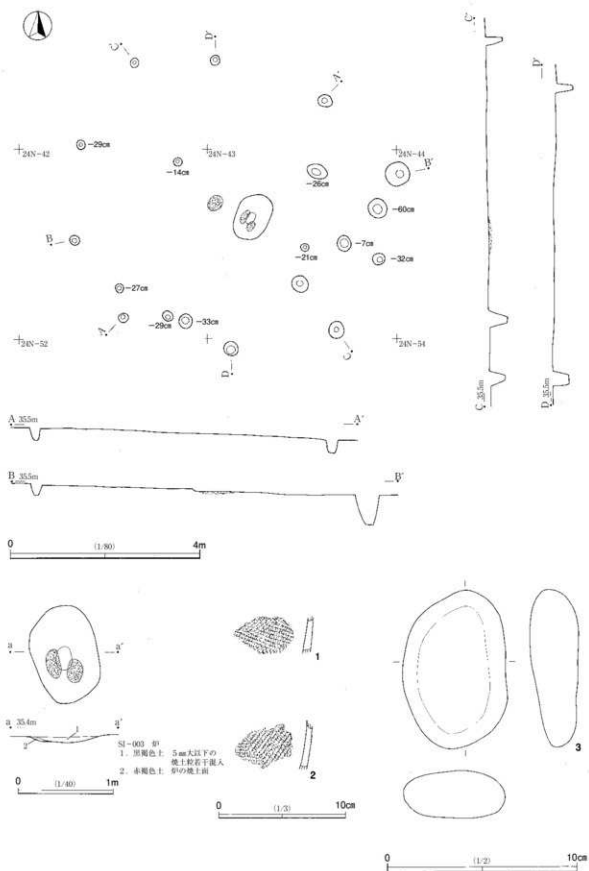
27K-25から西に伸びて27L-18まで続く。断面は逆台形である。ところにより一段深くなる。長さ50m、幅は0.7m~1.4m、深さ0.2m~0.3mである。溝の東西での高低差はほとんどない。破線部分は掘乱されていた。西端は堆肥で変色がひどく調査しなかった。中世の遺物は出土しなかったが、形状から中世と思われる。

第17表 倉水内野南遺跡 旧石器時代石器観察表

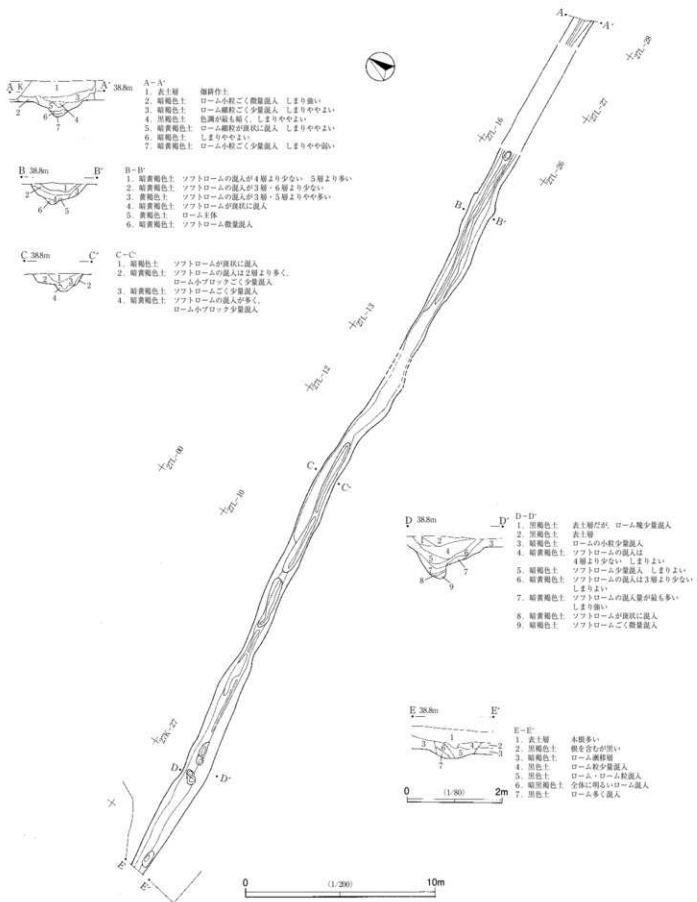
種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長さ mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
36	1	25L-46	1	細石刃	黒曜石	0.9	0.7	0.07	0.08	上下欠ける
36	2	25L-46	2	剥片	黒曜石	2.2	2.5	0.5	2.50	
36	3	30J-34	1	スクレイパー	黒曜石	59.5	33.1	12.3	26.58	

第18表 倉水内野南遺跡 縄文土器観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種		胎土	文様	時期	型式	備考	
				内面	外面						
38	1	SI-001	4	深鉢	褐色	繊維、砂粒、白色粒	無文	早期	三戸・田戸下層	遺構内C区一括	
40	1	27K	10	深鉢	褐色	細砂粒	腹縁文	早期	三戸・田戸下層		
40	2	26L-83	1	深鉢	褐色	繊維、砂粒、スコリア	沈線、腹縁文	早期	三戸・田戸下層		
40	3	27K	15・26・27・29	深鉢	暗褐色	暗褐色	繊維、白色粒	条痕文	早期	茅山	
40	4	27K	20	深鉢	褐色	褐色	繊維、白色粒	条痕文、隆帯、刺突文	早期	茅山	
40	5	27K	44・53	深鉢	灰黄色	褐色	繊維、スコリア	条痕文	早期	条痕文系	
40	6	27K	4・67	深鉢	褐色	褐色	繊維、白色粒、スコリア	条痕文、隆帯、刺突文	早期	茅山	
40	7	27K	34	深鉢	褐色	褐色	繊維、白色粒、小礫(少)	条痕文	早期	条痕文系	
40	8	26L-83	1	深鉢	褐色	褐色	白色粒、砂粒	波状貝殻文	前期	浮島	
40	9	26L-83	1	深鉢	褐色	褐色	白色粒、砂粒	波状貝殻文	前期	浮島	
40	10	27L-44	1	深鉢	褐色	褐色	白色粒、砂粒	斜目、沈線、押引文	中期	五領ヶ台	
40	11	SD-003	1	深鉢	灰褐色	褐色	雲母(多)、白色粒(少)	隆帯、押引文	中期	阿玉台	
40	12	SK-008	5	深鉢	灰褐色	褐色	雲母(多)、白色粒(大・多)	隆帯、押引文	中期	阿玉台	
40	13	SD-003	1	深鉢	灰褐色	褐色	雲母(多)、白色粒子(多)	隆帯、押引文	中期	阿玉台	
40	14	SK-008	8	深鉢	褐色	褐色	白色粒(多)、砂粒	LR、RL、沈線、磨消無文帯	中期	加曾利E	
40	15	27L	44	深鉢	褐色	褐色	白色粒(多)	LR、隆帯	中期	加曾利E	



第42図 SI-003



第43図 SD-002

第19表 倉水内野南遺跡 縄文時代石器観察表

種別	No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
40	16	27L-20	2	尖頭器	安山岩	68.1	17.3	9.2	10.13	
40	17	26L-50	2	石鏃	黒曜石	22.4	15.7	4.2	1.11	
40	18	30J-86	1	石鏃	黒曜石	19.5	<14.0>	3.6	<0.56>	尾部片方欠ける
40	19	30J-28	1	石鏃	安山岩	26.5	22.0	3.1	1.78	
40	20	27L-35	1	石鏃	頁岩	<20.3>	<16.8>	5.5	<1.46>	先端・尾部片方欠ける
41	21	27L	38	石鏃	チャート	15.3	15.9	3.2	0.68	
41	22	27L	23	石鏃	チャート	16.8	12.2	3.5	0.58	
41	23	SK-008	4	石鏃	チャート	18.5	<15.5>	5.5	<1.20>	基部片側欠ける
41	24	27K	42	石鏃	チャート	20.3	<13.0>	5.4	<0.92>	基部片側欠ける
41	25	SD-003	4	石鏃	黒曜石	<1.35>	15.6	4.7	<1.06>	
41	26	26L-41	2	磨石	流紋岩	104.0	67.1	37.2	347.45	横ける
41	27	27K	53	敲石か	砂岩	<47.0>	<55.0>	<33.0>	<97.63>	欠ける

第20表 倉水内野南遺跡 弥生土器観察表

種別	No.	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
42	1	SI-003	2	甕	黄褐色	暗褐色	砂粒, 白色粒	羽状縄文	後期	印・手式	
42	2	SI-003	10	甕	黄褐色	暗褐色	砂粒, 白色粒	羽状縄文	後期	印・手式	

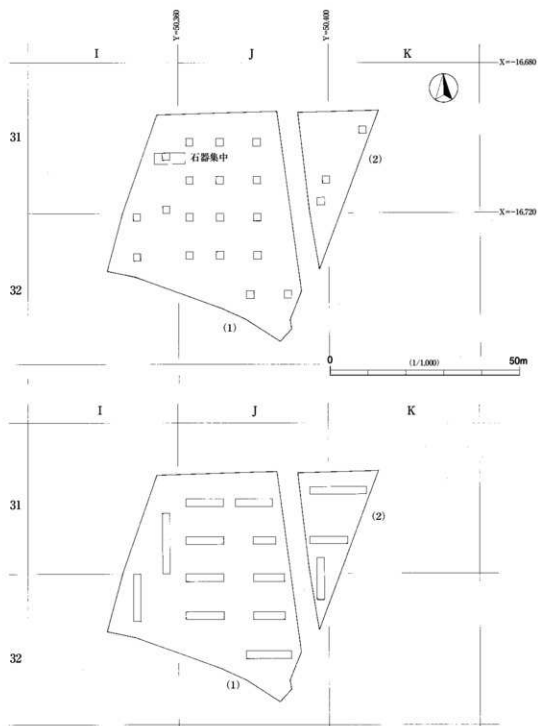
第21表 倉水内野南遺跡 弥生時代石器観察表

種別	No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
42	3	SI-003	3	鎌	メノウ	83.1	56.6	26.0	171.25	

第5章 青山小峰遺跡

第1節 概要 (第3・44図, 図版27)

標高39m前後の平坦な台地上に位置し、北は道路を挟んで倉水内野南遺跡であり、南は谷を隔てて稲荷山追分台遺跡である。発掘調査は(1)・(2)の2次に分けて行った。(1)は平成19年2月1日～平成



第44図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図

19年2月23日、(2)は平成23年5月25日～平成23年5月31日の期間であった。上層は遺構はなく、確認調査の範囲で終了した。下層は、1か所の確認グリッドで石器が出土し、拡張して調査したところ石器集中1か所を検出したが、確認調査の範囲で終了した。

第2節 検出した遺構と遺物

旧石器時代

石器集中(第45図、第22表、図版27・28)

31I-69の下層確認グリッドで石器が出土し、拡張して調査した。石器の出土範囲は3.3m×1.0mで、出土層位は全て関東ロームのV層と遺物ラベルに記す。出土した石器は8点で、いずれも剥片である。そのうち4点を示す。石材が各各違う。

1は明灰色頁岩の厚みのある刃部調整剥片である。左図の下縁に細かな剝離痕が並ぶ。2に比べて光沢がある。自然面が残る。2は灰色頁岩の剥片である。右図の上部からの剝離が最後である。自然面が残る。3は褐色メノウの剥片で、自然面が残る。4は黒曜石の剥片である。

縄文時代

遺構外出土遺物(第46図、第23・24表、図版28)

土器 南側の稲荷山道分台遺跡に近いせいか、早期条痕文系に限られる。1～3は野島式である。外面に斜条線を付ける。1は口縁に端部方形の工具を斜めに連続して押し付ける。4は縄ヶ島台式である。微隆起線で区画し、その要所に円形刺突をし、区画内は半截竹管の刺突を充たす。5～7は条痕文系の胴部下半の破片である。いずれも条痕文が明瞭ではない。

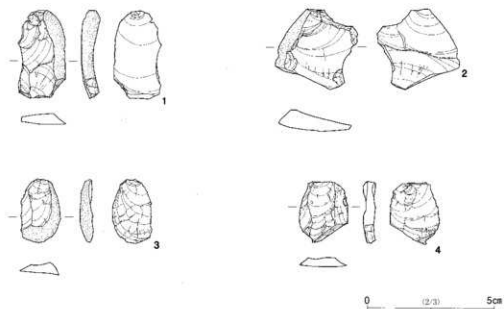
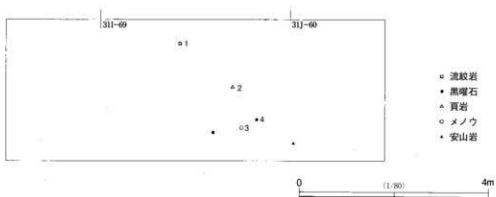
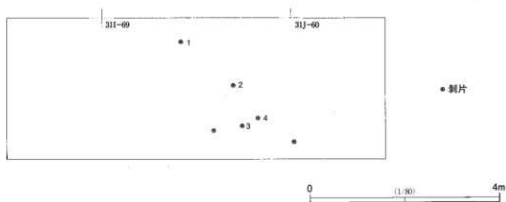
石器 8は安山岩製の石鏃である。9は黒曜石の刃部調整剥片である。下縁に小剝離痕が並ぶ。10は黄褐色がかかった黒曜石の剥片である。この種類の黒曜石は、倉水内野北遺跡の縄文早期遺物集中3で出土している。11は黒曜石の石核である。主として上下から剝離している。自然面が残る。

第22表 青山小峰遺跡 旧石器時代石器観察表

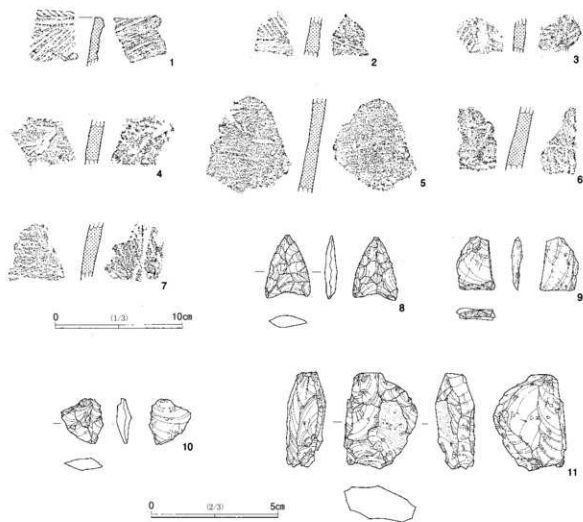
神田	No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
45	1	31I-69	1	刃部調整剥片	頁岩	35.0	19.1	7.2	4.54	
45	2	31I-69	2	剥片	頁岩	33.0	34.2	9.2	7.50	
		31I-69	3	剥片	黒曜石	14.1	20.5	4.2	0.93	同一遺物番号3点
		31I-69	3	砕片	黒曜石	17.4	9.2	6.3	0.32	
		31I-69	3	砕片	黒曜石	8.8	13.0	2.4	0.15	
45	3	31I-69	4	剥片	メノウ	25.2	17.0	5.3	1.94	
45	4	31I-69	5	剥片	黒曜石	24.3	19.6	4.3	2.10	
		31I-60	1	剥片	安山岩	10.2	15.7	3.7	0.76	

第23表 青山小峰遺跡 縄文土器観察表

神田	No.	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
46	1	32J-54	1	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒、黒色粒	条痕文、口縁押圧文、条痕文	早期	野島	
46	2	32J-25	1	深鉢	明黄褐色	黒褐色	繊維、砂粒	条痕文、除帯区画、条痕文	早期	野島	



第45図 旧石器石器集中器種別出土状況・石材別出土状況・出土石器



第46図 縄文時代遺構外出土遺物

第23表続き

挿図	No	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
46	3	32J-24	1	深鉢	明黄色	明黄色	繊維、砂粒	条痕文、陸帯区画、全縁文	早期	野鳥	
46	4	32J-23	1	深鉢	明褐色	明褐色	繊維、砂粒	条痕文、微陸帯区画、刺突文	早期	鶴×鳥	
46	5	32J-22	1	深鉢	黒褐色	明褐色	繊維、砂粒、スコリア	条痕文	早期	鶴×鳥、茅山	
46	6	32J-60	1	深鉢	赤褐色	暗褐色	繊維、砂粒、スコリア(多)	条痕文	早期	鶴×鳥、茅山	
46	7	31I-68	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	繊維、砂粒、スコリア(多)	条痕文	早期	鶴×鳥、茅山	

第24表 青山小峰遺跡 縄文時代石器観察表

挿図	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
46	8	31J-50	1	石鏃	安山岩	25.1	17.5	4.2	1.84	
46	9	(2)一括	一	刃部調整削片	黒曜石	21.4	17.5	4.7	1.39	
46	10	31I-68	1	削片	黒曜石	18.2	17.6	5.7	1.11	黄褐色がかる
46	11	32J-05	1	石核	黒曜石	37.6	29.1	13.2	16.02	

第6章 稲荷山追分台遺跡

第1節 概要 (第3・47図)

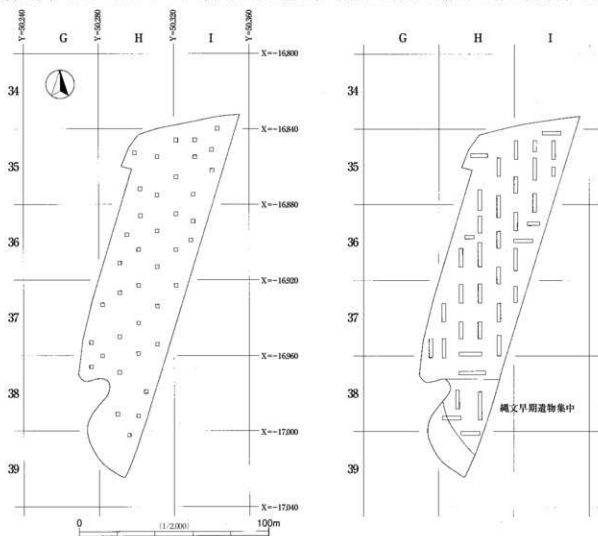
倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡と同じ台地に位置し、その南端に当たる。標高37m～38mで、北側と南側が低く、中ほどがやや高い。発掘調査は、平成23年3月18日～平成23年3月30日に上層の確認調査を行い、年度が改まって平成23年4月6日～平成23年5月24日に上層の本調査と下層の確認調査を行った。調査区南端の、谷に面した緩やかな斜面部で、縄文時代早期の遺物集中1か所を検出し、灰跡3基と多数の土器・石器を検出した。下層は遺構・遺物ともに検出せず、確認調査で終了した。

第2節 検出した遺構と遺物

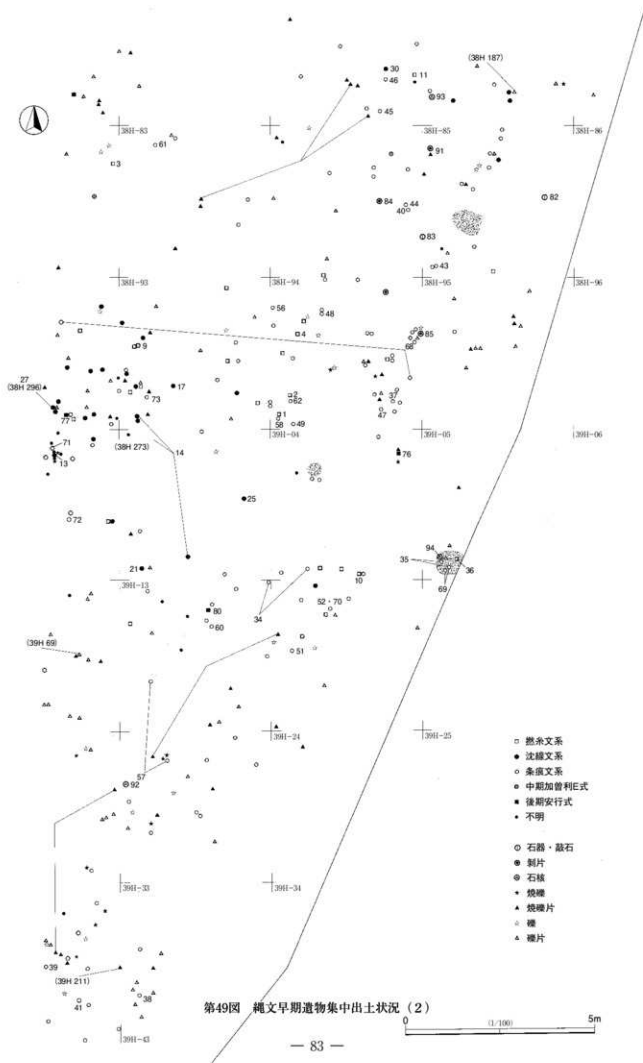
縄文時代

早期遺物集中 (第48～54図、第25・26表、図版29～33)

概要と分布 38H・39Hグリッドで検出した。土器と礫・石器から成る。土器は、主体は条痕文系であ



第47図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図



る。燃糸文系・沈線文系もある。中期・後期の土器も少量混ざる。礫が多く、完形と破片があり、共に焼けたものとそうでないものがある。出土状況の主要部を第48・49図に示す。竪跡3基のうち北側の1基は、周囲で石籾・石核・剥片が出土し、住居跡の可能性が高い。集中は調査区の東側に伸びると推測される。

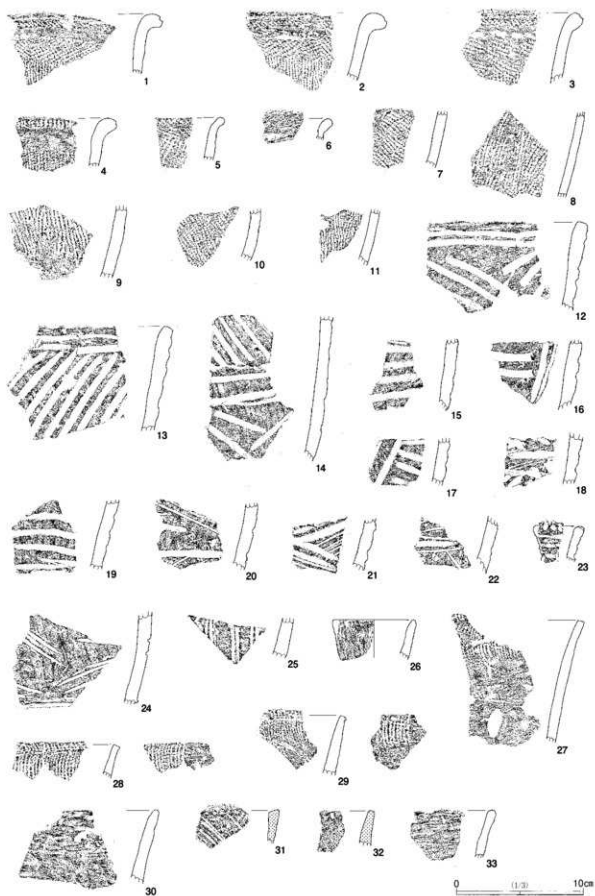
出土土器 1～11は早期燃糸文系である。1～3はいずれも、口唇に沿って縄文原体を押し、張り出した口縁の下側を縄文施文後にナデる。4は口縁を横にナデた後、口唇に縄文を転がす。5は口唇・胴部とも燃糸文である。6は口唇の内から外へ細かい縄文を転がす。1～6は井草式であろう。7～10は縄文の、11は燃糸文の胴部片である。

12～33は沈線文系である。12～23は太沈線を中心にした類で、23は小波状口縁で尖底と思われるミニチュア土器である。24・25は沈線の類である。26は無文で尖底と思われるミニチュア土器である。27～30は口縁の内外面と口唇に腹線文を並べる。27・28は同一個体か。子母口式である。31は小波状口縁で斜めに細沈線を引く。32は無文である。口唇の白い部分は傷である。33も無文である。31～33はつくりと胎土が似るので子母口式と思われる。

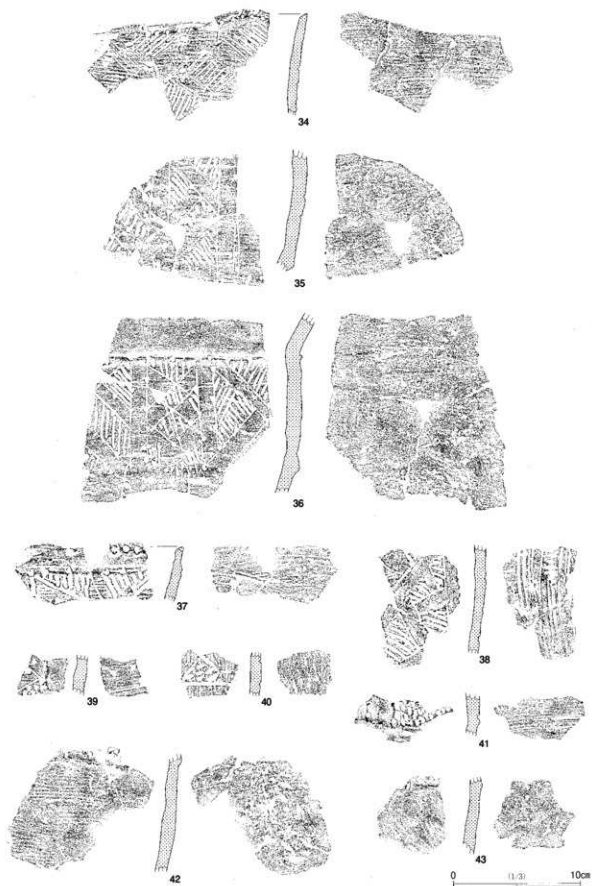
34～73は早期条痕文系である。34～56は胴部上半の文様がわかり、縄ヶ島台式である。34～38は細沈線で区画した中をための沈線で充たす。39～41は刺突で充たす。42は上部の隆帯に円形刺突がある。43は隆帯がある。44～46はいずれも胴部上半と下半の境となる屈曲点付近の破片で、44は縦の無文帯による区画の中に刺突を充たす。45・46も刺突である。47・48は同一個体と思われる、波状口縁でさらに口唇は竹管の表面を押し付けて小波状にする。微隆帯で区画した中を沈線で充たす。微隆帯のところどころに竹管で円形刺突をする。49～52は沈線に方形の刺突を加える。49は表面が荒れる。50は下側の条痕文の方向を揃えるか。50・51はつくりと胎土が似るので同一個体であろう。52は49～51の沈線が斜めであるのに対して横である。53・54は細かい円形刺突を連ねる。55は半載竹管による条痕文で竹管による円形刺突もある。内面は荒れる。56は縦横に深めの沈線を引く。全体にごく浅い爪形の太い竹管による圧痕も付く。57～73は条痕文だけの類である。57～62は小波状口縁である。61は方形の端部を押し付けて波状にするが、残りは竹管の表面を押し付ける。63は口縁の平坦面に斜めに深く、外面上部に口縁に平行に浅く腹線文を付ける。64～73は胴部片でさまざまな条痕文の例を示す。64は二枚貝腹線による条痕文を重ねる。65は条痕文を平行に付ける。66は巻貝の回転による条痕文である。67の外側は巻貝・二枚貝の条痕文が混ざる。68の内面はヘラケズリする。69は斜めの貝殻腹線による条痕文に横方向の木ヘラによる条痕文を重ねる。内面は荒れる。70は二枚貝の条痕文に半載竹管の条線を引く。71は条痕文を交差させる。72は二枚貝を使って、腹線で条痕文を付けてから、殻表を押し付け、表面を凸凹にしたところへ、ヘラで幅の狭い条痕文を引く。73は腹線に条痕文を付けた後にナデる。そのため条痕文の線がところどころ狭まる。

74は中期加曾利E式である。上部に微隆起帯があり、その下に縄文を充填した後で、小判形に沈線を引く。75～81は後期安行式である。75は鉢形土器の口縁である。76は浅鉢の口縁である。77は小形の粗製深鉢の口縁部である。78～80は粗製深鉢の胴部である。78は条線を上から下に引く。79は左側の下からの条線と右側の上からの条線が交差する。80は底部に近く、条線を交差させた後にミガキに近いナデをする。81は台付鉢の台部である。鉢底部から広がる部分は磨き、その下側の円筒形の部分は、細かい刻み付けた隆帯で2段の文様帯を設ける。上の文様帯に上下にへの字形の切り欠きを配した瘤を付ける。隆帯による文様帯の中は、隆帯に沿って沈線をめぐらせるだけである。

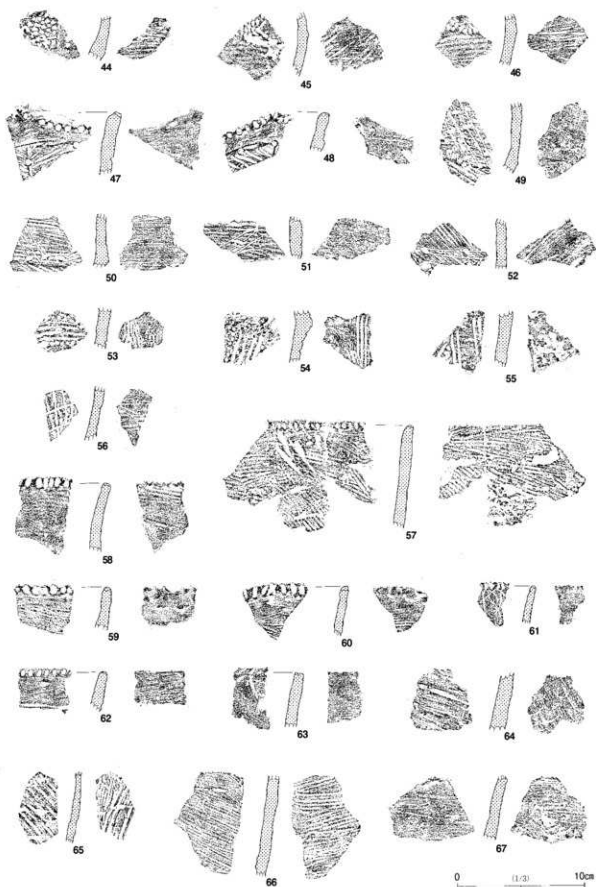
出土石器 礫・礫片が大多数である。その材質は、ほぼチャート・流紋岩・安山岩・砂岩である。安山



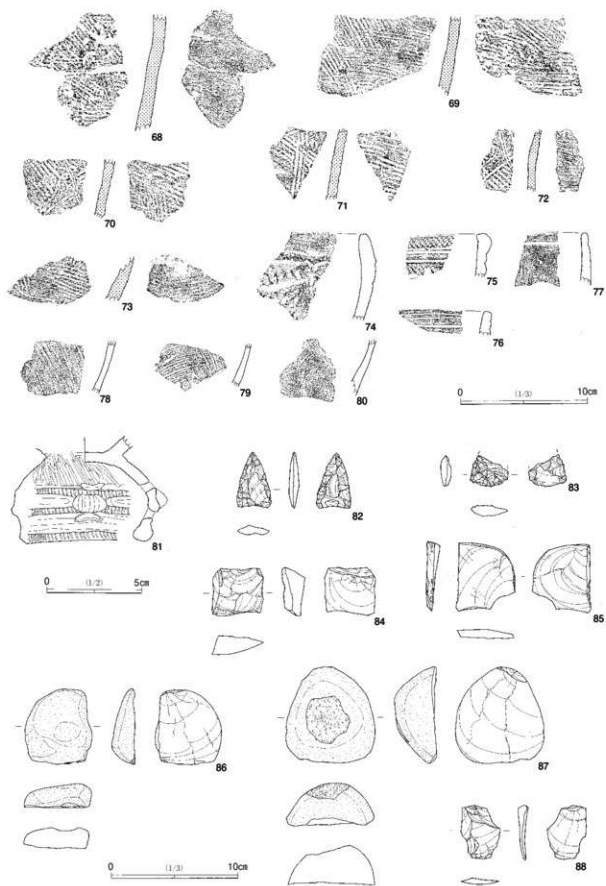
第50図 縄文早期遺物集中出土遺物(1)



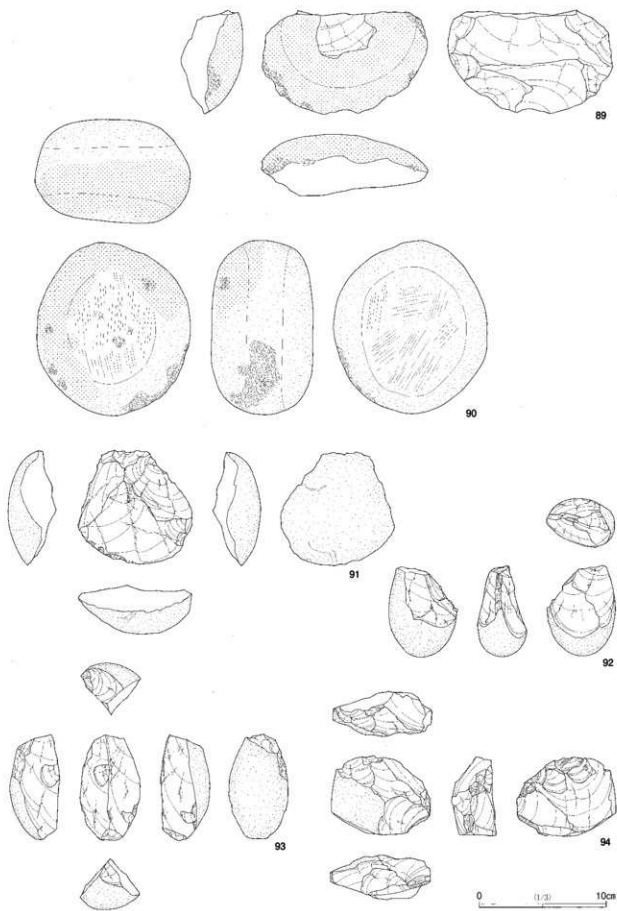
第51図 縄文早期遺物集中出土遺物(2)



第52図 縄文早期遺物集中出土遺物（3）



第53図 縄文早期遺物集中出土遺物(4)



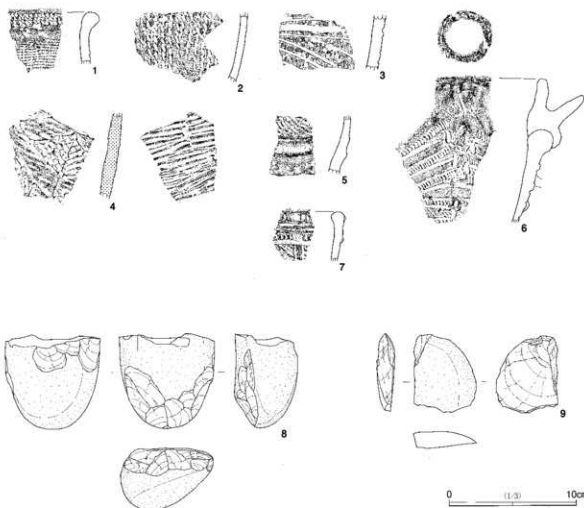
第54図 縄文早期遺物集中出土遺物（5）

岩は暗褐色の均質でザラザラした種類のももわずかにあるが、黒色鉱物などが入って流紋岩と似たものがほとんどで見分けにくい。また、礫・礫片のうち焼けているものが相当数ある。「焼けている」の判断は、表面が赤く変化していることをもとにした。礫の点上げ資料は68点である。最大は最大長77.6mmで、最小は最大長20.5mmである。49点が最大長50mm未満である。焼けていない43点、焼けている25点である。焼けていないの内訳は、チャート18点、流紋岩13点、安山岩8点、砂岩1点、その他3点である。焼けているの内訳は、チャート6点、流紋岩13点、安山岩3点、砂岩1点、その他2点である。礫としたうち表面が欠ける例が1点だけある。礫片の点上げ資料は214点である。最大は最大長113.9mmで、最小は最大長16.5mmである。128点が最大長50mm未満である。焼けていない134点、焼けている80点である。焼けていないの内訳は、チャート50点、流紋岩31点、安山岩30点、砂岩9点、その他14点である。焼けているの内訳は、チャート13点、流紋岩31点、安山岩18点、砂岩10点、その他8点である。礫片同士接合した例は図に示す。礫片から推測できる元の礫の大きさの最大は、最大長で150mm未満である。礫片は、焼けて礫が砕けてきた例が多いと推測される。焼けた礫は、全体が赤くなっているわけではなく、赤くないことをもって焼けていないとした礫片の中に、焼けている例があらう。焼けたのでなく礫を人が割った礫片も、礫面を残す石核や使用痕のある剥片が伴出するので、含まれるであらう。しかし、明瞭な剝痕のある礫片でも、打点の有無が曖昧であり、そうした例は指摘できない。

礫・礫片以外は、82は灰色チャート製の石核である。左図の中ほどから先端にかけて黄褐色の部分があり、右図の中央の剝離は深く抉れる。83は透明部分のある黒曜石製の石核の基部片と思われる。84は灰色チャートの使用痕ある剥片で、左図右縁にある。85は黒色頁岩の使用痕ある剥片で、左図右縁にある。上縁から左縁には褐色の自然面が残る。86は暗赤色チャートの楔形石器で、礫の表面を剥ぎ取った剥片を利用する。87は暗灰色で白色鉱物の目立つ安山岩の使用痕ある剥片で、これも礫の表面を剥ぎ取った剥片を利用する。下縁に使用痕があり、左図の自然面の中ほどを小さく剝離して掴みやすくする。88は灰色チャートの剥片である。89は粒子の細かい花崗岩の礫片で、縁辺に複数の敲打が加えられている。自然面の礫面が残り、焼けて赤い。90は明灰色で細かい鉱物の目立つ安山岩の敲打で、焼けて側面が濃く赤くて荒れる。91は灰色チャートの石核で、裏面に自然面が残る。右上の剝離は深い階段状である。下縁には使用痕にも見える細かい剝離の連りがある。92は光沢のある明灰色頁岩の石核で、上方から連続して剝離した後、横に斜くか割っている。下側に自然面が残る。93は灰色チャートの石核で、上方から連続して剝離した後、上下を同方向から横に剥いでいる。自然面が残る。94も灰色チャートの石核で、剝離は上方と左図の右から行っている。自然面が残る。82・84・88・91・93・94のチャートは似ている。94はやや黒いか。観察表に載せるだけで図示しない2点の剥片も灰色チャートである。38Hの22番の剥片は褐色がかかる。石核が出土しているが、剥片の出土は少ない。以上のように石器類はチャートが多い。既述のように伴出する礫・礫片もチャートの割合は高い。ただし、それらの礫片の割れ口はゴツゴツして平滑ではない。

遺構外出土遺物 (第55図, 第25・26表, 図版34)

土器 1・2は早期撚糸文系井草式である。1は口縁部で、張り出した口唇にRLの縄文を横に転がし、胴部は上から下へRLの縄文を転がす。2は胴部でLRの縄文を横に転がす。3は早期沈線文系で、太沈線を横に、細沈線を横と斜めに走らせる。4は早期条痕文系縄ケ鳥式である。横に引いた条痕文をナデで弱めてから、微隆起線で文様区画をつくり、その中に半截竹管の刺突を充たし、区画の要所に竹管で円形刺突を付ける。5は中期加曽利E式後半である。口縁部に近いと思われる。RLの縄文を転がした後、縁が



第55図 縄文時代遺構外出土遺物

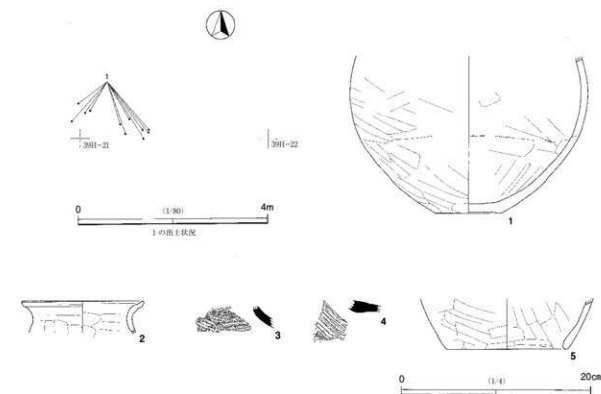
高い太い無文帯を2本横に走らせる。6は後期安行I式の精製で波状口縁の深鉢口縁部である。波頂はラッパ形である。細かい刻みを付けた隆帯を縦横に走らせる。隆帯の間は概ね無文で、下側だけ斜沈線を並べる。波頂の下側には上下に3個の瘤を付けるが、中段の瘤は脱落する。7は後期の安行IないしII式の鉢の口縁部で、口唇が内側に突き出す。上下2段に刺突を並べた隆帯があり、隆帯の間は無文で、2本の隆帯の下側は、斜め沈線を並べてから、磨り消して縦の無文帯をつくる。2本の隆帯のそれぞれ中ほどにある白い部分は傷である。

石器 8は流紋岩製の石器未製品で、石斧を作ろうとして止めたものか。上部は欠けている。9は安山岩の剥片である。自然面が残る。

古墳時代

遺構外出土遺物 (第56図、第27表、図版34)

古墳時代後期、6世紀と思われる土師器甕の破片が、図のように39H-11グリッドの南西角でまとまって出土した。胴部中ほどから底部にかけての破片で、口縁の破片はない。接合すると、1のように底部は100%復元できたが、胴部は下半の50%程度復元できたにとどまる。周囲の直径4mほどの範囲は、縄文時代の遺物がほとんど出土していない。このことは、縄文時代の遺物包含層を掘り込んで、古墳時代後期の土坑の類いが造られた可能性を示すか。



第56図 古墳時代・奈良時代遺構外出土遺物

奈良時代

遺構外出土遺物（第56図、第27表、図版34）

土師器・須恵器の破片が出土した。2は土師器小型甕の口縁部から頸部の破片である。3・4は須恵器甕の頸部片である。5は土師器甕の胴部下半の破片である。いずれも8世紀後半と思われる。

第25表 稲荷山道分台遺跡 縄文土器観察表

棟号	No.	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
50	1	38H	43	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒、白色粒	口唇押圧縄文LR、RL、RL・LR	早期	并草	口縁部文様帯あり
50	2	38H	174	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒、白色粒、スコリア	口唇押圧縄文LR、RL、RL・LR	早期	并草	口縁部文様帯あり
50	3	38H	123	深鉢	褐色	褐色	細砂粒、細白色粒	口唇押圧縄文LR、LR、LR	早期	并草	口縁部文様帯なし
50	4	38H	317	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒、白色粒	口唇縄文LR、RL	早期	并草	口縁部文様帯なし
50	5	39H	177	深鉢	明褐色	褐色	細砂粒、細白色粒	燃赤文	早期	并草	口縁部文様帯なし
50	6	39H	1	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒、白色粒	口唇内から外段LR	早期	并草	口縁部文様帯なし
50	7	39H	178	深鉢	明灰褐色	明褐色	砂粒、白色粒	LR	早期	并草	
50	8	38H	1	深鉢	明褐色	黄褐色	砂粒	燃赤文	早期	并草	
50	9	38H	58	深鉢	灰褐色	明褐色	細砂粒、細白色粒	燃赤文	早期	并草	
50	10	39H	52	深鉢	褐色	褐色	砂粒、白色粒	LR	早期	并草	
50	11	38H	154	深鉢	灰褐色	明褐色	細砂粒、細白色粒	燃赤文	早期	并草	
50	12	38H	306	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒、白色粒、スコリア	横北縮区画、沈縮	早期	三戸・田戸下層	

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時期	型 式	備 考
					内面	外面					
50	13	39H	18	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒、白色粒、スコリア	横沈堀区画、沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	14	38H 39H	273・293 48	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	砂粒、白色粒、スコリア	沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	15	38H	321	深鉢	明灰色	明黄褐色	細砂粒、細白色粒	沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	16	38H	268	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	細砂粒、細白色粒、スコリア	沈堀	早期	三戸・田戸下層	内外面に黒炭ある
50	17	38H	47	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	細砂粒、細白色粒、スコリア	沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	18	38H	91	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	細砂粒、細白色粒、スコリア	沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	19	38H	1	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒、白色粒	沈堀	早期	三戸・田戸下層	底部に近い
50	20	38H	265	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	砂粒、白色粒、スコリア	沈堀、細沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	21	39H	60	深鉢	黒褐色	明黄褐色	砂粒、白色粒	沈堀、細沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	22	38H	1	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒	沈堀、細沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	23	39H	1	ミニチュア	赤褐色	赤褐色	砂粒、白色粒	小流状口縁、横沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	24	39H	168	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	砂粒、白色粒、スコリア	斜沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	25	39H	26	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	細砂粒、細白色粒、スコリア	沈堀	早期	三戸・田戸下層	
50	26	39H	33	ミニチュア	明褐色	黒褐色	細砂粒、細白色粒	無文、内外面ヘラナデ	早期	三戸・田戸下層	
50	27	38H	1・94・ 296	深鉢	赤褐色	赤褐色	細砂粒、細白色粒	散緑文	早期	子母口	27・28と同一個体であろう
50	28	39H	1・62	深鉢	赤褐色	赤褐色	細砂粒、細白色粒	散緑文	早期	子母口	
50	29	38H	1	深鉢	赤褐色	赤褐色	細砂粒、細白色粒	散緑文	早期	子母口	
50	30	38H	238	深鉢	赤褐色	赤褐色	砂粒、白色粒、スコリア	外面条痕文か	早期	子母口	
50	31	38H	208	深鉢	赤褐色	赤褐色	繊維、砂粒、白色粒	口縁割目、細沈堀	早期	子母口	
50	32	38H	217	深鉢	暗褐色	暗褐色	繊維、砂粒、白色粒	無文、内外面ヘラナデ	早期	子母口	
50	33	39H	177	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒	無文、内外面ヘラナデ、内面赤彩	早期	子母口	
51	34	39H	1・49・ 56	深鉢	灰色	灰色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、口縁割突、細沈堀区画、沈堀、刺突	早期	囀ヶ島	
51	35	39H	276・286	深鉢	明黄褐色	暗褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、細沈堀区画、沈堀、刺突	早期	囀ヶ島	
51	36	39H	286	深鉢	明褐色	暗褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、隆帯、細沈堀区画、沈堀、刺突	早期	囀ヶ島	外面に黒炭ある
51	37	38H	1・312	深鉢	暗褐色	暗褐色	繊維、白色粒	条痕文、沈堀区画、沈堀、刺突	早期	囀ヶ島	
51	38	39H T33	224 1	深鉢	褐色	褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、細沈堀区画、沈堀	早期	囀ヶ島	
51	39	39H	213	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、細沈堀区画、刺突、光埴、刺突	早期	囀ヶ島	
51	40	38H	127	深鉢	赤褐色	褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、細沈堀区画、刺突、光埴、刺突	早期	囀ヶ島	
51	41	39H	216	深鉢	明灰褐色	明灰褐色	繊維、細砂粒、細白色粒	条痕文、隆帯区画、刺突、光埴、刺突	早期	囀ヶ島	
51	42	39H	200・275	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、隆帯、刺突	早期	囀ヶ島	
51	43	38H	125	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、隆帯、沈堀	早期	囀ヶ島	
52	44	38H	128	深鉢	赤褐色	赤褐色	繊維、砂粒、白色粒	条痕文、沈堀区画、刺突、光埴	早期	囀ヶ島	

棟号	No	遺構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時期	型 式	備 考
					内面	外面					
52	45	38H	146	深鉢	赤褐色	暗褐色	織羅, 砂粒	条灰文, 細沈線区画, 刺突充填	早期	鴨ヶ島	
52	46	38H	153	深鉢	赤褐色	赤褐色	織羅, 砂粒	条灰文, 刺突充填	早期	鴨ヶ島	
52	47	38H	311	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒, 細白色粒	条灰文, 小波状口縁, 微隆帯区画, 沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	波状口縁。 48と同一個体であろう
52	48	38H	28	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒, 細白色粒	条灰文, 小波状口縁, 微隆帯区画, 沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	
52	49	38H	45	深鉢	黒褐色	明黄褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 細沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	外面下部が二次焼成で赤くなり割落
52	50	39H	1	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒, 細白色粒	条灰文, 細沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	51と同一個体であろう
52	51	39H	92	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒, 細白色粒	条灰文, 細沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	
52	52	39H	89	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒, 細白色粒	条灰文, 細沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	
52	53	38H	169	深鉢	明黄褐色	赤褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	
52	54	39H	235	深鉢	暗褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 沈線, 刺突	早期	鴨ヶ島	
52	55	39H	1	深鉢	明黄褐色	赤褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 沈線, 竹管による条線, 刺突	早期	鴨ヶ島	内面割落
52	56	39H	31	深鉢	赤褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 格子状細沈線	早期	鴨ヶ島	
52	57	39H	1・120・131	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	織羅, 細砂粒	条灰文, 小波状口縁	早期	茅山	
52	58	38H	44	深鉢	赤褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 小波状口縁	早期	茅山	
52	59	39H	268	深鉢	明赤褐色	褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文, 小波状口縁	早期	茅山	
52	60	39H	84	深鉢	明黄褐色	明灰褐色	織羅, 細砂粒	条灰文, 口縁割目	早期	茅山	
52	61	38H	107	深鉢	暗褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	無文, 口縁割目	早期	茅山	
52	62	38H	42	深鉢	明黄褐色	明赤褐色	織羅, 細砂粒	条灰文, 口縁割目	早期	茅山	
52	63	39H	4	深鉢	明灰褐色	明褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	無文, 口縁上部・外面腹縁文	早期	茅山	
52	64	38H	213	深鉢	暗褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	
52	65	39H	1	深鉢	暗褐色	褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	
52	66	39H	41	深鉢	明黄褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	
52	67	39H	237	深鉢	明黄褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	茅山	口縁に近い
53	68	38H	11・78	深鉢	暗赤褐色	赤褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	内面割落
53	69	39H	286・288	深鉢	明褐色	明黄褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	内面二次焼成で割落, 外面に黒斑ある
53	70	39H	89	深鉢	暗褐色	暗褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	
53	71	39H	13	深鉢	暗赤褐色	黒褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	鴨ヶ島・茅山	
53	72	39H	30	深鉢	暗褐色	黒褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	茅山	口縁に近い
53	73	38H	50	深鉢	暗赤褐色	赤褐色	織羅, 砂粒, 白色粒	条灰文	早期	茅山	底部に近い
53	74	38H	218	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	砂粒, 白色粒	隆帯, 沈線区画, RL	中期	加曽利E	
53	75	39H	183	深鉢	黒褐色	黒褐色	砂粒, 白色粒	隆帯, 沈線区画, RL	後期	安行1	
53	76	39H	255	深鉢	赤褐色	暗褐色	砂粒, 白色粒	条線文	後期	安行1	
53	77	38H	72	深鉢	暗灰褐色	暗灰色	砂粒, 白色粒	沈線区画, 無文	後期	安行重	
53	78	39H	181	深鉢	暗褐色	黒褐色	砂粒, 白色粒	条線文	後期	安行	
53	79	39H	228	深鉢	黒色	暗褐色	砂粒, 白色粒	条線文	後期	安行	

採回	No	遺構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時 期	型 式	備 考
					内面	外面					
53	80	39H	82	深鉢	黒色	暗褐色	砂粒, 白色粒	朱線文	後期	安行	底部に近い
53	81	38H	258	台付土器	黒色	黒色	砂粒, 白色粒	朝日隆帯区画, 榎, 朱線文	後期	安行 I・II	台付土器台部
55	1	T16	1	深鉢	暗褐色	黒褐色	砂粒, 白色粒	口唇RL, RL	早期	井草	
55	2	T17	1	深鉢	灰色	明黄褐色	砂粒, 白色粒	LR	早期	井草	
55	3	T13	1	深鉢	明褐色	明黄褐色	砂粒, 白色粒, スコア	沈線, 細沈線	早期	三ノ戸下層	
55	4	T13	1	深鉢	明灰色	灰色	繊維, 砂粒, 白色粒	朱直文, 浅沈線区画, 沈線, 刺交	早期	鴨ヶ島	
55	5	T15	1	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	砂粒, 白色粒	隆帯区画, RL	中期	加曾利E	
55	6	T31	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒, 白色粒	朝日隆帯区画, 堀	後期	安行 I	
55	7	T23	1	浅鉢	黄褐色	暗褐色	細砂粒, 顔白色粒	朝日隆帯・磨消帯区画, 朱線文	後期	安行 I・II	

第26表 稲荷山追分台道跡 縄文時代石器観察表

() 現存値

採回	No	遺構番号	遺物番号	器 種	石 材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	備 考
		38H	4	刮片	チャート	14.2	16.7	2.8	0.63	
53	85	38H	6	使用前ある刮片	頁岩	27.3	23.7	4.9	3.20	左側縁下部に使用痕
		38H	22	刮片	チャート	11.5	11.9	2.0	0.22	
53	83	38H	126	石鏃小	黒曜石	(11.1)	15.3	4.4	(0.71)	石鏃の基部小
53	84	38H	129	使用前ある刮片	チャート	20.6	21.1	0.9	3.91	右側縁に使用痕
54	91	38H	142	石核	チャート	44.9	45.2	17.9	35.40	
54	93	38H	157	石核	チャート	41.5	24.0	19.3	20.97	
53	88	38H	178	刮片	チャート	21.4	15.7	4.4	0.85	
54	89	38H	222	敲打痕ある礫片	花崗岩	123.4	66.4	24.5	77.99	自然面焼ける
53	82	38H	338	石鏃	チャート	22.2	13.6	3.7	1.07	
54	92	39H	144	石核	チャート	36.6	26.9	18.9	17.98	
54	90	39H	236	礫石	安山岩	68.6	61.1	41.9	257.8	自然面焼ける
53	86	39H	252	楔形石器	頁岩	29.8	26.7	9.8	8.72	
53	87	39H	257	使用前ある刮片	安山岩	36.6	35.7	15.4	23.02	礫面に指かかりの刺痕
54	94	39H	280	石核	チャート	31.2	39.1	18.4	24.65	
55	9	T19	1	刮片	安山岩	29.1	25.2	7.6	6.77	
55	8	T31	1	未製品	流紋岩	(37.3)	38.4	24.2	347.45	石斧未製品小

第27表 稲荷山追分台道跡 土師器・須恵器観察表

() 推定値, () 現存値

採回	No	遺構番号	遺物番号	器種	形状	器 種	容量 (ml)	遺存度	胎土	色調(色処理)・地成	口縁	備考		
													口径	底径
56	1	39H	1・138-167・209	土師器	甕	口縁 - 底径 7.9 器高 -	底部下平50%	精緻 白色粒	内面 2.51R2.6明赤帯 外面 2.51R2.6明赤帯	内面 - 外面 ハウケズリ	内面 2.51R2.6明赤帯 外面 ハウケズリ	器面割傷		
													内面 10R6.6赤帯	内面 ココナチヘラナチ
													外面 10R6.6赤帯	外面 ココナチヘラナチ
56	2	T14	1・2	土師器	甕	口径 (12.5) 底径 - 器高 -	口縁 - 腹部 20%	精緻 白色粒	内面 10R3.1黒帯 外面 10R3.1黒帯	内面 ナデ 外面 ナデ	内面 10R3.1黒帯 外面 ナデ	底外面 -		
													内面 10R3.1黒帯	外面 ナデ
													外面 10R3.1黒帯	外面 ナデ
56	3	T6-d	1	須恵器	甕	口径 - 底径 - 器高 -	腹部片	砂質 白色粒	内面 10R3.1黒帯 外面 10R3.1黒帯	内面 ナデ 外面 ナデ	内面 ナデ 外面 ナデ	底外面 -		
													内面 10R3.1黒帯	外面 ナデ
													外面 10R3.1黒帯	外面 ナデ
56	4	T11	1	須恵器	甕	口径 - 底径 - 器高 -	腹部片	精緻 赤帯	内面 10R7.1黒白 外面 10R7.1黒白	内面 ナデ 外面 ナデ	内面 ナデ 外面 ナデ	底外面 -		
													内面 10R7.1黒白	外面 ナデ
													外面 10R7.1黒白	外面 ナデ
56	5	T14	1・2	土師器	甕	口径 (12.5) 底径 - 器高 -	腹部下平 20%	精緻 白色粒	内面 10R6.6赤帯 外面 10R6.6赤帯	内面 ハウケズリ 外面 ハウケズリ	内面 ハウケズリ 外面 ハウケズリ	底外面 -		
													内面 10R6.6赤帯	外面 ハウケズリ
													外面 10R6.6赤帯	外面 ハウケズリ

第7章 成井原山遺跡

第1節 概要（第4・57・58・60図，図版35・36・39）

成井原山遺跡は、利根川に注ぐ尾羽根川の上流部の標高38m前後の比較的平坦で広い台地上に位置する。今回の調査区は、遺跡の中央を南北に縦断する形である。調査区の南北の端は斜面にかかっている。発掘調査は（1）～（3）の3次に分けて行った。（1）は平成18年4月24日～平成18年10月31日、（2）は平成19年4月2日～平成19年5月31日、（3）は平成23年4月11日～平成23年5月31日の期間であった。（1）～（3）の調査範囲は、第57・58図のとおりである。

旧石器時代の石器集中1か所、縄文時代中期の土坑3基、古墳時代後期の竪穴住居跡17軒、奈良時代の土坑墓1基、中世の溝9条を検出した。

第2節 検出した遺構と遺物

旧石器時代

石器集中（第59図，第28表，図版37・55）

下層確認調査で、3D-56に設定した確認グリッドにおいてソフトローム層から礫片1点を検出し、周囲を拡張して調査し、さらに礫片1点を検出した。この2点は、互いに接合し、同一の礫から打ち欠かれたものである。

この2点の礫片が出土した地点は、台地の平坦面が斜面へと変わる層部に位置し、旧石器時代の遺構が検出されることの多い場所である。台地の平坦面から斜面へ変化する場所であることから、関東ロームの最上層にあたるV層～Ⅲ層は、流出して層の厚みがなく、互いに混ざりあっていて、ソフトローム層として一括して把えるしかなかった。

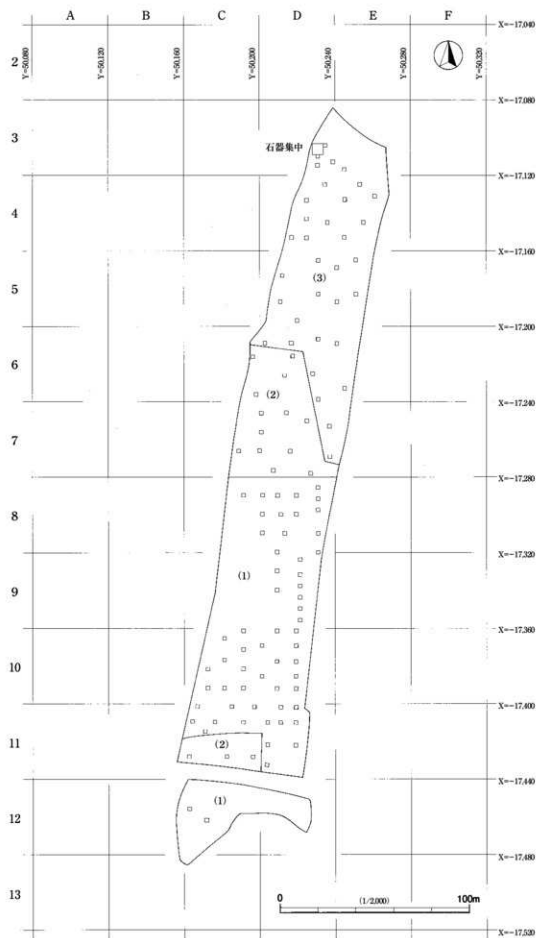
2点の礫片は互いに接合し、1から2が剝離されている。1には2の剝離面と反対側の面にも剝離面がある。この剝離と2の剝離の前後関係はわからない。2は1から剝離された後で、図の下側が、1からの剝離面側から打ち欠かれている。石材は黄灰色の安山岩質角礫岩であり、角状の褐色鉱物粒子の混入が目立つ。

縄文時代

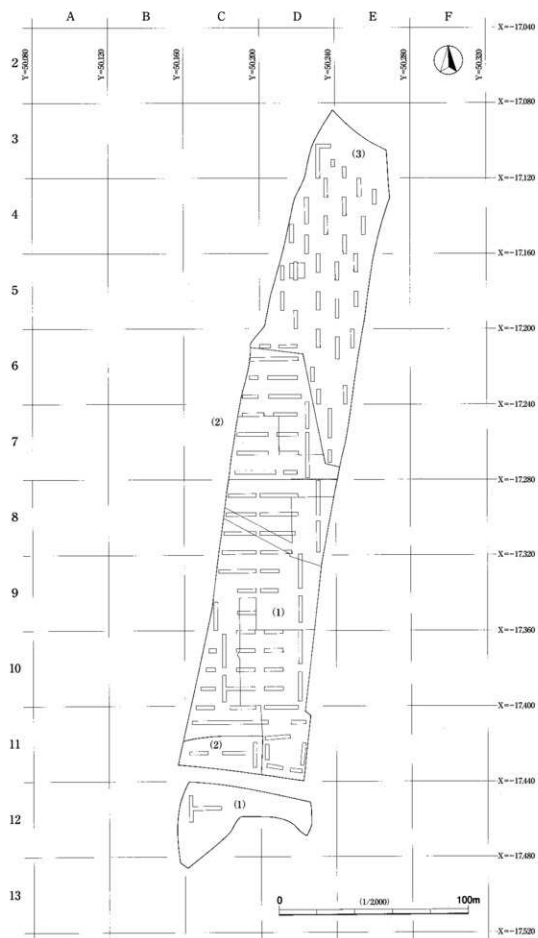
SK-025（第61図，第29・30表，図版37・55）

SI-025に東側を壊されている。このため本来の形や規模は不明である。隅丸方形であったろうか。壁は上広がりである。底面は平らではなく、土層断面から窺えるように、壁側から中心へと急角度で深さを増す。現存部分で、最大長4.3m、最大深0.8m前後である。

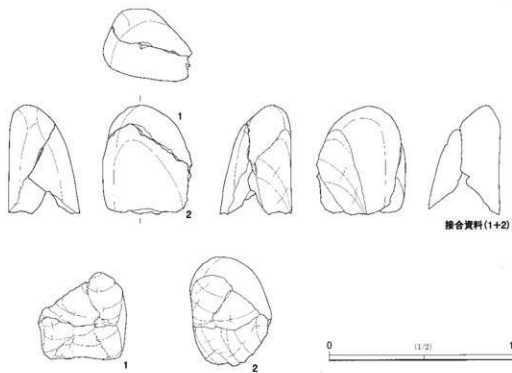
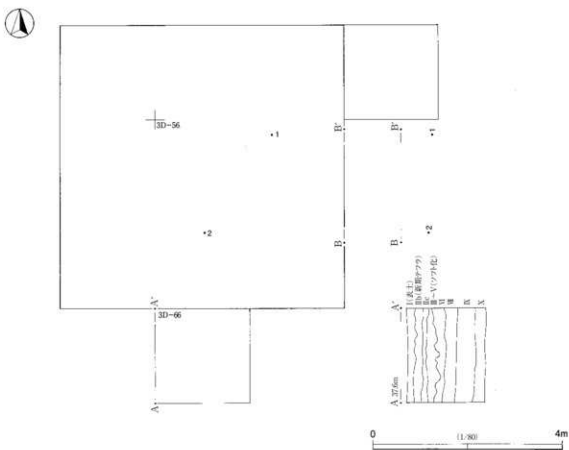
遺物は、縄文土器片・土器片錘が出土した。この土坑を壊しているSI-025は古墳時代後期の住居跡であるが、その覆土からは多数の縄文土器・土器片錘が出土している。それらのうちのいくつかは、本来この土坑にあったものが移動した可能性が考えられる。しかし、この土坑以外から入ったものとはっきりとは区別できないので、出土位置から明らかにSK-025から出土した遺物だけをここで示し、SI-025から出土した関連すると思われる遺物は、代表的なものを遺構外出土の遺物として示す。



第57図 下層確認グリッド配置図



第58図 上層確認トレンチ配置図



第59図 旧石器石器集中出土状況・出土石器

1～5は中期後半の加曾利E式の土器である。1は口縁の突起片でE1式になろう。図の左側面では、蛇行する隆帯に、竹管を横から刺して細かい刻みを入れる。2・3は口縁で、2はE1式かと思われる。口縁に幅2cm強の粘土帯を貼り付ける。3はE2式である。4・5は胴部で、ともにE2式である。4は縄文の地に横方向に幅5mmほどの浅い沈線を引き、胎土に雲母の混入が目立つ。遺構外出土の23の縄文土器と同一個体の可能性が高い。6は土器の胴部破片を利用した土器片鏝である。左下側が欠ける。

SK-029 (第62図, 第29～31表, 図版38・55・56)

底面は円形で、断面は袋状である。開口部は楕円形に近く、長径1.9m、短径1.4mである。開口部から底面までの深さは1.1mである。開口部から深さ0.3mほどでいったん狭まり、そこから底へ向かって広がる。底面はほぼ円形で、径2.2mである。平坦であるが、南北に楕円形の浅い凹みがある。

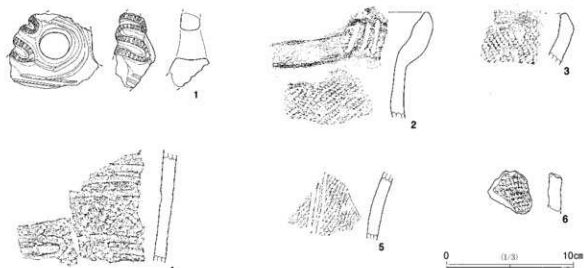
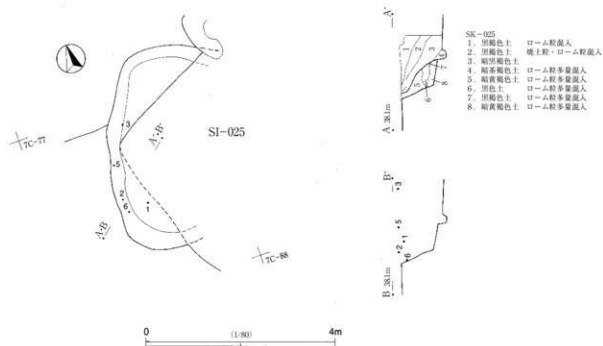
遺物は、縄文土器・土器片鏝・石斧が出土した。1～4は中期後半の加曾利E式の土器である。1は口縁から胴部にかけての破片で、波状口縁の波頂下に橋状の把手がつく。把手の上部は欠ける。口縁部は隆帯で施文するが、胴部は沈線で施文する。把手下の無文部と頸部の無文帯は、縄文を細いヘラで磨り消す。口縁下のふくらみが弱い。E1式とE2式の間に位置しよう。胎土に雲母が混入する。2～4は口縁片である。2は口縁直下に横方向の隆帯をつけ、その下に幅広で中ほどが凹んだ隆帯を渦巻形につける。地文はない。加曾利E1式である。3は口縁下に横方向の、その下に波状の隆帯をめぐらす。隆帯の整形にあたり、半截竹管を被せるように当てながら引いて、隆帯の断面を半円形にしている。加曾利E1式である。4は細い半截竹管で波形文様と渦巻状文様を彫った後、出来た文様の表面をナデで仕上げる。彫った沈線の上に、ナデた際に軟らかだった胎土が押しつぶされてかぶさった様子が見える。胎土には長石粒の混入が目立ち、雲母も混入する。断面は表面を除いて黒色である。5は土器の胴部破片を利用した土器片鏝である。無文である。雲母の混入が目立つ。6は磨製石斧である。図の上部が欠ける。現存部は、身の中ほどの両側面を抉って細くする。刃部は、片側だけ磨いて平滑な刃面を作り出す。全体として、打製形をおおむね作った上で、部分的に磨いて仕上げる。石材は黒色の輝石安山岩である。

SK-030 (第63・64図, 第29～31表, 図版38・56・57)

SK-029の北東2mほどのところに位置する。形態は同じで、開口部と底面は円形で断面は袋状である。開口部はほぼ円形で、長径1.4m、短径1.2mである。開口部から底面までの深さは1.0mである。開口部から深さ0.2mほどでいったん狭まり、そこから底へ向かって広がる。底面はほぼ円形で、径1.8mである。平坦である。

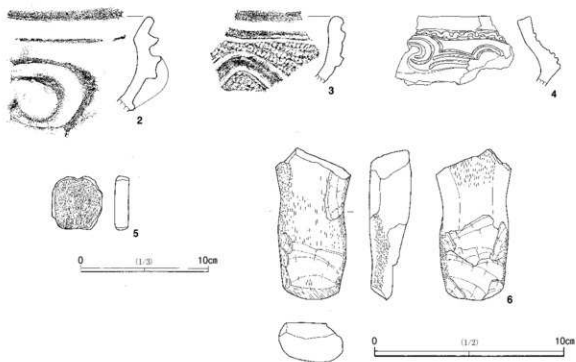
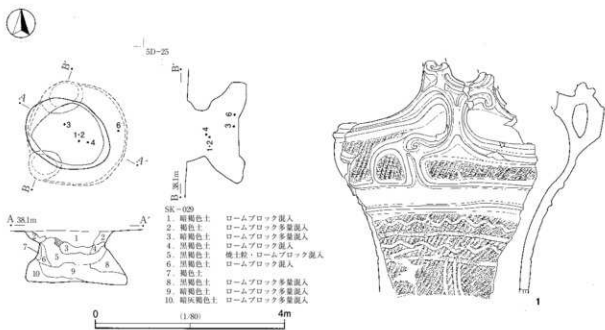
遺物は、底面の東側の壁沿いで大形の土器が並んで2点出土した。第63図1・第64図4である。1は口縁を上にした状態で出土した。4は1の南脇で、1の方に口縁を向けて横倒しになった状態で出土した。その他に2・3の口縁部、5の胴部、6の底部と7・8の石器が出土した。

1は口縁から胴部下半まで全周するが、底部を欠く。埋納された時点で、底部が抜けていた可能性が高い。口縁部は無文である。文様帯の上段の区画帯は、幅8mmほどの沈線を引いたところへ、その上下の縁に交互に刺突痕をつけ、さらにそれらの刺突痕の間を縫うように細い粘土紐を這わせ、最後に粘土紐の表面をナデで平らにして仕上げる。その下の文様帯は、縄文の地をつくった後で、それを消すように、隆帯を横方向やS字状に廻らせて文様をつくる。隆帯は基本的には無文であるが、図の正面とした縦向きの平行する2本の隆帯には、縄文がつく。隆帯による文様は、同じ形の繰り返してはないので、図の下側に、正面から右半周分と左半周分を2段に分けて示す。図の正面とその裏側で全く異なることがわかる。胎土

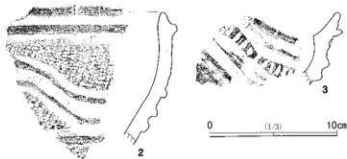
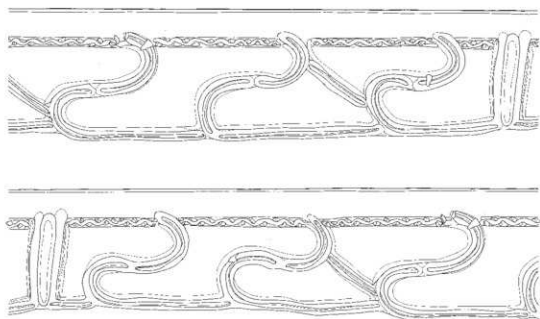
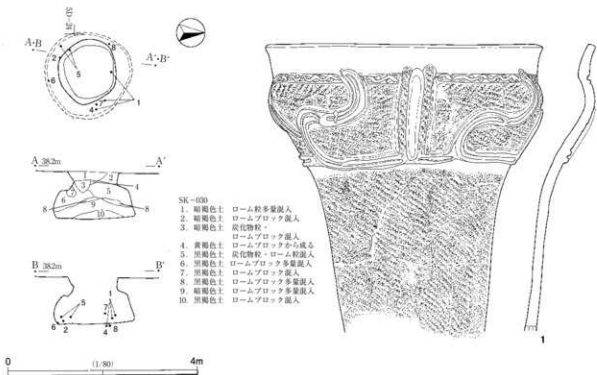


第61図 SK-025・出土遺物

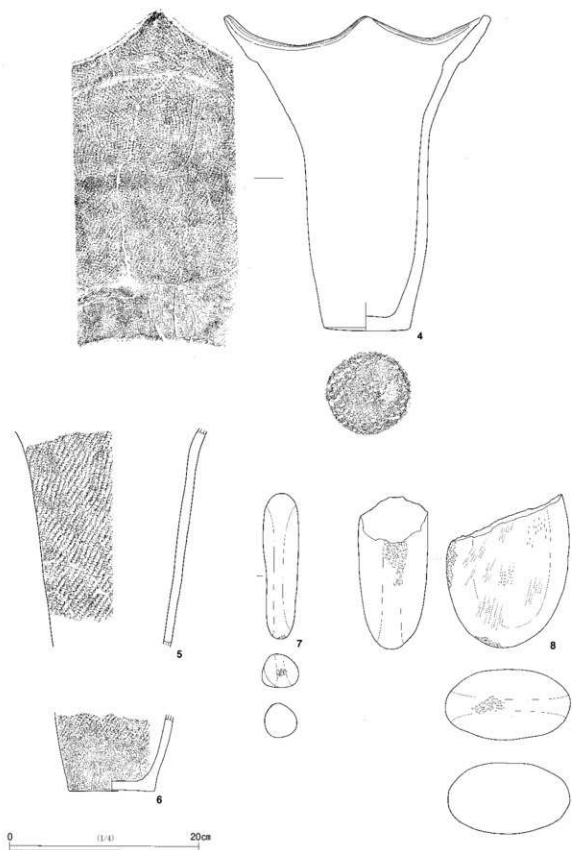
は雲母の混入が目立つ。加曾利E1式である。なお、この土器の一部の破片はSK-029から出土したが、大形の破片が出土した、この土坑の遺物として報告する。このようにSK-029とSK-030の土器片が接合することは、2基の土坑の時期が同じであることを示唆する。2は隆帯を横方向と波状に廻らせる。粘土紐を貼り付けた波状の隆帯には、上下の縁の上側だけ竹管で本体にナデ付けて済ました簡素化が見られる。加曾利E1式である。3は波状口縁の一部で、隆帯を横方向に廻らせる。上とその下の隆帯の間の文様帯には、板状の工具で図の左側から刺突した方形や三角形の刻みを横に連ねる。4はほぼ完全に復元できた



第62図 SK-029・出土遺物



第63図 SK-030・出土遺物(1)



第64图 SK-030出土遺物(2)

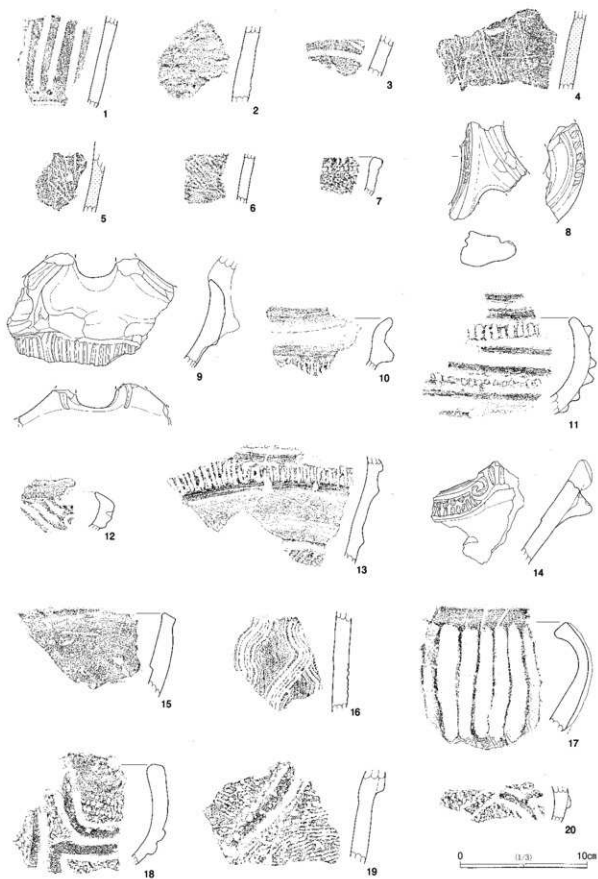
が、波状口縁の4つある波頂のうちの2つと胴部下半の一部が欠ける。口唇には、波頂を除いて、沈線を廻らす。口縁の内外面とも薄く帯状に粘土を貼り付けて厚みを増している。しかし、貼り付けた部分の境目は、ナデで消すことをせず、意図的に遺している。断定できないが、口縁の波頂は、平らに積み上げた胴部上半の該当箇所を、粘土の板を上からくるみ足して高くしているように見える。口縁から胴部下半にかけて縄文を施す。その下側は無文である。底面は、敷物痕を消している。胎土は雲母が混入する。欠けた2か所の波頂部付近の口縁は、火を受けて赤くなり表面が荒れた様子が見られる。また、土器表面の底部から15cmより上は黒くなっており、炭化物やタールが付着している。15cmより下側は、荒れていない。5は一部が全周する。全面縄文である。この土器も、胴部の上半分は、黒くて炭化物やタールが付着している。胎土は雲母が混入する。6は底部片である。上側で縄文が終わる。底面は敷物痕をきれいに消す。胎土は雲母が混入する。内面は胎土の表層まで黒くなり、炭が染みこんでいる。7・8とも敲石である。7は細長い礫をそのまま利用し、細い方の端部を使用する。砂岩である。8は図の上部が欠ける。楕円形の礫をそのまま利用する。2面を使用する。安山岩質角礫岩である。

遺構外出土遺物（第65～69図、第29～31表、図版57～62）

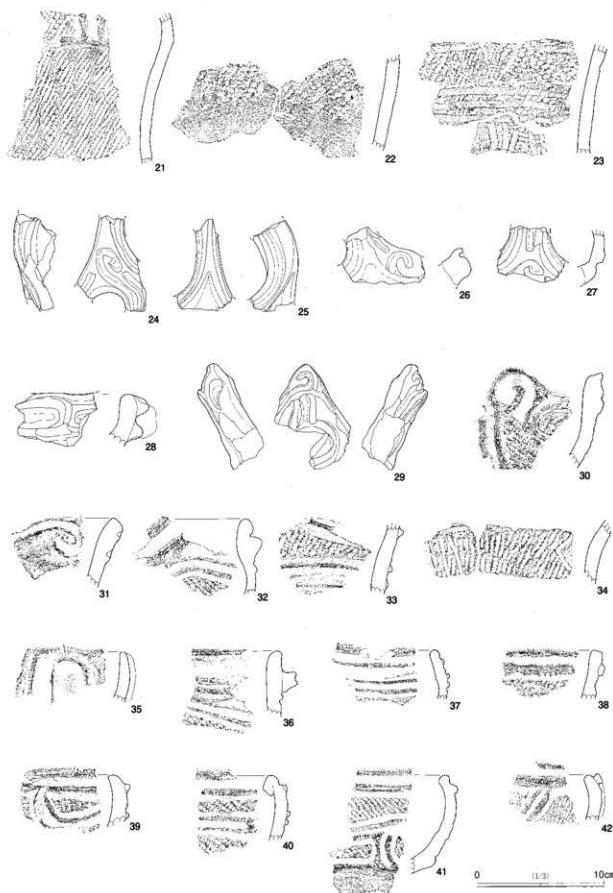
縄文土器・土器片・石・石核・敲石等が出土した。

土器 中期の加曾利E式が大部分である。1～6は早期の田戸下層式・田戸上層式である。1～3は、断面半円形の沈線を引く。2は外面が荒れて明瞭ではない。4～6は竹管で平行沈線を引く。7は中期初頭であろう。口縁下に水平と斜めに竹管による細かいU字形の刺突列があり、その間の区画に竹管の端を押しつけた丸い刺突が点在する。

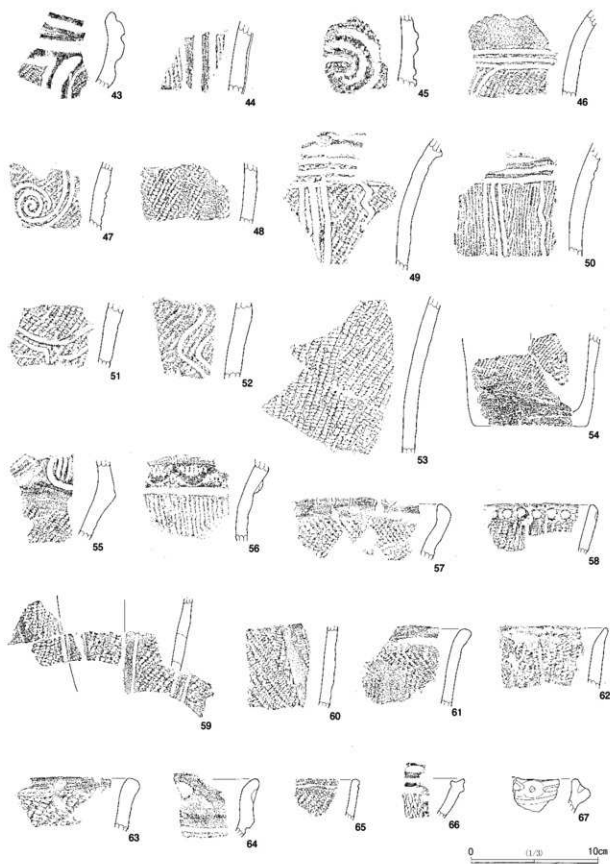
8～64は中期後半の加曾利E式である。縄文時代中期の土坑であるSK-025を壊して造られた古墳時代後期の住居跡SI-025とその周辺の7C・7Dグリッドで多く出土する。8は口縁の把手片である。側面に刺突を列ねる。9は把手の基部片である。外面の横方向の隆帯の中ほどは剥落する。内面にも沈線がある。内外面とも摩耗し、二次焼成であろうか。10の口縁は波状で、左側が高くなる。11は隆帯で上下に区画した文様帯に、上は大きく下は小さく、方形の工具で列状に刺突する。12は深い断面V字形の沈線を引く。右下の円形の文様は、細い沈線で浮き出す。13は上の文様帯は、太い竹で爪形の刺突を列べる。下の文様帯は、縄文を施文した後で隆帯を付ける。14は波状口縁で、幅広につくった部分に沈線を引き、方形の工具で刺突を列べる。15は無文である。16は条線を上から下へ左右に屈曲させながら引く。17は縦に粘土紐を貼った後でヘラでナデつける。18は波状口縁で左が高く、LRの縄文を、口縁近くでは下から上に、下では横に転がす。19は無節Lの縄文をさまざまに転がす。21は上部の外面が剥落する。全面縄文である。縄文原体を横に転がして施文するが、その際に、上から下まで始めと終わりの位置を揃える。結果として上下に走る細長い無文部分ができていく。22・23は雲母の混入が目立つ。23はSK-025の4の土器と同一個体か。24～27・29は把手である。29は外面に粘土紐を貼る。28は前記のような把手が付く土器の口縁になろう。30は波状口縁で、隆帯をつくった後で、中ほどはLRの縄文を下から上に転がし、右側の区画は無節Lの縄文を横に転がす。31はゆるい波状口縁で、口縁の厚みが、左側に行くほど薄くなり、沈線が口縁上を走るようになる。34は縄文を施文後、横に浅い幅広の沈線を引き、次に縦に直線あるいはジグザグに細い沈線を引く。35は断面三角形に整形した隆帯を走らせる。37は下縁に縄文が付く。38は下側にも隆帯がある。摩耗する。上側の隆帯は、粘土紐を貼っただけである。39は隆帯の区画内の縄文を磨り消す。43は波状口縁である。44は縦に2本の隆帯が走り、下縁を横に沈線が走る。深い縄文である。45は



第65図 縄文時代遺構外出土遺物 (1)



第66図 縄文時代遺構外出土遺物 (2)



第67図 縄文時代遺構外出土遺物 (3)

雲母の混入が目立つ。渦状の隆帯と縄文である。隆帯には点状の剝落が目立つ。46は横の3本の沈線から上の縄文を磨り消す。48は右側に縦長の縄文を磨り消した無文帯がある。49は上線の隆帯の中ほどが、押されてつぶれる。縄文を消して沈線を引く。50は雲母の混入が目立つ。擦糸文を消して沈線を引く。54は底部である。下部は縄文を磨り消す。55は沈線で区画した中も、縄文ではなく、沈線である。内面は丁寧に磨く。56は擦糸文の施文後に、横の隆帯を付け、さらに下の端がそれに重なるようにジグザクに粘土紐を貼る。56までは加曾利E1式に相当しよう。57は口縁とその下側で縄文の転がす方向を上下逆に変える。58は口縁に断面円形の工具による刺突を並べる。中ほどは刺突から下の縄文を帯状に磨り消す。さらにその右縁に沿って沈線を引く。59は輪積の粘土紐の境目で横に割れる。60は原体を転がす方向を上下に変えることで、縄文をV字形にする。右端は縦に帯状に縄文を磨り消す。61は縄文施文後にナデる。62は口縁の調整が粗い。64は左端を指でつまんで高くし、外面を凹ます。沈線の下に縄文があるが、原体はよくわからない。ここまでは加曾利E2式になろう。

65~71は後期の堀ノ内式になろう。69を除くと小片である。69は調整が全体に粗い。72~77は晩期の荒海式である。72は折り返してつくった口縁の外面に擦糸文を施文する。73は糸線である。74・75は擦糸文。76は糸線。77は竹管による平行沈線である。どの破片も内面を磨くが、72~74は特に丁寧である。

土器片 17点であるが、そのうち14点はSI-025からの出土である。SK-025の説明で述べたように、SI-025はSK-025を壊す。SI-025の廃絶後にSK-025の覆土が流れ込み、その中の土器片が混ざった可能性がある。78はほぼ方形に作る。79・81~84・87~89・91~93は一部欠ける。86は円形に作る。80・82・84・86~89・93・94は、側面を部分的に磨る。78~83・89~91は二次焼成される。

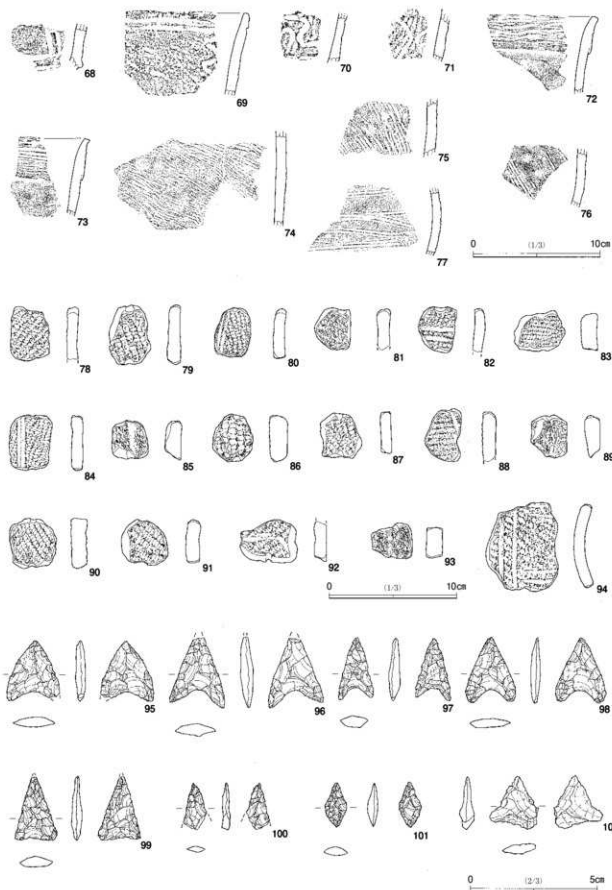
石器 95~102は石鏃である。95~98は凹基、99は平基、100は先端片で基部不明、101は凸基、102は未製品か。石材は95・97~100がチャート、96・102が安山岩、101が一部無色の黒曜石である。95・98・99のチャートは灰色で、97・100のチャートは黒色である。96の安山岩は黒色で、102の安山岩は暗灰色である。101の黒曜石は一部無色で不純物が見えない。103は黒曜石の石核である。全体に黒色で不純物が目立つ。1面の表面は風化で白濁する。104は花崗岩の破片である。105は黒色の地に灰色の粒が目立つ安山岩製の敲石である。正面・背面・側面の全てを使う。106は流紋岩製の敲石・磨石である。磨った面は平滑である。表面積の7割くらいが焼けて赤くなる。

古墳時代以降 (第60図・図版39)

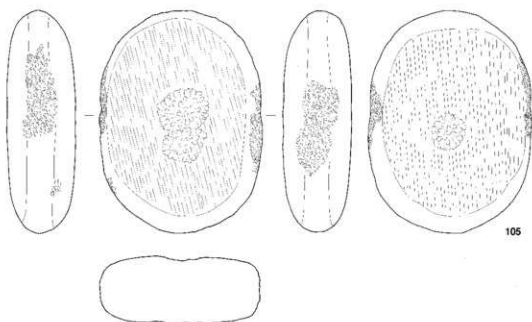
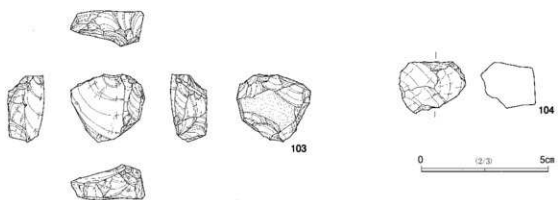
竪穴住居跡17軒、土坑墓1基、溝9条を検出した。竪穴住居跡は、遺物を伴わないものや遺物が少ないものがあるが断定はできないが、いずれも古墳時代後期と思われるが、奈良時代に下るものがあるかもしれない。竪穴住居跡の分布をみると、南北に伸びる調査範囲の中ほどから南側に限られる。さらに細かくみると、分布範囲の中で北と南に集中して、中ほどに南北60mの分布しない空白域がある。土坑墓は、奈良時代と思われるが、遺物は、埋め戻された土の中から破片で出土している。溝は中世と思われるが、古墳時代の土師器片がまともに出て出土しているものもあり、時期が遡る可能性もある。

SI-001 (第70・71図、第32・33・37表、図版40・63)

10D-23~25・33~35・44に位置する。主軸はN-30°-Wである。正方形に近く、一辺5.6mである。深さは0.1m~0.4mである。床面標高は37.8mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。柱穴の深さは、図の右上から時計回りに44cm、43cm、34cm、51cmである。四方の壁に沿って狭くて浅い溝がめぐる。



第68図 縄文時代遺構外出土遺物（4）



第69図 縄文時代遺構外出土遺物 (5)

遺物はカマドの東側でまとまって出土した。1～5は土師器杯である。1は口唇をはじめ外面全体が摩耗する。外面の上部に黒色処理の痕が残る。内面は丁寧なミガキをする。3は粗雑なつくりで、口唇は波打ち、口縁下にヘラケズリ痕を遺す。横方向の仕上げのナデは見られない。4も粗雑な仕上げで、内面は丁寧なヘラケズリで整形した後に、口縁から体部を外面と同時に指でヨコナデするが、ヨコナデは外面ほど丁寧でなく、ヘラケズリ痕をかなり残す。5は口縁のヨコナデの下を内外面ともミガキに近い光沢あるヘラナデをする。内面のヨコナデは幅がごくせまい。6～9は土師器鉢である。8は内面のナデ痕が外面とは違うハケ目のようなナデ痕で、土器表面が軟らかい段階で整形する。10は土師器高杯の脚部である。外面に2条の輪積痕が残る。内面の脚部側はヘラナデし、それより下はナデる。11～16は土師器甕である。11は内面が剥落し、底部外面に木葉痕が付く。12・14・16は内面が剥落する。17は土師器瓶である。18は土師器甕の胴部破片を転用した砥石である。胎土は砂が混ざり、焼成は精緻である。研ぎ痕の溝は、断面がV字形で、中ほどが両端に比べて幅広く深い。このことから、研ぐに当たって、刃を奥から手前にU字形に動くように砥石に当たったことがわかる。19・20はともに土製支脚で、下部を欠く。19は破片になって、カマドの中から出土した。20はカマドからやや離れた東側で出土した。19と20の胎土・焼成・色調はよく似る。

SI-002 (第72・73図, 第32・38～40表, 図版41・63・64・75)

11D-40・41・50・51に位置する。主軸はN-5°-Eである。東側の壁が攪乱を受けるが、正方形に近く、一辺5.0m～5.2mである。深さは0.2m～0.3mである。床面標高は38.5mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。さらにカマドと向い合う位置に、住居の出入用ハシゴを据えた方形のピットが1個ある。北東側の壁を除いて、四方の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。

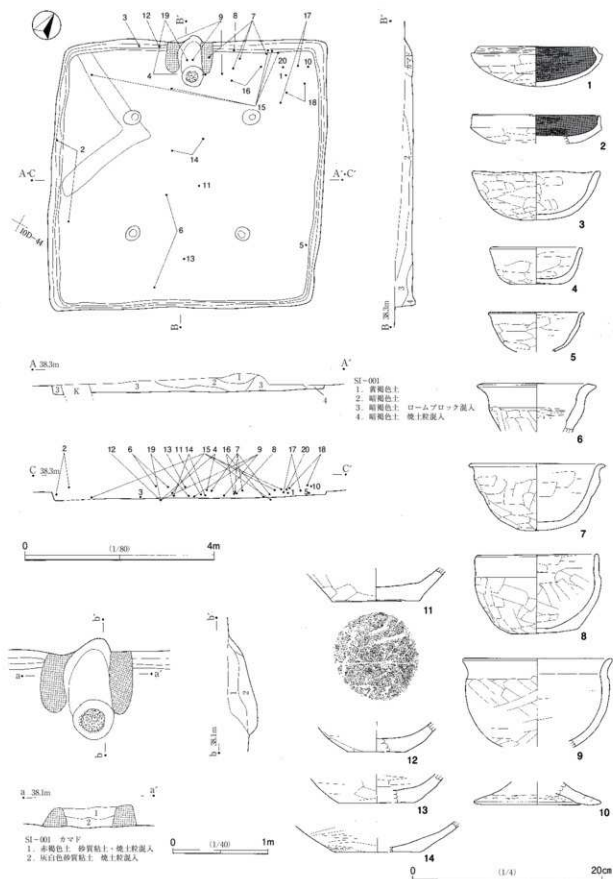
1～3は土師器杯である。1は外面を、全体に縦方向にヘラケズリした後に、口縁から下側を2段にわたり横方向にヘラケズリして整形する。4～10は土師器甕である。5・8は内面が剥落する。6は常総型の底部で、胎土に雲母が目立ち、外面が炭で黒ずむ。8の内面のヘラナデ痕は、粗いハケ目のようである。9も常総型の甕で、胎土に雲母が目立ち、胴部の外面下半は、炭で黒ずむ。6・9は胎土と外面の整形がよく似るが、内面の色調が違い、9の内面が荒れていることから、別個体と判断する。10の口縁は、つまみ上げ方が弱い。破片は住居跡の中央から出土した。

11は流紋岩製の砥石である。立方体の6面のうち、円化していない1面以外を使用する。12は鉄製のスキ・クワ先と思われるが、内側の木部との挿着用のソケット状の溝と判断したところは、製品の内部が錆で空洞になってきた隙間の可能性もある。13は鉄製刀子の柄部の破片である。ほかにスラグが1点出土した。

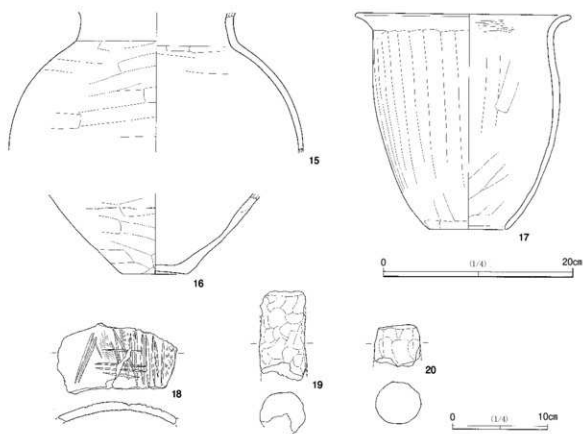
SI-003 (第74図, 第32表, 図版41・64)

11D-52・53・62・63に位置する。主軸はN-15°-Eである。北東角がSI-004と切り合う。正方形に近く、一辺3.6m～3.8mである。深さは0.2m～0.3mである。床面標高は38.6mである。カマドは、北側の壁にあったと推測されるが、攪乱で不明である。床面のほぼ中央に、炉と思われる焼けた部分があり、その西側の覆土には山砂入りの焼土ブロックが見られた。柱穴は4個ある。さらに南側に出入口用ピットが1個ある。四方の壁に沿って、狭く浅い溝がめぐると推測されるが、北側と南側は、攪乱で不明である。

1・2は土師器杯である。1は内面に、中心付近で互いに交差する放射状の暗文があり、口縁と内面の中心付近に炭が薄く付く。2は外面がところどころ荒れる。



第70図 SI-001・出土遺物(1)



第71図 SI-001出土遺物(2)

SI-004 (第75図, 第32表, 図版41・64)

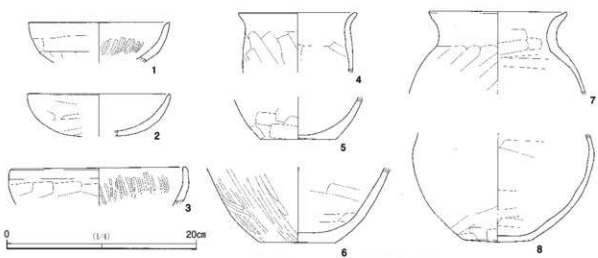
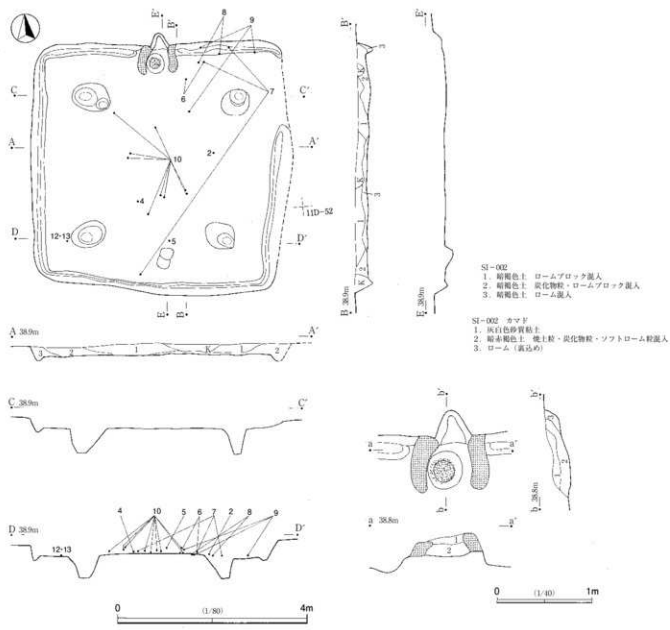
11D-43・44・53・54・64に位置する。主軸はN-23°-Eである。南西角がSI-003と切り合う。西側が広い台形で、北・東・南の壁は長さ3.8mであるのに対して、西壁は4.6mである。深さは0.2m~0.3mである。床面標高は38.7mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。

1は土師器杯である。内面に黒色処理の暗褐色の痕跡が見える。接合した2点の破片のうち一方は、内外面ともひどく摩耗し、にぶい黄橙色の地肌が出る。2~4は土師器甕である。2は常総型の胴部であろう。3は小型甕で頸部内面をヨコナデした後にヘラナデする。胴部外面下半は、炭で黒ずみ、その様子は杯などの黒色処理された器表面に近い。同じ胴部外面下半の一部分は、表面が5mm程度剝落した後に、炭が付く。カマドの左側で出土した。4は常総型甕の上部である。2の甕の上部である可能性がある。

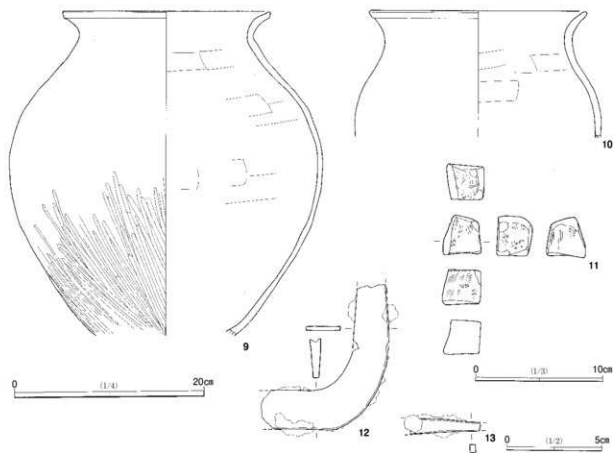
SI-005 (第76図, 第32・39・40表, 図版42・64・75)

11D-55・56・64~66・75に位置する。主軸はN-55°-Wである。住居跡の東側半分は調査範囲外である。方形で、カマドのある辺は長さ7.3mである。深さは0.3m~0.5mである。床面標高は38.6mである。カマドは北西側の壁の中ほどにある。柱穴は2個調査した。北西側の壁のカマドの脇から南西側の壁に沿って狭くて浅い溝がめぐる。

1~5は土師器杯である。1の内外面には黒色処理の暗褐色の痕が残る。3はほぼ完形で口縁に長さ6



第72図 SI-002・出土遺物（1）



第73図 SI-002出土遺物(2)

cmほどの炭による黒ずみがある。カマドの手前の床面で正位で出土した。5は底部外面が剥落する。6は土師器鉢である。7・8は須恵器杯の蓋である。7は縁を内側に折り返した後、その中ほどに指を当ててロクロ成形で受け部をつくり出す。回転ヘラ切りで台から切り離す。その段階で誤ってヘラを刺した痕が数か所外面に残る。7世紀後半であろう。8は蓋の口縁の小破片である。高さがあり、これも7世紀後半であろう。9は土師器小型甕である。10は鉄製刀子の柄である。ほかにスラグが3点出土する。

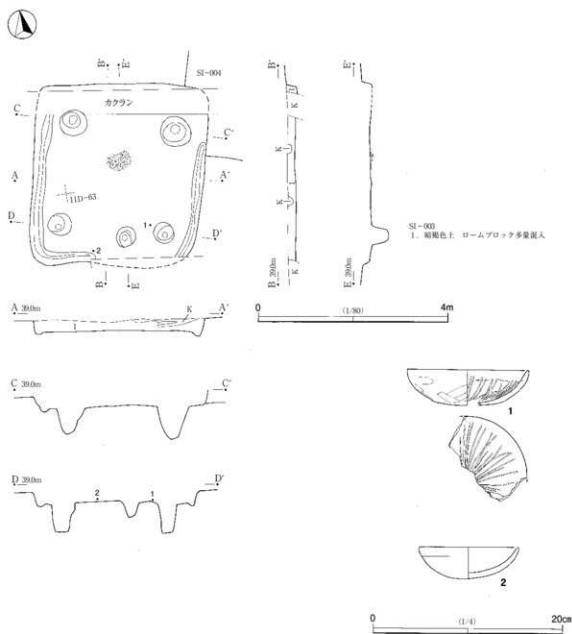
SI-006 (第77図, 第32表, 図版42)

11D-94・95に位置する。主軸はN-25°-Eである。住居跡の東側と南側は調査範囲外である。方形で、カマドのある辺は、通例カマドは中ほどにあることから、長さ5.5mほどと推定される。深さは0.3mである。床面標高は38.5mである。カマドは北側の壁にある。柱穴は1個だけ調査した。深さは46cmである。南側の深さ38cmのところに段がある。北側から西側の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。

1は土師器小型甕である。

SI-009 (第78図, 第32表, 図版43)

11D-35・36・45・46に位置する。主軸はほぼ真北である。住居跡の東側は調査範囲外である。方形と推定され、西側の辺は長さ4.5mであるが、南側の辺は東へ行くほど外側に広がる。深さは0.4mである。床面標高は38.6mである。カマドは北側の壁にある。柱穴は2個調査した。北側から西側、南側の壁に



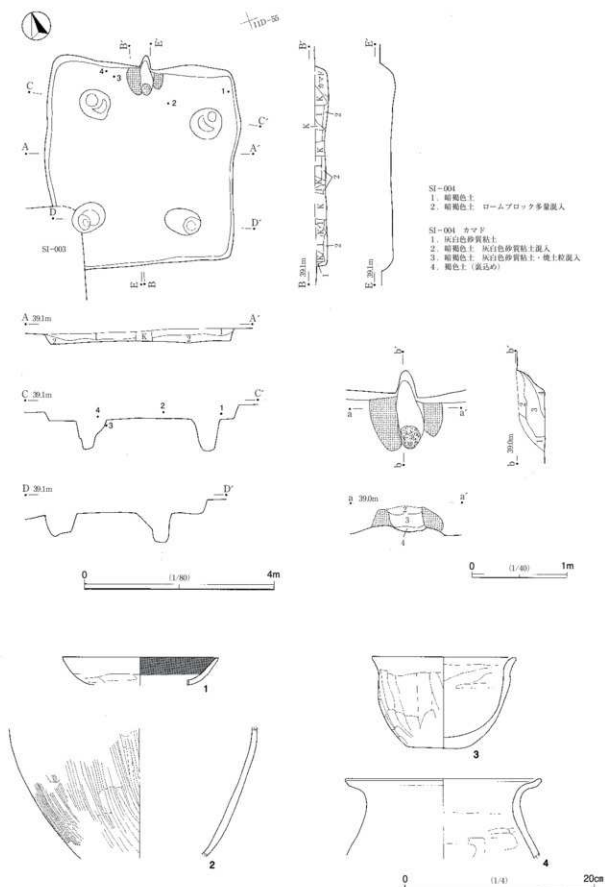
第74図 SI-003・出土遺物

沿って狭く浅い溝がめぐる。

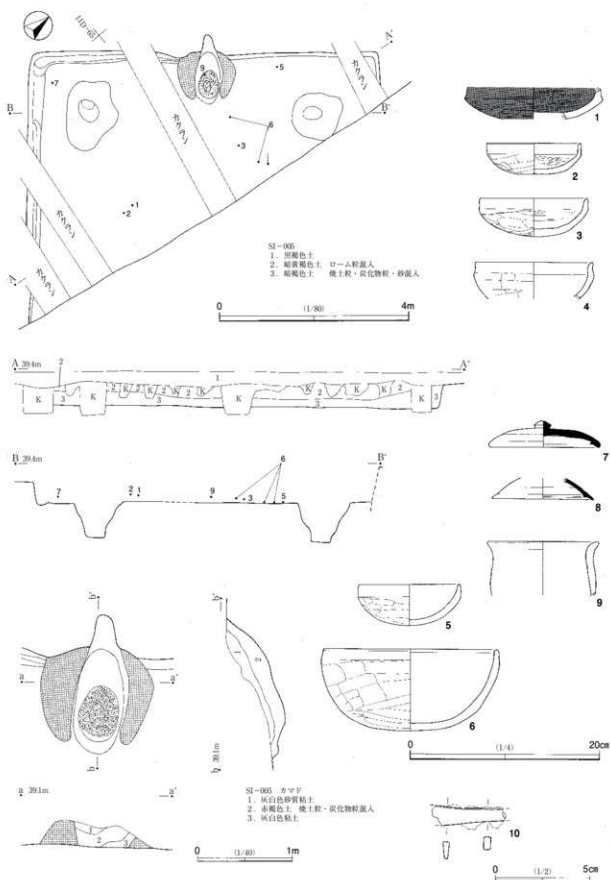
1・2は土師器甕の底部である。ともに外面は、棒状ヘラで上から下に向かって丁寧にナデる。常総型の底部である。

SI-011 (第79・80図, 第32・37~39表, 図版43・44・65・75)

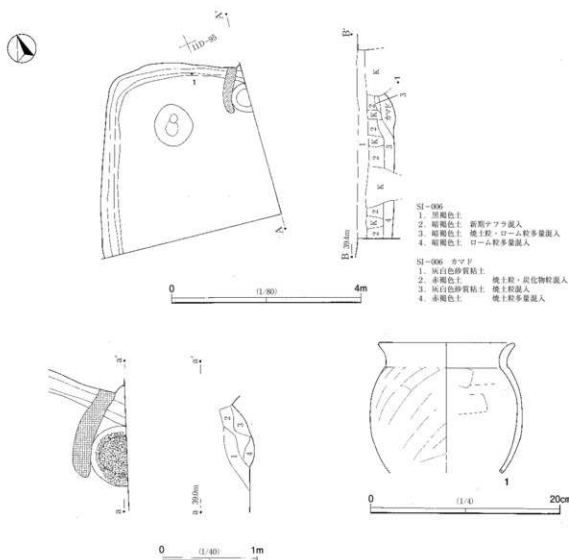
10D-72~74・82~84に位置する。主軸はN-20°-Wである。ほぼ正方形で、一辺5.5m~6.0mである。西側が狭く東側が広い。深さは0.2m~0.5mである。床面標高は37.9mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。四方の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。



第75図 SI-004・出土遺物



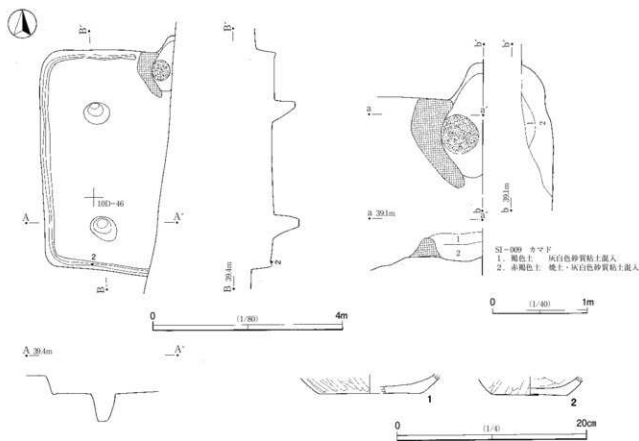
第76図 SI-005・出土遺物



第77図 SI-006・出土遺物

遺物はカマドの前から柱穴列の間でほぼ出土した。

1～4は土師器杯である。2は内外面とも黒色処理の痕が残る。外面は、上半は痕跡が明瞭であるが、下半は剥落して、処理の有無は不明である。3・4の黒色処理は明瞭で、内面は光沢がある。5は土師器高杯の杯部である。外面の脚部側は、縦方向のナデで整形する。6は土師器鉢である。外底面はさまざまな方向にヘラケズリする。7～9は土師器甕の底部である。7の内面は熱により剥落する一方で、砂の付着物もあって、調整が不明である。カマド左脇から出土すること内面の砂の付着から、支脚に関連する可能性がある。その場合、外面に熱を受けた様子がないので、火床に正位で埋められて支脚を受けて支えたと推測される。8も内面は熱により剥落するが、外面は焼けた様子はない。9は内外面とも焼けた様子はない。10は土師器甕である。常総型である。外面は全体に焼けて剥落する。このため、調整痕の残りが悪い。11・12は土師器甗である。11は外面が使用により炭化物で黒ずみ、一部は光沢を帯びるほどである。

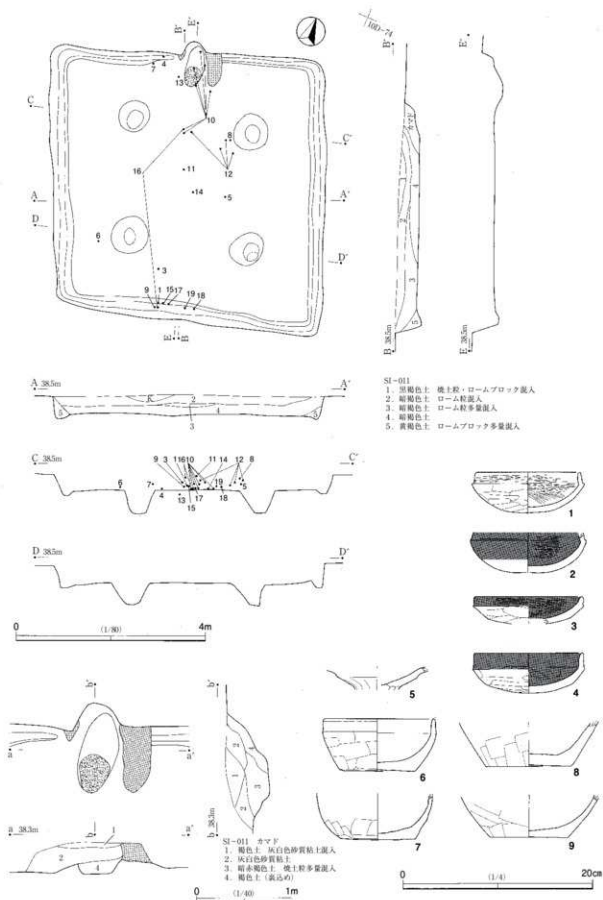


第78図 SI-009・出土遺物

12は内面が全体をヘラケズリした後に部分的にヘラナデし、外面の大部分が使用により炭化物で黒ずむ。11・12は内面の状態などから別個体であろう。13・14は土製支脚である。13はカマドの左脇から出土し、14は住居跡の中央で出土した。13は断面が方形で、下部を欠く。胎土に砂粒が目立つ。焼成は良好である。14は断面が円形で、上部・下部を欠く。胎土に砂粒は目立たない。焼成はやや不良である。SI-001出土の2点の支脚に近い。15～18は砥石である。全て、住居跡の南側の壁沿いの、カマドと向かい合う場所で出土した。15は砂岩製で図の上部を欠く。図の下面は自然面が残る。16は流紋岩製で、図の上面は自然面が残る、下面は一部摩耗した面がある。中ほどの使い込んで最も細くなったところで折れている。17も流紋岩製で、図化した2面以外は自然面が残る。右側の図の敲打痕のある面は、敲打痕のまわりがあまり摩耗していない。18は片岩の塊である。表面はザラザラとして脆い。図の真ん中と右側の面の上部1/3ほどは、やや摩耗しているように見える。荒砥石にする目的で遺跡に持ち込んだと推測される。19は鉄製刀子である。上記の砥石の集中の中から出土する。両端を欠く。柄の部分に木質の残痕がある。

SI-012 (第81・82図, 第32・37・38表, 図版44・45・65・66)

10D-42・43・52・53・62・63に位置する。主軸はN-20°-Wである。住居跡の南西角は、SD-007に壊される。方形で、南北に長く、東西方向が6.0mに対して南北方向は6.4mである。深さは0.3m～0.4



第79図 SI-011・出土遺物(1)

mである。床面標高は37.7mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。柱穴の深さは、図の右上から時計回りに57cm, 57cm, 62cm, 84cmである。カマドの東側、柱穴の北側に、貯蔵穴がある。円形で、直径50cm, 深さ49cmである。カマドと反対側の南側の辺の内側には、辺に沿って、狭く浅い溝で区切られた幅0.7m～0.8mの長方形の区画がある。四方の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。

住居跡の南側の壁沿いの覆土中には、焼土塊や炭化材の混入が見られた。中ほどでは土師器片の集中近くに焼土塊があり、南東隅では焼土塊と炭化材が出土した。これらは出土状況から廃絶後の住居跡に投棄されたと判断される。

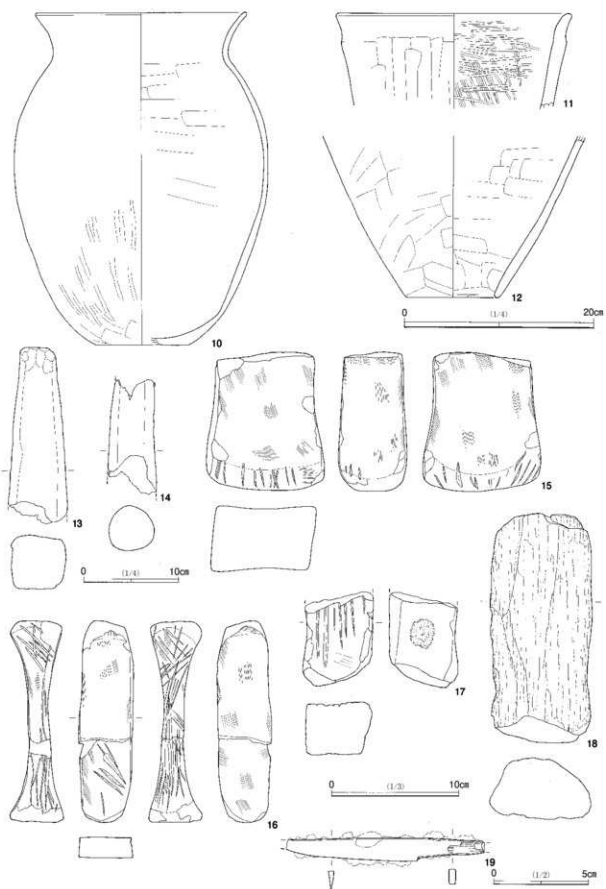
1～10は土師器杯である。1は口縁外面に黒色処理の痕が帯状に残る。底外面に図のような線刻がある。2・3は内外面に黒色処理の痕が残る。8はほぼ完形で、口縁部外面に黒色処理の痕が残る。住居跡の西壁の中ほど近くで床面から正位で出土した。9は内面と口縁部外面に黒色処理の痕が残る。11～13は高杯である。11は杯部で、内面は黒色処理し、外面は赤彩する。12は外面が焼けて変色する。13は脚部で、裾縁の内外面を赤彩する。近接して出土したこともあり、11と同一個体であろう。14～19は土師器鉢である。14は口縁の内外面に赤彩の痕が残る。底部外面に木葉痕があり、胴部下縁まで続く。15の底部外面の木葉痕も、胴部下縁まで続く。20～28は土師器甕である。20は長胴の小型甕である。直接接合しないが、大きさ・胎土・色調から同一個体に図上復元した。胴部下半から底部の内面がほぼ全面剥落する。21は胴部外面に普通のものより幅のせまいヘラによる調整痕が混ざる。胴部内面は全体に剥落する。22は小型甕である。胴部・底部の外面が部分的に焼けて剥落する。胴部外面の全周の1/2ほどと底部外面全体が赤くなる。24は口縁の下側をつまんで凹ませる。25は器面全体が焼けて剥落する。さらに胴部下縁の内外面は炭で黒ずむ。26の胴部外面は炭で黒く、光沢もある。27・28は内面が熱を受けてひどく剥落する。29は土師器甕である。外面は炭化物が染みこんで黒くなり、光沢がある。30・31は手捏土器である。30は埴を象ったものか。底部外面を棒状のヘラでケズる。31は外面に輪積痕が残る。32は土製支脚の頭部である。下側と図の裏側が欠ける。南側の壁に沿ったカマドと向い合う位置で出土した。33は縄文時代の安山岩製の磨製石斧を転用した砥石である。図の上部の面を磨り、下部の面は敲打する。石斧の刃に並行する幅広の曲面2面に比べて、直交する縦長の細長い2面の色が白い。この2面が砥石として主に使われたと推測される。

SI-013 (第83・84図, 第32・34・35・37・38表, 図版45・46・67・68)

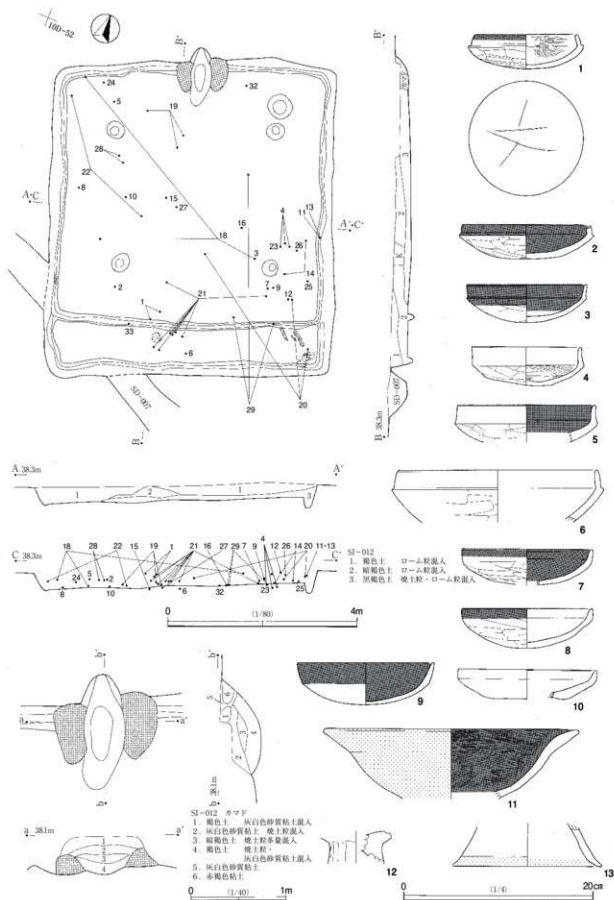
11D-13・14・23・24に位置する。主軸はN-15°-Eである。ほぼ正方形で、一辺5.5m～5.7mであるが、東側が短く西側が長くなっている。深さは0.3m～0.4mである。床面標高は38.4mである。カマドは北側の壁の中ほどよりもやや西寄りにある。柱穴は4個ある。カマドの東側、柱穴の北側に貯蔵穴がある。東西に長い楕円形で、深さ73cmである。東側の壁の南端に近く、壁から階段状に方形の高まりがある。高さ5cmである。地山のロームを床面まで掘り下げずに残す。

カマドの東側で、土師器片がまとまって出土した。

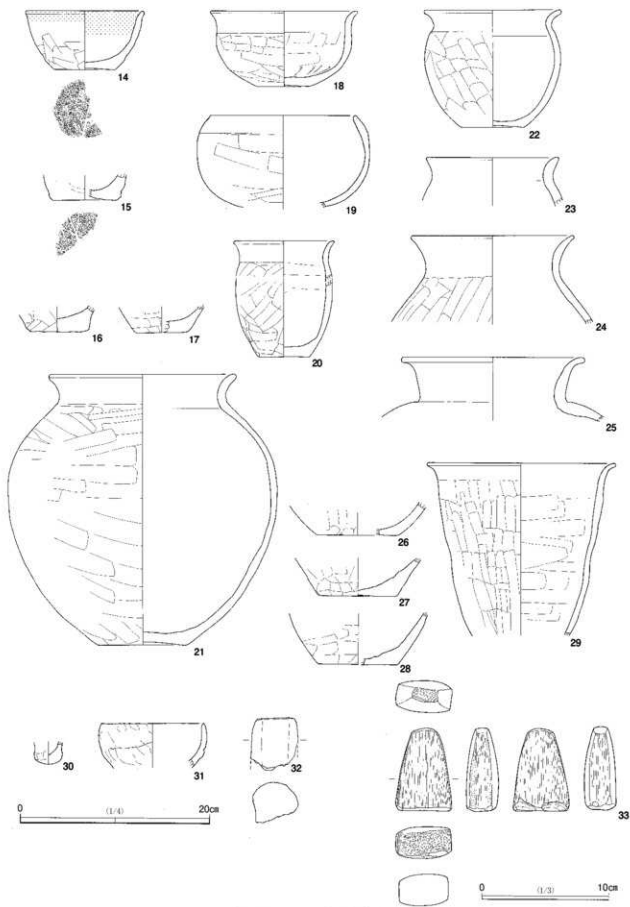
1・2・4～7は土師器杯である。1は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも一部が剥離する。2は内面全体と口縁部外面に黒色処理の痕が残る。3は須恵器杯の小片である。外面の底部側を回転ヘラケズりする。6世紀後半のものであろう。4は焼けて内外面とも剥落する。内面はヨコナデ・丁寧なミガキであり、外面はヨコナデ・ヘラケズリである。5は内外面とも黒色処理するが、部分的に胎土が露出する。6・7は内面が剥落する。8～10は土師器高杯である。8は杯部内面が一部剥落する。脚部内面は赤彩が残る。本来は器全体に赤彩されていたであろう。9の外面下部には赤彩の痕が残る。10は外面



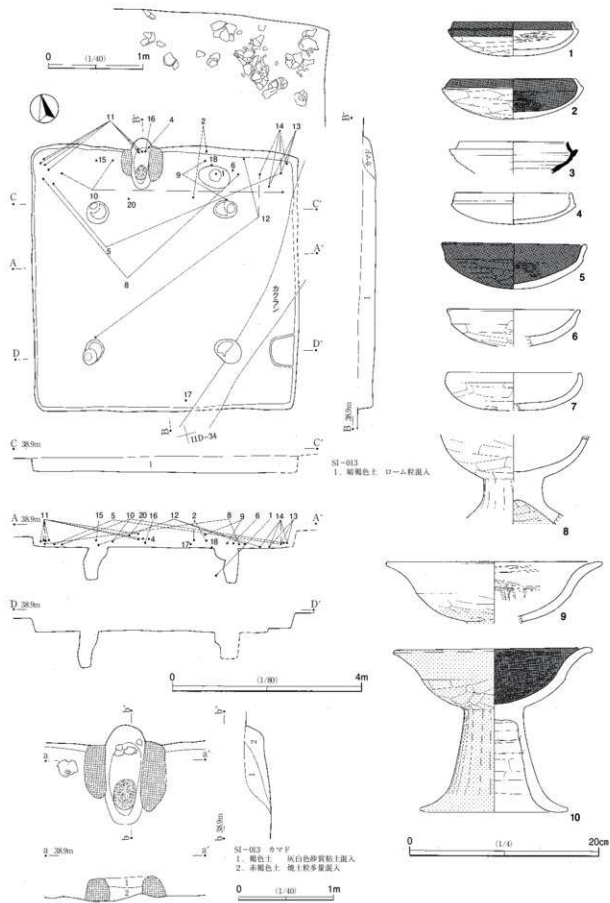
第80図 SI-011出土遺物(2)



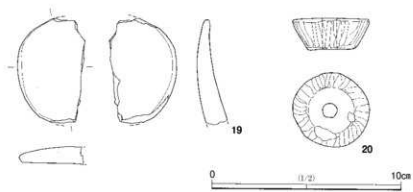
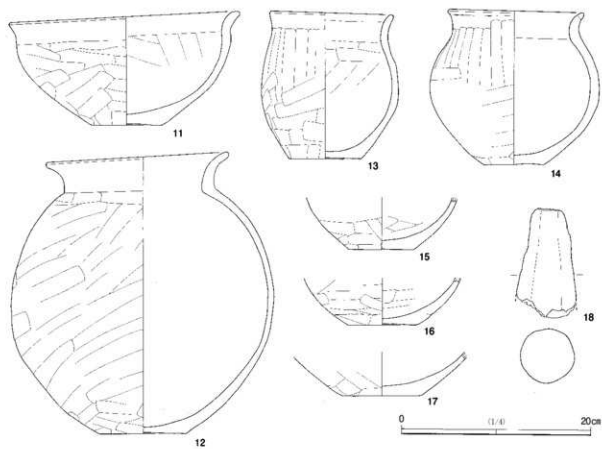
第81图 SI-012·出土遺物(1)



第82図 SI-012出土遺物(2)



第83図 SI-013・出土遺物(1)



第84図 SI-013出土遺物(2)

を赤彩し、杯部内面を黒色処理する。脚部内面はヘラケズリと指によるナデで調整する。輪積痕が残る。脚部の接地面はヘラナデで調整する。11は土師器鉢である。底部内面は剥落する。底部外面は焼けて赤い。

12-17は土師器甕である。12は胴部下半から底部にかけて内面が剥落する。13は下側から焼ける。口縁部から胴部にかけて、内面は暗褐色で、部分的に炭化物で黒ずむ。外面は赤く、部分的に剥落する。底部は、内面は赤くて剥落し、外面は灰色である。カマド東側で出土した。14は13と同じように下側から焼ける。外面は、口縁部から底部上半までは赤く、胴部下半から底部は灰色でひどく剥落する。内面は、口縁部から胴部は暗褐色でとところ炭で黒ずみ、胴部はさらに剥落する。底部は黄褐色で剥落する。15は胴部内面の一部が焼けて剥落する。カマドの東側で出土した。16は内外面とも焼けて赤く、部分的に剥落する。カマド内から出土した。17は内面がひどく剥落する。南側の壁に沿って中ほどから出土した。18は土製支脚である。下部を欠く。もろい。カマドの東側で出土した。19は土師器杯の底部破片を加工した円盤状の土製品である。断面図の下側が杯の底部内面で磨く。半分欠けると思われる。外周の側面を磨って整形する。紡錘車の未製品に見えるが、中心に孔の痕がなく、厚さに偏りがあるため回転させても不安定になるので、違うであろう。20は土製紡錘車である。径の大きな使用時の上面は、ミガキに近いナデである。下面はヘラケズリのままである。側面は棒状のヘラで磨く。21は流紋岩製の砥石である。図示した3つの側面を使う。

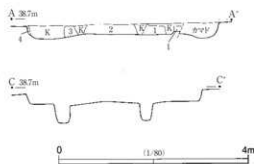
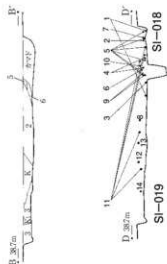
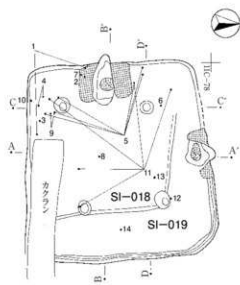
SI-018 (第85・86図、第32・39・40表、図版46・47・68・75)

11C-78・79に位置する。後述するSI-019の廃棄後に、その中を掘り下げて造られる。主軸はN-90°-Wである。南側を擾乱に壊される。床面はSI-019の床面を一段掘り下げてつくるが、その段差は、東側だけはっきりし、北側はやや曖昧であり、西側と南側では不明瞭である。このため形状・規模がはっきりわからないが、西側と南側の壁はSI-019の西側と南側の壁のそれぞれ一部を再利用していると推測され、この推測に基づけば、ほぼ正方形で、一辺3.0mほどである。深さは0.2mである。床面標高は38.4mである。カマドは西側の壁にある。SI-019の堅穴の中にSI-018のカマドが削れずに残ることから、SI-018がSI-019の後に造られたことがわかる。柱穴はカマドの南北にある2個と推測される。これもSI-019の柱穴の再利用である。

1・7は土師器鉢である。1は口縁は外面を少し凹ますようにつむむ。7は胴部外面に赤彩の痕が残る。2-5、8-11は土師器甕である。2は焼ける。内面は剥落し、外面は赤い。4は内面が炭で黒色処理のように黒くなる。5の外面は全体にナデる。頸部では縦方向のようである。9は全体に内外面とも炭で黒ずむ。11は常総型である。胴部の内外面は部分的に剥落する。6は土師器杯である。内面は剥落する。上部は赤く、焼けたためと推測される。13は鉄製品である。断面がへんの字形で、先端は図示した凸面側にやや反り上がる。鋼線は薄くなり、刃があるように見える。ヤリガンナカ。ほかにスラグが1点出土した。SI-019 (第85・86図、第32・39表、図版46・68・75)

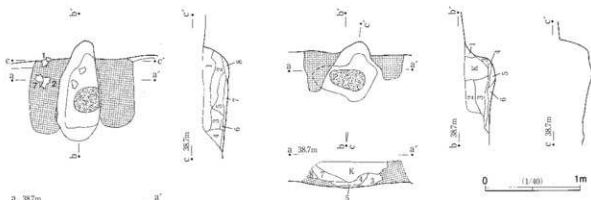
11C-78・79に位置する。主軸はほぼ真北である。南側を擾乱に壊される。ほぼ正方形で一辺3.5m-4.0mである。東側が長く、西側が短い。深さは0.2mである。床面標高は38.4mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。柱穴の配置は方形ではない。南側の2個の柱穴の深さは、東から70cm、40cmである。北側の壁のカマドから東半分と東側の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。

土師器片が出土するが、図示できるのは12の手握土器だけである。上広がりの鉢形の器形と思われる。他には14の鉄錐が出土した。茎の部分である。矢柄の先端部分と、矢柄から鉄錐が抜けないように締め付



SI-018・019

1. 暗褐色土 rome粉多量混入
2. 暗褐色土 romeフロッツ混入
3. 黄褐色土 rome粉多量混入
4. 黄褐色土 romeから成る
5. 暗褐色土 灰褐色砂・焼土粒混入
6. 暗褐色土 灰褐色砂多量混入



a 3.37m

b 3.37m

c 3.37m

d 3.37m

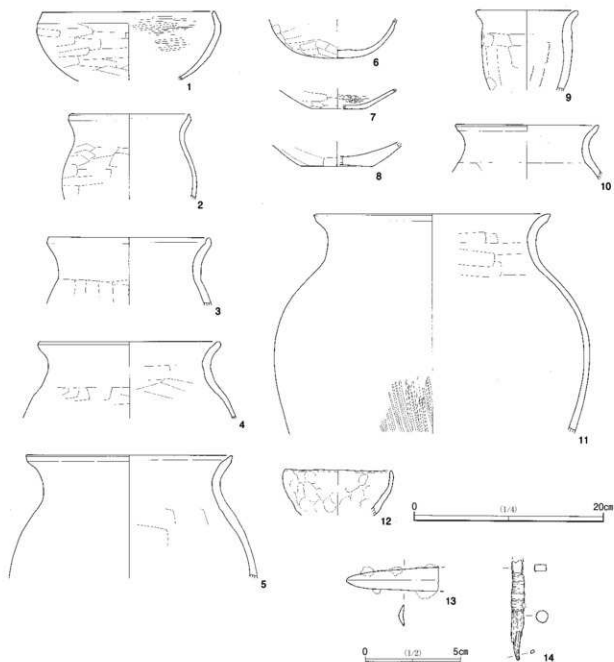
e 3.37m

SI-018 サマド

1. 暗褐色土 砂多量混入
2. 暗褐色土 焼土フロッツ・砂混入
3. 灰白色砂
4. 暗褐色土 焼土粒混入
5. 暗褐色土 砂・焼土粒・炭化物粒混入
6. 暗褐色土 romeフロッツ混入
7. 暗褐色土 砂・焼土粒混入
8. 暗褐色土 romeフロッツ・焼土粒混入

SI-019 サマド

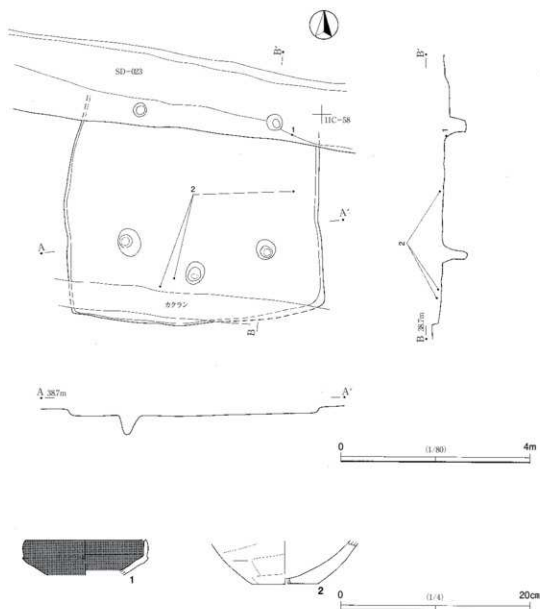
1. 暗褐色土 焼土粉多量混入
2. 暗褐色土 砂・rome粒混入
3. 暗褐色土 砂・焼土粒・rome粒混入
4. 暗褐色土 炭化物粒・rome粒混入
5. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒混入
6. 暗褐色土 romeフロッツ混入
7. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・rome粒混入
8. 暗褐色土



第86図 SI-018・019出土遺物

けて巻いた紐状のものが残る。

SI-018とSI-019は2軒の住居跡である、という発掘担当者の見解に沿って報告するが、この2軒の覆土の間に違いを見い出せないことから、SI-019の1軒の住居に2基のカマドがあった可能性も考え得る。SI-018の掘り込みの段が西側のカマド近くでは不明であることから、SI-018の掘り込みは西側のカマドとは無関係な可能性がある。SI-018のカマドは、対応する掘り込みがなければ、SI-019のもう1基のカマドであると考えられることもできる。

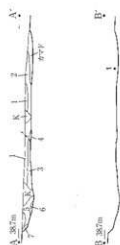
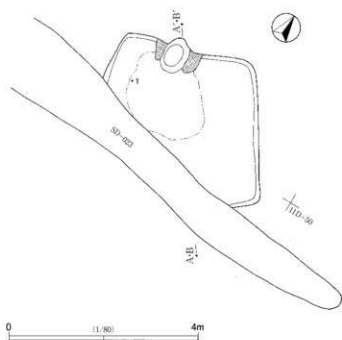


第87図 SI-020・出土遺物

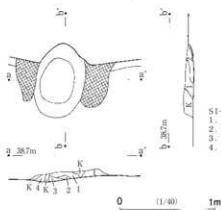
SI-020 (第87図, 第32表, 図版47・68)

11C-46・47・56・57・66・67に位置する。主軸は $N-3^{\circ}-E$ である。北側をSD-023に壊され、南側も攪乱される。北側にカマドがあったと推定される。方形であり、唯一壊されていない南側の辺が、長さ5.3mである。南北の長さは、SD-023の北側に住居跡の続きが見えないことから、東側で4.7m以内と推定される。深さは0.2mである。床面標高は38.3mである。柱穴は4個ある。図の左上の柱穴の底面の標高は、37.8mである。南側に出入口用ピットがあり、深さ28cmである。覆土はロームを含む暗黄褐色土であるが、ほとんどの部分が攪乱されているため、図示しなかった。

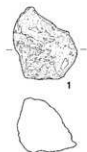
1は土師器杯である。全体の内外面とも黒色処理する。体部外面は明瞭であるが、そのほかの部位では黒ずみだけである。2は土師器甕である。底部内面がひどく剥落する。剥落部分の縁に炭が付くことから、



- SI-021
1. 粘り褐色土
 2. 粘り褐色土
 3. 黄褐色土
 4. 粘り褐色土
 5. 粘り褐色土
 6. 黄褐色土
 7. 黄褐色土
- ローム粒混入
焼土粒・灰化物粒、ローム粒混入
ローム粒から成る
焼土粒、ローム粒混入
原色土多量混入
ロームブロック混入
ローム粒から成る



- SI-021 カマド
1. 粘り褐色土
 2. 原色土
 3. 原色土
 4. 黄褐色土
- 砂多量混入
焼土粒・灰化物粒混入
ローム土、ロームブロック混入
ロームブロック混入



0 (1/3) 10cm

第88図 SI-021・出土遺物

焼けたためと推測される。

SI-021 (第88図, 第38表, 図版68)

11C-48・49・58・59に位置する。主軸はN-30°-Wである。南側をSD-023に壊される。ほぼ正方形と推測され、一辺2.8m~3.0mである。深さは0.3mである。床面標高は38.5mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴およびその他のピットはない。カマドの南側の床面が、硬化していた。

遺物として図示できるのは、軽石だけである。

SI-024 (第89~92図, 第32・37表, 図版48・49・68~71)

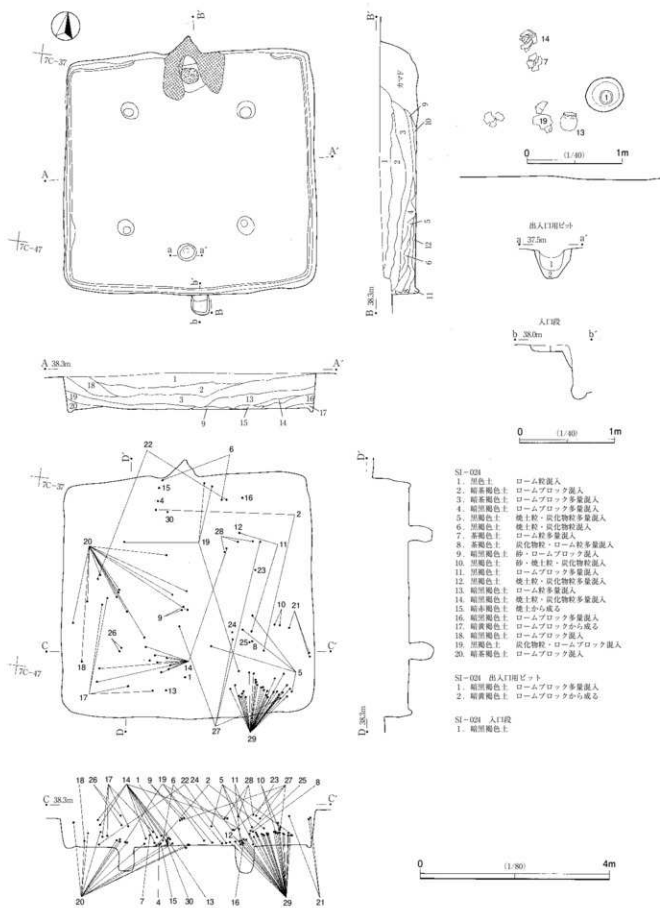
7C-27・28・37・38・47・48に位置する。主軸はN-6°-Wである。ほぼ正方形で一辺4.8m~5.2mである。東側が長く、西側が短い。深さは0.7mである。床面標高は37.4mである。カマドは北側の壁の

中ほどにある。柱穴は4個ある。図の右上の柱穴の深さは40cmである。ほかに南側の壁の中ほど近くには出入口用のビットがある。そのビットに向き合う南側の壁外には方形の段がある。深さ8cmである。カマドの両脇を除いて、四方の壁に沿って狭く浅い溝がめぐる。

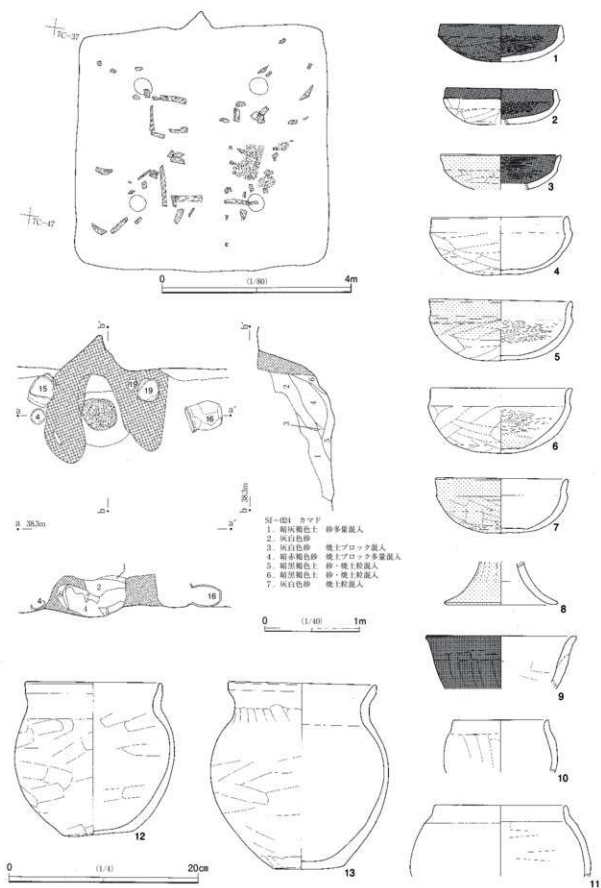
覆土中から、炭化材が散乱した状態で出土した。焼土塊を伴う。住居跡の西側と南側の壁に並行するように出土した4本の炭化材は、住居の屋根組みが焼け落ちた可能性がある。出土位置は、柱穴を結んだ線上に近い。床面から10cm以上浮いていた。

出入口用ビットからは、1の完形の土師器杯が出土した。その西側50cmほどの床面上からは、これも完形の土師器小型甕が出土した。

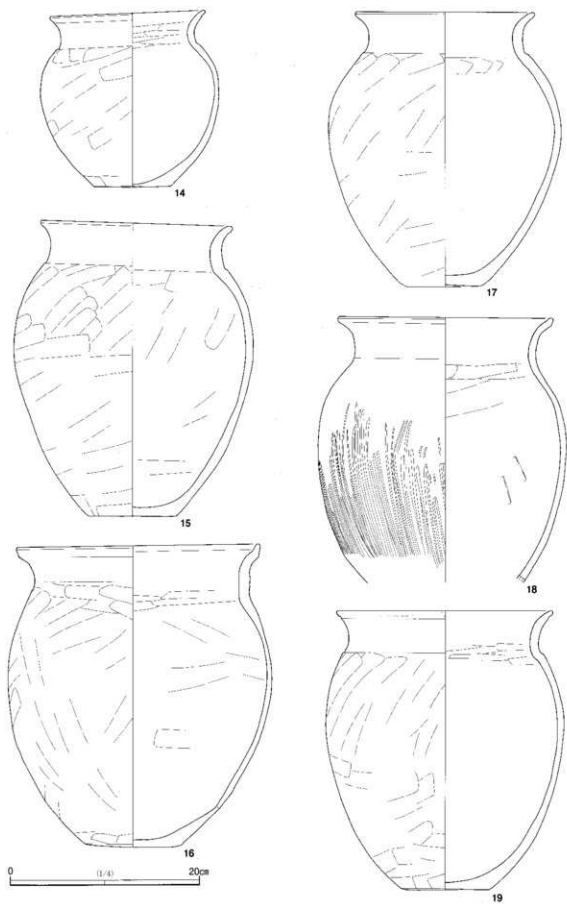
土師器は焼けたものが目立つ。1～7は土師器杯である。1は内外面に黒色処理の痕が残る。外面の一部は焼けて赤い。2は内面と口縁部外面に黒色処理の痕が残る。口縁は全体に摩耗する。3は内面を黒色処理し、外面を赤彩する。外面の赤彩は薄くなる。4は焼けて赤く、形が歪み、重んだ部分の口縁部外面はひどく剥落し、内外面とも炭化物で黒ずむ。カマド左袖の外側から出土した。5は外面に赤彩の痕が残る。底部外面が部分的に剥落する。6は底部内面に赤彩の痕が残る。その部分以外は、表面が荒れる。7は内外面とも焼けて荒れる。内面は、口縁部と底部は赤く、体部は黒ずむ。黒色処理と思われる。底部はさらに一部が剥落する。外面は、体部の一部に赤彩の痕が残る。底部は剥落し、炭化物で黒ずむ。火を受けた可能性がある。8は土師器高杯の脚部である。外面に赤彩する。内面の上部は炭で黒ずむ。9～11は土師器鉢である。9は外面に輪積痕が残り、黒色処理の痕が残る。11は焼けて、内面全体は灰色で、体部外面はほぼ剥落する。12～28は土師器甕である。12は全体が焼ける。外面は、全体に赤くなり、部分的に炭化物で黒ずむ。内面は、胴部が炭化物で黒ずみ、部分的に剥落する。北東側の柱穴近くで出土した。13の口縁部から底部の内面は、焼けて赤くて剥落し、底部は剥落が顕著で穴があく。口縁部から底部の外面は、全周の3/4程度が焼けて赤い。出入口用ビットの西側で、横倒して出土した。14は内外面が焼けて赤い。胴部から底部の内面は、さらに剥落する。破片は住居跡の南側を中心に散乱して出土した。15は口縁部から胴部の外面が、全周の半分強が焼けて、赤くなったり炭化物で黒ずむ。胴部から底部の内面は、部分的に剥落する。カマドの左脇で出土した。16は口縁部から底部の外面が焼けて、赤くなったり炭化物で黒ずむ。胴部から底部にかけて内面は剥落する。カマドの右脇で出土した。17は口縁部から胴部にかけて、外面の全周の半分強が焼けて赤い。口縁部から底部の内面は剥落する。破片は住居跡の南西側で散乱して出土した。18は常総型である。雲母の混入が目立つ。口縁部から胴部の内面が部分的に剥落する。胴部外面の下半は炭化物で黒ずむ。破片は住居跡の南西隅で出土した。19は口縁部から胴部の外面の全周の1/4が、焼けて赤い。底部外面は、焼けて赤くてひどく剥落する。胴部から底部の内面は剥落する。破片は住居跡で散乱して出土した。カマドの右袖から出土した破片もあるが、1点は焼けるが、1点は焼けていない。20は内外面が焼けて赤い。さらに内面は全体に剥落し、外面は炭化物で部分的に黒ずむ。破片は住居跡の西側で散乱して出土した。21は内面が部分的に剥落する。22は内外面が焼けて赤い。さらに内面は、部分的に黒斑がある。また、胴部と底部の境は、内外面とも剥落する。外面は、境目の角がなくなるほどである。24は外面は焼けて赤く、内面は剥落する。25・26は外面は焼けて赤く、内面は灰色で剥落する。27は内面が部分的に剥落する。29は土師器瓶である。胴部内面はヘラナデ後に磨く。胴部外面の下部は、焼けて赤い。細かく割れて住居跡の南東角から出土した。30は土製支脚である。上側半分は黒ずむ。カマド内から出土した。



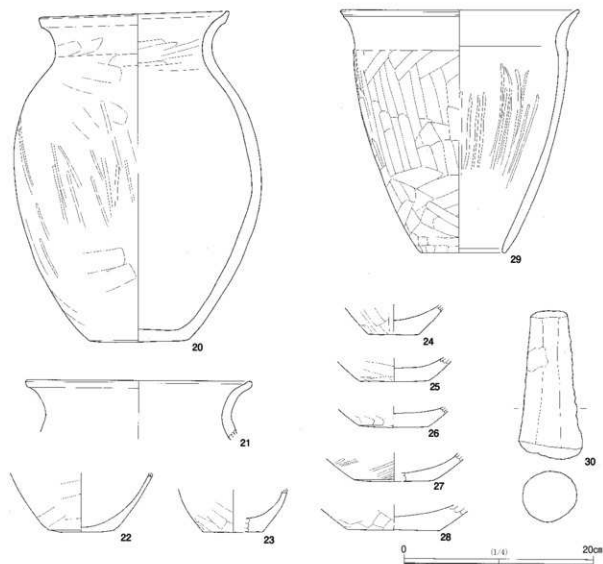
第89図 SI-024 (1)



第90図 SI-024 (2)・出土遺物 (1)



第91図 SI-024出土遺物(2)



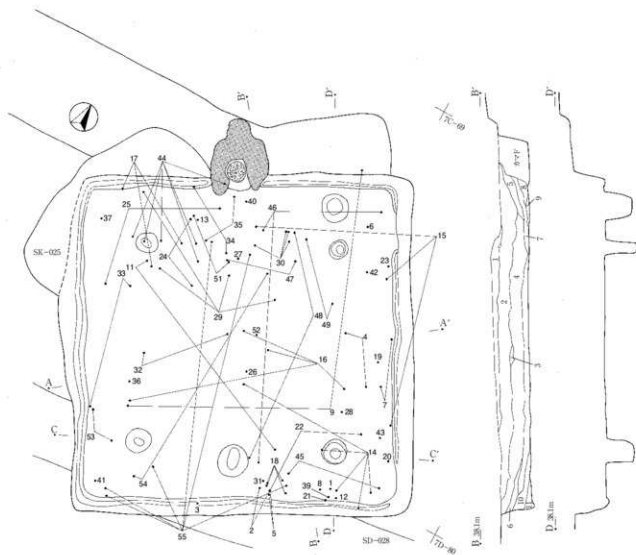
第92図 SI-024出土遺物（3）

住居跡は焼け落ちたと判断して良いならば、出土した多数の焼けた土師器はその火災の際に焼けた可能性があろう。

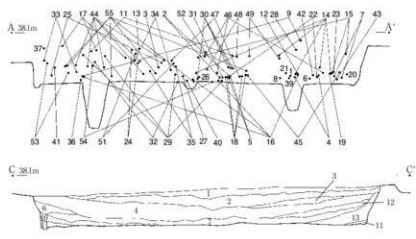
SI-025（第93～95図、第32表、図版49・50・71～73）

7C-67-69・77-79・87-89に位置する。主軸はN-25°-Wである。北西側の角に縄文時代の土坑SK-025があり、この土坑を壊して住居を造る。正方形で一辺7.2mである。深さは0.7m～0.8mである。床面標高は37.1mである。カマドは北側の壁の中ほどにある。柱穴は4個ある。図の左上の柱穴の深さは66cmである。カマドの東側に貯蔵穴がある。南側に出入り口用のビットがある。四方の壁に沿って、東側の壁の南北端部を除いて、狭く浅い溝がめぐる。

土師器は焼けたものが目立つ。1～27は土師器杯である。焼け方には違いが見られる。1は内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤い。内面はさらに一部剝落する。2は内面の中央に凹みがある。成形時に親指を当てた痕と推測される。表面が厚く剥がれる。焼けたためであろう。3は口縁部の内外面

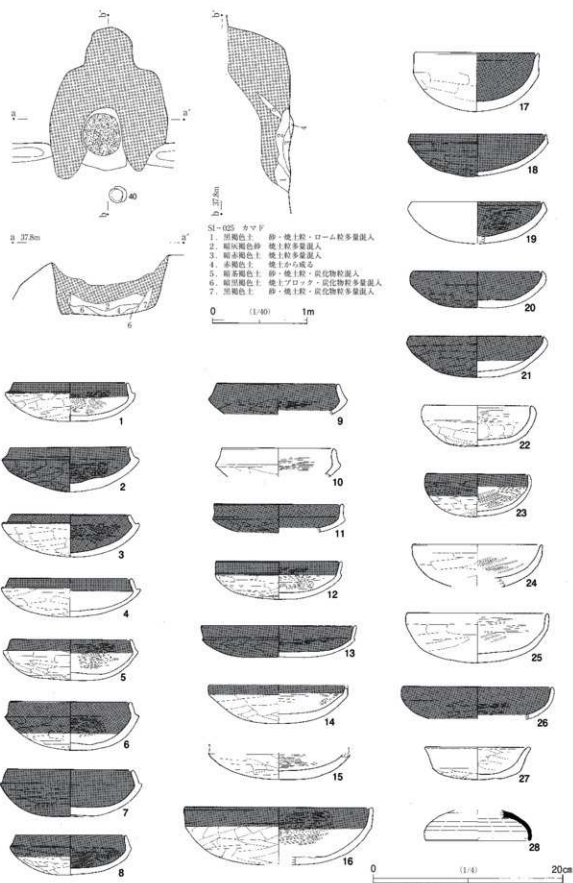


- SI-025
- 1. 黑色土 焼土粒混入
 - 2. 明灰褐色土 ローム粒混入
 - 3. 明褐色土 ロームアロツク混入
 - 4. 明灰褐色土 ロームアロツク混入
 - 5. 黑色土 焼土粒混入
 - 6. 暗褐色土 ローム粒混入
 - 7. 黑色土 炭化物粒多量混入
 - 8. 明褐色土 砂・焼土粒混入
 - 9. 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒多量混入
 - 10. 暗灰褐色土 ローム粒多量混入
 - 11. 暗褐色土 ローム粒が中心を成す
 - 12. 暗灰褐色土 ローム粒混入
 - 13. 明灰褐色土 ロームアロツク混入



- SI-025 貯蔵穴
- 1. 黑色土 ローム粒多量混入
-

第93図 SI-025 (1)



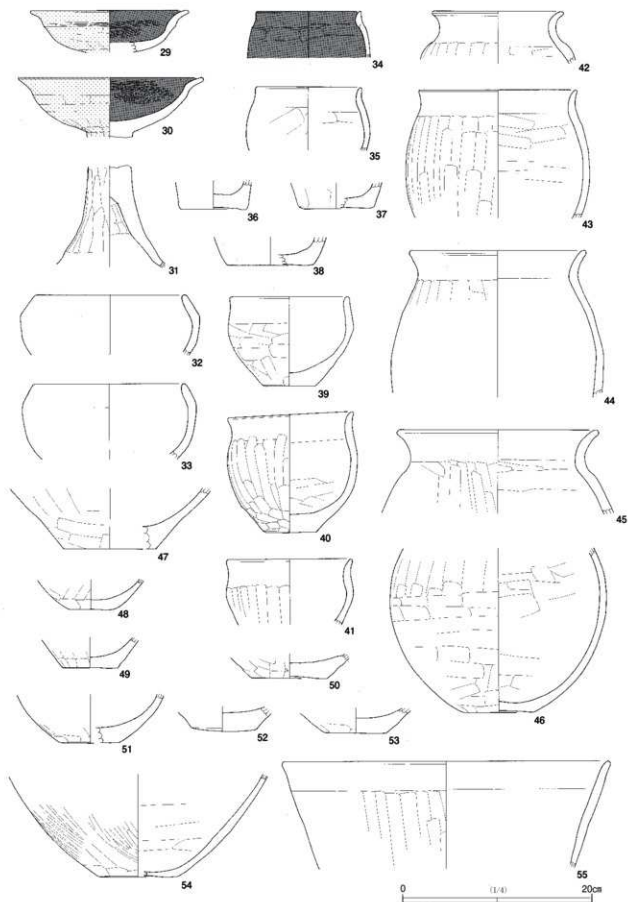
第94図 SI-025 (2)・出土遺物 (1)

に黒色処理の痕が残る。口縁は全体に摩耗する。4は内外面とも黒色処理するが、焼けて灰色である。内面全体と口縁部外面はさらにひどく剥落する。5は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤い。外面には炭化物による黒斑もある。6は内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤い。7は内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて灰色である。底部が円形に内から外へ抜けた痕がある。破片の縁と残りの縁のどちらも磨ったような痕はない。炭による黒ずみ方の違いから、抜けた後に別個に焼けたことがわかる。抜けた破片の外面は、割られたように割れる。8は内外面とも黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤く、内面はさらに部分的に剥落する。9は内外面とも黒色処理する。口唇は欠ける。体部外面は部分的に剥落し、焼けると思われる。10は口縁の内面が剥落する。外面に炭化物による黒斑がある。12は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤い。14は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤く、部分的に剥落する。15は外面の上部に黒色処理の痕が残るように見える。16は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて赤く、部分的に剥落する。18は内外面を黒色処理するが、1/4ほどの部分で両面とも消える。19は内外面とも剥落する。内面は黒色処理の痕が残る。焼けて赤褐色になる。20は内外面を黒色処理する。内外面とも焼けて灰色となり、部分的に剥落する。21は内外面を黒色処理する。全体の1/2強ほどの部分で薄れる。底部の内外面とも部分的に剥落する。焼けていると思われる。22は内外面とも焼けて赤味がかかる。内面は剥落し、外面には黒斑がある。23は口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内外面とも焼けて、赤味がかかる。体部の内外面はさらに部分的に剥落する。24は内外面とも焼ける。内面は赤味がかかる。外面は小さな黒斑が2か所ある。25は底部外面が剥落する。26は内外面とも黒色処理する。焼けて、少し赤味がかかる。27の内面はヘラナデで仕上げ、外面はナデとヘラケズリで仕上げる。28は須恵器杯蓋である。頂部外面は回転ヘラケズリまたは回転ヘラ切りの痕がある。縁部の内面をつまんで少し凹みます。外面に部分的に青灰色の自然軸が薄くかかる。

29～31は土師器高杯である。29の外面は、口縁がヨコナデで、その下側は段のところまでハケ目のようなヘラケズリがされ、段からはヘラケズリである。内面は黒色処理で、外面は赤彩するが、底部は焼けて赤味がかかる。30は29とは断面形が少し異なる。外面の杯部と脚部の境目は、縦方向にヘラケズリする。内面は黒色処理で、外面は赤彩する。外面は焼けて黒ずみ、赤彩が部分的に消える。外面の赤彩が消えている部分の内面の方が黒色処理は光沢がある。31は内面の下部はナデで調整し、外面の下縁はヨコナデで調整する。内外面とも焼け、内面は炭で黒ずみ、外面は赤味がかり、一部黒ずむ。29と30の破片はカマドの南側で出土した。31は南側の壁近くから出土した。

32～41は土師器鉢である。32は内外面が焼けて、内面は1/2ほど剥落し、外面は全体がひどく剥落する。33は内外面が焼けてひどく剥落する。32・33は同一個体の可能性がある。破片は散乱して出土した。34は外面が焼けて一部が赤味がかかる。35は内外面が焼けて、内面は一部黒ずみ、外面はひどく剥落する。36～38は底部である。36は内外面とも焼ける。赤味がかり、部分的に剥落する。内面の一部は黒ずむ。37も内外面が焼ける。内面は炭化物で黒ずみ、外面は赤味がかかる。38も内外面が焼ける。内面は炭化物で黒ずみ、剥落する。外面は赤味がかかる。39は内外面が焼けて赤味がかり、部分的に黒ずむ。胴部下半から底部にかけての内外面は剥落する。内面はひどく剥落する。住居跡の南東隅近くで出土した。40は内外面が焼けて、赤味がかかる。内面は、さらに口縁部が炭化物で黒ずみ、胴部の一部も同様に黒ずむ。カマドの正面から出土した。41は胴部内面がひどく剥落する。

42～54は土師器甕である。43は外面が焼け、大部分が炭化物で黒ずみ、一部が赤味がかかる。部分的に剥



第95図 SI-025出土遺物(2)

落する。内面も全体が炭化物で黒くなり、部分的に剥落する。44は内外面が焼けて、赤味がかるとともにひどく剥落する。破片はカマドの左脇で散乱して出土した。45は外面が焼けて赤味がかかる。口縁部外面の一部に黒色処理のような光沢のある黒斑がある。46は内外面が焼ける。内面は赤くなり、ところどころ剥落する。外面は赤味がかり、ところどころ剥落し、黒斑もある。47は内外面が焼けて、内面は黒ずんで剥落する。外面の一部は黒ずみ、一部は赤味がかかる。48は内外面とも焼けて、内面は赤味がかり、外面は黒ずむ。49は内外面が焼ける。内面はひどく剥落し、外面は黒ずむところと赤味がかかるところがあり、部分的に剥落する。50は内外面が焼ける。内面はひどく剥落し、外面は黒ずむ。51は外面が焼ける。内面は黒く、外面は赤く、部分的に黒ずむ。52も内外面が焼け、両面ともひどく剥落する。53は外面が焼ける。内面は部分的に剥落し、外面は胎土が赤く、表面は黒い。54は常総型の底部であろう。内面が全体に剥落する。外面に胴部から底部にかけて大きな黒斑がある。

55は土師器甔である。内外面とも焼けて剥落する。

住居跡の床面には、広く炭化物が多く混ざる層が堆積しているが、壁に近いところではロームの堆積がある。したがって、焼失住居ではない。多数出土した焼けた土師器は、廃棄された住居内で火が焚かれて焼けたか、住居外の場所で焼けたかのどちらかであろう。

SI-024・SI-025は、焼けた土師器が多く出土し、そうした遺物出土状況の見られない浅い谷を挟んだ南側の住居跡群との違いが注目されるのであるが、その事情を知るには調査区外の周囲の状況が明らかになる必要がある。

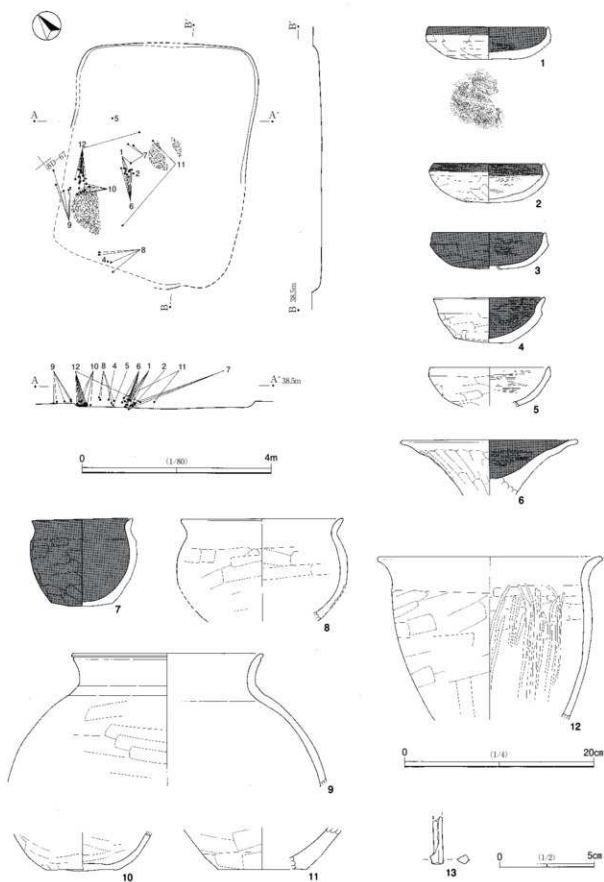
SI-201（第96図、第32・39表、図版50・73～75）

8D-57・66-68・77に位置する。発掘調査時の所見では2軒の住居跡が重なるとしているが、整理作業の結果、1軒の住居跡と判断した。長軸の方位は、N-45°-Eである。住居跡の南半分は、掘り込みが浅く、輪郭がつかみにくい。方形であり、一辺の長さは南北の短辺が3.9m、東西の長辺が4.1m～5.2m。深さ0.2mである。床面標高は37.0mである。カマドはない。炉が中央と南西側にある。中央の炉は、中ほどを擾乱される。

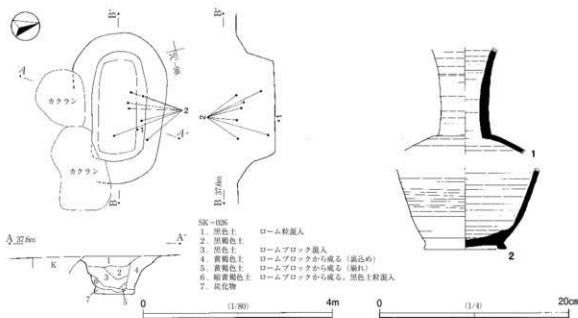
1～5は土師器杯である。1は内面全体と口縁部外面に黒色処理の痕が残る。底部外面に木炭痕がある。口縁部がかなりの部分で摩耗する。2は口縁部外面を、ヨコナデではなく、丁寧にナデる。口縁部の内外面に黒色処理の痕が残る。内面は荒れて、部分的に剥落する。3は内面が焼けて赤い。口縁部の内面と器の外面全体に黒色処理の痕が残る。4は内面を黒色処理するが、一部は地肌が残る。外面は口縁部の一部に黒色処理の痕が残る。外面の処理痕がない部分は、焼けて赤いようで、黒色処理が消えた可能性がある。5は口縁部外面をヘラケズリで仕上げる。6は土師器高杯の杯部である。口縁部の内外面はヨコナデする。口縁部の外面には炭化物による黒斑がめぐる。7～11は土師器甔である。7は内外面を黒色処理すると思われるが、胴部・底部の外面は、黒ずむ程度で、剥落して赤い部分が広くある。8は焼けて、胴部下半内面は剥落し、胴部外面は赤くなって一部が剥落する。炉の南側で出土する。10は内外面とも焼けて赤く、内面は剥落する。炉のすぐ北側で出土する。11の内面はヘラナデである。胴部外面に黒斑がある。12は土師器甔である。胴部内面は、横方向にヘラナデ後、縦方向に磨く。内面全体に細かい剥落がある。13は棒状の鉄製品である。鋳びて、表面が芯の部分から剥がれかけている。

SK-026（第97図、第32表、図版51・74）

7C-97・98に位置する。南側を2個の擾乱に壊される。上面は隅丸方形、底面は方形である。上面の



第96图 SI-201·出土遺物



第97図 SK-026・出土遺物

大きさは、3.2m×2.0mである。底面の大きさは、2.0m×0.8mである。深さは0.8mである。上面から深さ0.3mほどまでは、深くなるほど狭くなる。そこから底面までは、ほぼ同じ大きさである。

須恵器長頸壺の破片が、散乱した状態で覆土から出土した。頸部と底部の破片は上層から、胴部の破片は上層～下層で出土した。この土坑は、形状から墓坑と思われる。須恵器長頸壺は、その副葬品と推測される。8世紀前半であろう。それが、完形ではなく、破片になって散乱して、1の一部はSI-024の覆土から出土したことは、この土坑が、遺体埋葬後に一度掘り返されてまた埋め戻された可能性を示す。

1・2の須恵器長頸壺は、焼成は良好であるが、堅緻ではない。底部外面は、回転ヘラナデで調整する。高台は、器底に粘土紐を貼り付けてから、器を回転させながら外面に指を当てて器底にナデつける。高台の一部は白い。

SD-007 (第98図, 第32表, 図版51・74)

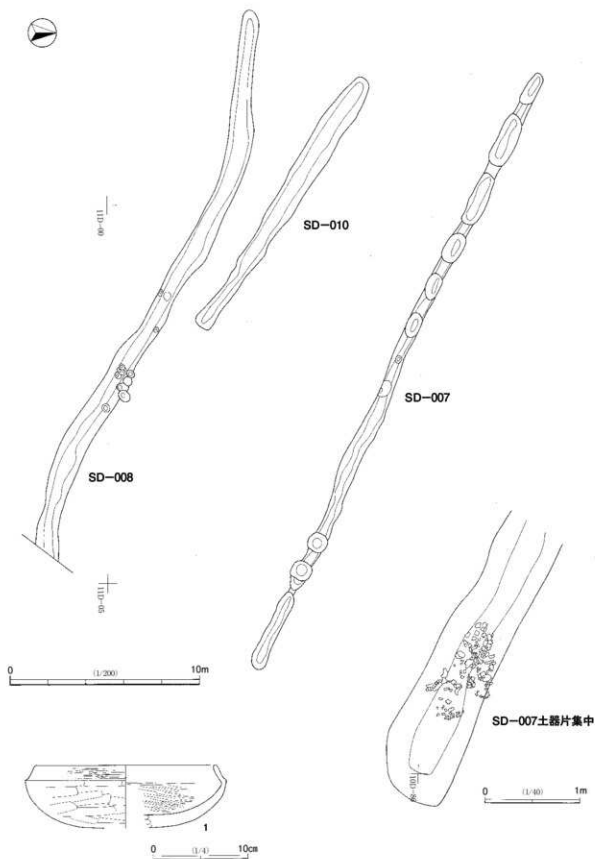
10C-48から10D-76・86にかけて位置する。北西から南東に直線的に伸びる。断面は逆台形である。長さ35m, 幅0.6m～1.1m, 深さ0.1m～0.2mである。南東側が高く、北西側が低くて、高低差が1.4mある。西側を中心に、楕円形や円形のピットがある。ピットの深さは、西側から34cm, 66cm, 35cm, 38cm, 44cm, 45cm, 56cm, 35cm, 33cm, 19cmである。

10D-75にかかる部分では、土師器片の集中を検出した。接合に努めたが、小破片ばかりで、図示できるほど復元できたのは1だけである。

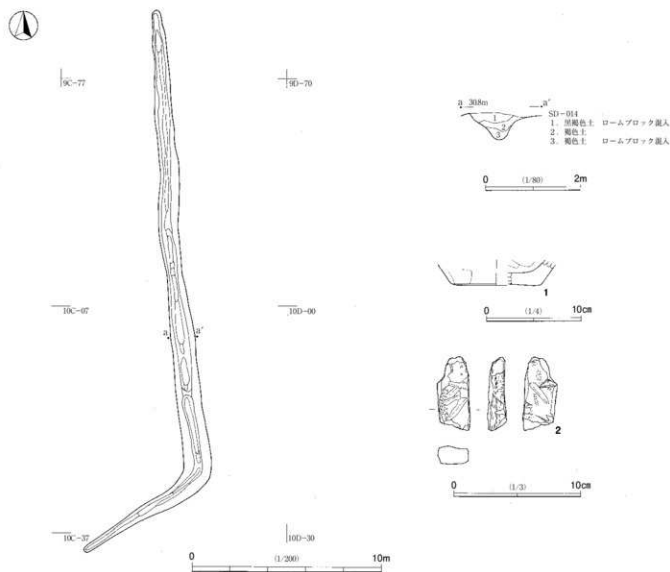
1は大形の土師器杯である。外面では横方向にほぼ揃えていて、光沢がある。底部は方向がさまざまで光沢はない。胎土と色調がSI-004で出土した常総型の土師器甕と類似する。常総型甕の生産地でつくられた可能性がある。

SD-008 (第98図, 図版39)

10C-89から11D-04にかけて位置する。東側は、調査範囲外に伸びる。北西から南東にほぼ直線的に



第98図 SD-007・出土遺物、SD-008、SD-010



第99図 SD-014・出土遺物

伸びるが、途中でややS字状にカーブする。断面は逆台形である。長さ31m、幅1.0m～1.4m、深さ0.1～0.2mである。南東側が高く、北西側が低くて、高低差が1.1mある。中ほどから東側に円形の小さなピットが集まる。

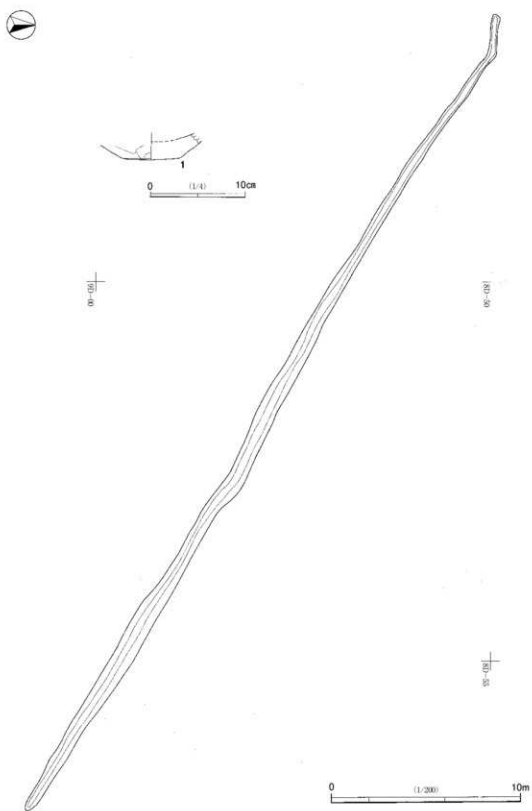
遺物はほとんど出土しなかった。図示するものはない。

SD-010 (第98図, 図版51)

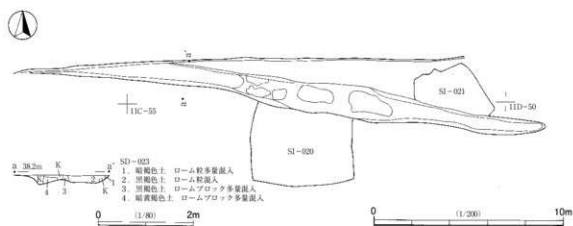
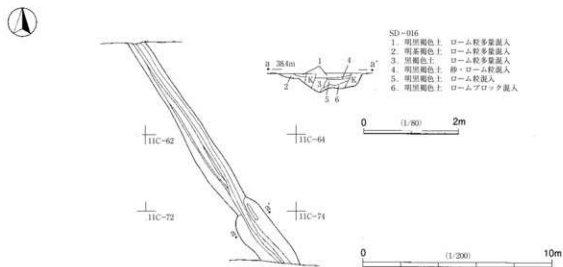
10C-68から10D-81にかけて位置する。北西から南東に直線的に伸びる。断面は逆台形である。長さ16m、幅0.7m～1.5m、深さ0.1m～0.2mである。南東側が高く、北西側が低くて、高低差が0.8mある。土師器片が数点出土したが、図示するものはない。

SD-014 (第99図, 第32・38表, 図版52・74)

9C-68から10C-37にかけて位置する。ほぼ北から南に直線的に伸びて、10C-28で南西に屈曲して伸



第100回 SD-015・出土遺物



第101図 SD-016, SD-023

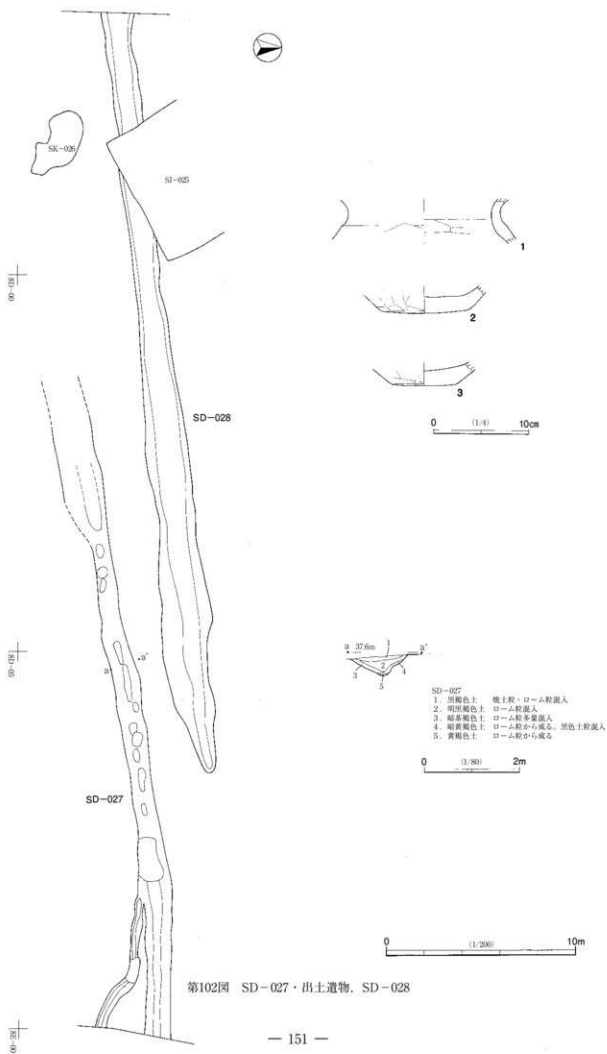
びる。断面は逆台形である。長さ32m、幅0.4m~1.5m、深さ0.2m~0.4mである。南側が高く、北側が低くて、高低差が0.6mある。

1は土師器鉢の底部である。外面は、焼けて赤味がかり、剥落する。2は流紋岩製の砥石である。破片であり、研ぎによる磨面が3面残る。縄文土器片も出土した。

SD-015 (第100図, 第32表, 図版52・74)

8C-46から9D-56にかけて位置する。北西から南東にはほぼ直線的に伸びて、8C-46で西に屈曲する。断面は逆台形である。長さ49m、幅0.3m~1.1m、深さ0.1m~0.4mである。東側が高く、西側が低くて高低差が1.5mある。

1は土師器甕の底部である。外面の胴部と底部の境目付近が黒ずむ。ほかにも土師器片が出土した。



第102图 SD-027・出土遺物、SD-028

SD-016 (第101図, 第40表, 図版53・75)

11C-41から11C-74にかけて位置する。北側と南側は(1)の調査において本調査範囲外となり、調査していない。北西から南東に直線的に伸びる。断面は逆台形である。長さ14m, 幅0.9m~1.8m, 深さ0.2m~0.4mである。南側が高く、北側が低くて、高低差0.8mである。

土師器片が少量出土した。図示するものはない。他にスラグが2点出土した。

SD-023 (第101図, 第40表, 図版53・54・75)

11C-44から11D-50にかけて位置する。北西側は(1)の調査において本調査範囲外となり、調査していない。SI-020・SI-021の住居跡を切っている。北西から南東に直線的に伸びる。断面は逆台形である。長さ25m, 幅1.0m~2.2m, 深さ0.1m以下である。南東側が高く、北西側が低くて、高低差0.6mである。

土師器片が多数出土したが、全て小片で図示するものはない。他にスラグが1点出土した。

SD-027 (第102図, 第32表, 図版53・74)

7D-91から7E-80にかけて位置する。東側は調査範囲外である。ほぼ東西に直線的に伸びる。東端で2条に分岐する。西側はごく浅くて、端部が不明瞭である。断面は逆台形である。長さ33m, 幅0.9m~2.1m, 深さ0.3m~0.5mである。分岐する細い溝は、幅0.5m, 深さ0.3mほどである。東西での高低差はほとんどない。

1~3はいずれも土師器甕で、1・3は内外面が焼けて、赤味がかかる。内面はさらに剥落する。

SD-028 (第102図, 図版54)

7C-86から7D-76にかけて位置する。西側は調査範囲外である。SI-025を切っている。ほぼ東西に直線的に伸びる。断面は逆台形である。長さ40m, 幅0.8m~2.8m, 深さ0.1m~0.3mである。東西での高低差はほとんどない。

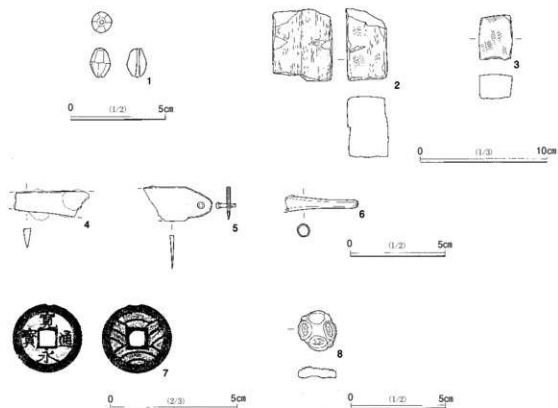
土師器片が出土したが、図示するものはない。

以上の溝状遺構の時期については、周囲の現在の地境と方向が合うものが見られ、中世以降と思われるが、覆土中から古墳時代後期の土師器片が出土していることから時期が遡る可能性もある。

遺構外出土遺物 (第103図, 第36・38~43表, 図版74・75)

古墳時代後期から奈良・平安時代の遺構外出土の遺物は、1~5である。1は土製の切子玉である。石製の切子玉と異なり、カット面の稜が明瞭でなく、縦長のソロバン玉のような形である。焼成前に中心に断面円形の孔を通す。2・3は砥石の破片である。2は上・下とも欠ける。硬質の凝灰岩である。切り出す時に左右から切り込みを入れたためにできた段がある。右側の図化した側面だけ磨る。3は下部が欠ける。硬質の凝灰岩である。図化した面だけ磨る。4は鉄製刀子の刃部の先端側の破片である。先端部はない。5は鉄製穂柄具の刃部の破片である。木部に嵌めて留めた銚が付着する。なお、この時期のスラグについては、第40表と図版75に示すとおりである。

このほか近世の遺物として6~8が出土した。6は銅製のキセルの吸口である。板を筒状に折り曲げて作る。表面は錆びる。7は寛永通宝である。裏面に十一波文があり、真鍮四文銭である。8は泥メンコである。図の右上側の表面の文様が剥落する。何を表現するのか不明である。上下に小さな丸があり、その間に二重の楕円形の文様を4個配する。商標のようなものであろうか。表面の文様の間の皺や背面の様子から、裏からの型押しで作る。



第103図 古墳時代以降遺構外出土遺物

第28表 成井原山遺跡 旧石器時代石器観察表

種別	No.	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
59	1	3D-56	2	礫片	安山岩質角礫岩	40.8	32.3	13.5	70.46	
59	2	3D-56	3	礫片	安山岩質角礫岩	40.8	30.2	22.1	43.14	

第29表 成井原山遺跡 縄文土器観察表

種別	No.	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
61	1	SK-025	349	深鉢	褐色	褐色	砂粒	隆帯に竹管による刺突、沈線	中期	加曾利E	
61	2	SK-025	331	深鉢	暗褐色	明褐色	砂粒	口縁隆帯に沈線、RL	中期	加曾利E	
61	3	SK-025	43	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	RL	中期	加曾利E	
61	4	SK-025	13-177-388	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	LR	中期	加曾利E	
61	5	SK-025	330	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	RL、沈線	中期	加曾利E	
62	1	SK-029	1-2	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒、雲母	隆帯、LR	中期	加曾利E	
62	2	SK-029	5	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	隆帯	中期	加曾利E	二次焼成。内面は赤くなり、ところどころ剥落
62	3	SK-029	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	隆帯、RL	中期	加曾利E	
62	4	SK-029	11	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒、白色粒、雲母	刺突、粘土紐、沈線	中期	加曾利E	胎土は内部が黒い、植物繊維を混ぜるか
63	1	SK-030	1-4-10-13	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒、白色粒、雲母	刺突、粘土紐、LR	中期	加曾利E	口縁部下半から胴部上半は炭により黒ずむ

種別	No	造構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時期	型 式	備 考
					内面	外面					
63	2	SK-030	1-5	深鉢	褐色	黒褐色	砂粒	隆帯、LR	中期	加管利E	
63	3	SK-030	2	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	隆帯に断面方彫工具による刺突	中期	加管利E	
63	4	SK-030	13	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒、雲母	RL	中期	加管利E	
63	5	SK-030	8-9	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	RL	中期	加管利E	二次焼成、口縁部半周は赤くなく、ところどころ割落、口縁部から胴部上半の外面は炭で黒ずむ
63	6	SK-030	12	深鉢	褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加管利E	内面は炭が染みこんで黒色
65	1	SI-019	3	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒	竹管による沈線	早期	田戸下層	
65	2	SI-018	32	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒	沈線	早期	田戸下層	二次焼成で内外面赤味がかり、荒れる
65	3	SI-020	3	深鉢	赤褐色	褐色	砂粒多	沈線	早期	田戸下層	
65	4	12C	一括	深鉢	暗褐色	黄褐色	繊維、砂粒	平行沈線	早期	田戸上層	
65	5	12C	一括	深鉢	褐色	褐色	繊維、砂粒	平行沈線	早期	田戸上層	
65	6	4D-55	1	深鉢	褐色	褐色	砂粒	平行沈線	早期	田戸上層	
65	7	SD-016	1	深鉢	暗褐色	褐色	砂、雲母	竹管による列状・列点刺突	中期	初頭	
65	8	SI-025	10	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	隆帯に刺突後ナデ	中期	加管利E	外面炭で黒ずむ
65	9	7D	34	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒多	隆帯、沈線	中期	加管利E	二次焼成か、内外面増長
65	10	7C	31	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒、白色粒、雲母	隆帯、沈線	中期	加管利E	二次焼成、内面とところどころ割落、外面赤くなる
65	11	SI-025	372	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、雲母	隆帯、沈線、断面方彫工具による列点刺突	中期	加管利E	
65	12	SI-028	1	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒多	沈線	中期	加管利E	
65	13	7C	27-30-52	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒、白色粒、雲母	隆帯、沈線、LR	中期	加管利E	二次焼成、外面赤くなる。10と同一個体か
65	14	4D	1	深鉢	暗褐色	黒褐色	砂粒、白色粒	沈線、列点刺突	中期	加管利E	二次焼成、内外面赤味がかり、ところどころ割落
65	15	3D-97	1	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	無文	中期	加管利E	
65	16	5D-85	1	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	赤線	中期	加管利E	二次焼成、内外面赤味がかり
65	17	4D	1	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒、雲母	隆帯	中期	加管利E	二次焼成、内面割落、外面赤味がかり、ところどころ割落
65	18	7D	2	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒、白色粒	隆帯、LR	中期	加管利E	
65	19	SD-028 7C	1 22	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	隆帯、L	中期	加管利E	二次焼成、内外面とところどころ割落、外面赤味がかり
65	20	SI-026	14	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒	隆帯、RL	中期	加管利E	二次焼成、胎土本来の色調不明
66	21	SI-025	69-155	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加管利E	上部二次焼成、内外面割落
66	22	SI-025 7C	370 54	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	LR	中期	加管利E	
66	23	SI-025 7C	80-138 161-355 385 5	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	沈線、縦いLR、太いRL	中期	加管利E	SK-025の4の土器と同一個体か
66	24	7D	23	深鉢	褐色	—	砂粒、白色粒、雲母	沈線	中期	加管利E	二次焼成、外面赤くなる
66	25	SI-025	269	深鉢	褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	沈線	中期	加管利E	
66	26	SI-025	353	深鉢	褐色	褐色	砂粒、白色粒、雲母	沈線	中期	加管利E	25と同一個体か
66	27	SI-025	180	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒、白色粒、雲母	沈線	中期	加管利E	
66	28	7C	42	深鉢	暗褐色	黄褐色	砂粒	隆帯	中期	加管利E	
66	29	4D	1	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒	隆帯	中期	加管利E	
66	30	6D-24	1	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒、雲母	隆帯、LR、区画内L	中期	加管利E	
66	31	SI-025	1	深鉢	黄褐色	赤褐色	砂粒	沈線	中期	加管利E	二次焼成、内面とところどころ赤くなる、外面赤くなる
66	32	7C	20	深鉢	黄褐色	黄褐色	砂粒	隆帯、沈線、RL	中期	加管利E	外面一部赤くなる

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
66	33	SI-025	252	深鉢	褐色	黒褐色	砂粒	隆帯, LR	中期	加管利E	
66	34	SI-025	112-114	深鉢	褐色	黒褐色	砂粒	沈線, L	中期	加管利E	内面寛れる
66	35	SI-025	118-355	深鉢	黒褐色	黒褐色	砂粒	隆帯	中期	加管利E	口縁の内外面は褐色
66	36	SI-025	277	深鉢	褐色	褐色	砂粒	隆帯, 沈線, LR	中期	加管利E	二次焼成か、内面とところどころ剥落
66	37	7C	52	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	隆帯, 縄文	中期	加管利E	
66	38	SI-025	308	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	隆帯, LRか	中期	加管利E	二次焼成か、内外面赤味がかかる
66	39	SI-025	258	深鉢	黄褐色	褐色	砂粒	隆帯, RL	中期	加管利E	
66	40	7D	35	深鉢	褐色	褐色	砂粒	隆帯, RL	中期	加管利E	
66	41	SD-026 7C	14 35	深鉢	黄褐色	褐色	砂粒, 白色 粒	隆帯, RL	中期	加管利E	二次焼成、内面一部剥落、外面赤くなる
66	42	SI-024	179	深鉢	褐色	褐色	砂粒	隆帯, LR	中期	加管利E	二次焼成か、内外面赤くなる
67	43	5D-33	1	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	隆帯, LR	中期	加管利E	
67	44	SI-025	354	深鉢	明灰色	明灰色	砂粒	隆帯, LR	中期	加管利E	二次焼成、灰色になる
67	45	5D-63	1	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒, 白色 粒, 雲母	隆帯, LR	中期	加管利E	二次焼成か、内外面とところどころ剥落、外面赤味がかかる
67	46	7C	33	深鉢	褐色	褐色	砂粒, 白色 粒	沈線, LR	中期	加管利E	二次焼成か、外面一部赤くなる
67	47	SI-025	4	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒, 白色 粒, 雲母	沈線, LR	中期	加管利E	二次焼成か、外面一部赤くなる
67	48	7C	19	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒	縦帯状磨り消し, LR	中期	加管利E	二次焼成、内面が付着、外面赤味がかかる
67	49	SI-025 7C	73 45	深鉢	褐色	褐色	砂粒	隆帯, 沈線, LR	中期	加管利E	二次焼成か、内面とところどころ剥落、外面赤味がかかる
67	50	5D-72	1	深鉢	暗褐色	黄褐色	砂粒, 雲母	沈線, 捩糸	中期	加管利E	内面とところどころ剥落
67	51	7D	43	深鉢	褐色	褐色	砂粒, 白色 粒, 雲母	沈線, LR	中期	加管利E	内外面とところどころ剥落
67	52	SD-026	14	深鉢	灰色	黄褐色	砂粒	沈線, LR	中期	加管利E	二次焼成、内外面寛れる
67	53	トレンチ8	7C	深鉢	黒褐色	暗褐色	砂粒, 雲母	LR	中期	加管利E	外面一部炭で黒ずむ
67	54	SI-025	4-314	深鉢	黒褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加管利E	内面炭で黒くなる
67	55	SI-025	139	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒	沈線, LR	中期	加管利E	内面とところどころ剥落、外面一部炭で黒ずむ
67	56	SI-025	168	深鉢	灰色	褐色	砂粒, 白色 粒	隆帯, 捩糸	中期	加管利E	内面寛れる
67	57	SI-025 7C	4-355 45	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	RL, LR	中期	加管利E	二次焼成か、内外面赤味がかかり、黒煙あり
67	58	SI-025 SD-028	353 1	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒	列点刺突, 磨消懸垂 文, LR	中期	加管利E	
67	59	SI-025 SD-028	353-354 1	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒	磨消懸垂文, LR	中期	加管利E	内面炭で黒ずむ
67	60	6D-66	1	深鉢	暗褐色	黒褐色	砂粒	磨消懸垂文, 縦方向 LR	中期	加管利E	
67	61	SI-025	278	深鉢	暗褐色	褐色	砂粒	RL, LR	中期	加管利E	二次焼成、内外面赤味がかかる
67	62	7C	4	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	LR	中期	加管利E	外面調整悪い
67	63	SI-025	170	深鉢	褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加管利E	二次焼成、内外面赤味がかかる
67	64	7D	21	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒	沈線, LRか	中期	加管利E	二次焼成、内外面赤味がかかる
67	65	9C-84	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	平行沈線, LR	後期	堀ノ内	
67	66	11D-61	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	隆帯, LR	後期	堀ノ内	二次焼成か
67	67	11D-53	1	深鉢	黄褐色	褐色	砂粒	刺突, 沈線	後期	堀ノ内	
68	68	SI-025	355	深鉢	褐色	暗褐色	砂粒	隆帯, 沈線	後期	堀ノ内	
68	69	7C	41	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	沈線, R	後期	堀ノ内	外面調整悪い
68	70	SI-025	4	深鉢	黄褐色	褐色	砂粒	沈線, Lか	後期	堀ノ内	
68	71	7D	36	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	沈線, LR	後期	堀ノ内	二次焼成、内面灰色がかかり、外面赤味がかかる
68	72	SI-024	1	深鉢	茶色	黒褐色	砂粒	捩糸	晩期	寛海	
68	73	SI-024	1	深鉢	茶色	暗褐色	砂粒	条線	晩期	寛海	

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時 期	型 式	備 考
					内面	外面					
68	74	SI-004	1	深鉢	暗褐色	黒褐色	砂粒	捫赤	晩期	荒海	
68	75	SI-004	1	深鉢	暗褐色	赤褐色	砂粒	捫赤	晩期	荒海	
68	76	SI-005	1	深鉢	暗褐色	暗褐色	砂粒	朱紅	晩期	荒海	外面に灰付着
68	77	SI-005	11	深鉢	明褐色	明褐色	砂粒	平行沈線	晩期	荒海	二次焼成、内面一部赤味がかり、外面に灰付着

第30表 成井原山遺跡 縄文土器片錐観察表

() 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 g	色 調		胎 土	文 様	時 期	型 式	備 考
								内面	外面					
61	6	SK-025	391	3.66	3.43	1.05	23.71	褐色	褐色	砂粒	RL	中期	加曾利E	
62	5	SK-029	1	4.23	3.95	1.00	(12.75)	黒褐色	褐色	砂粒、雲母	無文	中期	加曾利E	
68	78	SI-025	4	4.29	3.07	0.87	14.90	黒褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	二次焼成、外面赤くなる
68	79	SI-025	73	4.65	3.22	1.07	19.33	褐色	褐色	砂粒、白色砂粒、雲母	RL	中期	加曾利E	二次焼成、内面剥落し、外面一部赤くなる
68	80	SI-025	355	3.93	2.69	0.98	12.73	黒褐色	褐色	砂粒	平行沈線、RL	中期	加曾利E	二次焼成、内面灰付着、外面赤味がかり
68	81	SI-025	4	3.30	2.82	1.13	(11.92)	褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	二次焼成、内面剥落し、外面赤くなる
68	82	SI-025	353	3.60	2.72	1.14	(11.64)	褐色	褐色	砂粒	沈線、LR	中期	加曾利E	二次焼成、外面赤味がかり
68	83	SI-025	4	3.06	3.90	1.25	(20.54)	褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	二次焼成、外面赤味がかり、ところどころ剥落
68	84	SI-025	355	4.38	3.22	0.88	(18.35)	黒褐色	褐色	砂粒	沈線、LR	中期	加曾利E	
68	85	SI-025	355	3.04	2.82	1.30	10.51	黄褐色	黄褐色	砂粒、白色砂粒	隆帯、LR	中期	加曾利E	内外面荒れる
68	86	SI-025	353	3.69	3.10	1.45	20.57	黄褐色	黄褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	内外面荒れる
68	87	SI-025	4	3.76	3.28	0.93	(13.57)	黄褐色	黄褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	内外面荒れる
68	88	SI-025	355	4.11	3.10	1.15	(15.09)	褐色	暗褐色	砂粒	沈線、L	中期	加曾利E	
68	89	SI-025	4	3.46	2.73	1.33	11.58	暗褐色	褐色	砂粒	隆帯、LR	中期	加曾利E	
68	90	7C	46	3.79	3.74	1.34	23.89	褐色	黄褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	二次焼成、内面ところどころ剥落、外面赤味がかり
68	91	7D	40	3.66	3.48	1.10	(15.29)	褐色	褐色	砂粒	LR	中期	加曾利E	
68	92	トレンチ8	7C	3.25	4.53	1.03	(18.68)	黒褐色	褐色	砂粒	沈線、LR	中期	加曾利E	内面灰で黒色
68	93	トレンチ8	7C	2.79	3.23	2.80	(14.76)	褐色	褐色	砂粒	隆帯	中期	加曾利E	口縁部片利用
68	94	トレンチ14	T12	6.89	5.69	1.04	52.32	黒褐色	黄褐色	砂粒、白色砂粒	平行沈線、LR	中期	加曾利E	内面灰で黒ずみ、外面荒れる

第31表 成井原山遺跡 縄文時代石器観察表

() 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	備 考
64	7	SK-030	11	巖石	砂岩	77.2	17.8	17.7	40.42	
64	8	SK-030	14	巖石	安山岩	(78.6)	65.4	(37.1)	(270.84)	上部欠ける
68	95	SI-004	6	石鏃	チャート	25.1	21.2	4.2	(1.95)	1翼端欠ける
68	96	SI-012	16	石鏃	安山岩	(27.2)	22.0	4.7	(2.36)	先端欠ける
68	97	8D-67	1	石鏃	チャート	24.3	14.3	4.4	1.18	
68	98	10D-24	3	石鏃	チャート	25.8	19.8	3.7	1.59	
68	99	SI-020	5	石鏃	チャート	(25.2)	16.7	3.9	(1.28)	先端欠ける
68	100	SD-023	9	石鏃	チャート	(18.3)	(10.0)	(3.1)	(0.46)	先端部片
68	101	SI-025	121	石鏃	黒曜石	17.1	8.8	3.7	0.44	
68	102	8D-76	1	石鏃	安山岩	20.5	18.9	5.7	1.34	未製品か
69	103	4D	1	石核	黒曜石	27.3	28.4	15.9	10.66	
69	104	4D-64	1	砕片	花崗岩	28.0	35.0	28.3	30.85	
69	105	トレンチ5	—	巖石	安山岩	117.9	86.1	35.6	587.77	焼けるか、赤味がかり
69	106	4D-64	1	巖石・磨石	流紋岩	51.0	52.5	34.3	137.33	焼ける、ほぼ全体が赤くなる

第32表 成井原山道跡 土師器・須恵器観察表

() 推定値、() 現存値

種別	種別番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm)	遺存状況	胎土	色調(色地埋)・焼成	技法	備考
70	1	SI-001	9	土師器	杯	口径 11.1 底径 9.6 器高 4.2	70%	内面 白色地埋 7.5YR4.1焼成 外側 10YR3.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 土師ナ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ、摩耗 底外面 ヘラナテ	
70	2	SI-001	1.56.59	土師器	杯	口径 113.4 底径 9.6 器高 3.0	1口縁一部破 30%	内面 白色地埋 7.5YR1.7/3.1 外側 赤褐色10YR1.4焼成 焼成 良好	内面 ヨコナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	3	SI-001	54	土師器	杯	口径 113.3 底径 9.6 器高 5.1	1口縁一部破 80%	内面 10YR6.4/2.1赤褐色 外側 5YR5.6/明褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	4	SI-001	1.35.85	土師器	杯	口径 9.2 底径 5.4 器高 3.9	1口縁一部破 60%	内面 同前、10YR1.7/3.1 外側 7.5YR5.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	5	SI-001	1.79	土師器	杯	口径 10 底径 9.6 器高 4.2	1口縁一部破 80%	内面 5YR4.4/2.1赤褐色 外側 7.5YR4.0/褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	6	SI-001	1.46.65	土師器	高杯	口径 111.40 底径 - 器高 (5.1)	1口縁一部破 30%	内面 7.5YR4.6 外側 7.5YR4.0/褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ 土師ナ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
70	7	SI-001	1.13.25, 26.82	土師器	鉢	口径 13.6 底径 9.6 器高 7.1	1口縁一部破 50%	内面 10YR4.2/1.1赤褐色 外側 5YR4.6赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	8	SI-001	24	土師器	鉢	口径 12.3 底径 7.4 器高 8.3	1口縁一部破 80%	内面 7.5YR4.6 外側 5YR4.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 同ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	9	SI-001	1.27.81, 82	土師器	鉢	口径 115.45 底径 - 器高 (9.3)	1口縁一部破 下93%	内面 10YR3.2/褐色 外側 5YR4.6赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
70	10	SI-001	3	土師器	高杯	口径 - 底径 12.41 器高 12.45	胴部30%	内面 10YR5.2/1.1赤褐色 外側 5YR4.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ ナテ 外側 ナテ 底外面 -	
70	11	SI-001	1.43	土師器	甕	口径 - 底径 9.4 器高 (3.5)	底面100%	内面 5YR4.1褐色 外側 7.5YR2.2褐色 焼成 良好	内面 器面割痕 外側 ヘラナテ 底外面 本漆喰	
70	12	SI-001	1.85	土師器	甕	口径 - 底径 6.8 器高 (3.2)	胴部下手〜 底面40%	内面 12.5Y3.1褐色 外側 7.5YR3.1褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ、器面割痕 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	13	SI-001	1.48	土師器	甕	口径 - 底径 8.8 器高 (3.1)	底面25%	内面 10YR6.4/2.1赤褐色 外側 7.5YR5.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
70	14	SI-001	34.40	土師器	甕	口径 - 底径 9.2 器高 (3.2)	胴部下手〜 底面30%	内面 10YR6.4/2.1赤褐色 外側 10YR5.2/1.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ、器面割痕 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
71	15	SI-001 100-24	1.10.11, 12.38.32 1	土師器	甕	口径 - 底径 - 器高 (14.8)	胴部〜胴部 25%	内面 10YR5.2/1.1赤褐色 外側 7.5YR6.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
71	16	SI-001	17.28	土師器	甕	口径 - 底径 6.8 器高 (8.5)	胴部15%〜 底面100%	内面 7.5YR5.6/明褐色 外側 2.5YR4.6赤褐色 焼成 良好	内面 器面割痕 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
71	17	SI-001	1.6.21	土師器	甕	口径 22.2 底径 8.2 器高 22.7	1口縁一部破 80%	内面 5YR1.4/2.1赤褐色 外側 7.5YR5.2/1.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ土師ナ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
72	1	SI-002	1	土師器	杯	口径 14.8 底径 9.6 器高 (4.2)	1口縁一部破 30%	内面 7.5YR5.4/2.1赤褐色 外側 10YR6.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ナテ 土師ナ 外側 ヘラナテ 底外面 -	
72	2	SI-002	1.13	土師器	杯	口径 114.8 底径 9.6 器高 (4.2)	1口縁一部破 30%	内面 10YR4.1褐色 外側 10YR7.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 土師ナ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
72	3	SI-002	1	土師器	鉢	口径 118.41 底径 - 器高 (4.6)	1口縁一部破 20%	内面 10YR4.1褐色 外側 5YR3.1褐色 焼成 良好	内面 土師ナ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
72	4	SI-002	25	土師器	小型甕	口径 12.4 底径 - 器高 (6.3)	1口縁一部破 25%	内面 7.5YR5.4/2.1赤褐色 外側 5YR4.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヨコナテ・ヘラナテ 底外面 -	
72	5	SI-002	20	土師器	甕	口径 8.2 底径 18.6 器高 (4.5)	胴部下手〜 底面25%	内面 5YR7.8赤褐色 外側 10YR4.2/1.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ、器面割痕 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
72	6	SI-002	2.4	土師器	甕	口径 - 底径 8.0 器高 (8.0)	胴部20%〜 底面30%	内面 10YR5.2/1.1赤褐色 外側 7.5YR4.1褐色 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外側 ヘラナテ 底外面 ヘラナテ	
72	7	SI-002	1.4.7.21	土師器	甕	口径 14.4 底径 - 器高 (8.2)	1口縁一部破 上970%	内面 5YR7.6褐色 外側 7.5YR6.4/2.1赤褐色 焼成 良好	内面 ヨコナテ・ヘラナテ 外側 ヘラナテ 底外面 -	7.84〜胴 体中心

群別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存率	粘土	色調・色地埋用・焼成		技法		備考
									内面	外面	内面	外面	
72	8	SI-002	1.6.37	土師器	甕	口径 -	-	30%	砂粒	内面 7.5YR6-6焼	内面	ヘラナデ	器面製造
						底径 7.2				外面 7.5YR6-6焼	外面	ヘラナデ	
						器高 (11.3)				焼成 良好	底外面	ヘラナデ	
73	9	SI-002	1.5.8.11	土師器	甕	口径 21.8	-	17%-18% F40%	砂粒	内面 10YR6-4C:赤い黄橙	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 12.2				外面 10YR3-4C:赤い黄橙	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (34.2)				焼成 良好	底外面	ヘラナデ	
73	10	SI-002	1.16.17	土師器	甕	口径 22.6	-	17%-18% 上40%	白色灰	内面 7.5YR6-4C:赤い焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 7.2				外面 7.5YR5-3C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (13.4)				焼成 良好	底外面	-	
74	1	SI-003	3	土師器	杯	口径 112.8	-	30%	精粒	内面 10YR6-4C:赤い黄橙	内面	1ギキ	放射状筋文
						底径 9.6				外面 7.5YR6-6C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (3.8)				焼成 良好	底外面	-	
74	2	SI-003	2	土師器	杯	口径 110.3	-	30%	精粒	内面 7.5Y7-6焼	内面	1ギキ	-
						底径 9.6				外面 7.5YR6-6焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (2.3)				焼成 良好	底外面	-	
75	1	SI-004	1.8	土師器	杯	口径 116.5	-	30%	精粒	内面 黒色地埋 10YR3-1原焼	内面	ヨコナデ	1ギキ
						底径 9.6				外面 7.5YR6-6焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (2.9)				焼成 良好	底外面	-	
75	2	SI-004	1.5	土師器	甕	口径 -	-	-	精粒	内面 2.5Y3-1原焼	内面	ヘラナデ	-
						底径 11.3				外面 5YR4-2原焼	外面	ヘラナデ	
						器高 (13.7)				焼成 良好	底外面	-	
75	3	SI-004	9	土師器	小甕	口径 115.2	-	70%	精粒	内面 10YR3-2原焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 6.3				外面 7.5YR3-2原焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 9.6				焼成 良好	底外面	ヘラナデ	
75	4	SI-004	3	土師器	甕	口径 (20.4)	-	17%30%	精粒	内面 7.5YR6-4C:赤い焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 9.6				外面 7.5YR6-4C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (8.4)				焼成 良好	底外面	-	
76	1	SI-005	9	土師器	杯	口径 113.8	-	30%	精粒	内面 黒色地埋 5YR3-1原焼	内面	1ギキ	-
						底径 9.6				外面 黒色地埋 5YR3-1原焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (3.4)				焼成 良好	底外面	-	
76	2	SI-005	10	土師器	杯	口径 119.9	-	30%	砂粒	内面 5YR5-4C:赤い赤焼	内面	1ギキ	-
						底径 9.6				外面 7.5YR5-4C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (3.2)				焼成 良好	底外面	-	
76	3	SI-005	23	土師器	杯	口径 111.3	-	95%	砂粒	内面 7.5Y7-6焼	内面	ヨコナデ	ナデ
						底径 9.6				外面 5YR6-6焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 4.1				焼成 良好	底外面	-	
76	4	SI-005	1	土師器	杯	口径 112.4	-	30%	精粒	内面 7.5YR5-4C:赤い焼	内面	ヨコナデ	1ギキ
						底径 9.6				外面 5YR3-4C:赤い赤焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (3.9)				焼成 良好	底外面	-	
76	5	SI-005	2	土師器	杯	口径 110.5	-	80%	砂粒	内面 5Y7-6焼	内面	1ギキ	ナデ
						底径 9.6				外面 5YR5-6明赤焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (4.2)				焼成 良好	底外面	器面製造	
76	6	SI-005	1.7.21.22	土師器	大甕	口径 118.4	-	70%	白色灰	内面 5YR5-6明赤焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 9.6				外面 5YR6-6焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 8.6				焼成 良好	底外面	-	
76	7	SI-005	1.15	灰土器	蓋	口径 -	-	70%	精粒	内面 10Y4-1原	内面	細ナデ	-
						底径 111.3				外面 2.5Y4-1黄灰	外面	ナデ	ワタロ
						器高 (2.9)				焼成 良好	底外面	-	
76	8	SI-005	1	灰土器	蓋	口径 -	-	縦方向10%	精粒	内面 N4-0原	内面	ナデ	-
						底径 110.7				外面 N4-0原	外面	-	-
						器高 (2.2)				焼成 良好	底外面	-	
76	9	SI-005	32	土師器	小甕	口径 111.7	-	17%縦50%	砂粒	内面 5YR4-4C:赤い赤焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 9.6				外面 2.5YR5-6明赤焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (5.3)				焼成 良好	底外面	器面製造	
77	1	SI-006	1.2	土師器	甕	口径 114.2	-	17%-18% 25%	砂粒	内面 2.5YR3-1原焼	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 9.6				外面 7.5YR1-7.1原	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (13.7)				焼成 良好	底外面	-	
78	1	SI-009	1	土師器	甕	口径 -	-	底面片25%	赤灰	内面 2.5Y7-3灰黄	内面	ヘラナデ	器面製造
						底径 110.7				外面 7.5YR3-2原焼	外面	ヘラナデ	
						器高 (2.0)				焼成 良好	底外面	ナデ	
78	2	SI-009	1	土師器	甕	口径 -	-	底面片25%	砂粒	内面 10Y7-7.4C:赤い黄橙	内面	ヘラナデ	-
						底径 8.6				外面 7.5YR5-4C:赤い焼	外面	ヘラナデ	
						器高 (2.0)				焼成 良好	底外面	ヘラナデ	
79	1	SI-011	27	土師器	杯	口径 111.0	-	17%-18% 50%	精粒	内面 10YR6-3C:赤い黄橙	内面	1ギキ	ナデ
						底径 9.6				外面 7.5YR6-4C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 4.3				焼成 良好	底外面	-	
79	2	SI-011	不明	土師器	杯	口径 111.4	-	底面25%	精粒	内面 黒色地埋 7.5YR3-4原焼	内面	1ギキ	ナデ
						底径 9.6				外面 黒色地埋 7.5YR6-4C:赤い焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (4.2)				焼成 良好	底外面	器面製造	
79	3	SI-011	18	土師器	杯	口径 111.2	-	17%-18% 17%	精粒	内面 黒色地埋 N2-0原	内面	1ギキ	ナデ
						底径 9.6				外面 黒色地埋 5YR2-1原焼	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 (2.9)				焼成 良好	底外面	-	
79	4	SI-011	39	土師器	杯	口径 111.4	-	17%縦30%- 底面50%	精粒	内面 黒色地埋 N2-0原	内面	ヨコナデ	ヘラナデ
						底径 9.6				外面 黒色地埋 10YR2-1原	外面	ヨコナデ	ヘラナデ
						器高 4.2				焼成 良好	底外面	-	

群別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存率	粘土	色地/色地埋+焼成		技 法		備考									
									内面	外面	内面	外面										
79	SI-011	15	土師器 高杯	口徑 - 底径 - 器高 (2.4)	杯部30%	白色砂	内面 10YR6-41C:赤い黄緑 外面 7.5YR6-31C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ ナデ ヨコナテ ナデ -	-	-	-										
													79	SI-011	20	土師器 鉢	口徑 11.5 底径 8.0 器高 5.5	1脚-底部 80%	砂鉄	内面 7.5YR5-41C:赤い黄 外面 5YR5-32C:赤い赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ ヘラナデ ヨコナテ ヘラナデ ヨコナテ ヘラナデ
79	8	SI-011	8	土師器 甕	口徑 - 底径 9.0 器高 (4.6)	胴部下手- 底部40%	白色砂	内面 5YR4-26C:黄 外面 2.5YR5-41C:赤い赤 焼成 良好	内面 外面 底外面	器面割盛 ヘラナデ -												
											79	9	SI-011	28	土師器 甕	口徑 - 底径 8.2 器高 (4.3)	胴部下手- 底部50%	砂鉄	内面 5YR2-13C:黄 外面 5YR5-42C:赤い赤 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ -	
80	10	SI-011	5, 24, 25- 26, 28, 31	土師器 甕	口徑 (22.0) 底径 9.6 器高 35.0	1脚-底部 30%	精製 砂鉄 赤母	内面 10YR6-31C:赤い黄緑 外面 7.5YR5-41C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ ヘラナデ ヨコナテ、全面割盛 ヘラナデ												
											80	11	SI-011	13	土師器 甕	口徑 (14.3) 底径 - 器高 (10.1)	口縁部片 13%	精製 砂鉄	内面 10YR4-31C:赤い黄緑 外面 10YR2-13C 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -	
80	12	SI-011	6, 9, 11, 12	土師器 甕	口徑 - 底径 9.8 器高 (17.1)	1脚-底部 40%	砂鉄	内面 7.5YR3-29C:黄 外面 7.5YR2-13C 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ ヘラナデ -												
											81	1	SI-012	1, 87, 89	土師器 杯	口徑 10.8 底径 9.0 器高 3.4	11%完全	精製	内面 10YR5-31C:赤い黄緑 外面 7.5YR4-26C:黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	土器ナ ヨコナテ ヘラナデ ヨコナテ ヘラナデ	
81	2	SI-012	82	土師器 杯	口徑 113.45 底径 9.0 器高 (3.6)	20%	精製	内面 黑色地埋、7.5YR5-41C:赤い黄 外面 黑色地埋、7.5YR6-41C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	丁寧な土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -												
											81	3	SI-012	1	土師器 杯	口徑 112.7 底径 9.0 器高 3.4	20%	精製	内面 黑色地埋、10YR4-10C:赤い黄 外面 10YR4-10C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	丁寧な土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -	
81	4	SI-012	75, 76, 80	土師器 杯	口徑 11.6 底径 9.0 器高 4.1	90%	精製	内面 2.5YR4-10C:赤い黄 外面 2.5YR4-14C:赤い赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -												
											81	5	SI-012	61	土師器 杯	口徑 114.5 底径 9.0 器高 (3.9)	30%	砂鉄	内面 黑色地埋、N2-000 外面 5YR6-41C:赤い赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 丁寧な土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -	
81	6	SI-012	92	土師器 杯	口徑 121.0 底径 9.0 器高 (5.5)	1脚-1体部 13%	精製 砂鉄	内面 7.5YR5-41C:赤い黄 外面 5YR5-41C:赤い赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 丁寧な土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -												
											81	7	SI-012	1, 37	土師器 杯	口徑 113.7 底径 9.0 器高 (3.8)	30%	精製	内面 黑色地埋、10YR4-31C:赤い黄緑 外面 黑色地埋、10YR4-31C:赤い黄緑 焼成 良好	内面 外面 底外面	土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -	
81	8	SI-012	47	土師器 杯	口徑 113.8 底径 9.0 器高 4.2	11%完全	精製	内面 7.5YR5-31C:赤い黄 外面 7.5YR5-41C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 土器ナ ヨコナテ ナデ 器面割盛												
											81	9	SI-012	1, 36	土師器 杯	口徑 114.4 底径 9.0 器高 (4.4)	40%	精製	内面 黑色地埋、7.5YR4-3C 外面 黑色地埋、7.5YR4-3C 焼成 良好	内面 外面 底外面	土器ナ、器面割盛 ヨコナテ ヘラナデ、器面割盛 -	
81	10	SI-012	1, 45	土師器 杯	口徑 114.5 底径 9.0 器高 (3.1)	20%	砂鉄	内面 10YR6-41C:赤い黄緑 外面 2.5YR5-41C:赤い赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 土器ナ ヨコナテ ヘラナデ -												
											81	11	SI-012	19	土師器 高杯	口徑 (26.4) 底径 7.3 器高 (7.3)	杯部30%	精製	内面 黑色地埋、N2-000 外面 赤系、10R4-6C 焼成 良好	内面 外面 底外面	丁寧な土器ナ ヨコナテ ヘラナデより薄ナデ -	
81	12	SI-012	32	土師器 高杯	口徑 - 底径 - 器高 (3.4)	胴部20%	白色砂	内面 - 外面 10YR5-31C:赤い黄緑 焼成 良好	内面 外面 底外面	土器ナ ヘラナデ -												
											81	13	SI-012	1, 19	土師器 高杯	口徑 115.45 底径 14.6 器高 (14.6)	胴部30%	精製	内面 赤系、2.5YR5-8明赤黄 外面 赤系、2.5YR5-8明赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ ナデ ヨコナテ ナデ -	
82	14	SI-012	18, 30	土師器 鉢	口徑 - 底径 (6.5) 器高 6.2	60%	砂鉄	内面 赤系、10YR4-6C 外面 赤系、5YR5-6明赤黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヨコナテ 土器ナ ヨコナテ ヘラナデ 木蓋												
											82	15	SI-012	12	土師器 鉢	口徑 - 底径 (6.8) 器高 (2.7)	底部片	砂鉄	内面 10YR4-31C:赤い黄緑 外面 10YR4-31C:赤い黄緑 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ 木蓋	
82	16	SI-012	14	土師器 鉢	口徑 - 底径 (6.2) 器高 (2.7)	底部片	砂鉄	内面 10YR4-31C:赤い黄緑 外面 7.5YR5-31C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ -												
											82	17	SI-012	1	土師器 鉢	口徑 - 底径 (5.4) 器高 (2.7)	底部片	砂鉄	内面 10YR1-7-13 外面 7.5YR5-41C:赤い黄 焼成 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ -	

種別	No	規格番号	建築物番号	種類	器種	寸法(mm)	適存量	施工	色調・色処理・構成		技 法		備考
									内面	外面	内面	外面	
R2	18	SI-012	1.28.46.67	土脚	鉢	口径 115.41	80%	砂吹	内面	SYR5-0形赤釉	内面	ヨコナテ ハラナテ	
						底径 5.5			外面	SYR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 8.0			構成	良好	底外面	-	
R2	19	SI-012	1.2.3.56	土脚	鉢	口径 115.41	80%	砂吹	内面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	内面	丁寧なシガキ	
						底径 5.5			外面	10YR5-2赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 19.7			構成	良好	底外面	-	
R2	20	SI-012	1.13.97.98	土脚	小型鉢	口径 110.40	30%	砂吹	内面	SYR5-0形赤釉	内面	ヨコナテ 器面割漆	
						底径 15.41			外面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 112.2			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	21	SI-012	1.79.84.100-101	土脚	甌	口径 119.51	50%	砂吹	内面	7.5YR5-6赤釉	内面	ヨコナテ ハラナテ 器面割漆	
						底径 19.2			外面	7.5YR4-2赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 28.6			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	22	SI-012	1.42.63	土脚	小型鉢	口径 114.31	80%	砂吹	内面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	内面	ヨコナテ ナテ	二次焼成
						底径 -			外面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 -			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	23	SI-012	1.75	土脚	甌	口径 113.91	口縁部10%	砂吹	内面	SYR4-4C.2.5.1赤釉	内面	ヨコナテ	
						底径 -			外面	2.5YR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 15.17			構成	良好	底外面	-	
R2	24	SI-012	1.70	土脚	甌	口径 117.20	口縁部40%	砂吹	内面	10YR5-3赤釉	内面	ヨコナテ ハラナテ	
						底径 -			外面	SYR4-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 19.2			構成	良好	底外面	-	
R2	25	SI-012	31	土脚	甌	口径 119.21	全面30%	砂吹	内面	7.5YR5-6赤釉	内面	ヨコナテ ナテ 器面割漆	二次焼成
						底径 -			外面	7.5YR6-6赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 16.77			構成	良好	底外面	-	
R2	26	SI-012	20	土脚	甌	口径 -	底面部	砂吹	内面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	内面	ハラナテ	
						底径 18.40			外面	7.5YR2-1赤釉	外面	ハラナテ	
						器高 13.80			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	27	SI-012	11	土脚	甌	口径 -	底面部	砂吹	内面	10YR5-2赤釉	内面	不明 器面ひとく割漆	
						底径 18.21			外面	SYR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ハラナテ	
						器高 14.11			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	28	SI-012	68.31	土脚	甌	口径 -	底面部	砂吹	内面	10YR5-2赤釉	内面	不明 器面ひとく割漆	
						底径 18.41			外面	2.5YR4-4C.2.5.1赤釉	外面	ハラナテ	
						器高 15.20			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	29	SI-012	1.8.94.96	土脚	甌	口径 121.80	胴部-胴部	砂吹	内面	SYR4-6赤釉	内面	ヨコナテ ハラナテ	
						底径 -			外面	10YR1.2.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 118.21			構成	良好	底外面	-	
R2	30	SI-012	1	土脚	手摺	口径 -	30%	砂吹	内面	SYR4-6赤釉	内面	ナテ	
						底径 12.71			外面	2.5YR4-3C.2.5.1赤釉	外面	ナテ	
						器高 2.40			構成	良好	底外面	ハラナテ	
R2	31	SI-012	1	土脚	手摺	口径 110.20	20%	砂吹	内面	7.5YR5-4C.2.5.1赤釉	内面	ナテ	
						底径 -			外面	10YR5-2C.2.5.1赤釉	外面	器面割漆	
						器高 14.21			構成	良好	底外面	-	
R3	1	SI-013	30.52	土脚	杯	口径 12.6	胴部-胴部	精製	内面	原色処理 10YR6-4C.2.5.1赤釉	内面	ヨコナテ ミガキ	
						底径 丸底			外面	原色処理 SYR4-1黒釉	外面	ヨコナテ ハラナテ 部分的割漆	
						器高 3.6			構成	良好	底外面	-	
R3	2	SI-013	19.38	土脚	杯	口径 13.1	胴部-胴部	精製	内面	原色処理 10YR3-3赤釉	内面	ヨコナテ 丁寧なシガキ 器面割漆	
						底径 丸底			外面	原色処理 SYR4-6赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 4.2			構成	良好	底外面	-	
R3	3	SI-013	1	土脚	杯	口径 111.40	口縁部精製	精製	内面	N4.0赤	内面	ワカボナテ	
						底径 丸底			外面	N4.0赤	外面	ワカボナテ 回転ハラナテ	
						器高 3.40			構成	良好	底外面	-	
R3	4	SI-013	57	土脚	杯	口径 12.4	胴部-胴部	精製	内面	SYR5-0形赤釉	内面	ヨコナテ 丁寧なシガキ 器面割漆	
						底径 丸底			外面	SYR6-6赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 3.40			構成	良好	底外面	-	
R3	5	SI-013	17.47	土脚	杯	口径 115.00	胴部-胴部	白色釉	内面	原色処理 N2.0赤	内面	ミガキ ヨコナテ	
						底径 丸底			外面	原色処理 N2.0赤	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 4.8			構成	良好	底外面	-	
R3	6	SI-013	40.32	土脚	杯	口径 13.8	胴部-胴部	白色釉	内面	SYR4-2C.1.5.1赤釉	内面	ヨコナテ 器面割漆	
						底径 丸底			外面	SYR5-4C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 3.90			構成	良好	底外面	-	
R3	7	SI-013	1	土脚	杯	口径 15.20	胴部-胴部	精製	内面	10YR4-2C.1.5.1赤釉	内面	ヨコナテ 器面割漆	
						底径 丸底			外面	7.5YR5-3C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 14.00			構成	良好	底外面	-	
R3	8	SI-013	18.41.52	土脚	高杯	口径 -	胴部-胴部	白色釉	内面	器面赤釉 7.5YR5-6赤釉	内面	ハラナテ 器面割漆	
						底径 -			外面	SYR4-6赤釉	外面	ハラナテ	
						器高 19.40			構成	良好	底外面	-	
R3	9	SI-013	1.20.37	土脚	高杯	口径 22.21	胴部30%	精製	内面	原色処理 N2.0赤	内面	丁寧なシガキ	
						底径 -			外面	2.5YR5-6赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 16.20			構成	良好	底外面	-	
R3	10	SI-013	1.24.44.58	土脚	高杯	口径 20.3	胴部-胴部	精製	内面	原色処理 N2.0赤	内面	ミガキ	胴部内面 SYR5-赤釉 ヨコナテ ハラナテ
						底径 15.60			外面	赤釉 2.5YR5-6赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 17.2			構成	良好	底外面	-	
R4	11	SI-013	1.27.28.29.31.53.54.55	土脚	鉢	口径 24.1	胴部-胴部	砂吹	内面	10YR5-6赤釉	内面	ヨコナテ ハラナテ 器面割漆	
						底径 7.4			外面	2.5YR4-3C.2.5.1赤釉	外面	ヨコナテ ハラナテ	
						器高 11.5			構成	良好	底外面	ハラナテ	

群別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存率	出土	色調・色地理・構成		技法		備考	
									内面	外面	内面	外面		
84	12	SI-013	1.4, 42, 45.32	土師器	甕	口径 19.1	1階-胴部	砂粒	内面	SVR5-0明赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナデ	器面割盛
						底径 9.0			外面	SVR5-42.5赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 29.1			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
84	13	SI-013	46.47, 48	土師器	甕	口径 12.7	1階-胴部	小砂粒	内面	2.5VR4-6赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						底径 7.5			外面	2.5VR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 15.4			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
84	14	SI-013	45.49, 47, 48	土師器	甕	口径 14.0	1階-胴部	砂粒	内面	2.5VR5-6明赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナデ	器面割盛
						底径 6.4			外面	2.5VR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 16.2			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
84	15	SI-013	33	土師器	甕	口径 -	胴部下下- 底部50%	精粒	内面	SVR4-41.5赤帯	内面	ヘラナテ	器面割盛	
						底径 6.9			外面	2.5VR3-6明赤帯	外面	ヘラナデ		
						器高 15.32			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
84	16	SI-013	56	土師器	甕	口径 -	胴部下下- 底部50%	砂粒	内面	2.5VR4-6赤帯	内面	ヘラナデ	器面割盛	
						底径 7.2			外面	2.5VR5-6明赤帯	外面	ヘラナデ		
						器高 15.0			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
84	17	SI-013	34	土師器	甕	口径 -	胴部下下- 底部70%	砂粒	内面	10VR8-4黄褐色	内面	器面割盛		
						底径 8.4			外面	10VR5-41.5赤帯	外面	ヘラナデ		
						器高 14.6			構成	良好	底外面	ヘラナデ		
86	1	SI-018	57.79	土師器	鉢	口径 118.2	1階-体部	精粒	内面	SVR5-6明赤帯	内面	1等キ		
						底径 -			外面	SVR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 17.2			構成	良好	底外面	-		
86	2	SI-018	73.77	土師器	小型甕	口径 112.5	1階-胴部	精粒	内面	SVR5-8明赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	器面割盛
						底径 -			外面	2.5VR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 9.0			構成	良好	底外面	-		
86	3	SI-018	58	土師器	甕	口径 117.0	1階-胴部	砂質	内面	SVR5-6明赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	
						底径 -			外面	SVR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 7.11			構成	良好	底外面	-		
86	4	SI-018	61.63, 73	土師器	甕	口径 119.0	1階-胴部	砂質	内面	SVR2-1黒帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	
						底径 -			外面	SVR5-31.5赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 8.0			構成	良好	底外面	-		
86	5	SI-018	44.59, 64, 73	土師器	甕	口径 21.7	1階-胴部	砂質	内面	7.5VR6-41.5赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	
						底径 -			外面	7.5VR6-41.5赤帯	外面	ナテ		
						器高 13.0			構成	良好	底外面	-		
86	6	SI-018	3	土師器	杯	口径 -	体部-底部	砂質	内面	SVR5-6明赤帯	内面	器面割盛		
						底径 4.8			外面	SVR5-8明赤帯	外面	ヘラナデ		
						器高 14.0			構成	良好	底外面	-		
86	7	SI-018	78	土師器	鉢	口径 -	体部-底部	精粒	内面	SVR5-8明赤帯	内面	丁寧なミガキ		
						底径 15.4			外面	赤帯, YR6-8橙	外面	ヘラナデ		
						器高 12.1			構成	良好	底外面	-		
86	8	SI-018	65	土師器	甕	口径 17.0	底部25%	精粒 砂粒	内面	SVR6-8橙	内面	ヘラナテ		
						底径 12.0			外面	7.5VR6-6橙	外面	ヘラナテ		
						器高 12.0			構成	良好	底外面	ヘラナテ		
86	9	SI-018	43.30	土師器	小型甕	口径 110.4	1階-胴部	精粒	内面	7.5VR6-6橙	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	
						底径 -			外面	7.5VR6-6橙	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 8.4			構成	良好	底外面	-		
86	10	SI-018	62	土師器	甕	口径 114.9	1階-胴部	精粒	内面	SVR5-6明赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	
						底径 -			外面	SVR5-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 15.7			構成	良好	底外面	-		
86	11	SI-018	29.49, 67.70, 74	土師器	甕	口径 124.6	1階-胴部	砂質 白色灰	内面	7.5VR6-41.5赤帯	内面	ヨコナテ	ヘラナテ	器面割盛
						底径 -			外面	7.5VR6-41.5赤帯	外面	ヨコナテ	ナテ	ヘラミガキ
						器高 23.2			構成	良好	底外面	-		
86	12	SI-019	10	土師器	手笠	口径 -	胴部	精粒	内面	7.5VR5-6明帯	内面	器面割盛		
						底径 -			外面	7.5VR5-6明帯	外面	器面割盛		
						器高 14.0			構成	良好	底外面	-		
87	1	SI-020	21	土師器	杯	口径 112.7	1階-体部	精粒	内面	黒色地理, 黒10VR4-2赤帯	内面	ヨコナテ	ナテ	
						底径 7.0			外面	黒色地理, 黒10VR4-2赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 13.7			構成	良好	底外面	-		
87	2	SI-020	9.31, 36	土師器	甕	口径 -	胴部下下- 底部15%	精粒	内面	SVR5-6明赤帯	内面	ヘラナテ	器面割盛	
						底径 17.0			外面	SVR4-41.5赤帯	外面	ヘラナテ		
						器高 14.0			構成	良好	底外面	ヘラナテ		
90	1	SI-024	103	土師器	杯	口径 12.8	100%	精粒	内面	黒色地理, 7.5VR4-2橙	内面	ヨコナテ	丁寧なミガキ	
						底径 大丸			外面	黒色地理, 7.5VR5-6明帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 3.9			構成	良好	底外面	-		
90	2	SI-024	2.3, 39, 173, 182	土師器	杯	口径 11.5	70%	精粒	内面	黒色地理, 7.5VR5-31.5赤帯	内面	ヨコナテ	ミガキ	
						底径 大丸			外面	黒色地理, 7.5VR7-41.5赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 3.7			構成	良好	底外面	-		
90	3	SI-024	2.3	土師器	杯	口径 112.4	1階-体部	精粒	内面	黒色地理, 1等キ	内面	丁寧なミガキ		
						底径 大丸			外面	SVR6-6明赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 13.7			構成	良好	底外面	-		
90	4	SI-024	110	土師器	杯	口径 14.2	111%完形	砂質 白色灰	内面	SVR6-41.5赤帯	内面	ヨコナテ	ナテ	
						底径 大丸			外面	SVR6-41.5赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 6.2			構成	良好	底外面	-		
90	5	SI-024	120, 142, 143, 146, 180	土師器	杯	口径 14.9	111%完形	精粒 砂粒	内面	10VR7-41.5赤帯	内面	ヨコナテ	ミガキ	
						底径 大丸			外面	赤帯, 10VR6-41.5赤帯	外面	ヨコナテ	ヘラナデ	
						器高 6.4			構成	良好	底外面	器面割盛		

顺序	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存率	粘土	色・色地埋用・焼成		技 法		備考
									内面	外面	内面	外面	
90	6	SI-024	175,178, 179	土師器	杯	口径 14.6 底径 大底 器高 6.9	100%	精製	内面 外面 外面 7.5YR7-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 底外面 -			
90	7	SI-024	108	土師器	杯	口径 13.7 底径 大底 器高 5.8	114%完全	精製	内面 外面 外面 7.5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ミガキ、器面割漆 外面 ヨコナテ ヘラケズリ、器面割漆 底外面 -			
90	8	SI-024	2.3.92	土師器	高杯	口径 - 底径 111.3 器高 (4.6)	胴部-底部 80%	精製	内面 外面 外面 赤色地埋、7.5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ 外面 ヘラケズリ残ナテ ヨコナテ 底外面 ヨコナテ			
90	9	SI-024	77.78	土師器	鉢	口径 115.8 底径 - 器高 (5.6)	1胴-1体部 15%	精製	内面 外面 外面 赤色地埋、5YR5-41:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 底外面 -			
90	10	SI-024	83.84	土師器	鉢	口径 110.0 底径 - 器高 (5.3)	1胴-1体部 20%	精製	内面 外面 外面 7.5YR6-41:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 底外面 -			
90	11	SI-024	2.3.36, 112	土師器	鉢	口径 113.8 底径 - 器高 (7.3)	1胴-1体部 15%	精製	内面 外面 外面 5YR5-41:5R赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ヘラケズリ、器面割漆 底外面 -		二次焼成	
90	12	SI-024	112	土師器	羹	口径 14.2 底径 7.2 器高 16.2	96%	精製 砂粒	内面 外面 外面 7.5YR6-41:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ ヘラケズリ 底外面 手持ちヘラケズリ		二次焼成	
90	13	SI-024	104	土師器	羹	口径 15.5 底径 7.6 器高 19.6	96%	精製	内面 外面 外面 5YR5-6明赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ残ナテ 底外面 ヘラケズリ			
91	14	SI-024	3.38.09, 7.38.122, 133.324, 135.127, 137.181	土師器	羹	口径 16.4 底径 8.1 器高 18.3	70%	精製 白色粒	内面 外面 外面 2.5YR5-6明赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ残ナテ 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
91	15	SI-024	109	土師器	羹	口径 20.9 底径 9.4 器高 30.9	60%	精製 白色粒	内面 外面 外面 5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
91	16	SI-024	111	土師器	羹	口径 25.6 底径 10.3 器高 31.8	114%完全	精製 白色 砂粒	内面 外面 外面 7.5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 底外面 手持ちヘラケズリ		二次焼成	
91	17	SI-024	3.107.111, 108.135 7C-39	土師器	羹	口径 18.6 底径 7.8 器高 29.9	80%	精製 白色粒	内面 外面 外面 5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ残ナテ 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
91	18	SI-024	3.105	土師器	羹	口径 22.3 底径 9.8 器高 (28.1)	1胴-1胴部	精製 赤色	内面 外面 外面 10YR7-6明赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ミガキ 底外面 -			
91	19	SI-024	40,141, 184,185	土師器	羹	口径 22.6 底径 9.2 器高 29.5	114%完全 90%	精製 白色粒	内面 外面 外面 5YR6-8R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ残ナテ 底外面 器面割漆			
92	20	SI-024	1.74.105, 105.116, 107.120.13, 104.138.157, 105.166.177, 105.166.196	土師器	羹	口径 19.8 底径 10.4 器高 34.7	114%完全 90%	白色粒	内面 外面 外面 2.5YR5-6明赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、ヘラケズリ残ナテ、ミガキ 外面 手持ちヘラケズリ		二次焼成	
92	21	SI-024	2.3.33, 61,64	土師器	羹	口径 (23.2) 底径 - 器高 (6.1)	1胴-1胴部 25%	精製 砂粒 赤色	内面 外面 外面 7.5YR6-41:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヨコナテ、器面割漆 外面 ヨコナテ、器面割漆 底外面 -			
92	22	SI-024	144.174	土師器	羹	口径 - 底径 6.8 器高 (6.2)	胴部-底部 70%	精製	内面 外面 外面 5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヘラケズリ、器面割漆 外面 十テ、器面割漆 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
92	23	SI-024	15	土師器	羹	口径 - 底径 (6.2) 器高 (4.3)	胴部-底部 30%	精製	内面 外面 外面 5YR6-41:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヘラケズリ 外面 ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ			
92	24	SI-024	55	土師器	羹	口径 - 底径 (5.4) 器高 (3.2)	底部60%	精製	内面 外面 外面 5YR5-41:5R赤黒 焼成 良好	内面 外面 外面 器面割漆 外面 手持ちヘラケズリ 底外面 -		二次焼成	
92	25	SI-024	2.91.182	土師器	羹	口径 - 底径 (7.3) 器高 (2.5)	底部30%	精製 砂粒	内面 外面 外面 5YR6-31:5R 焼成 良好	内面 外面 外面 器面割漆 外面 ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
92	26	SI-024	3.72.73	土師器	羹	口径 - 底径 7.2 器高 (2.2)	底部85%	精製 赤色	内面 外面 外面 5YR5-1黒赤 焼成 良好	内面 外面 外面 器面割漆 外面 ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ		二次焼成	
92	27	SI-024	6.83.79, 88	土師器	羹	口径 - 底径 8.6 器高 (3.0)	底部60%	精製 白色粒	内面 外面 外面 7.5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヘラケズリ、器面割漆 外面 ヘラケズリ 外面 十テミガキ 底外面 ヘラケズリ			
92	28	SI-024	7.9.11	土師器	羹	口径 - 底径 9.8 器高 (2.7)	底部70%	精製	内面 外面 外面 7.5YR6-6R 焼成 良好	内面 外面 外面 ヘラケズリ 外面 ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ			

群別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存度	粘土	色調・色地質・構成		技法		備考
									内面	外面	内面	外面	
92	29	SI-024	2.131.8.8 96.5.8.16 16.18.16 10.9.9 19-10, 10-12	土師器	甎	口径 25.15	90%	精製 白色粘	内面	SY86-6色	内面	ヨコナテ ハラナシミギキ	
						底径 8.85			外面	SY86-6色	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 25.7			構成	良好	底外面	-	
94	1	SI-025	292	土師器	杯	口径 12.9	90%	精製	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 4.1			構成	良好	底外面	-	
94	2	SI-025	343.345, 354	土師器	杯	口径 12.5	75%	精製	内面	原色地質, 7.SY86-412.255+緑	内面	ヨコナテ ミギキ	
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY86-412.255+緑	外面	ヨコナテ ハラナシ・波型+ミギキ	
						器高 4.7			構成	良好	底外面	-	
94	3	SI-025	332	土師器	杯	口径 12.5	100%	精製 砂質	内面	原色地質, 7.SY86-6色	内面	丁寧なミギキ, 口縁摩耗	
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY86-6色	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 19.5			構成	良好	底外面	-	
94	4	SI-025	242.302, 365	土師器	杯	口径 12.9	75%	精製	内面	原色地質, 7.SY87-6色	内面	ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY87-6色	外面	ヨコナテ ハラナシ, 器面割盛	
						器高 4.1			構成	良好	底外面	-	
94	5	SI-025	345.348	土師器	杯	口径 12.6	100%	精製 白色粘	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	丁寧なミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 4.3			構成	良好	底外面	-	
94	6	SI-025	282	土師器	杯	口径 12.6	70%	精製	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	ヨコナテ ミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 5.1			構成	良好	底外面	-	
94	7	SI-025	241.286, 333	土師器	杯	口径 13.2	75%	精製	内面	原色地質, 7.SY87-6色	内面	ヨコナテ ハラナシ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY87-6色	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 5.9			構成	良好	底外面	-	
94	8	SI-025	293	土師器	杯	口径 11.4	90%	精製	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	ヨコナテ ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 8.8			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 4.2			構成	良好	底外面	-	
94	9	SI-025	7.264	土師器	杯	口径 112.7)	成部を欠く 25%	精製	内面	原色地質, 7.SY85-312.255+緑	内面	ヨコナテ ミギキ, 口縁摩耗	二次焼成
						底径 -			外面	原色地質, 7.SY85-312.255+緑	外面	ヨコナテ ハラナシ, 器面割盛	
						器高 3.25			構成	良好	底外面	-	
94	10	SI-025	352.355	土師器	杯	口径 111.5)	成部を欠く	精製	内面	7.SY86-412.255+緑	内面	ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 -			外面	7.SY86-412.255+緑	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 13.8)			構成	良好	底外面	-	
94	11	SI-025	4.35.70, 355.370	土師器	杯	口径 113.0	20%	精製	内面	原色地質, SY84-312.255+赤褐	内面	ミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY84-312.255+赤褐	外面	ナテ ハラナシ	
						器高 2.95)			構成	良好	底外面	-	
94	12	SI-025	291	土師器	杯	口径 13.2	80%	精製	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	丁寧なミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ナテ ハラナシ	
						器高 4.0			構成	良好	底外面	-	
94	13	SI-025	4.49, 332.379	土師器	杯	口径 -	30%	精製	内面	原色地質, SY84-312.255+赤褐	内面	丁寧なミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY85-299.6	外面	ナテ ハラナシ	
						器高 3.2			構成	良好	底外面	-	
94	14	SI-025	41.195, 247.290, 289.354	土師器	杯	口径 -	口縁を欠く 80%	精製	内面	原色地質, 2.SY85-412.255+赤褐	内面	ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, 2.SY85-412.255+赤褐	外面	ハラナシ, 器面割盛	
						器高 14.0)			構成	良好	底外面	-	
94	15	SI-025	39.285, 355.371	土師器	杯	口径 -	底面100%	精製	内面	7.SY87-6色	内面	丁寧なミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	7.SY87-6色	外面	ハラナシ	
						器高 2.6)			構成	良好	底外面	-	
94	16	SI-025	185.188, 211.352, 353.354, 355.370, 34.40.44	土師器	杯	口径 119.7)	30%	精製	内面	原色地質, SY85-6明赤褐	内面	丁寧なミギキ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY85-6明赤褐	外面	ナテ ハラナシ	
						器高 6.05)			構成	良好	底外面	-	
94	17	SI-025	66.350, 355.370	土師器	杯	口径 113.1)	30%	精製	内面	原色地質, SY85-412.255+赤褐	内面	ヨコナテ ハラナシ	二次焼成
						底径 9.6			外面	SY85-412.255+赤褐	外面	ヨコナテ ハラナシ・波ナテ	
						器高 6.2			構成	良好	底外面	-	
94	18	SI-025	336.309, 344.394, 354	土師器	杯	口径 14.2	90%	精製	内面	原色地質, SY86-312.255+赤	内面	ヨコナテ ナテ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY86-312.255+赤	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 4.4			構成	良好	底外面	-	
94	19	SI-025	1.186	土師器	杯	口径 113.9)	20%	精製	内面	原色地質, 7.SY86-6色	内面	丁寧なミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	7.SY86-6色	外面	ヨコナテ, 器面割盛	
						器高 4.3)			構成	良好	底外面	-	
94	20	SI-025	288	土師器	杯	口径 13.7	70%	精製	内面	原色地質, 7.SY87-6色	内面	丁寧なミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, 7.SY87-6色	外面	ヨコナテ ハラナシ, 器面割盛	
						器高 3.8			構成	良好	底外面	-	
94	21	SI-025	294	土師器	杯	口径 14.1	85%	精製	内面	原色地質, SY86-312.255+赤	内面	ヨコナテ ナテ	二次焼成
						底径 9.6			外面	原色地質, SY86-312.255+赤	外面	ヨコナテ ハラナシ	
						器高 4.4			構成	良好	底外面	-	
94	22	SI-025	190.345	土師器	杯	口径 11.4	90%	精製 白色粘	内面	SY86-6色	内面	ミギキ, 器面割盛	二次焼成
						底径 9.6			外面	SY86-6色	外面	ハラナシ, 器面	
						器高 4.3			構成	良好	底外面	-	

採種	No	遺精番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	遺存度	出土	色調/色処理/構成	技法	備考
93	23	SI-025	284	土師器	杯	口径 10.8 底径 9.6 器高 4.5	90%	精緻	内面 黒色地肌, 7.5YR6-6R 外面 黒色地肌, 5YR5-6明赤 構成 良好	内面 土着牛, 器面割漆 外面 ナデ, ハラケズリ	二次焼成
94	24	SI-025	1,37,117,355	土師器	杯	口径 113.6 底径 9.6 器高 14.0	100%-一部破	精緻	内面 5YR5-4C, 赤い赤 外面 5YR5-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, 土着牛 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	
94	25	SI-025	127,317	土師器	杯	口径 14.0 底径 9.6 器高 5.2	30%	精緻	内面 7.5YR6-6R 外面 7.5YR6-6R 構成 良好	内面 土着な土着牛 外面 ナデ, ハラケズリ, 器面割漆	
94	26	SI-025	193	土師器	杯	口径 115.9 底径 9.6 器高 3.0	10%	精緻	内面 黒色地肌, 5YR4/3C, 赤い赤 外面 黒色地肌, 5YR5-6明赤 構成 良好	内面 土着牛 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	二次焼成
94	27	SI-025	167,382	土師器	杯	口径 11.0 底径 8.5 器高 3.4	50%	精緻 白色粒	内面 5YR5-4C, 赤い赤 外面 5YR5-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ハラケズリ 外面 ナデ, ハラケズリ	
94	28	SI-025	58	灰土器	蓋	口径 11.0 底径 - 器高 3.2	100%-一部破	精緻 白色粒	内面 7.5Y3/1R 外面 緑(ハラケズリ), ロドリナデ, 自然焼 構成 良好	内面 ハラケズリ 外面 緑(ハラケズリ), ロドリナデ, 自然焼	
95	29	SI-025	4,81,80, 159,352, 355,366	土師器	高杯	口径 116.4 底径 - 器高 14.0	100%-一部破	精緻	内面 黒色地肌, 10YR2-1R 外面 赤系, 7.5YR6-6R 構成 良好	内面 土着な土着牛 外面 ヨコナデ, ハラケズリ, ハラケズリ接ナデ	二次焼成
95	30	SI-025	1,2,221, 222,223, 352,373	土師器	高杯	口径 19.4 底径 - 器高 6.0	杯破80%	精緻	内面 黒色地肌, 10YR2/7.1R 外面 赤系, 7.5YR6-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 土着な土着牛 外面 ヨコナデ, ハラケズリ接ナデ	二次焼成
95	31	SI-025	347	土師器	高杯	口径 - 底径 10.7 器高 11.5	杯破80%	精緻 白色粒	内面 7.5YR2-1R 外面 5YR5-6明赤 構成 良好	内面 ハラケズリ, ナデ 外面 ハラケズリ, ヨコナデ	二次焼成
95	32	SI-025	179,207	土師器	鉢	口径 11.0 底径 - 器高 6.3	100%-一部破	精緻	内面 赤系, 橙5YR6-6R 外面 赤系, 橙5YR6-6R 構成 良好	内面 ヨコナデ, 器面割漆 外面 器面割漆	二次焼成
95	33	SI-025	172,206	土師器	鉢	口径 115.9 底径 - 器高 17.9	100%-一部破	精緻	内面 7.5YR6-6R 外面 7.5YR6-6R 構成 良好	内面 ヨコナデ, 器面割漆 外面 ナデ, 器面割漆	二次焼成 32と同 製小?
95	34	SI-025	181,299, 355	土師器	鉢	口径 110.3 底径 7.0 器高 14.0	100%-一部破	精緻	内面 黒色地肌, 5YR5-3C, 赤い赤 外面 黒色地肌, 5YR5-3C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	二次焼成
95	35	SI-025	132,226	土師器	鉢	口径 111.0 底径 - 器高 16.7	100%-一部破	精緻	内面 7.5YR5-4C, 赤い赤 外面 7.5YR4/2R, 赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ 外面 ヨコナデ, 器面割漆	二次焼成
95	36	SI-025	363	土師器	甕	口径 - 底径 7.0 器高 3.0	底割50%	精緻 白色粒	内面 7.5YR5-4C, 赤い赤 外面 7.5YR5-6明赤 構成 良好	内面 器面割漆 外面 器面割漆	二次焼成
95	37	SI-025	1,レシナナ	土師器	甕	口径 - 底径 19.0 器高 2.0	底割25%	精緻	内面 7.5YR4-1R, 赤 外面 7.5YR5-6明赤 構成 良好	内面 ハラケズリ 外面 ハラケズリ	二次焼成
95	38	SI-025	284 11	土師器	甕	口径 - 底径 8.0 器高 2.7	底割70%	精緻 白色粒	内面 7.5YR5-4C, 赤い赤 外面 7.5YR5-6明赤 構成 良好	内面 器面割漆 外面 ハラケズリ	二次焼成
95	39	SI-025	295	土師器	鉢	口径 12.2 底径 5.6 器高 9.4	98%	精緻 砂肌	内面 7.5YR6-4C, 赤い赤 外面 7.5YR6-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, 器面割漆 外面 ヨコナデ, ハラケズリ, 器面割漆	二次焼成
95	40	SI-025	374	土師器	甕	口径 13.0 底径 5.8 器高 12.5	95%	精緻	内面 5YR5-4C, 赤い赤 外面 5YR5-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	二次焼成
95	41	SI-025	299	土師器	鉢	口径 113.0 底径 - 器高 6.0	100%-一部破	精緻 砂肌	内面 7.5YR6-6R 外面 7.5YR6-6R 構成 良好	内面 ヨコナデ, 器面割漆 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	
95	42	SI-025	214	土師器	甕	口径 113.5 底径 - 器高 5.5	100%-一部破	精緻 白色粒	内面 5YR5-6明赤 外面 5YR5-6明赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ, 器面割漆 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	二次焼成
95	43	SI-025	287	土師器	甕	口径 116.5 底径 - 器高 13.5	100%-一部破	精緻	内面 7.5YR2-2R, 赤 外面 5YR5-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ, 器面割漆 外面 ヨコナデ, ハラケズリ, 器面割漆	二次焼成
95	44	SI-025	4,96,125, 146,148, 160,257, 352	土師器	甕	口径 118.4 底径 - 器高 15.5	100%-一部破	砂肌	内面 7.5YR6-6R 外面 7.5YR6-6R 構成 良好	内面 器面割漆 外面 ヨコナデ, ナデ, 器面割漆	二次焼成
95	45	SI-025	246,340	土師器	甕	口径 20.9 底径 - 器高 8.8	100%-一部破	精緻 白色粒	内面 5YR5-3C, 赤い赤 外面 5YR5-3C, 赤い赤 構成 良好	内面 ヨコナデ, ハラケズリ 外面 ヨコナデ, ハラケズリ	二次焼成
95	46	SI-025	2,198, 224,252, 367	土師器	甕	口径 - 底径 7.3 器高 117.4	100%-一部破	精緻	内面 5YR5-4C, 赤い赤 外面 5YR5-4C, 赤い赤 構成 良好	内面 ハラケズリ 外面 ハラケズリ	二次焼成
95	47	SI-025	77,133	土師器	甕	口径 - 底径 9.8 器高 6.0	100%-一部破	白色粒	内面 7.5YR4-1R, 赤 外面 7.5YR5-6明赤 構成 良好	内面 ハラケズリ, 器面割漆 外面 ハラケズリ	二次焼成

棟号	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	容量(ml)	遺存率	出土	色調・色地埋・構成		技法		備考
									内面	外面	内面	外面	
95	48	SI-025	102.272.355	土師器	甕	口径 - 底径 4.6 器高 (3.1)	底面70% 結核	内面 - 外面 7.5YR5-6明褐色 構成 良好	内面 ハワナテ 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ			二次焼成	
95	49	SI-025	101.108.49	土師器	甕	口径 - 底径 5.8 器高 (3.3)	底面70% 結核	内面 5YR5-6明赤褐色 外面 5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 器面割漆 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ			二次焼成	
95	50	SI-025	7D-42	土師器	甕	口径 - 底径 (8.0) 器高 (2.6)	底面80% 結核 砂粒	内面 7.5YR5-6明赤褐色 外面 7.5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 器面割漆 外面 器面割漆 底外面 ハワナテ			二次焼成	
95	51	SI-025	65.115.355	土師器	甕	口径 - 底径 (6.4) 器高 (3.1)	底面25% 白色粒	内面 7.5YR2-1黒 外面 5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 ハワナテ 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ			二次焼成	
95	52	SI-025	12	土師器	甕	口径 - 底径 6.9 器高 (2.6)	底面80% 結核	内面 7.5YR5-6明赤褐色 外面 7.5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 器面割漆 外面 器面割漆 底外面 器面割漆			二次焼成	
95	53	SI-025	207.274.355	土師器	甕	口径 - 底径 6.3 器高 (2.7)	底面85% 結核	内面 5YR5-6明赤褐色 外面 5YR4-4L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ハワナテ、器面割漆 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ			二次焼成	
95	54	SI-025	4.302.354.355.366	土師器	甕	口径 10.0 底径 (8.4) 器高 (10.8)	胴部下下~ 底面30% 白色粒	内面 7.5YR6-6暗褐色 外面 2.5YR4-3L2.5赤褐色 構成 良好	内面 器面割漆 外面 1字ナテ、器面割漆 底外面 ハワナテ				
95	55	SI-025	1.12.153.203.273.305.310.338.354.355	土師器	甕	口径 (34.4) 底径 - 器高 (11.3)	胴部~胴部 上915% 結核	内面 5YR5-6明赤褐色 外面 5YR6-4L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ 外面 ヨコナテ、器面割漆 底外面 -			二次焼成	
96	1	SI-201	1.30.28.86.87	土師器	杯	口径 12.6 底径 丸底 器高 3.5	0% 結核	内面 黒色地埋 7.5YR6-3L2.5赤褐色 外面 黒色地埋 10YR6-4L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ ナデミギナ 外面 ヨコナテ ハワナテ 底外面 -				
96	2	SI-201	88	土師器	杯	口径 11.6 底径 丸底 器高 4.2	口付完形 90% 結核	内面 黒色地埋 7.5YR7-4L2.5赤褐色 外面 黒色地埋 10YR6-4L2.5赤褐色 構成 良好	内面 1字ナテ、器面割漆 外面 ナデ、ハワナテ 底外面 -				
96	3	SI-201	1	土師器	杯	口径 11.8 底径 丸底 器高 (3.9)	20% 結核	内面 黒色地埋 5YR6-6暗褐色 外面 黒色地埋 7.5YR4-3暗褐色 構成 良好	内面 1字ナテ 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 -				
96	4	SI-201	5	土師器	杯	口径 11.6 底径 丸底 器高 4.7	口付完形 結核	内面 黒色地埋 10YR2-1黒 外面 2.5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 丁寧なミギナ 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 ハワナテ				
96	5	SI-201	1.46	土師器	杯	口径 112.4 底径 丸底 器高 (4.1)	口部~体部 下930% 結核	内面 7.5YR5-6明赤褐色 外面 5YR5-6明赤褐色 構成 良好	内面 1字ナテ 外面 ハワナテ、ハワナテ 底外面 -				
96	6	SI-201	1.8.9.36.37.89.91.92	土師器	高杯	口径 18.2 底径 - 器高 (5.8)	口部~杯部 80% 結核 砂粒	内面 黒色地埋 10YR2-1黒 外面 5YR5-4L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ ミギナ 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 -				
96	7	SI-201	1.42.86.86	土師器	小型甕	口径 17.0 底径 6.6 器高 9.2	口部~胴部 80% 砂粒	内面 7.5YR5-6明赤褐色 外面 7.5YR4-3L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ、ハワナテ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 器面割漆				
96	8	SI-201	1.16.19.22.35	土師器	鉢	口径 (17.0) 底径 - 器高 (10.8)	口部~胴部 下930% 白色粒	内面 2.5YR5-6明赤褐色 外面 2.5YR4-3L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ、ハワナテ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ハワナテ、器面割漆 底外面 -				
96	9	SI-201 8D-56 8D-57	1.13.14.20.31.55.1	土師器	甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 (14.0)	口部~胴部 上913% 砂粒	内面 7.5YR6-4L2.5赤褐色 外面 7.5YR5-3L2.5赤褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ、器面割漆 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 -				
96	10	SI-201	1.67-69.78.80	土師器	甕	口径 - 底径 7.8 器高 (4.1)	胴部下下~ 底面100% 砂粒	内面 5YR1-6暗赤褐色 外面 5YR3-4明赤褐色 構成 良好	内面 ハワナテ、器面割漆 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ			二次焼成	
96	11	SI-201	1.7.33	土師器	甕	口径 - 底径 9.4 器高 (4.5)	底面20% 砂粒	内面 7.5YR6-4暗褐色 外面 10YR6-4暗褐色 構成 良好	内面 ハワナテ 外面 ハワナテ 底外面 ハワナテ				
96	12	SI-201 8D-67	1.11.27.32.70-75.79.80-85	土師器	甕	口径 23.4 底径 - 器高 (17.2)	口部~胴部 90% 白色粒	内面 5YR5-4L2.5赤褐色 外面 7.5YR5-2暗褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ ミギナ、器面割漆 外面 ハワナテ 底外面 -				
97	1	SK-026 SI-024	12 11-461	灰磁器	長胴甕	口径 - 底径 - 器高 (11.2)	胴部~杯部 60% 白色粒 黒色粒	内面 7.5YR6-1黒 外面 7.5YR6-1黒 構成 良好	内面 ラクワナテ 外面 ラクワナテ、筒状ハワナテ 底外面 -			2台同一 体か	
97	2	SK-026 7D	2.3.4.6.7.11 7.41	灰磁器	長胴甕	口径 - 底径 8.4 器高 (8.6)	胴~底面 50% 白色粒 黒色粒	内面 7.5YR6-1黒 外面 7.5YR6-1黒 構成 良好	内面 ラクワナテ 外面 ラクワナテ、筒状ハワナテ 底外面 筒状ハワナテ				
98	1	SD-007 10D-85	1.2 2	土師器	甕	口径 119.0 底径 丸底 器高 (6.6)	口部~胴部 50% 砂粒 雲母	内面 7.5YR5-3L2.5赤褐色 外面 7.5YR4-2暗褐色 構成 良好	内面 ヨコナテ 丁寧なミギナ 外面 ヨコナテ、ハワナテ 底外面 -				

種別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm)	遺存率	粘土	色調・色地理・焼成		技 法	備考		
									内面	外面				
99	1	SD-014	-	土師器	鉢	口径	-	砂粒	内面	7.5YR6/41c-5Y-6焼	内面	ヘラナデ	二次焼成	
						底径			9.6	外面	7.5YR5/41c-5Y-6焼	外面		ヘラケズリ 器面刷漆
						器高			(2.7)	焼成	良好	底外面		ナデ
100	1	SD-015	1	土師器	甗	口径	-	白色粘	内面	7.5YR6/41c-5Y-6焼	内面	ヘラナデ		
						底径			6.3	外面	10YR5/41c-5Y-6焼	外面		ヘラケズリ
						器高			(2.3)	焼成	良好	底外面		ヘラケズリ
102	1	SD-027	3	土師器	甗	口径	-	精粒	内面	5YR3/6明赤焼	内面	ヨコナデ ヘラナデ	二次焼成	
						底径			-	外面	5YR3/6明赤焼	外面		ヨコナデ ヘラケズリ
						器高			(4.7)	焼成	良好	底外面		-
102	2	SD-027	4	土師器	甗	口径	-	精粒	内面	7.5YR6/6焼	内面	ヘラナデ		
						底径			19.0	外面	7.5YR6/6焼	外面		ヘラケズリ
						器高			(2.8)	焼成	良好	底外面		ヘラケズリ
102	3	SD-027	1	土師器	甗	口径	-	精粒 白色粘	内面	5YR6/6焼	内面	器面刷漆	二次焼成	
						底径			17.0	外面	5YR3/6明赤焼	外面		ヘラケズリ
						器高			(2.4)	焼成	良好	底外面		ヘラケズリ

第33表 成井原山遺跡 土師器片転用礫石観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 g	備 考
71	18	SI-001	5・20	6.91	12.57	0.96	98.30	

第34表 成井原山遺跡 土師器片転用木板観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最大幅 cm	重 量 g	備 考
84	19	SI-013	1	5.51	1.16	18.91	杯片利用

第35表 成井原山遺跡 土製紡錘車観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	小 径 cm	大 径 cm	軸孔径 cm	厚 cm	重 量 g	備 考
84	20	SI-013	25	2.50	4.08	0.83	1.74	24.47	

第36表 成井原山遺跡 土製切子玉観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最小径 cm	最大径 cm	孔 径 cm	重 量 g	備 考
103	1	10D-85	2	0.56	0.61	0.80	0.18	1.49	一部欠ける

第37表 成井原山遺跡 土製支脚観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	長 cm	小 径 cm	大 径 cm	重 量 g	備 考
71	19	SI-001	36	9.35	4.86	4.86	151.55	
71	20	SI-001	71	4.33	4.10	4.91	94.24	
80	13	SI-011	37	18.00	3.70	5.98	649.07	
80	14	SI-011	14	11.90	4.13	5.04	246.00	
82	32	SI-012	74	5.72	-	-	90.09	
84	18	SI-013	6	11.24	3.32	5.88	286.39	
92	30	SI-024	183	15.00	4.08	6.38	511.31	

第38表 成井原山遺跡 砥石・軽石観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
73	11	SI-002	1	砥石	流紋岩	3.16	2.76	3.04	36.76	
80	15	SI-011	26	砥石	砂岩	10.62	9.20	5.17	908.24	上部欠ける
80	16	SI-011	29	砥石	流紋岩	15.71	4.29	4.18	288.87	
80	17	SI-011	25	砥石	流紋岩	7.28	6.07	4.45	255.55	上部欠ける
80	18	SI-011	21	砥石	片岩	17.91	7.79	6.13	1208.25	使用痕ない
82	33	SI-012	88	砥石	安山岩	6.49	4.41	2.44	126.00	縄文時代石斧転用
84	21	SI-013	11	砥石	流紋岩	9.38	8.01	3.46	221.37	上下欠ける
88	1	SI-021	1	軽石	-	5.66	4.79	4.81	11.89	使用痕ない
99	2	SD-014	1	砥石	流紋岩	5.78	2.51	1.49	27.43	上下欠ける
103	2	トレンチ	7	砥石	凝灰岩	5.64	4.81	3.26	133.12	上下欠ける
103	3	9D-05	1	砥石	凝灰岩	3.60	2.56	1.97	30.81	下部欠ける

第39表 成井原山遺跡 鉄製品観察表

() 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	長 cm	幅 cm	厚・径 cm	重量 g	備考
73	12	SI-002	33	鏃頭先か	(8.5)	(7.3)	0.6	(26.50)	上縁に溝があるか
73	13	SI-002	33	刀子	(4.0)	(1.3)	0.3	(4.03)	柄部片
76	10	SI-005	1	刀子	(3.9)	(1.3)	0.4	(3.87)	柄部片
80	19	SI-011	22	刀子	(10.5)	(1.9)	0.4	(14.14)	両端欠
86	13	SI-018	31	不明	(4.9)	(1.9)	0.3	(3.63)	断面く字形
86	14	SI-019	15	鉄鏃	(5.3)	(0.8)	0.6	(3.18)	基部、矢柄片付着
96	13	SI-201	1	棒状品	(2.5)	(0.7)	0.5	(1.32)	
103	4	11D-65	1	刀子	(4.0)	(1.5)	0.4	(3.15)	刃部、両端欠
103	5	11D-73	1	穂柄具	(3.65)	1.8	0.2	(3.93)	穂部片。止め鉄残る

第40表 成井原山遺跡 スラグ観察表

図版	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
75	SI-002	1 (一括)	4.82	3.70	2.50	41.13	磁着せず
75	SI-005	1 (一括)	4.09	2.90	2.23	22.88	磁着せず
75	SI-005	1 (一括)	2.97	4.62	1.71	15.70	磁着
75	SI-005	1 (一括)	2.19	2.98	1.97	5.37	磁着せず
75	SD-016	1 (一括)	2.40	2.78	1.76	8.35	磁着
75	SD-016	1 (一括)	9.87	5.78	5.62	193.91	磁着せず
75	SI-018	73 (一括)	2.77	3.14	1.31	5.22	磁着
75	SD-023	1 (一括)	5.89	3.36	1.88	63.67	磁着せず。裏面多孔質
75	8D-47	3 (一括)	2.82	2.05	1.07	5.37	磁着せず
75	8D-47	3 (一括)	1.67	1.45	1.52	1.25	磁着せず
75	10C-56	1 (一括)	1.67	2.21	1.41	5.14	磁着せず
75	10D-24	1 (一括)	2.05	3.28	2.34	12.03	磁着せず

第41表 成井原山遺跡 銅製品観察表

() 現存値

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	長 cm	最大径 cm	最小径 cm	重量 g	備考
103	6	8D-67	1	キセル	(3.9)	(0.8)	(0.5)	(1.32)	吸口。雁首側欠ける

第42表 成井原山遺跡 銭貨計測表

種別	No	遺構番号	遺物番号	銭名	重量(g)	縁外径(mm)		縁内径(mm)		郭外径(mm)		郭内径(mm)		縁厚(mm)				内面厚(mm)			
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	上	右	下	左
103	7	8D-76	1	寛永通宝	4.33	27.8	28.1	29.8	21.0	8.5	8.0	6.3	6.1	1.1	1.1	1.0	1.1	0.9	0.8	0.9	0.8

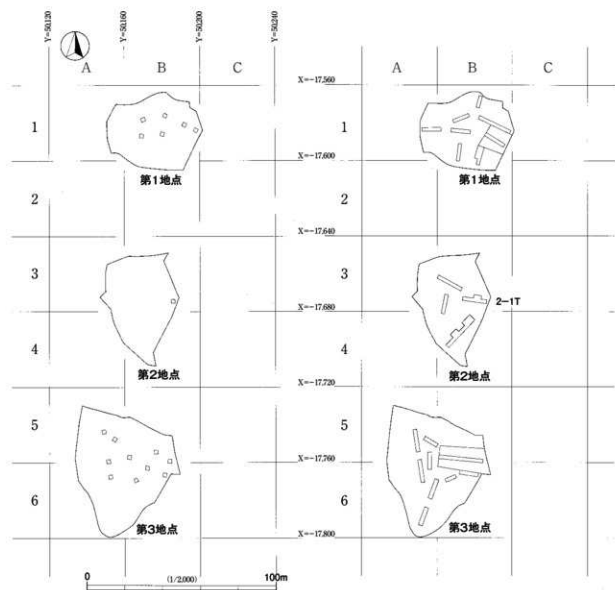
第43表 成井原山遺跡 泥メンコ観察表

種別	No	遺構番号	遺物番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
103	8	11D-41	1	2.19	1.93	0.54	1.93	一部欠ける

第8章 成井原山向遺跡

第1節 概要 (第4・104・105図, 図版76)

成井原山向遺跡は、成井原山遺跡の東から南東側に位置する。今回の調査区はその南西端である。発掘調査は、平成23年10月11日～平成23年12月8日の期間で行った。台地が枝分かれし、3か所に分かれる。北側から第1地点、第2地点、第3地点と呼ぶ。いずれも東から西に突き出す瘦せた台地先端上で、東から西へと低くなる。標高は35m～39mである。



第104図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図

第1地点は、北側は急傾斜で、南側は傾斜がやや緩い。東端の平坦部で、縄文時代中期の加曾利E式の土器片がややまとまって出土した。遺構は検出しなかった。同じ東端の少し南側に斜面を下ったところで、平安時代の住居跡を1軒検出した。調査前から凹んでいた。そのすぐ東側でも、カマドは無いものの掘り込み1基を検出し、その南側の斜面から多数の土器器片・須恵器片が出土し、カマドに由来する赤く焼けた砂塊が見られたことから住居跡と判断した。

第2地点は、第1地点より6m程度低い。そのため、表土の下は、最も高い東端の一角でローム層が存在したが、おおむね砂層であった。平坦部から製鉄や鉄加工に用いたであろう炉壁片が1点出土した。南側の斜面で焼土が散っている様子が見られたので、製鉄等の遺構の可能性を考えてトレンチの拡張と掘り下げを行ったが、遺構は検出しなかった。

第3地点は、西へいくに従い平坦部の幅が増す。北側は急傾斜で、南西側は傾斜が緩い。標高は第1地点とはほぼ同じである。南側の谷を渡ると成井猪穴崎遺跡である。台地先端の平坦部で平安時代の住居跡を1軒検出した。その北側の平坦面から斜面にかけて、土器器片の細かい破片がまとまって出土した。住居跡の周囲の東・西・南ではそうした事実はなかった。また、住居跡の東側の平坦面で、同時期と推定される、炉を伴った浅い土坑を1基検出した。土坑の中や周囲からは土器器片が出土した。

3地点とも下層については、遺構・遺物とも検出せず、確認調査で終了した。

第2節 検出した遺構と遺物

縄文時代

遺構外出土遺物（第106図、第44・45表、図版79・80）

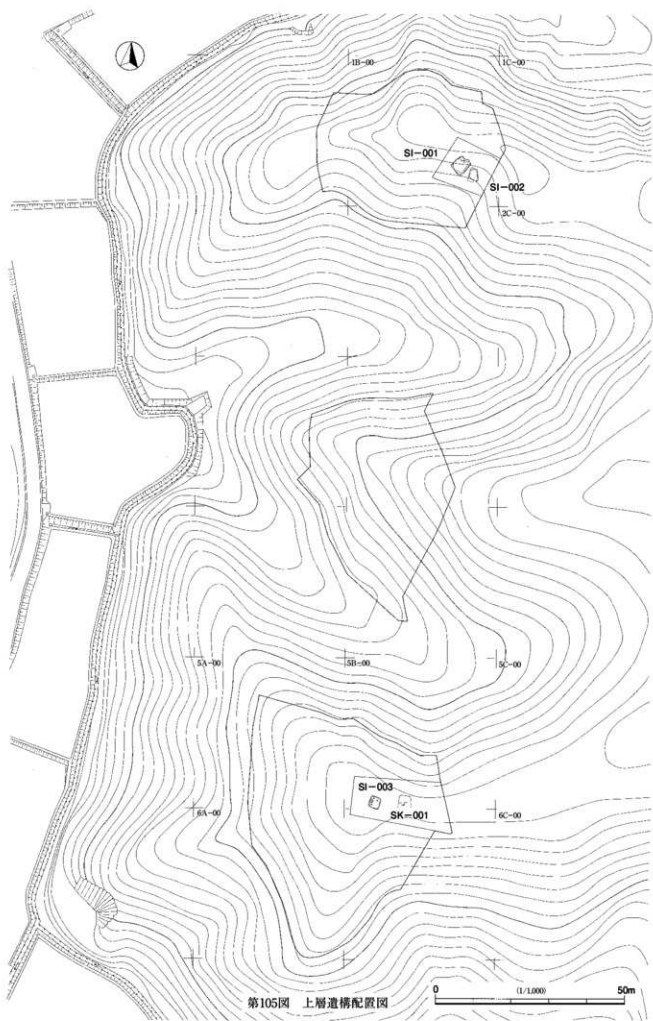
土器 中期前半の阿玉台式と後半の加曾利E式である。1は阿玉台式の口縁部片である。押し文を口縁の内・外の上端に横走させる。胎土に雲母は目立たない。2～8は加曾利E2ないし3式と思われる。4は下縁に縄文がある。9はミニチュアで、口縁は小波状と思われ、内面の全体と外面の胴部下端から底部にかけて丁寧にヘラナデする。外面のヘラナデは縄文を消す。

石器 10は暗灰色の頁岩製の尖頭器である。基部側の破片で、先端側が折れて欠ける。11は流紋岩製の磨石で、図示した面だけ磨る。反対面は焼けて赤い。

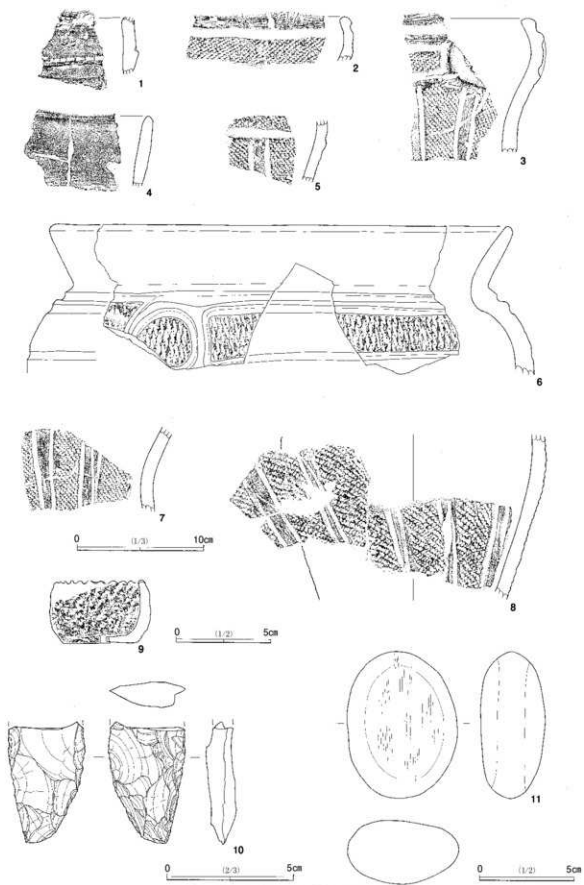
奈良・平安時代

SI-001（第107～109図、第46～48表、図版77・80・81・83）

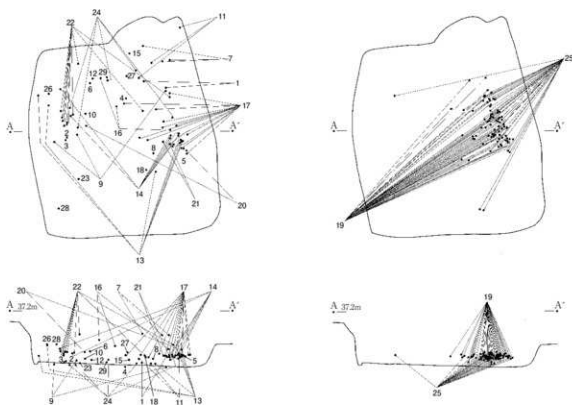
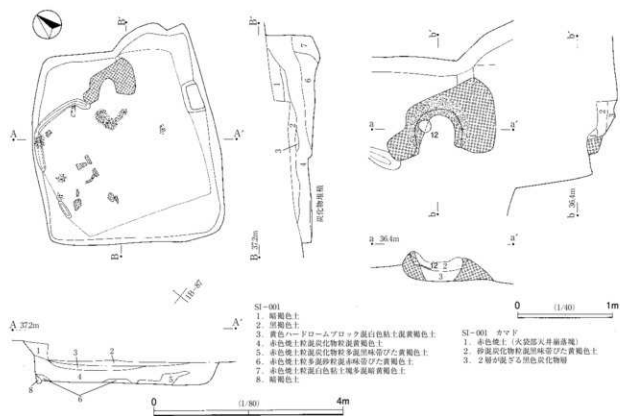
第1地点の1B-67・76～78に位置する。北から南へ傾斜する台地の肩部にあり、東側は台地の付け根であり、西側も台地の先端が若干南へ伸びる。東・西・北を囲まれて、冬季の北西の季節風をしのぐには都合の良い立地と言える。標高は37m前後である。調査前から凹んでいた。主軸はN-30°-Eである。覆土と地山の違いがわかりにくかったが、遺物の出土状況も考慮して、ほぼこの形で良いと思われる。北東隅は掘乱されているような様子が見えた。床面には、部分的に溝があった。その囲む範囲は床面の内側になる。外側の輪郭はほぼ正方形で、1辺3.8m～4.0mである。溝の内側の輪郭は、方形で2.8m×3.2mほどになろう。このため、建て替えていると判断される。深さは南側が浅く北側が深く、0.5m～1.0mである。床面標高は36.0mである。溝の内と外で床面の高低に差はない。カマドは北東側の壁の中ほどにある。上部はなかった。その西側から南側にかけて、上記のように溝がめぐる。柱穴はない。カマドは、奥側が住居の壁から離れた格好である。壁からは離れるが、カマドと壁の間は地山を床面より30cmほど高



第105図 上層遺構配置図



第106図 縄文時代遺構外出土遺物



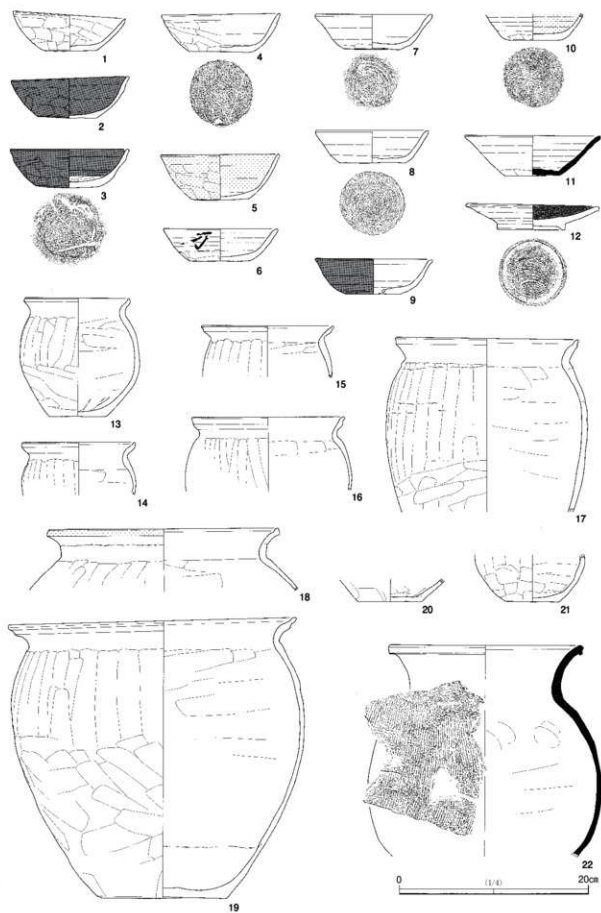
第107図 SI-001

く削り残していた。また、南東側の壁の中ほどに方形に床面より7cm～8cm高く削り残した部分がある。床面のところどころに焼土塊と炭化材が見られた。

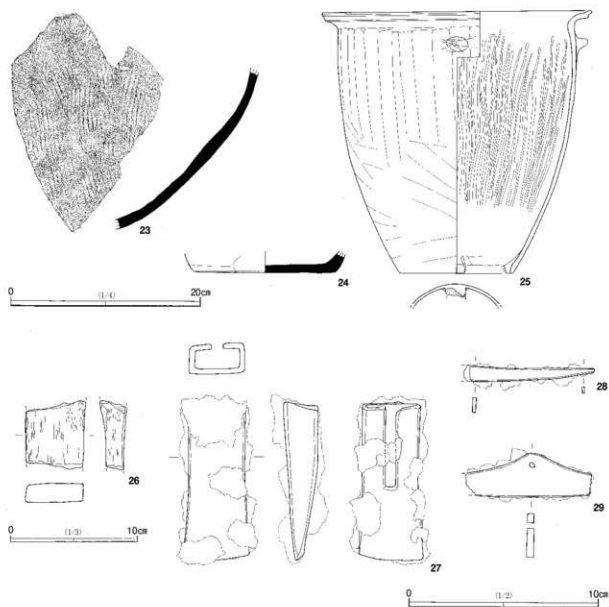
1～10は土師器杯である。1は口縁の一部だけ欠けたものが南東側の壁の中ほどの高まりの下で正位で出土し、口縁の小片が離れて出土した。もう1点の口縁片は一括出土である。内面は荒れ、体部と底部の境目に点状の剥落が目立つ。2と3は、北西側の壁の中ほど近くで、2が3に重なって床面近くで逆位で出土した。2はロクロ成形で、内底はロクロナデ後に幅広なヘラでナデる。内外面とも黒色処理するが、外面の底部と体部の1/3ほどは消える。内面も荒れる。外面に斑状の剥落が広く見られるので焼けたと思われる。3は口縁の一部が欠ける。外面に凹凸が目立つ粗いロクロ成形で、内底はロクロナデ後に幅広なヘラで丁寧にナデる。内外面とも表面がザラザラとして黒く、内面の体部の下側から底部にかけてベンガラによる赤彩の痕が残る。拓本に表れるように、底部外面は本業のような痕が残る。4はカマドの手前右側の床面で正位で出土した。口縁の一部がわずかに欠ける。器を回転させながら口縁の外面にヘラを当ててはっきりとした段をつける。内面全体に斑状の剥落がある。5もロクロ成形で、内面の体部と外面全体を赤彩するが、朱色に近い。二次焼成のせいから、内面の底部も赤彩の可能性がある。6はカマド手前左側の床面から逆位で出土した。外面に「万」の墨書がある。内外面とも全体に点状の剥落がある。7は覆土上部から底部片と体部小片が出土した。8は中央より南寄り床面から浮いて正位で出土した。体部の1/5ほどだけ欠ける。9は斜面出土の破片と接合した。外面を黒色処理する。光沢がある。口縁付近は割られる。口縁の内側に赤彩の痕が残る。10は底部が完存の破片で、内面は黒褐色の表面を覆って朱色がかかり、赤彩と思われる。11は須恵器杯である。底部から口縁部へ大きく広がる。細かく割れ、割れ口は摩耗する。胎土は長石・雲母が多い。12は土師器高台付皿で、カマドの左袖の上から正位で出土した。高台の粘土紐を底部にナデ付けて接着した際の隙間が残る。内面は黒色処理するが、2/3ほどの部分は灰色がかかり、点状に剥落する。二次焼成のためであろう。しかし、外面は焼けた痕がない。外面の高台より内側の底部に赤彩の痕が残る。赤色で光沢がある。

13～16、20・21は土師器小型甕である。13は破片が東側と西側に分かれて出土した。14も同様の出土の仕方をする。口縁は赤くなり剥落も目立つことから、焼けた可能性がある。20の底部片と胎土・色調が似るので、同一個体かもしれない。15は口縁の内外面が赤くなり、内面に剥落があるので焼けていよう。斜面出土の破片と接合した。16も内外面とも赤くなり、剥落があるので焼けていよう。内面の剥落が顕著である。21は細かく割れていたが、底部と胴部の1/2ほどの破片がまとまって出土した。つくり・胎土・色調は14・20に似る。14の下部とするには少し大きい。17～19は土師器甕である。上記のように17・19は細かい破片が住居跡の東側に集中して床面から浮いて出土した。17は口縁が楕円形に歪む。作りが粗い。程度は弱い全体に焼けた様子がある。18は4片の接合であるが、3片は住居から4m以上下った斜面で出土した。焼成は堅緻で、口唇の外面に赤彩の痕が残る。頸部外面に輪積痕を残す。19は小破片になって住居跡の東側に集中して出土した。焼けている。

22は須恵器甕である。口縁部から胴部上半の小破片が住居跡の北側で散らばって出土した。図版で示するのは接合した全体のほぼ半分である。胎土に雲母が多く混ざる。口唇は外側に折り返す。23は須恵器甕の胴部下半片である。内面に横方向のナデ痕が何重かめぐる。24は須恵器甕底部である。底部は全体を復元できたが、破片は散っていた。全体的に摩耗する。胎土に雲母が多く混ざる。25は土師器甕である。小破片になって住居跡の東側を中心に出土した。底部は孔の間の橋状部1か所が残る。胴部より厚い。



第108图 SI-001出土遺物(1)



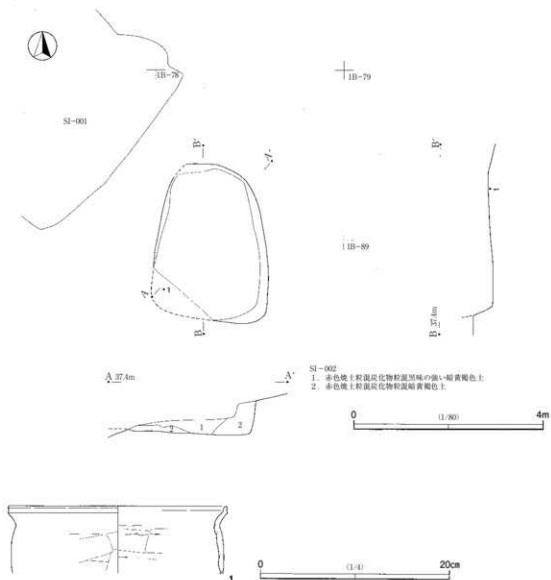
第109図 SI-001出土遺物（2）

以上の土器から判断すると、住居跡は9世紀前半であろう。

26は流紋岩製の砥石片である。割れ口ではない図示しなかった2面は、製品として平滑に切り出されるが、使用していない。27～29は鉄製品である。27は袋状鉄斧である。カマドの右脇で床面から浮いて出土した。鏽のために、袋状部分の側面の板の下端はわからない。28は刀子の柄の破片である。住居跡の北西角で床面から浮いて出土した。29は火打ち金である。山形の頂直下に孔があく。左側が欠ける。本来、左右対称形ははずで、右側も欠けるかもしれない。

SI-002（第110図、第46表、図版77・80）

第1地点の1B-78・88に所在する。SI-001の東側1mあまりに位置する。台地の肩部に位置する。北から南へ傾斜する。このために、南西側隣の床面が崩れて流失している。やはり覆土と地山の違いがわか



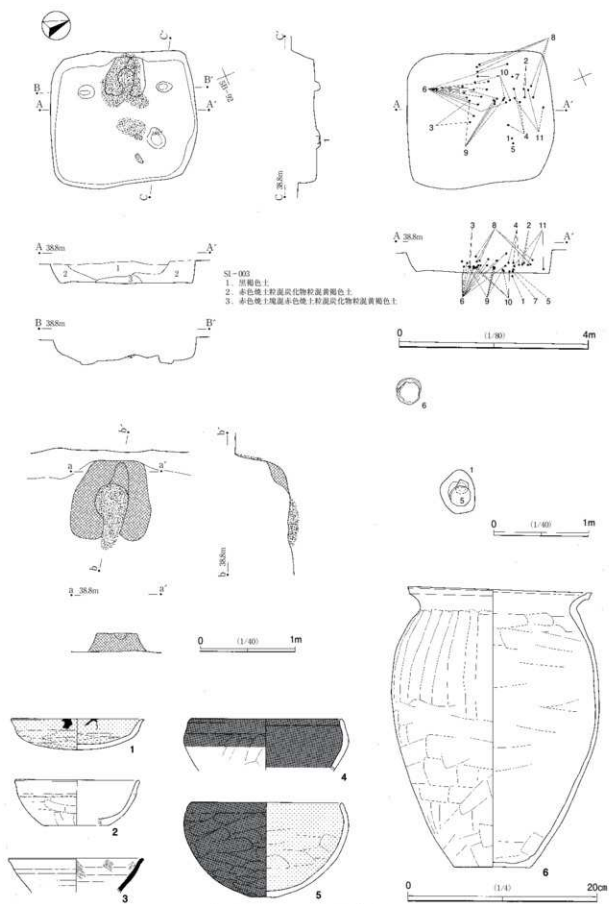
第110図 SI-002・出土遺物

りにくかった。隅丸方形の掘り込みを検出しただけであるが、南側斜面でカマドの残骸と推測される一部が焼けて赤色になった白色砂の塊が複数出土したことから住居と判断する。長軸はほぼ南北である。隅丸方形で、3.2m×2.4mである。深さは北側が深く南側が浅く、北側で0.7mで、南側は床面が削れる。床面の標高は36.3mである。柱穴はない。

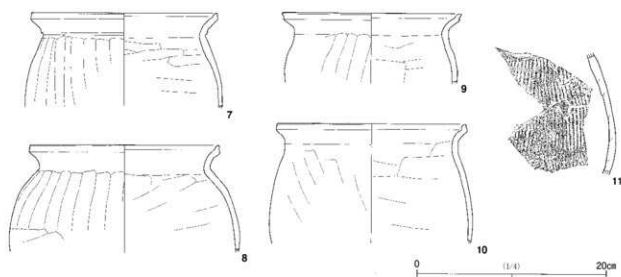
土師器小片が数点出土した。図示できるものは1点である。1は土師器甕である。胴部は口縁外周位までしか膨らまない。胎土に雲母が多く混ざる。内面に輪積痕を残す。

SI-003 (第111・112図, 第46表, 図版77・78・81・82)

第3地点の5B-91・92に所在する。西に向かって突き出した台地の先端に近い稜線の平坦面に立地する。標高は39m弱である。主軸はN-60°-Wである。覆土と地山の違いがわかりにくい上に、西側半分は松



第111圖 SI-003・出土遺物(1)



第112図 SI-003出土遺物(2)

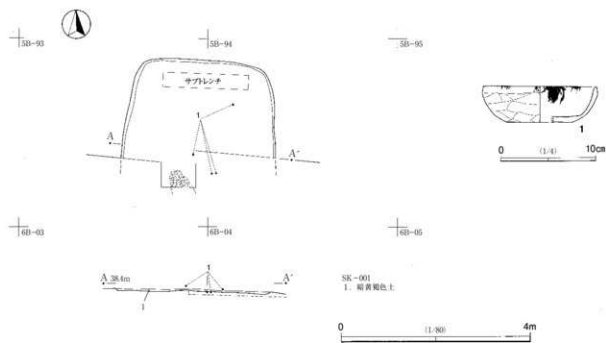
の根が張っていたために、輪郭と床面が捉まえにくかったが、遺物の出土状況とカマド火床面の高さを基にして、図のように判断した。正方形で1辺2.8mである。深さは0.5mである。床面の標高は38.2mである。カマドは西壁の中ほどにあり、焼土が覆っていた。柱穴は3個で、いずれも浅い。北東側の柱穴では、底に正位で土師器杯があり、その上に土師器鉢が正位でのっていた。

1は土師器盤である。体部の1/5が欠ける。北東側の柱穴の底から正位で出土した。8世紀の畿内産土師器を模倣する。内外面とも赤彩する。赤彩に被って内外面とも灯明による油煙が数か所附着する。2は土師器杯である。口縁部外面のヨコナデ部分とヘラケズリ部分を明確に区切る。体部外面に輪積痕を残す。3は須恵器杯である。内面に数か所幅1cm~2cm、長さも同様の、口縁に対して斜めの帯状の擦痕がある。鉄器を研いだのであろうか。4・5は土師器鉢である。4は内面を黒色処理する。外面の黒色処理は胴部下半が不明瞭である。5は微細図に示すように1の上から正位で出土した。金属製鉢を模倣する。胴部との境を明瞭にした径2.5cmの平底がある。内面は赤彩するが、全周の1/4ほどしか残らない。朱色である。外面は黒色処理するが、斑状に残るだけである。6~10は土師器甕である。6は常総型である。8は破片となってカマド左脇と住居跡北西角から出土した。カマド左脇の破片は内外面とも剝落が見られ荒れる。9は破片となってカマドの手前で出土した。内外面とも光沢が出るほどの丁寧な仕上げで、色調も赤褐色である点が、やや特異である。10は破片となってカマドの周囲から出土したが、一部の破片の外面にはカマドの砂が焼き付く。11は須恵器甕の胴部片である。輪積痕が残るのでそれを表すために断面を白ヌキとした。土器から住居跡は8世紀代と思われる。

なお、この住居跡の北側(8B-52グリッド中心)で、土師器甕の胴部と思われる小破片が多数まとまって出土した。接合の結果、一部は遺構外出土遺物の10のように復元できた。

SK-001(SX-001)(第113図、第46表、図版78・82)

第3地点の5B-93・94に所在する。SI-003から4mほど東側で、より台地の付け根に近い。標高は38.2mである。上層確認トレンチの断面で好みに気づき、トレンチの周囲を拡張して掘り込みの検出を図っ



第113図 SK-001・出土遺物

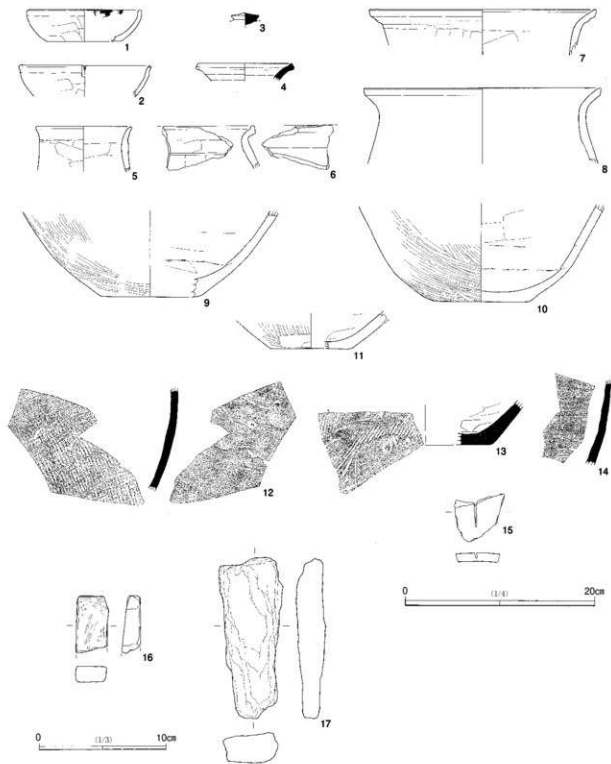
たところ、炉の北側でごく浅い東西3.2m、南北2.7m以上の方形の掘り込みを検出した。中からは、土師器片が出土した。性格が不明なためSX-001として記録したが、SK-001と改めて報告する。

図示できる遺物は1点である。1は土師器杯である。口縁部をヨコナデで仕上げた後に外面はヘラケズリする。口唇の内外面に油煙が付着する。

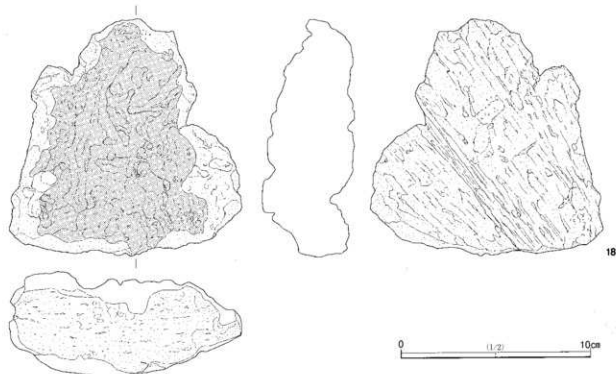
遺構外出土遺物 (第114・115図、第46・47・49表、図版82・83)

土師器・須恵器・砥石と鉄の加工用と思われる炉壁片が出土した。1・2は土師器杯である。SK-001の南側で出土した。その位置は同遺構の掘り込みの中に当たる可能性がある。SK-001の1の土師器杯と器形が同じで、口縁部外面をヨコナデ後にヘラケズリする点も、灯明に使われたところも同じである。2は口唇を1か所小さく欠く。灯明の芯を据えたのであろう。欠いたところの内面下側に油煙の固まった高まりがある。3は須恵器杯蓋のツمامミである。宝珠形をする。SI-002の南側で出土した。4は須恵器壺の口縁片と思われる。内面に暗緑色の自然釉がかかる。SI-003の南西側で出土した。5は土師器小型甕である。内面は光沢はないが一面黒色で、黒色処理するか。SI-002の南側で出土した。

6~11は土師器甕である。6は頸部内面に横に沈線が走り、その上下でヘラナデの方向が異なる。胎土に大粒の白色粒が多く混ざる。口径は20cmを下らない。7は土師器甕または甔である。6・7はSI-001の南側で出土した。8は口縁部から頸部はヨコナデであるが、その下側の成形、調整は分からない。10の底部外面は全面に、胴部外面と同じように、平行する細長いミガキ痕が走る。11の外面はミガキの後に胴部下端をヘラケズリする。12・13は須恵器甕である。12は胴部下端の破片で、内面をヘラナデ後に叩き、外面にタタキ目、内面に当て具の円形の凹みがある。13は底部までの拓本を示す。底部外面まで叩く。底部のタタキ目はナデで消す。14は須恵器の胴長の壺の胴部片と思われる。外面は黒色から褐色の釉がかか



第114図 奈良・平安時代遺構外出土遺物（1）



第115図 奈良・平安時代遺構外出土遺物(2)

り、内面はやや光沢のあるほど滑らかである。15は土師器甕の胴部片であるが、刃物を当てて刻んだような溝がある。図の下から上に行くほど斜めに深くなる。刃研ぎの痕と思われる。16は流紋岩製の砥石で下側が欠ける。正面図の面だけ磨る。割れ口以外の4面は平らに切り出したままである。17は片岩製の砥石と思われる。本来は四角に面取りしたのであろうが、軟質なため丸くなったのであろう。雲母が目立つ。18は製鉄や鉄の加工に用いた炉壁片と思われる。正面のスクリーントーンの部分は炉の内面で、黒色や鉄錆の茶色である。背面は灰色で、スサを入れた様子が見て取れる。

第44表 成井原山向遺跡 縄文土器観察表

採回	No.	遺構番号	遺物番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考
					内面	外面					
106	1	1B-76	1	深鉢	褐色	褐色	砂粒	RL, 沈線	中期	阿玉台	
106	2	1B-69	1	深鉢	赤褐色	明褐色	細砂粒, スコリア	L.R, 沈線	中期	加曾利E	
106	3	1B-69	1	深鉢	褐色	明褐色	細砂粒	L.R, 隆帯, 沈線区 両磨消懸垂文	中期	加曾利E	内面剥落
106	4	1B-78	1	深鉢	明褐色	明褐色	細砂粒, スコリア	無文	中期	加曾利E	
106	5	1B-68	1	深鉢	明褐色	明褐色	細砂粒	L.R, 沈線	中期	加曾利E	
106	6	1B-69	1	深鉢	褐色	黄褐色	砂粒, スコリア	粗い隆帯, 隆帯	中期	加曾利E	
106	7	1B-69	1	深鉢	褐色	明褐色	細砂粒	L.R, 沈線区両磨消 懸垂文	中期	加曾利E	
106	8	1B-69	1	深鉢	赤褐色	明褐色	細砂粒	L.R, 沈線区両磨消 懸垂文	中期	加曾利E	
106	9	1B-69	1	ミニチュア	暗褐色	暗褐色	砂粒, 白色砂粒	L.R	中期	加曾利E	

第45表 成井原山向遺跡 縄文時代石器観察表

() 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
106	10	5B-84	1	尖頭器	頁岩	(48.6)	(31.1)	(11.7)	(17.17)	下部欠ける
106	11	5B-92	1	磨石	安山岩質角礫岩	77.3	58.8	33.4	215.37	

第46表 成井原山向遺跡 土師器・須恵器観察表

() 推定品, () 現存品

種別	No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	寸法(cm)	埋没状況	胎土	色(黒色処理)/焼成		技法		備考		
									内面	外面	内面	外面			
108	1	SI-001	77.241.294	土師器	杯	口径 11.9	100%	精製 白色砂状	内面	7.5YR3/1黒焼	内面	ロクロナデ	器面割造		
						底径 5.8			外面	7.5YR5/4に赤い黄焼、口縁黒焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 3.8			焼成	良好	底外面	ヘラナズリ			
108	2	SI-001	291	土師器	杯	口径 12.4	100%	精製 スコリア	内面	黒色処理、7.5YR3/7黒	内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラナズリ	外面焼ける
						底径 6.2			外面	黒色処理、7.5YR6/6焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ、器面割造		
						器高 4.2			焼成	良好	底外面	子持ちヘラナズリ			
108	3	SI-001	292	土師器	杯	口径 12.4	100%	精製 白色砂状	内面	黒色処理、赤影赤、10YR2/1黒	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	内底に暗赤色の部分あり、ペンチによる赤影の痕	
						底径 6.6			外面	黒色処理、10YR2/1黒	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 4.1			焼成	良好	底外面	本業色のこす子持ちヘラナズリ			
108	4	SI-001	293	土師器	杯	口径 12.4	100%	精製 白色砂状	内面	7.5YR6/4に赤い黄焼	内面	ロクロナデ	器面割造		
						底径 6.9			外面	7.5YR6/4に赤い黄焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 4.0			焼成	良好	底外面	本業色のこす子持ちヘラナズリ			
108	5	SI-001	162	土師器	杯	口径 112.4	50%	精製 スコリア	内面	赤影、7.5YR6/6焼	内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラナズリ	二次焼成か
						底径 16.0			外面	赤影、7.5YR6/6焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 4.8			焼成	良好	底外面	子持ちヘラナズリ			
108	6	SI-001	240	土師器	杯	口径 12.0	100%	精製	内面	10YR6/4に赤い黄焼	内面	ロクロナデ	器面割造	外面に墨書「方」	
						底径 6.4			外面	10YR6/4に赤い黄焼	外面	ロクロナデ	子持ちヘラナズリ		
						器高 3.5			焼成	良好	底外面	子持ちヘラナズリ			
108	7	SI-001	82.90.223. 294	土師器	杯	口径 112.2	底部分 45%	精製 スコリア	内面	7.5YR6/6焼	内面	ロクロナデ			
						底径 6.8			外面	7.5YR6/6焼	外面	ロクロナデ			
						器高 3.7			焼成	良好	底外面	細赤影あり、器面子持ちヘラナズリ			
108	8	SI-001	239	土師器	杯	口径 11.8	体欠部 80%	精製	内面	7.5YR6/6焼	内面	ロクロナデ			
						底径 7.0			外面	7.5YR6/6焼	外面	ロクロナデ	回転ヘラナズリ		
						器高 3.5			焼成	良好	底外面	回転ヘラナズリ			
108	9	SI-001	62.225. 275.294 1B-96	土師器	杯	口径 112.3	33%	精製	内面	赤影、10YR7/3に赤い黄焼	内面	ロクロナデ		外面の黒色処理は先沢がみり、漆喰塗りの可能	
						底径 5.8			外面	黒色処理、10YR7/3に赤い黄焼	外面	ロクロナデ			
						器高 3.7			焼成	良好	底外面	子持ちヘラナズリ			
108	10	SI-001	212	土師器	杯	口径 -	底部分 40%	精製	内面	赤影赤、7.5YR5/6焼、黒ずむ	内面	ロクロナデ	器面割造		
						底径 6.3			外面	7.5YR3/2赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 3.8			焼成	良好	底外面	細赤影ありヘラナズリ			
108	11	SI-001	94.237.281	須恵器	杯	口径 114.2	底部分 30%	赤影粗い 白色砂状 灰層	内面	ロクロナデ	内面	ロクロナデ		内外面とも口縁部は藍色に定い、底面内面に黒紋	
						底径 6.0			外面	2.5Y7/4灰黄	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 4.2			焼成	良好	底外面	子持ちヘラナズリ			
108	12	SI-001	300	土師器	皿	口径 13.8	100%	精製 スコリア	内面	黒色処理、7.5YR3/7黒	内面	ロクロナデ	器面割造		
						底径 7.0			外面	底面赤影、7.5YR6/6焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 2.7			焼成	良好	底外面	細赤影あり			
108	13	SI-001	36.99.311. 112.142.176. 211.294	土師器	小壺型	口径 111.0	底部分 30%	精製 スコリア	内面	10YR7/3に赤い黄焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						底径 6.0			外面	10YR7/3に赤い黄焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 12.5			焼成	良好	底外面	ヘラナズリ			
108	14	SI-001	36.302.104. 115.118.154. 178	土師器	小壺型	口径 11.7	100%	精製 白色砂状	内面	5.YR4/4に赤い赤焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	内外面黒ずむ、二次焼成か	
						底径 -			外面	5YR5/6赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 15.0			焼成	良好	底外面	-			
108	15	SI-001	109.194. 187	土師器	甕	口径 113.7	100%	精製 白色砂状	内面	5YR5/6赤焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	二次焼成	
						底径 -			外面	5YR5/6赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 15.4			焼成	良好	底外面	-			
108	16	SI-001	109.194. 195	土師器	甕	口径 116.0	100%	精製 白色砂状	内面	5YR5/6赤焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	二次焼成	
						底径 -			外面	5YR5/6赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 17.8			焼成	良好	底外面	-			
108	17	SI-001	17.19.26.86. 102.103.137. 141.162.176. 201.216.243. 296.299	土師器	甕	口径 19.2	100%	精製	内面	10YR6/4に赤い黄焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	器面外面に墨書、二次焼成	
						底径 -			外面	5YR5/6赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 18.4			焼成	良好	底外面	-			
108	18	SI-001	14 178	土師器	甕	口径 124.0	100%	精製 白色砂状	内面	7.5YR5/3に赤い赤焼	内面	ロクロナデ	ヘラナズリ	器面に輪割痕	
						底径 -			外面	10YR赤影、7.5YR5/3に赤い赤焼	外面	ロクロナデ	ヘラナズリ		
						器高 16.0			焼成	良好	底外面	-			

甲種 No	連機番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm)	遺存度	胎土	色(黒色処理)・焼成		技 法		備考		
								内面	外面	内面	外面			
108	19	SI-001	土師器	甕	口径 30.4	75%	精細 白色砂粒	内面	5YR5-6明赤褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ、器面刷漆	胴部外面に 黒線、二次 焼成	
					底径 13.7			外面	5YR5-6明赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデ、器面刷漆		
					器高 29.4			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
108	20	SI-001	土師器	小型甕	口径 -	底即定	精細 白色砂粒	内面	5.YR4-41C.2A+赤褐色	内面	ヘラナデ		口縁と同 類体か、外面 黒ずむ	
					底径 6.8			外面	5YR5-6赤褐色	外面	ヘラナデナリ			
					器高 (2.4)			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
108	21	SI-001	土師器	小型甕	口径 -	底即定	精細 白色砂粒	内面	5YR5-6明赤褐色	内面	ヘラナデ			
					底径 5.6			外面	5YR4-31C.2A+赤褐色	外面	ヘラナデナリ			
					器高 (5.0)			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
108	22	SI-001	瓶	甕	口径 (20.0)	口縁- 胴部40%	精細 白色砂粒 赤母	内面	7.5YR5-21C.2A+褐色	内面	ロコナデ	当て具用ヘラナデ	内面刷漆	
					底径 -			外面	7.5YR5-21C.2A+褐色	外面	ロコナデ	平行タナキ		
					器高 (22.3)			焼成	弊触	底外面	-			
109	23	SI-001	166	瓶	甕	口径 -	胴部片	精細	内面	10YR7-6明黄褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	
						底径 -			外面	7.5YR5-21C.2A+褐色	外面	平行タナキ		
						器高 -			焼成	弊触	底外面	-		
109	24	SI-001	248,254	瓶	甕	口径 -	底部	精細 赤母	内面	2.5YR-1黄褐色	内面	器面刷漆	胴々の破片 が断面も辨 別	
						底径 15.0			外面	2.5YR-31C.2A+黄褐色	外面	ヘラナデナリか、器面刷漆		
						器高 (7.2)			焼成	弊触	底外面	器面刷漆		
109	25	SI-001	土師器	瓶	口径 28.2	75%	精細 白色砂粒 スコリア	内面	7.5YR6-6褐色	内面	ロコナデ	ミガキ	胴部外面に 黒線、底部 内面に黄線	
					底径 (12.0)			外面	7.5YR6-6褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 27.7			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
110	1	SI-002	土師器	甕	口径 (22.0)	口縁部片	精細 白色砂粒 赤母	内面	10YR6-41C.2A+黄褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	内面輪刷漆	
					底径 -			外面	10YR6-41C.2A+黄褐色	外面	ロコナデ	ナデ		
					器高 (7.1)			焼成	良好	底外面	-			
111	1	SI-003	土師器	甕	口径 13.8	85%	精細	内面	赤系 7.5YR6-6褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	口縁に紅 色の線、本 身 足裏手の處 内面に黄線	
					底径 丸底			外面	赤系 7.5YR6-6褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 3.3			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
111	2	SI-003	土師器	杯	口径 113.0	15%	精細 白色砂粒	内面	5YR5-41C.2A+赤褐色	内面	ロコナデ	ナデ		
					底径 (6.8)			外面	5YR5-41C.2A+赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 4.8			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
111	3	SI-003	土師器	杯	口径 (114.2)	口縁- 底部25%	精細 赤母 スコリア	内面	5YR6-1赤	内面	ロコナデ			
					底径 -			外面	5YR6-1赤	外面	ロコナデ			
					器高 (3.6)			焼成	良好	底外面	-			
111	4	SI-003	土師器	杯	口径 (115.0)	口縁- 胴部15%	精細 スコリア	内面	黒色処理 7.5YR1-7.1黒	内面	ナデ			
					底径 -			外面	黒色処理 7.5YR1-41C.2A+黒	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ、器面刷漆		
					器高 (5.5)			焼成	良好	底外面	-			
111	5	SI-003	土師器	甕	口径 16.0	100%	精細	内面	赤系 5YR5-6明赤褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	口縁内面に 帯状の黒線	
					底径 2.6			外面	黒色処理 5YR5-6明赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 10.0			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
111	6	SI-003	土師器	甕	口径 19.3	80%	精細 白色砂粒 赤母	内面	7.5YR6-41C.2A+褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	胴部外面に 黒線2ヶ所	
					底径 8.0			外面	7.5YR6-41C.2A+褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 29.3			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
112	7	SI-003	土師器	甕	口径 (119.4)	口縁- 胴部上平 15%	精細 白色砂粒	内面	5YR5-41C.2A+赤褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ	胴部外面に 黒線	
					底径 -			外面	5YR5-6明赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 (10.1)			焼成	良好	底外面	-			
112	8	SI-001	土師器	甕	口径 (20.0)	口縁- 胴部上平 20%	精細 白色砂粒	内面	5YR1-7.1黒	内面	ロコナデ	ヘラナデ、器面刷漆		
					底径 -			外面	5YR5-41C.2A+赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ、器面刷漆		
					器高 (11.3)			焼成	良好	底外面	-			
112	9	SI-003	土師器	甕	口径 (119.0)	口縁- 胴部上平 25%	精細 白色砂粒	内面	5YR5-41C.2A+赤褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ		
					底径 -			外面	5YR5-41C.2A+赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 (7.4)			焼成	良好	底外面	-			
112	10	SI-003	土師器	甕	口径 (20.0)	口縁- 胴部上平 25%	精細 白色砂粒	内面	5YR5-41C.2A+赤褐色	内面	ロコナデ	ヘラナデ、器面刷漆		
					底径 -			外面	5YR5-41C.2A+赤褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ、器面刷漆		
					器高 (12.4)			焼成	良好	底外面	-			
112	11	SI-003	土師器	甕	口径 -	胴部片	精細	内面	7.5YR6-6褐色	内面	ヘラナデ		内面に輪 刷漆	
					底径 -			外面	7.5YR6-6褐色	外面	平行タナキ、器面刷漆			
					器高 -			焼成	良好	底外面	-			
113	1	SX-001 (SK-001)	土師器	杯	口径 (11.0)	40%	精細	内面	7.5YR6-41C.2A+褐色	内面	ロコナデ	ナデ	口縁に紅 色の線	
					底径 17.0			外面	7.5YR6-41C.2A+褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 3.8			焼成	良好	底外面	ヘラナデナリ			
114	1	6B-03	土師器	杯	口径 (11.8)	15%	精細	内面	7.5YR5-41C.2A+褐色	内面	ロコナデ	ナデ	口縁に紅 色の線	
					底径 (7.8)			外面	7.5YR5-41C.2A+褐色	外面	ロコナデ	ヘラナデナリ		
					器高 3.4			焼成	良好	底外面	-			

洞門 No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm)	遺存度	取上	色面(色処理)・焼成			技 法		備 考
								内面	外面	焼成	内面	外面	
114	2	60-03	2	土師器	杯	口径 (13.8)	口縁- 体部片	精製	内面	7.5YR5-4L2.5YR6	内面	ロコナダ ナデ	口縁に焼成 後の石目用 の粘土層
						底径 -			外面	7.5YR5-4L2.5YR6	外面	ロコナダ ヘラナズリ	
						器高 (3.3)			焼成	良好	底外面	-	
114	3	1B-88	1	灰雲器	蓋 フツメ	口径 2.9	フツメ 100%	精製	内面	5Y6-2/6オリーブ	内面	-	
						底径 -			外面	5Y6-2/6オリーブ	外面	-	
						器高 (1.3)			焼成	良好	底外面	-	
114	4	60-00	2	灰雲器	壺小	口径 (9.3)	口縁部片	精製	内面	6Y6-3/7浅黄	内面	ロコナダ	
						底径 -			外面	5Y5-1/4	外面	ロコナダ	
						器高 (4.8)			焼成	弊難	底外面	-	
114	5	1B-88	1	土師器	小壺	口径 (10.0)	口縁- 体部上平	精製	内面	7.5YR2-1/1	内面	ロコナダ ヘラナズリ	内面灰色色 澤か
						底径 -			外面	7.5YR4/4	外面	ロコナダ ヘラナズリ	
						器高 (4.8)			焼成	良好	底外面	-	
114	6	1B-87	1	土師器	羹	口径 (9.5)	口縁部片	精製	内面	7.5YR5-4L2.5YR6	内面	ロコナダ ナデ	胴部内面に 横沈線
						底径 -			外面	7.5YR5-4L2.5YR6	外面	ロコナダ ナデ	
						器高 (4.8)			焼成	良好	底外面	-	
114	7	1B-96	1	土師器	壺小	口径 (24.0)	口縁部	精製	内面	5YR5-6明赤褐	内面	ロコナダ ヘラナズリ	
						底径 -			外面	5YR5-6明赤褐	外面	ロコナダ ヘラナズリ	
						器高 (4.8)			焼成	良好	底外面	-	
114	8	5B-94	2.3.18	土師器	羹	口径 (25.0)	口縁- 胴部上平	精製	内面	7.5YR6-4L2.5YR6	内面	ロコナダ 不明、器面製造	内外面器面 残れる
						底径 -			外面	7.5YR6-4L2.5YR6	外面	ロコナダ 不明、器面製造	
						器高 (8.0)			焼成	良好	底外面	-	
114	9	5B-94 5B-95	8.10.14.42 6	土師器	羹	口径 -	胴部下平	精製	内面	10YR6-3/2.5YR6	内面	ヘラナズリ、器面製造	器面に横 線
						底径 (10.4)			外面	10YR6-3/2.5YR6	外面	1ゴキ	
						器高 (4.1)			焼成	良好	底外面	不明	
114	10	5B-82	53.54.63. 29	土師器	羹	口径 -	胴部20%	精製	内面	10YR6-3/2.5YR6	内面	ヘラナズリ、器面製造	胴部内面に 輪沈線、外 面に横線
						底径 (10.8)			外面	7.5YR5-4L2.5YR6	外面	1ゴキ	
						器高 (4.1)			焼成	良好	底外面	-	
114	11	1B-78	1	土師器	羹	口径 -	底部片	精製	内面	10YR4-1/1灰黄	内面	ヘラナズリ	底外部面に 横線
						底径 (9.0)			外面	10YR6-4L2.5YR6	外面	1ゴキ ヘラナズリ	
						器高 (3.7)			焼成	良好	底外面	1ゴキ	
114	12	1B-86	1	灰雲器	羹	口径 -	胴部片	精製	内面	7.5Y4/1灰	内面	5Y5浅黄、ヘラナズリ	
						底径 -			外面	7.5Y4/1灰	外面	下打ナズリ	
						器高 -			焼成	弊難	底外面	-	
114	13	5B-82	61	灰雲器	羹	口径 -	底部片	精製	内面	2.5Y3-2/6黄	内面	ヘラナズリ	
						底径 (11.0)			外面	2.5Y4-2/6黄、肌面は中々黄	外面	下打ナズリ、ヘラナズリ	
						器高 (4.6)			焼成	弊難	底外面	-	
114	1B-76 1B-86	1 1	灰雲器	壺小	杯	口径 -	胴部片	精製	内面	7.5YR6-2/6オリーブ	内面	ロコナダ	
						底径 -			外面	底褐色 7.5YR6/1灰	外面	ロコナダヘラナズリ	
						器高 -			焼成	弊難	底外面	-	
114	15	5B-82	54	土師器	羹	口径 -	胴部片	精製	内面	10YR6-3/2.5YR6	内面	器面製造	器面からの 砂の切り 込み、焼成 後か
						底径 -			外面	7.5YR5-4L2.5YR6	外面	1ゴキか	
						器高 -			焼成	良好	底外面	-	

第47表 成井原山向遺跡 砥石・軽石観察表

() 現存値

洞門 No	遺構番号	遺物番号	器 種	石 材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重 量	備 考	
109	36	SI-001	210	砥石	流紋岩	(5.4)	(4.7)	(2.1)	(68.56)	上部下部欠ける
114	16	5B-83	1	砥石	流紋岩	(4.6)	(2.5)	(1.45)	(24.90)	下部欠ける
114	17	1B-47	1	砥石	片岩	12.8	5.1	2.4	193.63	

第48表 成井原山向遺跡 鉄製品観察表

() 現存値

洞門 No	遺構番号	遺物番号	器 種	長 cm	幅 cm	厚・径 cm	重 量	備 考	
109	27	SI-001	89	鉄斧	8.4	3.4	1.8	119.02	
109	28	SI-001	107	刀子	(6.9)	(0.85)	0.2	(4.26)	柄片
109	29	SI-001	297	火打金	(6.6)	(2.35)	0.4	(23.04)	左側欠ける、孔径3.3cmあり

第49表 成井原山向遺跡 弁型観察表

() 現存値

洞門 No	遺構番号	遺物番号	器 種	最大長 cm	最大幅 cm	最小径 cm	重 量	備 考	
115	18	2-1T	1	弁型	<12.6>	<12.3>	<5.6>	<481.84>	

第9章 成井猪穴崎遺跡

第1節 概要(第4・116・117図, 図版84)

成井猪穴崎遺跡は、利根川に注ぐ尾羽根川を南西に望む標高38m前後の台地縁辺部に立地する。成井原山向遺跡の南側に位置する。発掘調査は、平成21年12月1日～平成21年12月25日の期間で行った。調査区は、北側と南側のやせた台地とその間の谷の上部から成る。上層は、確認調査で、北側尾根の南側斜面で2軒、南側尾根で1軒の古墳時代後期の堅穴住居跡を検出し、周囲を拡張して本調査を行った。下層は、遺構・遺物とも検出せず、確認調査で終了した。

第2節 検出した遺構と遺物

古墳時代

SI-001(第118図, 第50表, 図版84・86)

北側尾根の2B-86・96に位置する。主軸はN-29°-Eである。ほぼ正方形で、一辺3.7m～4.2mである。深さは0.1m～0.5mである。床面標高は36.7mである。カマドは北壁の東寄りにある。柱穴は4個ある。

1は丸底で浅い土師器杯で、口縁部がわずかに外反する。2～9は土師器甕である。2は小型甕で、器形はやや歪む。胴部の張りは弱く、口縁部は肥厚しながら緩やかに外反する。胴部外面のヘラケズリはナデに近く、輪積痕を残す。3は甕の底部で、外面に木葉痕がある。4は口縁部に最大径を持つ。口縁部は外反して端部を丸く仕上げる。5は口縁端部をわずかにつまみ上げるように仕上げる。胴部外面の調整は不明瞭である。6は口縁部に最大径を持つ。胴部はあまり張らず、口縁部で外反して端部を丸く収める。7も胴部はあまり張らない。口縁部はわずかに外反して端部を丸く収める。8・9は底部である。いずれも胎土は粗く、混和物が多い。10は手捏土器である。丸底で、ナデで仕上げる。住居の時期は、土器から7世紀後葉～8世紀初であろう。

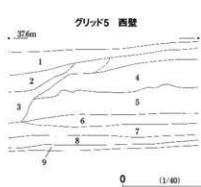
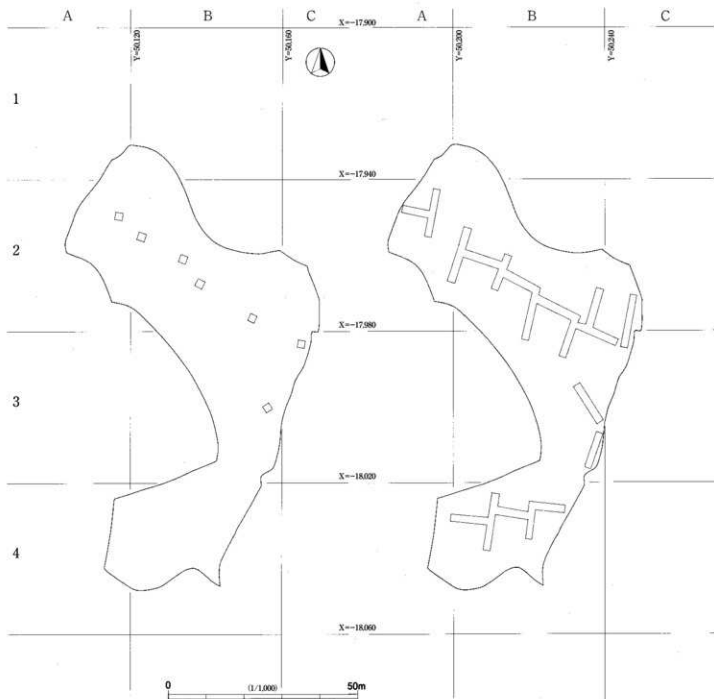
SI-002(第119図, 第50・51表, 図版85・86)

北側尾根の2B-94, 3B-04に位置する。南西端は削平されて検出できなかった。長軸の方位はN-46°-Eである。方形で、長軸長は不明、幅3.6mである。深さは0.1m～0.8mである。床面標高35.0mである。浅いピットが3個あり、深さは0.1m～0.2mである。これらは柱穴の可能性がある。床面の中央から北隅にかけて焼土(炭)を検出したが、住居を壊してつくられた近世の炭窟の残存と思われる。

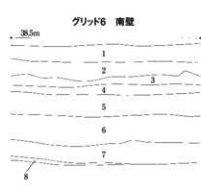
1～5は土師器甕で、1は口縁部に最大径を持つ。緩やかに外反する口縁部は端部を丸く仕上げる。同一個体と思われる底部片外面には木葉痕がある。2～5は常盤型の甕の口縁部から胴部片で、口唇部はわずかにつまみ上げるように仕上げる。胎土に小礫・雲母が大変目立ち、表面がザラザラする。6は須恵器甕で、外面にタタキ目が、内面に当て具痕がある。7は土器片転用円板で、土師器甕の胴部下半から底部にかけての破片を再利用する。胎土は伴出した土師器甕に似る。周縁部を打ち欠いて丸くするが、研磨痕はない。住居の時期は、土器から7世紀後葉～8世紀初であろう。

SI-003(第120図, 第50表, 図版85・86)

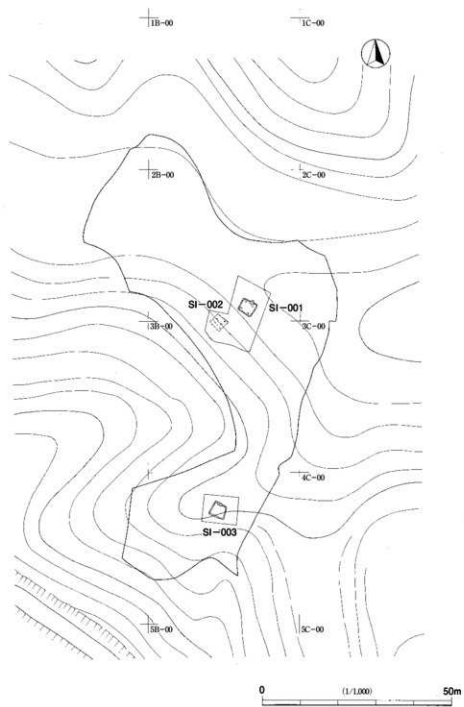
南側尾根の4B-24に位置する。主軸はN-27°-Eである。ほぼ正方形で、一辺3.4m～4.0mである。



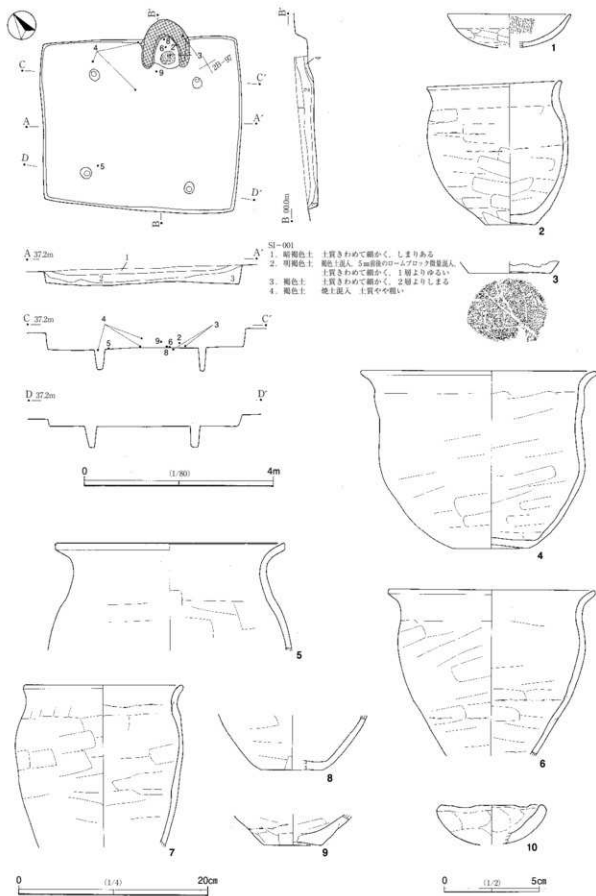
- グリッド5
1. 褐色土 掘り土
 2. 褐色土 掘り土層、土層下の礫中、中身の
 3. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 4. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 5. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 6. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 7. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 8. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 9. 褐色土 掘り土
- グリッド6
1. 褐色土 掘り土層、土層下の礫中、中身の
 2. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 3. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 4. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 5. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 6. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 7. 褐色土 土層下の礫中、中身の
 8. 褐色土 土層下の礫中、中身の



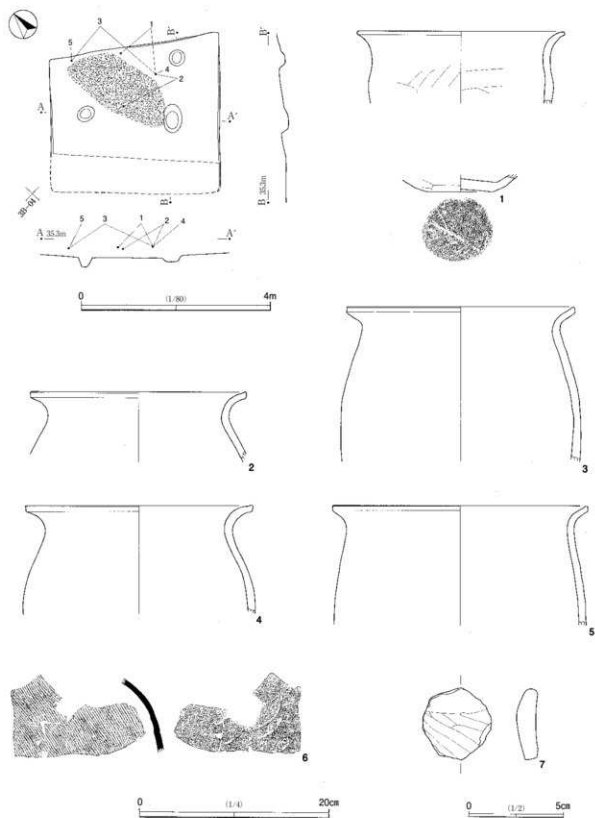
第116図 下層確認グリッド配置図・上層確認トレンチ配置図



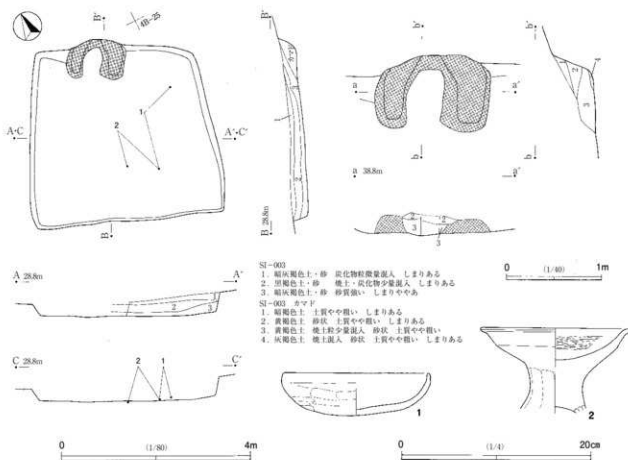
第117图 上层造构配置图



第118回 SI-001・出土遺物



第119回 SI-002・出土遺物



第120図 SI-003・出土遺物

深さは0.2m～0.5mである。床面標高は38.1mである。カマドは北壁西寄りにある。柱穴はなかった。

1は土師器杯で、丸底で、口縁部が直立ないし、わずかに内湾する。摩擦して調整は不明瞭である。2は土師器高杯で、杯部は浅く口縁部が外反する。脚部は中実で裾部を欠く。摩擦して調整ははっきりしない。胎土は大粒のスコリアがやや多く混ざる。住居の時期は、土器から7世紀後葉～8世紀初であろう。

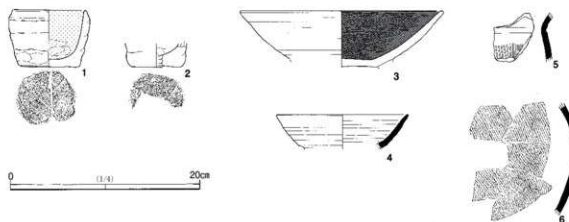
遺構外出土土器（第121図、第50表、図版86）

1・2は小ぶりな手捏土器である。1は上広がり筒形で、口縁外面を横方向にヘラナデして仕上げる。体部は、外面に輪積痕を残し、内面はヘラと指でやや丁寧なナデで赤彩する。2もつくりは同じと思われるが、赤彩の有無は不明である。ともに底部外面に木葉痕がある。

平安時代

遺構外出土土器（第121図、第50表、図版86）

3は土師器の高台付杯で、高台部が割れる。内面は黒色処理する。4は須恵器杯である。外面下部に小さな欠けた出っ張りがあり、高台が付いた可能性がある。5・6は須恵器甕の頸部と胴部の破片で、外面にタケキ目が付く。いずれも9世紀と思われる。



第121図 古墳時代以降遺構外出土遺物

第50表 成井猪穴崎遺跡 土師器・須恵器観察表

() 推定値, () 現存値

棟号	%	遺構番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm ³)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	技法	備考
118	1	SI-001	1	土師器	杯	口径 112.00 底径 4.80 器高 13.30	20%	白色砂 スコリア (少)	内面 7.5YR6-4L2.5Δ+焼 外面 7.5YR6-6焼 焼成 良好	内面 口コナデ 3字本 外面 口コナデ ヘラケズリ 底外面 -	
118	2	SI-001	1,12,15	土師器	小壺	口径 14.1 底径 5.3 器高 14.9	75%	白色砂 (大,多) 小礫	内面 5YR5-6弱赤褐 外面 5YR5-6弱赤褐 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ 外面 口コナデ ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ	
118	3	SI-001	14	土師器	甕	口径 - 底径 18.40 器高 11.30	底部40%	白色砂 (多) スコリア	内面 5YR5-6弱赤褐 外面 5YR5-8弱赤褐 焼成 良好	内面 器面割落 外面 ヘラケズリ 底外面 木蓋痕	
118	4	SI-001 SI-002	2,10,18 1	土師器	甕	口径 124.40 底径 18.20 器高 18.7	30%	白色砂 (多) スコリア 礫	内面 5YR6-2L2.5Δ+焼 外面 5YR6-6焼 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ 外面 口コナデ ヘラケズリ, 器面割落 底外面 ヘラケズリ	
118	5	SI-001	1,13	土師器	甕	口径 124.00 底径 - 器高 11.20	1層~ 胴部上半 25% 15%	小礫(多) 器母(多)	内面 5YR5-2L2.5Δ+赤褐 外面 5YR5-4L2.5Δ+赤褐 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ, 口~胴部半焼 外面 口コナデ ナデ 底外面 -	
118	6	SI-001	1,3	土師器	甕	口径 121.40 底径 - 器高 17.40	1層~ 胴部下半 20% 20%	白色砂 (多) 小礫	内面 5YR5-4L2.5Δ+赤褐 外面 5YR4-4L2.5Δ+赤褐 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ 外面 口コナデ ヘラケズリ 底外面 -	胴部内面下部に輪筋痕
118	7	SI-001	1,11	土師器	甕	口径 16.6 底径 - 器高 17.10	1層~ 胴部下半 75%	白色砂 (多) スコリア 小礫	内面 5YR5-4L2.5Δ+赤褐 外面 5YR5-6弱赤褐 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ 外面 口コナデ ヘラケズリ 底外面 -	胴部内面に輪筋痕
118	8	SI-001	1	土師器	甕	口径 - 底径 16.47 器高 15.80	胴部下半 25%	白色砂 (多)	内面 5YR5-6弱赤褐 外面 5Y5-2赤褐 焼成 良好	内面 ヘラケデ 外面 ヘラケズリ, 器面割落 底外面 ヘラケズリ	
118	9	SI-001	16	土師器	甕	口径 - 底径 16.40 器高 13.30	胴部下半 ~胴部 40%	白色砂 (多)	内面 5YR5-6弱赤褐 外面 5YR5-6弱赤褐 焼成 良好	内面 ヘラケデ 外面 ヘラケズリ 底外面 ヘラケズリ	
118	10	SI-001	1	土師器	手筒	口径 15.41 底径 - 器高 12.11	40%	白色砂 (多)	内面 7.5YR6-6焼 外面 7.5YR6-6焼 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 -	
119	1	SI-002	4,5	土師器	甕	口径 122.00 底径 6.8 器高 19.40	1層~ 胴部上半 15% 底部 100%	白色砂 (多)	内面 7.5YR5-4L2.5Δ+焼 外面 5YR5-6弱赤褐 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデ, 口縁部半焼 外面 口コナデ ヘラケズリ, 口縁部半焼 底外面 木蓋痕	口縁・底部同一形状
119	2	SI-002	1,3,5	土師器	甕	口径 121.40 底径 - 器高 7.40	1層~ 胴部15%	小礫(多) 器母	内面 7.5YR6-2L2.5Δ+焼 外面 7.5YR6-2L2.5Δ+焼 焼成 良好	内面 口コナデ ヘラケデナデ 外面 口コナデ ヘラケズリ後ナデ 底外面 -	
119	3	SI-002	5,6,8	土師器	甕	口径 123.40 底径 - 器高 116.30	1層~ 胴部上半 15%	小礫(多) 器母(多)	内面 10YR6-2L2.5Δ+黄橙 外面 10Y5-2赤黄褐 焼成 良好	内面 ヘラケデ, 器面割落 外面 ヘラケズリ後ナデ 底外面 -	

併用 No	遺構番号	遺物番号	種類	器種	容量(cm)	遺存度	取土	色面(色処理)・焼成		技 法		備 考		
								内面	外面	内面	外面			
119	4	SI-002	1.3	土師器	甕	口径	123.8)	白線~ 赤線	内面	7.5YR5-4(1.5)赤	内面	ロコナデ、ヘラナデ後ナデ	胴部外周の 一部は二次 焼成で表い	
						底径			-	外面	7.5YR5-4(1.5)赤	外面		ロコナデ、ヘラナデ後ナデ
						器高			111.4)	焼成	良好	底外面		-
119	5	SI-002	5	土師器	甕	口径	126.8)	白線~ 赤線(多)	内面	10YR6/4(2.5)黄橙	内面	ロコナデ、ヘラナデ後ナデ	細かく割れ る	
						底径			-	外面	10YR6/4(2.5)黄橙	外面		ロコナデ、ヘラナデ後ナデ
						器高			112.4)	焼成	良好	底外面		-
119	6	SI-002 SD-002	8 1	灰土器	甕	口径	-	赤線~ 白線(多)	内面	5Y6/1赤	内面	ナデ、当て直焼	SD-002は SI-002の周 西焼を留る	
						底径			-	外面	5Y5/1赤	外面		平打ナデキ
						器高			-	焼成	良好	底外面		-
120	1	SI-003	6.7	土師器	杯	口径	115.4)	白化粧 スコリア (大)	内面	5YR6/6赤	内面	厚減、器面割落		
						底径			9.6)	外面	5YR6/6赤	外面		ロコナデ、ヘラナデリ、器面割落
						器高			4.5)	焼成	良好	底外面		-
120	2	SI-003	5.6	土師器	高杯	口径	116.8)	白化粧 スコリア (多) 赤線40%	内面	5YR5/6明赤	内面	ミギキ		
						底径			-	外面	5YR5/6明赤	外面		ヘラナデリ、割落ミギキ、器面割落
						器高			8.9)	焼成	良好	底外面		-
121	4	トレンチ 12	2.3	土師器	高付杯	口径	121.4)	赤線 スコリア (少)	内面	黒色処理、7.5YR7/1黒	内面	ミギキ	体部下端に 高付の輪が 残る	
						底径			-	外面	7.5YR5-4(1.5)赤	外面		ロコナデ、ミギキ
						器高			5.9)	焼成	良好	底外面		-
121	2	SD-002	1	灰土器	杯	口径	113.8)	赤線	内面	5Y7/2赤	内面	ロコナデ	高付付か	
						底径			-	外面	5Y7/2赤	外面		ロコナデ
						器高			3.4)	焼成	良好	底外面		-
121	3	トレンチ 12	2	灰土器	甕	口径	-	白化粧 赤線 スコリア 小確	内面	2.5Y5/3黄	内面	ロコナデ、ナデ		
						底径			-	外面	2.5Y5/3黄	外面		ロコナデ、ナデ、平打ナデキ
						器高			-	焼成	良好	底外面		-
121	4	SD-002	2	灰土器	甕	口径	-	赤線	内面	5Y6/1赤	内面	ナデ、当て直焼		
						底径			-	外面	5Y5/1赤	外面		平打ナデキ
						器高			-	焼成	良好	底外面		-
121	5	トレンチ 1	4.5	土師器	手捏	口径	7.7)	白化粧 スコリア (多)	内面	赤線、5YR5/4(1.5)赤	内面	ナデ、ヘラナデ	器面輪痕	
						底径			6.3)	外面	5YR5/4(1.5)赤	外面		ナデ
						器高			6.0)	焼成	良好	底外面		木蓋痕
121	6	トレンチ 1	2.3	土師器	手捏	口径	-	白化粧 スコリア (多)	内面	7.5YR4/4赤	内面	ヘラナデ		
						底径			15.2)	外面	7.5YR4/6赤	外面		ナデ
						器高			2.5)	焼成	良好	底外面		木蓋痕

第51表 成井猪穴崎遺跡 土師器片転用円板観察表

併用 No	遺構番号	遺物番号	最大径 cm	最大厚 cm	重量 g	備 考	
119	8	SI-002	1	3.74	0.96	14.96	土師器甕底部片転用、打ち欠きにより丸くする

第10章 まとめ

以上に述べて来た倉水高台遺跡ほか7遺跡の発掘調査の成果を時代順にまとめると次のようになる。

旧石器時代は、倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡・成井原山遺跡で石器集中箇所や石器単独出土を検出した。いずれも旧石器時代の遺構・遺物を検出することの多い台地の平坦面の縁辺に当たる場所である。時期は、関東ローム層の上部に当たるⅤ層～Ⅲ層である。主体はⅤ層～Ⅲ層である。このうち倉水内野北遺跡の北端で検出した石器集中1か所は、黒曜石の剝片・砕片がままとまって出土し、石器製作の場所を検出したと考えられる。

縄文時代は、早期について、倉水内野北遺跡の北東部で3か所、稲荷山追分台遺跡の南端で1か所、遺物集中を検出し、この2遺跡に挟まれた倉水内野南遺跡では早期と思われる住居跡を2軒検出し、青山小峰遺跡も主として早期の遺物が出土した。倉水内野北遺跡の陥穴1基と倉水内野南遺跡の陥穴3基も早期で良からう。同じ早期の遺物集中でありながら、倉水内野北遺跡の遺物集中は、沈線文系の土器が主であるのに対し、稲荷山追分台遺跡の遺物集中は沈線文系より一段新しい条痕文系の土器が主であり、早期の中でも細かい時期の違いで利用された場所が異なっていたことがわかる。また、稲荷山追分台遺跡の遺物集中には、倉水内野北遺跡の遺物集中にはほとんど見られない礫・礫片が多数含まれていて、そのうちの相当数が焼けていた。そして、遺物集中の中に灰跡が3か所見つけた。倉水内野北遺跡の遺物集中と稲荷山追分台遺跡の遺物集中は、遺物の内容の違いから性格が異なる可能性がある。稲荷山追分台遺跡の遺物集中は、出土した礫・礫片のうちチャートの割合が高いことから、石器製作の場所であろうと推測される。焼けた礫・礫片は、普通、礫を熱して蒸し焼きしたり、土器に溜めた水を沸かすのに使った灰や、灰のまわりに置いて火を焚いた痕と考えられるが、焼けたチャートの礫・礫片は、採集してきたものの石器製作に向かないと判断された類を、焼いたものであろうか。焼けた礫片の割れた面を見ると、ゴツゴツとして、石器の剝離面のように平滑ではない。

以上の4遺跡と対照的に、南側 valley を挟んで位置する成井原山遺跡では、中期後半加曽利E式土器が入った袋状土坑を2基、土器片の他に土器片錘が13点前後入っていたと思われる土坑1基を検出し、成井原山向遺跡では中期後半加曽利E式の遺物が主として出土した。このことは、早期と中期で利用された台地が変化したことを示唆する。あいだの前期の遺構は今回の調査では見つからなかった。成井原山遺跡・成井原山向遺跡と同じ中期加曽利E式の時期の遺跡として、同じ台地上の約2km東に稲荷山遺跡（久井崎I遺跡）があり、多数の住居跡・土坑が検出されている。

弥生時代は、倉水内野南遺跡で後期の住居跡を1軒検出した。東側 valley を臨む。この谷を2kmほど北へ下った南城砦跡では同じ時期の住居跡を3軒検出している。また、遺跡西側の谷を下ると、中里原ノ台遺跡で5軒、大和田坂ノ上遺跡で1軒の同時期の住居跡が見つかっている。南城砦跡のSI-004は、倉水内野南遺跡のSI-003に似て、灰は明瞭であるが、掘り込みは浅く、柱穴かというピットが2個見つかっただけである。土器は多く出土している。

古墳時代は、前期の土師器片の集中1か所を倉水内野北遺跡で検出し、住居跡の可能性が考えられる。後期は、住居跡を成井原山遺跡の南側で17軒、成井猪穴崎遺跡で3軒検出し、共に集落跡の一部と思われる

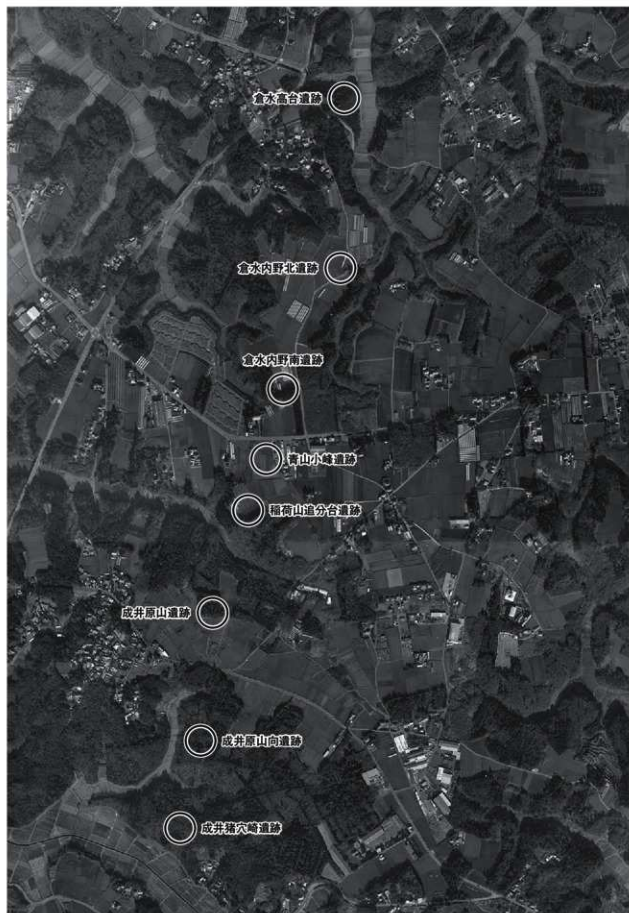
る。稲荷山道分台では後期の土師器片の集中1か所を検出している。古墳時代後期の住居跡は、周辺の調査例からみて、成井原山遺跡・成井猪穴崎遺跡から、東側の台地平坦面上に、成井寺ノ下遺跡・地蔵原遺跡まで続いて分布すると推定される。大規模な集落跡の存在が予想される。

奈良・平安時代では、成井原山向遺跡で住居跡を3軒検出した。この時代の住居跡も成井寺ノ下遺跡・地蔵原遺跡で見つかっていて、古墳時代後期の集落跡に重なって、この時代の集落跡が、両遺跡まで続いていると考えられる。しかし、北側の成井原山遺跡と南東側の成井猪穴崎遺跡では、この時代の住居跡を検出できなかったため、両遺跡側には広がっていないかもしれない。なお、成井原山向遺跡の3軒は、いずれも台地の縁辺に近い場所に位置し、台地中央に展開していたであろう当時の集落のはずれに当たる。そして、一般的な住居跡とはやや違う様子が見られる。SI-001では、土師器の甕と甔の細かい破片が集中して出土し、意図的に細かく割って捨てられたことが考えられる。「万」字の墨書土器も1点出土する。SI-003では、仏具の鉄鉢を象った土師器鉢が、柱穴と思われる凹みに、置かれたようにして出土した。供献用と考えられる土師器壺も出土する。また、この住居跡の北側で、細かく割れた土師器甕のものと思われる細かい破片の集中を検出した。

なお、「万」字が体部外面に墨書された土器杯は、周辺の遺跡では、名木鎌部遺跡（名木鎌部遺跡を含む）で1点、十余三門妙寺遺跡の4軒の住居跡から合計8点出土している。土師器杯は、食器であって、一人用の銘銘器であると考えられる。「たくさん」という目でたい意味を持つ「万」と墨書された杯は、婚礼といった祝事の集まりのある毎に、一揃えとしてまとまった数が新しく用意され、参会した親戚や仲間ひとりひとり配られ、集まりが終わった後、参会者が軒々に持ち帰る習慣があったために、このように出土する、ということも考えられよう。

成井原山遺跡で検出した土坑墓1基は、周辺ではこれまで未検出で貴重な資料である。浅い谷に少し突き出した台地の先端に造られている。隣接して同時期の住居跡を検出していないことから、墓域として画定された一帯の中に造られた可能性がある。他の遺構についても言えることであるが、今回の調査は、道路用地についての縦的なもので、遺構の面的な分布を掴まえるには限界がある。今回の調査区周辺での今後の調査に注目したい。

写 真 图 版



遺跡周辺航空写真

倉水高台遺跡



1T 北東から



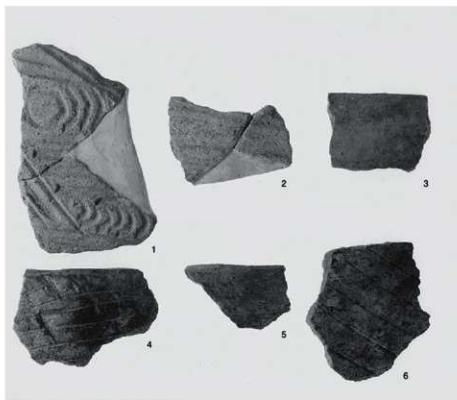
2T 東から



下層確認Aグリッド セクション 北東から

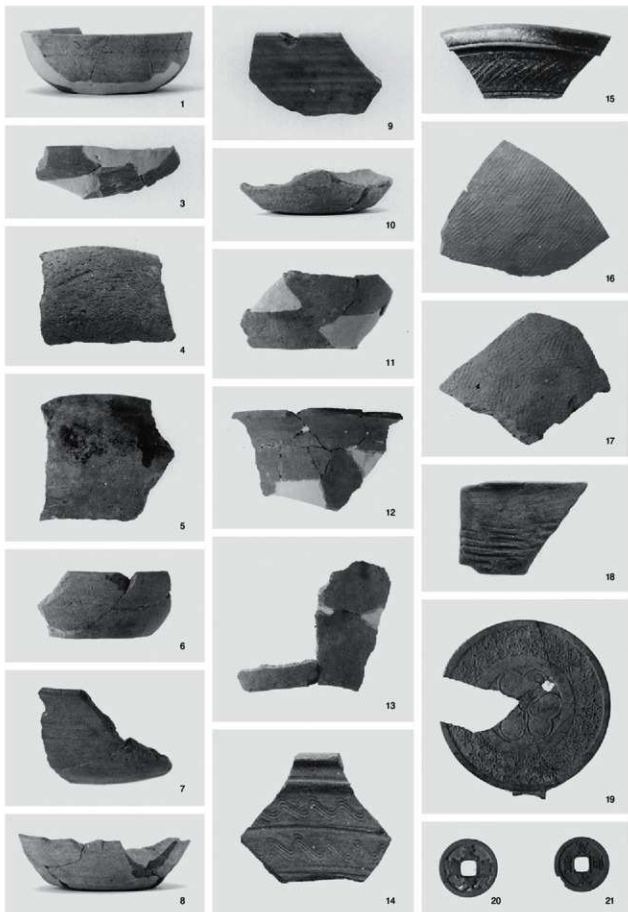


下層確認Bグリッド セクション 北東から



調査状況 縄文時代遺物





古墳時代以降遺物

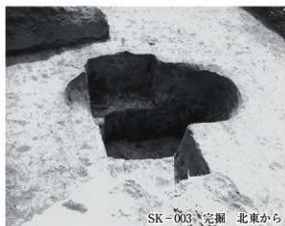
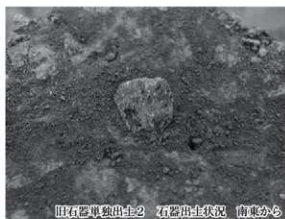
倉水内野北遺跡



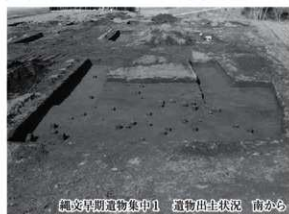
調査前、上層確認調査状況、旧石器土層



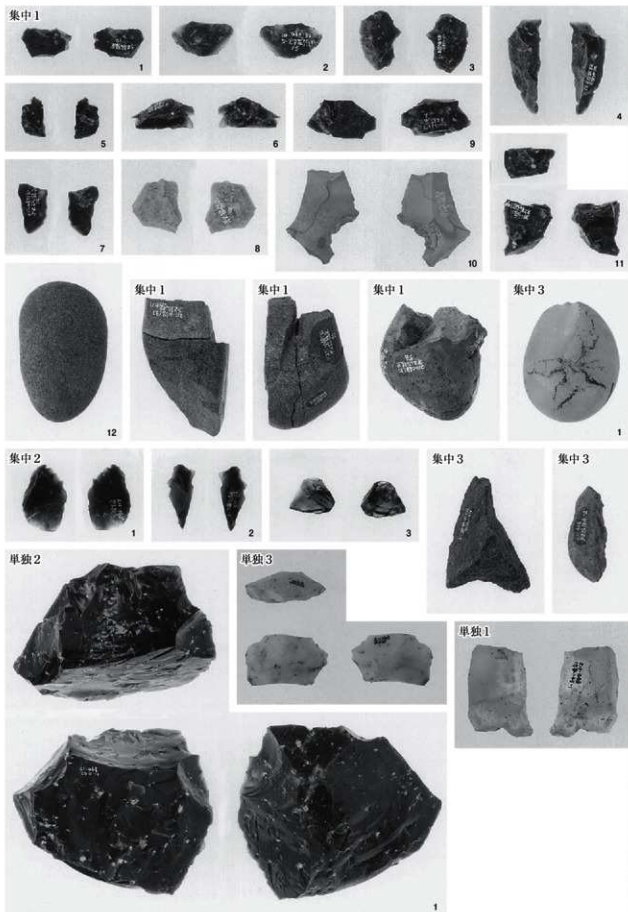
旧石器集中1、旧石器単独出土2



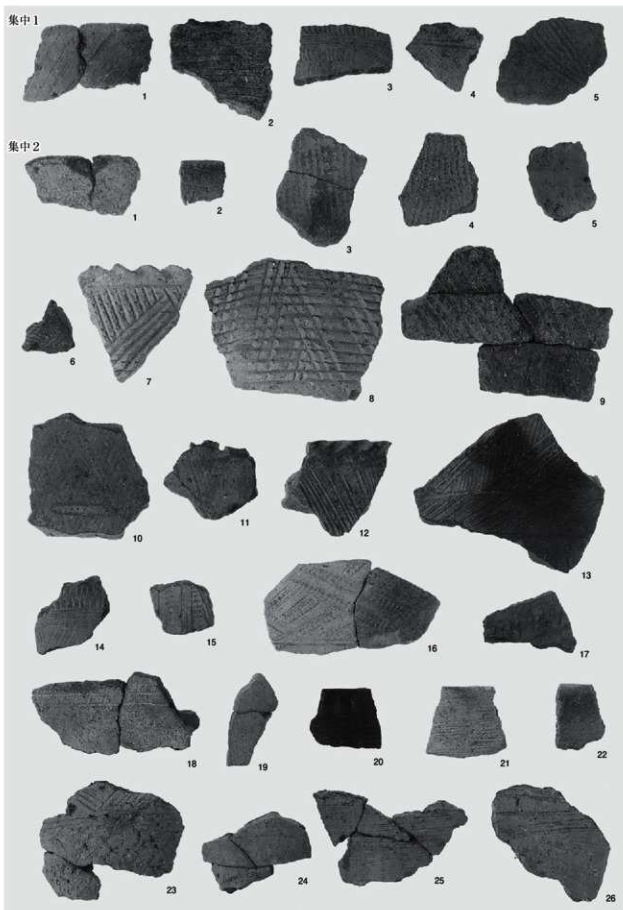
旧石器単独出土2出土状況、SK-001、SK-002、SK-003、SK-005



SK-006, SK-008, SK-009, SK-011,
縄文早期遺物集1・2・3

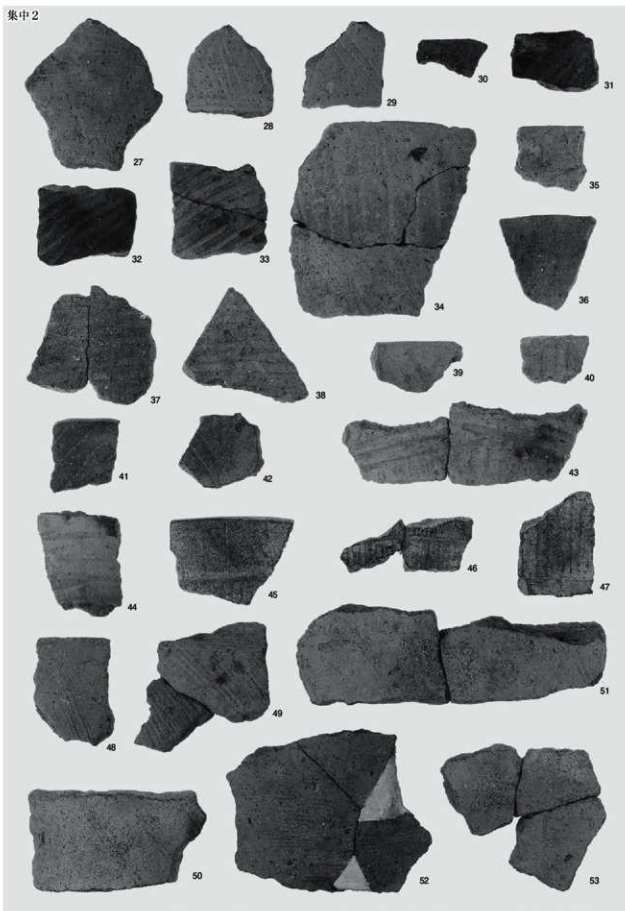


旧石器時代遺物



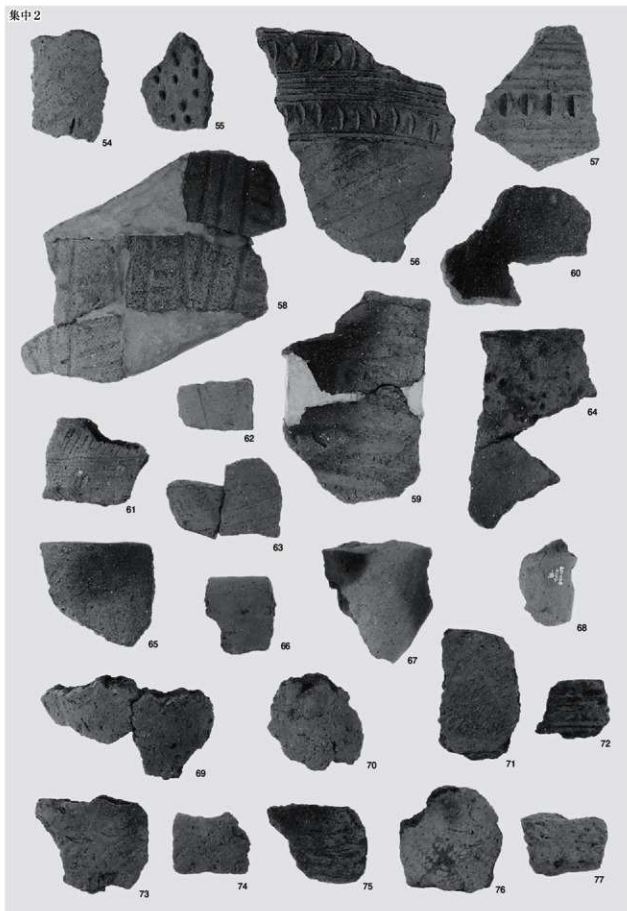
縄文時代遺物（1）

集中 2



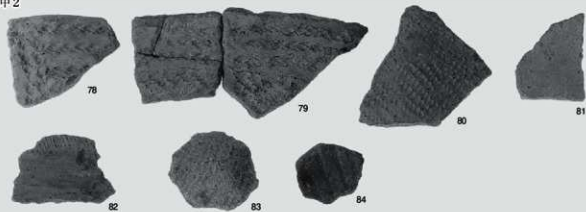
縄文時代遺物 (2)

集中 2

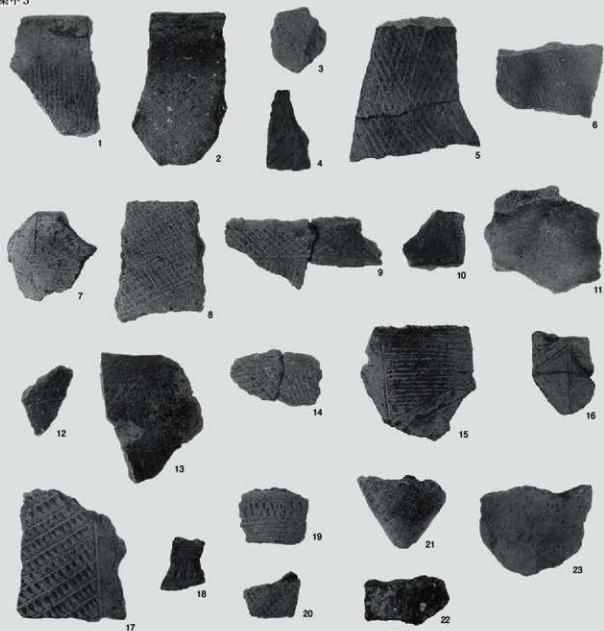


縄文時代遺物 (3)

集中2

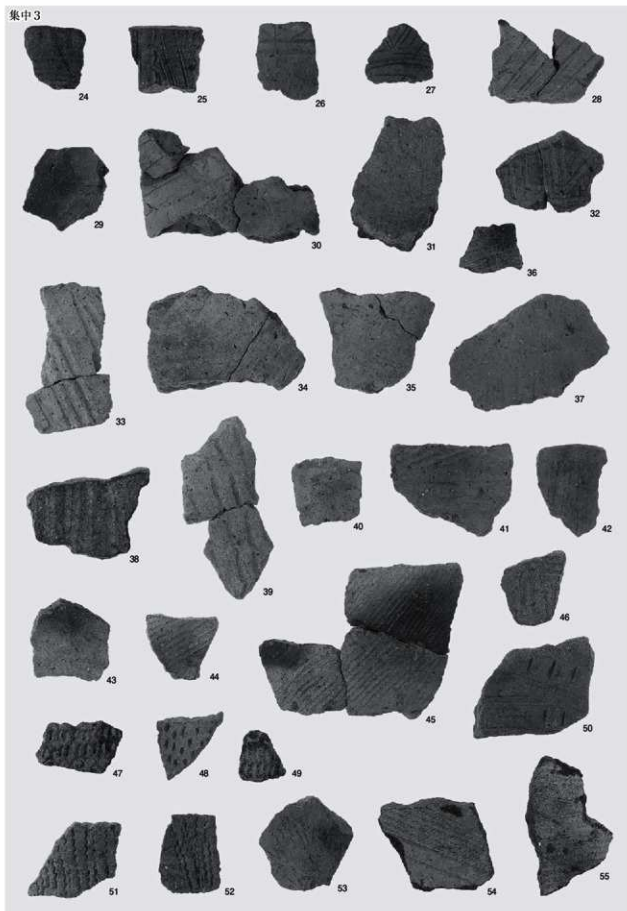


集中3



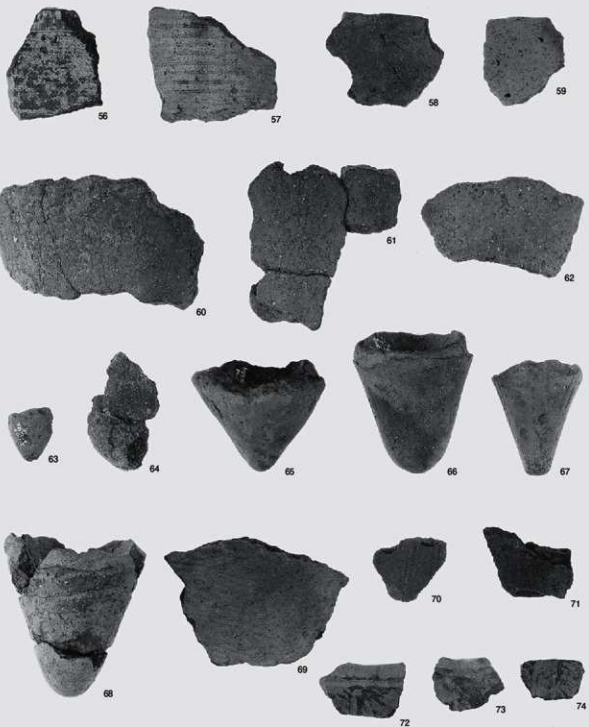
縄文時代遺物（4）

集中 3



縄文時代遺物 (5)

集中3

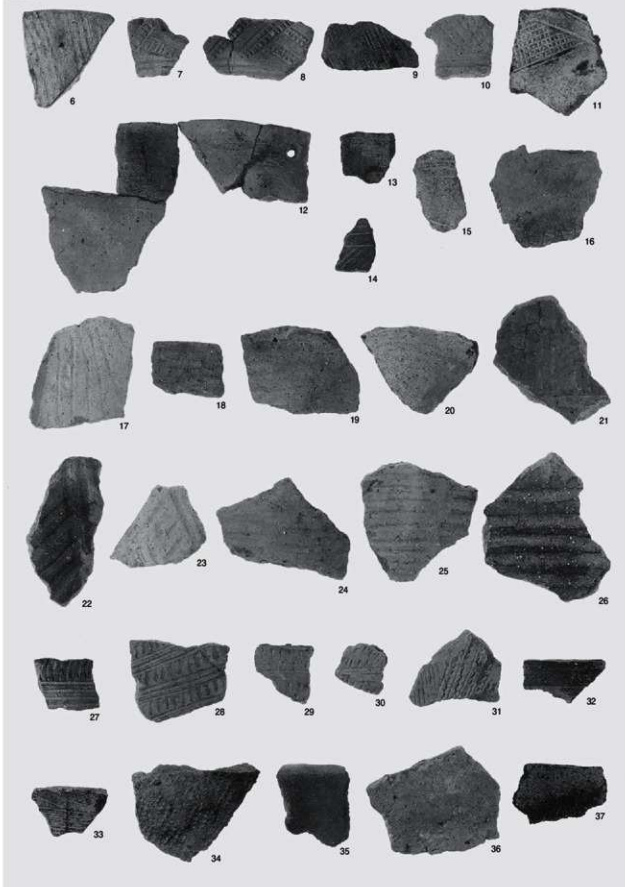


遺構外



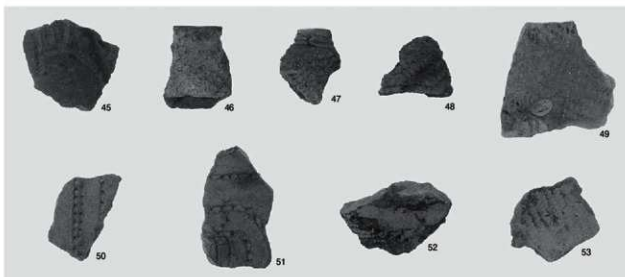
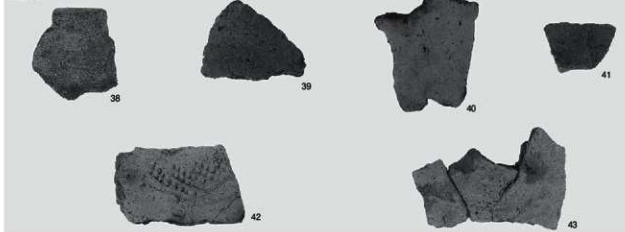
縄文時代遺物 (6)

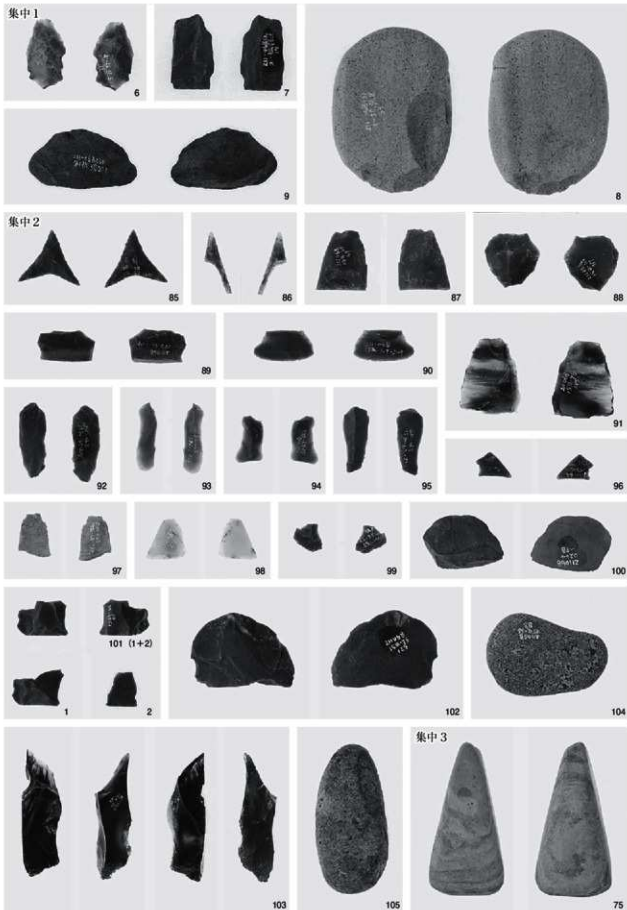
遺構外



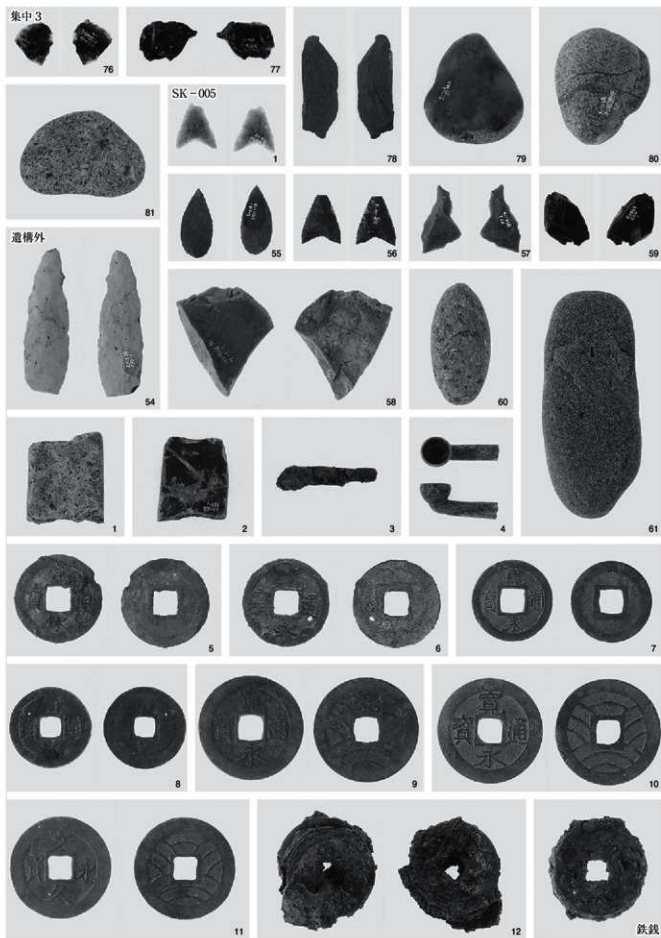
縄文時代遺物 (7)

遺構外





縄文時代遺物 (9)



縄文時代遺物 (10)、奈良・平安時代以降遺物

倉水内野南遺跡



調査前 全景 北から



25L-46 グリッド
拡張セクション
東から

調査前、旧石器25L-46



上層確認調査状況 SI-001



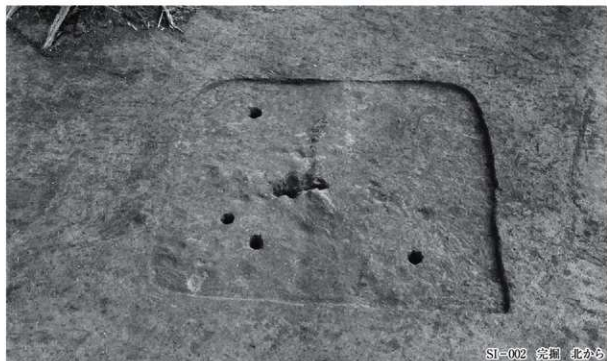
SI-001 突門 北から



SI-001 切 北西から

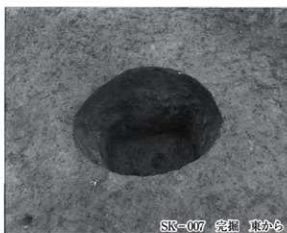
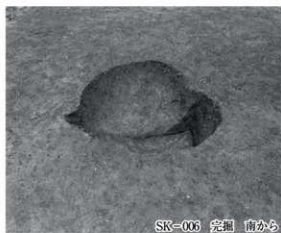
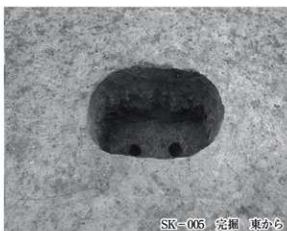


SI-002 切 北から



SI-002 突門 北から

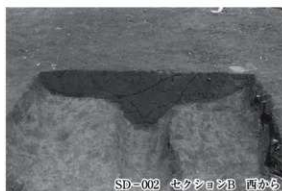
SI-001, SI-002



SK-001, SK-002, SK-003,
SK-005, SK-006, SK-007



SI-003



SD-002. 土層

旧石器



1



2



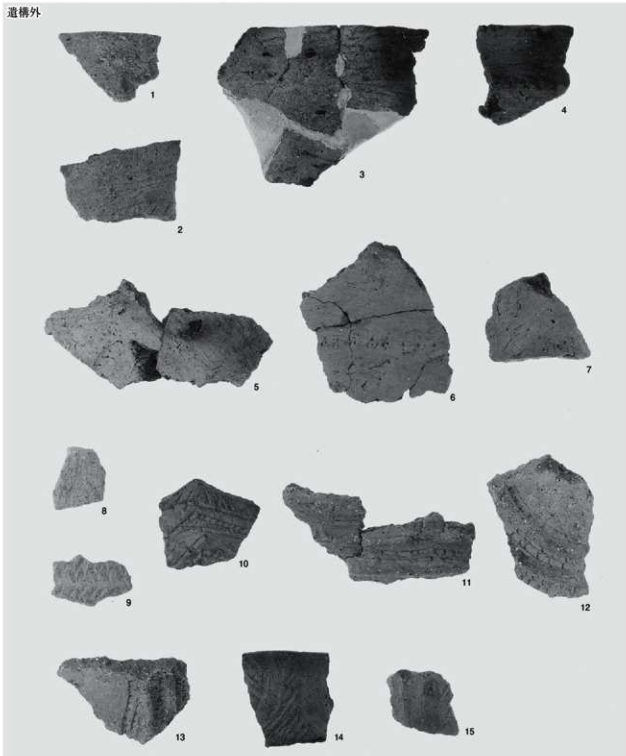
3



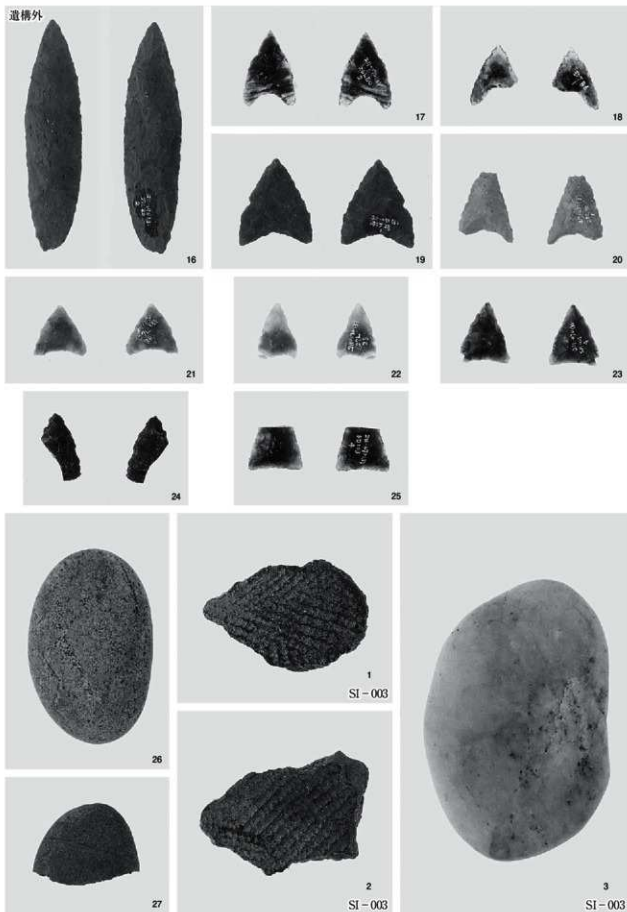
1

SI-001

遺構外



旧石器時代遺物，縄文時代遺物（1）



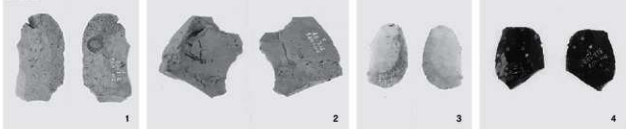
縄文時代遺物（2），弥生時代遺物

青山小峰遺跡

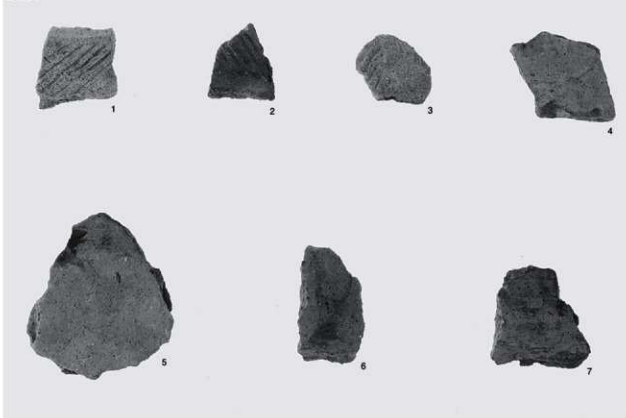


調査前、旧石器31J

旧石器



遺構外



遺構外



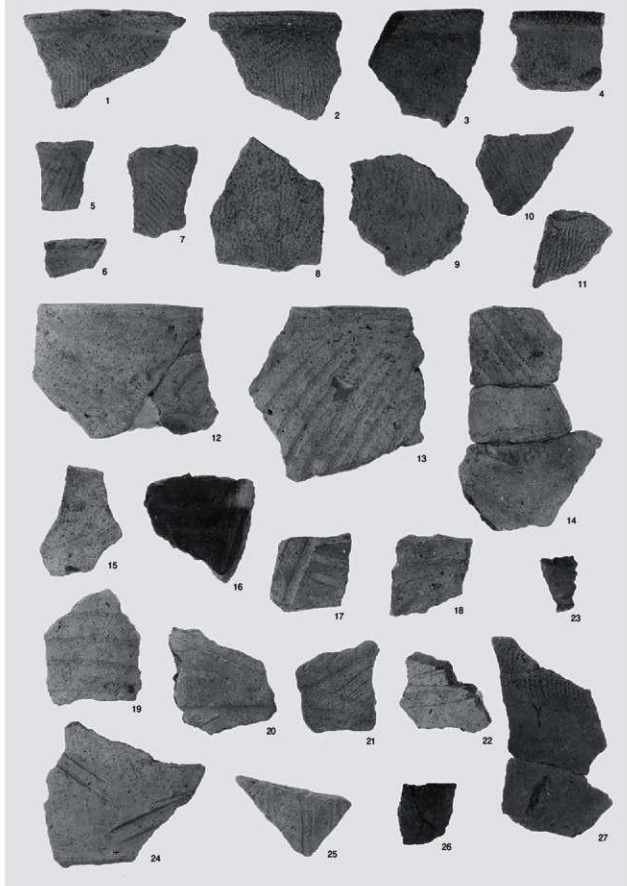
旧石器時代遺物，縄文時代遺物

稻荷山追分台遺跡

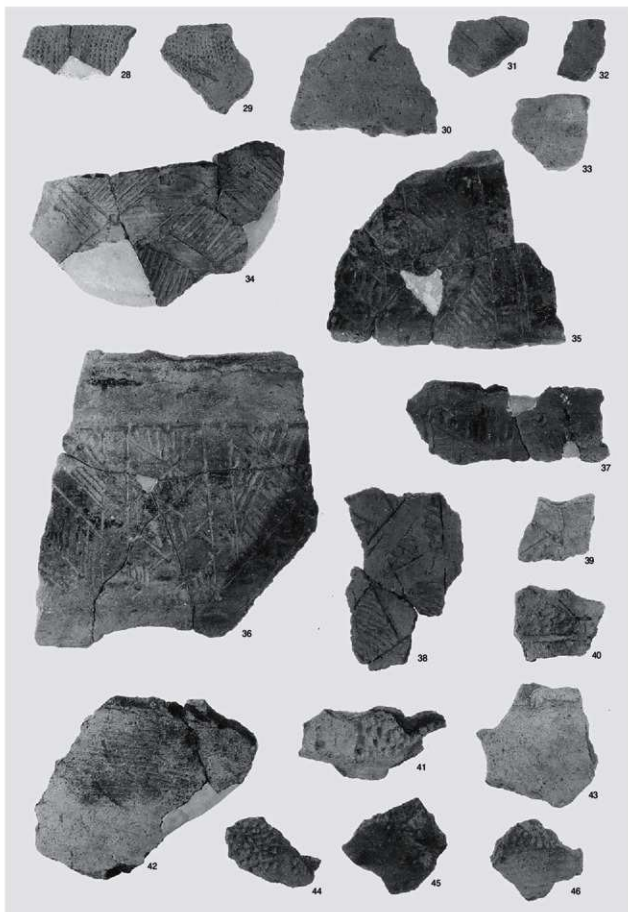


縄文早期遺物集中, 炉跡, 土師器集中

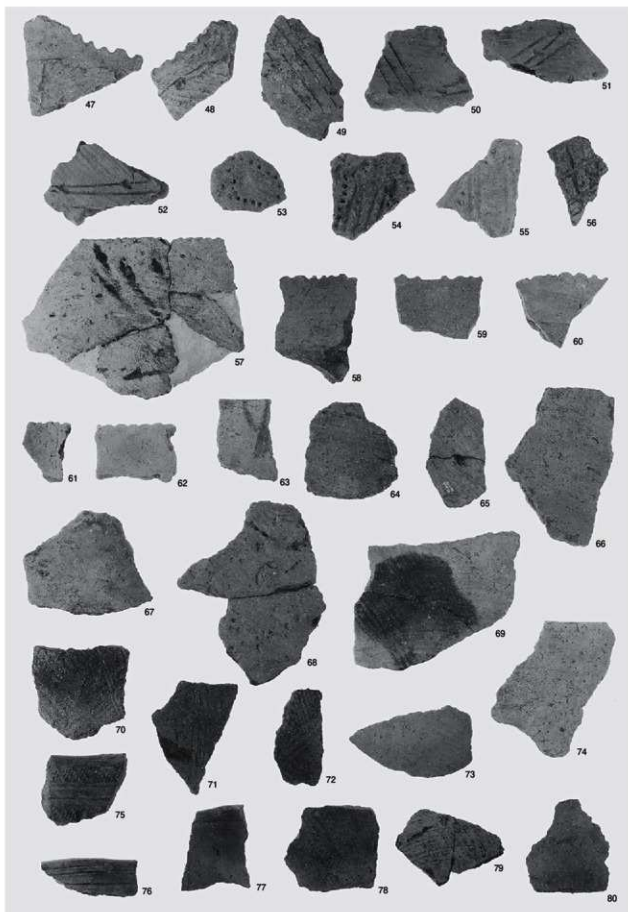
遺物集中



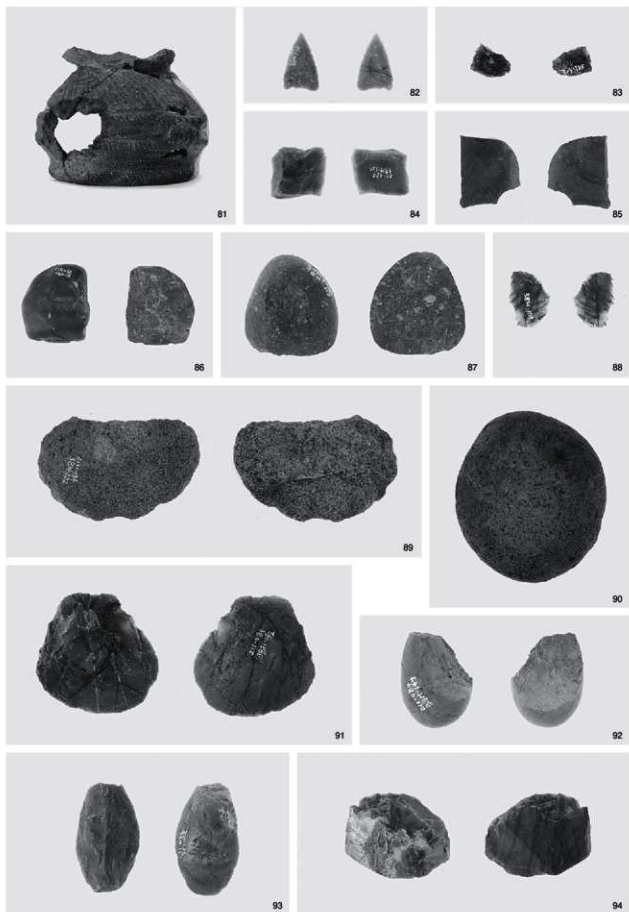
縄文時代遺物 (1)



縄文時代遺物 (2)

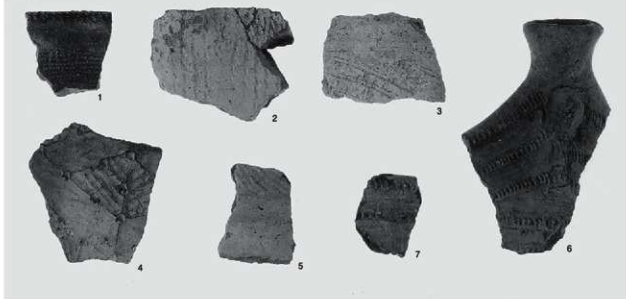


縄文時代遺物 (3)

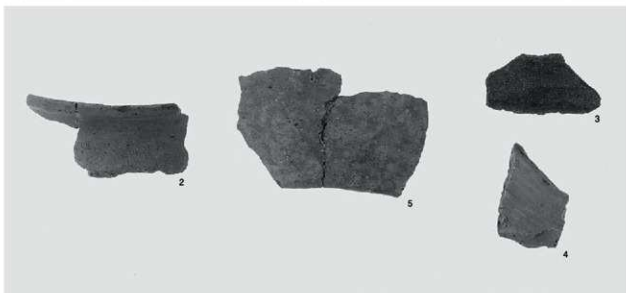


縄文時代遺物（4）

遺構外



古墳以降



縄文時代遺物（5）、古墳時代以降遺物

成井原山遺跡



南側調査前 北から



北側調査前 南から

調査前



南側確認調査状況



北側確認調査状況

上層確認調査状況



3D-56 旧石器出土状況 南東から



3D-66 下層確認グリッド 西壁セクション



SK-025 完掘 南から



SK-029・030 配置 南から



SK-029 完掘 南から



SK-029 遺物出土状況 南から

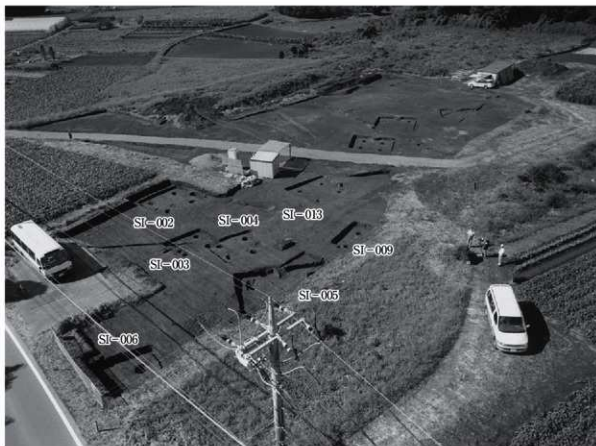


SK-030 完掘 南から

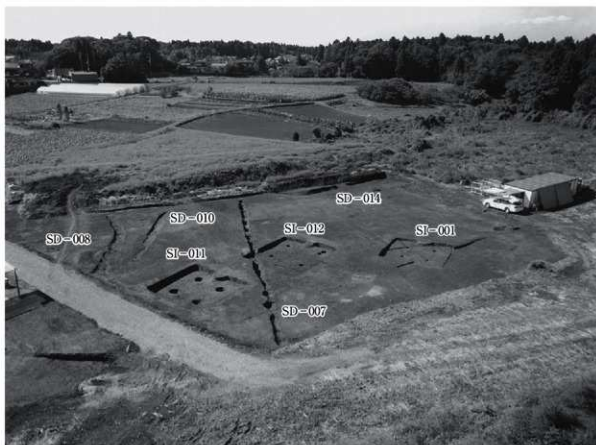


SK-030 遺物出土状況 南東から

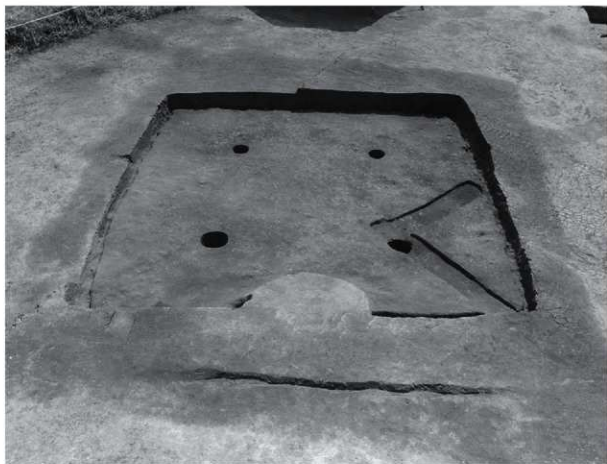
SK-029, SK-030



(1) 調査区南側上層遺構 南東から



(1) 調査区南側上層遺構 (北半) 南東から
上層遺構配置



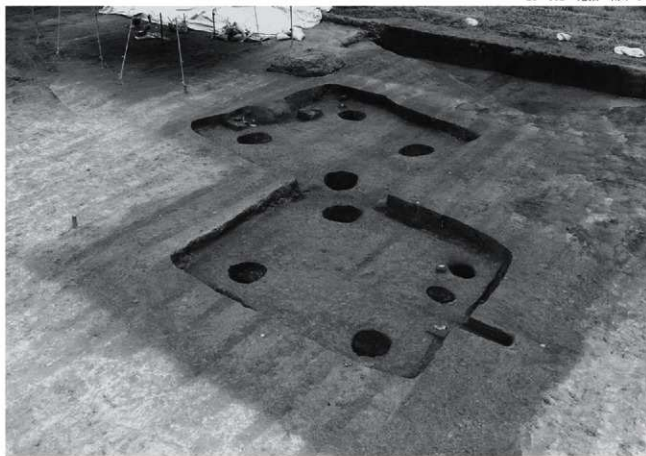
SI-001 完掘 北西から



SI-001 遺物出土状況 南東から



SI-002 完掘 南から



SI-003 (手前)・SI-004 (奥)
完掘・遺物出土状況 南から



SI-005 完掘 北西から



SI-006 完掘 北西から

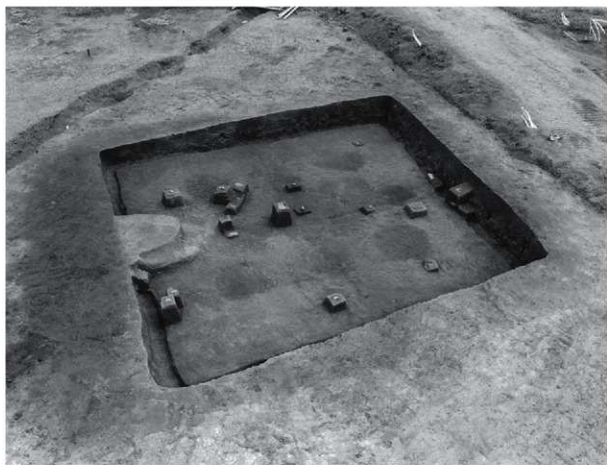
SI-005, SI-006



SI-009 完掘 西から



SI-011 完掘 南西から



SI-011 遺物出土状況 西から



SI-012 完掘 北から

SI-011, SI-012



SI-012 遺物出土状況 南から



SI-013 完掘 南から

SI-012, SI-013



SI-013 カマド完掘 南から



SI-013 カマド石脇遺物出土状況 南西から



SI-013・018・019 完掘 東から

SI-013, SI-018, SI-019



SI-018 カマド完掘 東から



SI-020 遺物出土状況 東から



SI-018 カマド右脇遺物出土状況 北東から



SI-020 完掘 南から

SI-018, SI-020



SI-024 完掘 南から



SI-024 遺物出土状況・セクション 南から



SI-024 カマド 南から



SI-024 カマド左脇遺物出土状況 南から



SI-024 カマド脇遺物出土状況 南から



SI-024 カマド右脇遺物出土状況 南から



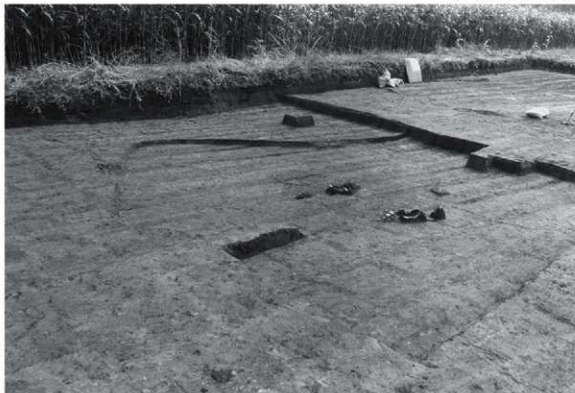
SI-025 完掘 南から



SI-025 カマド右脇遺物出土状況
南東から



SI-025 遺物出土状況



SI-201 完掘・遺物出土状況 北西から

SI-025, SI-201



SK-026 完掘 西から



SD-007 遺物集中 南から

SD-008 完掘 東から

SK-026, SD-007, SD-008



SD-014 完掘 南東から



SD-015 完掘 北西から

SD-014, SD-015



SD-016 完掘 北西から



SD-016 セクション 北西から



SD-023 セクション 東から



SD-027 セクション 東から

SD-016, SD-023, SD-027



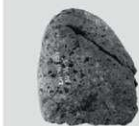
SD-023 完掘 東から



SD-028 完掘 (部分) 西から

SD-023, SD-028

旧石器



接合資料 (1+2)



1



2

SK-025



1



2



3



5



4



6



5

SK-029



1



3



2



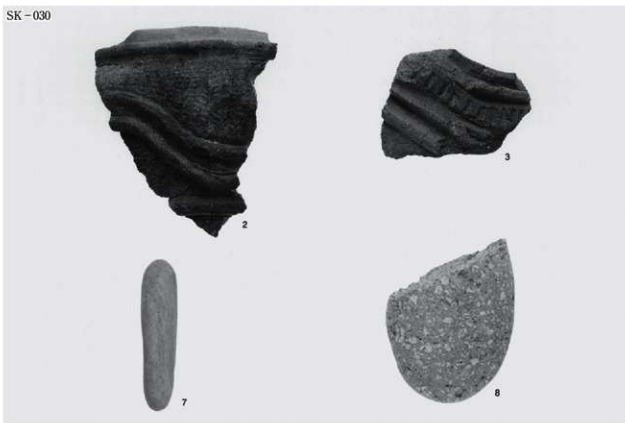
4

旧石器時代遺物，縄文時代遺物（1）

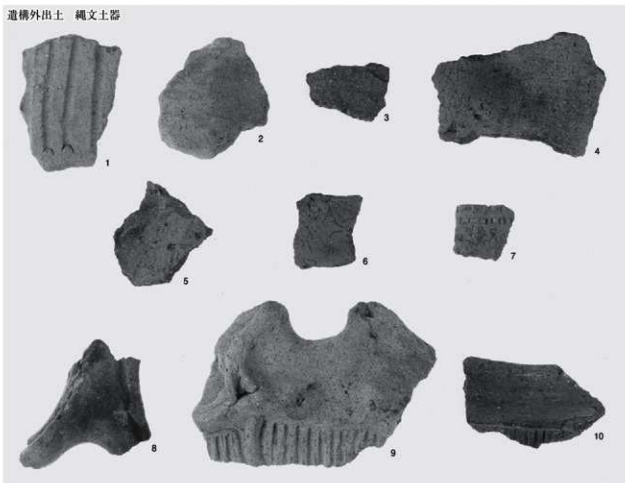


縄文時代遺物 (2)

SK-030

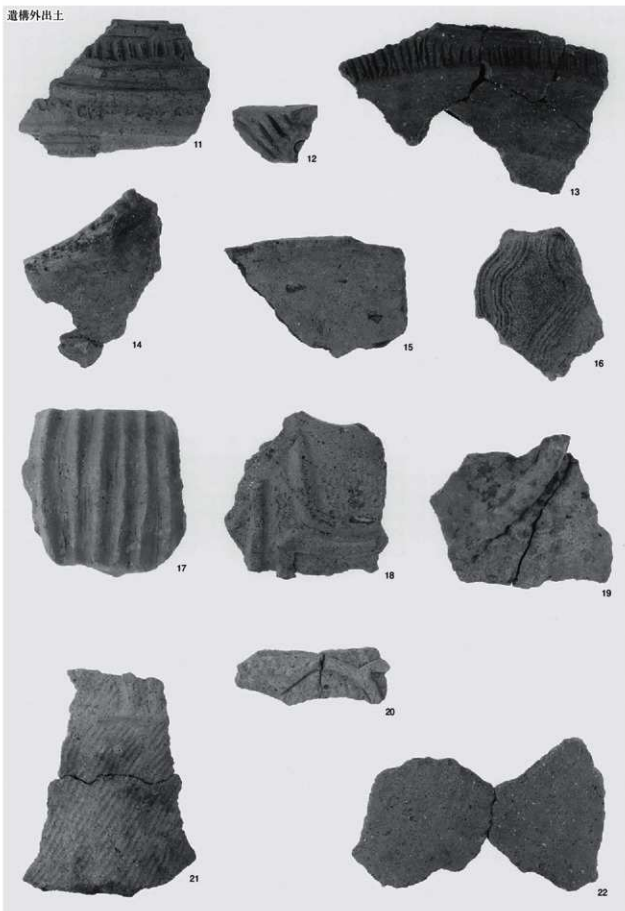


遺構外出土 縄文土器



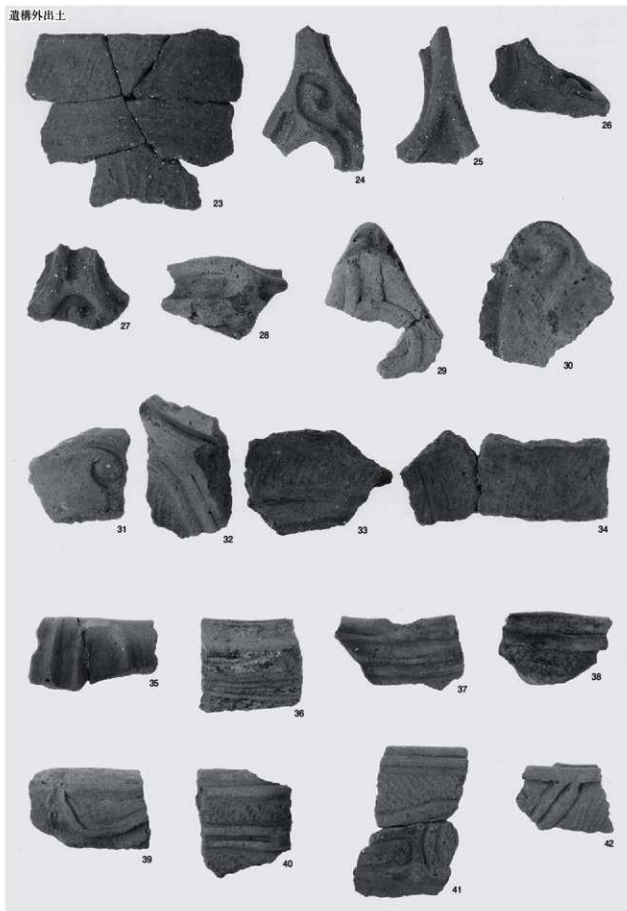
縄文時代遺物 (3)

遺構外出土



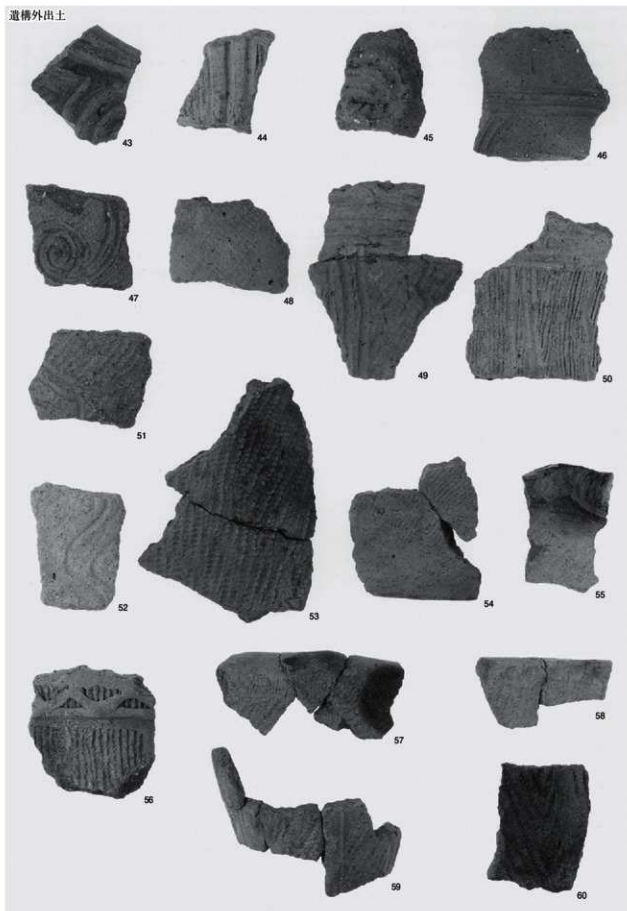
縄文時代遺物（4）

遺構外出土



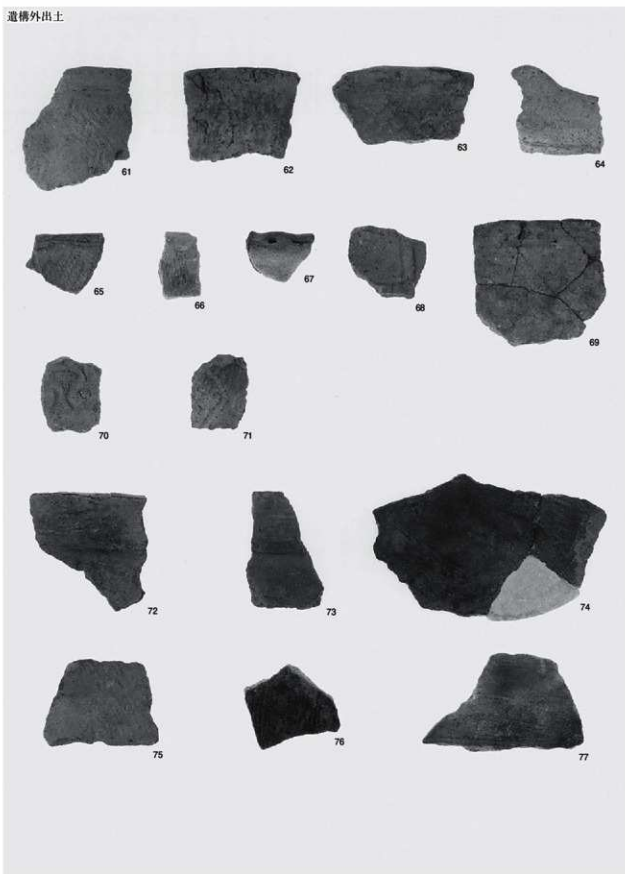
縄文時代遺物 (5)

遺構外出土



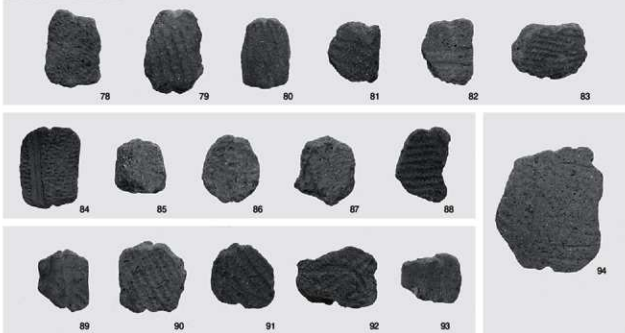
縄文時代遺物 (6)

遺構外出土

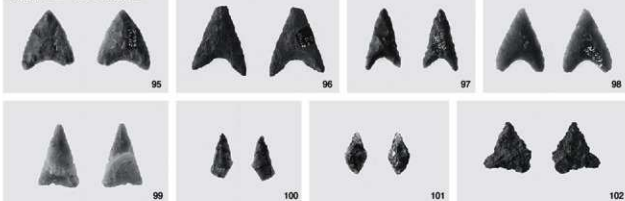


縄文時代遺物（7）

遺構外出土 土器片鏢

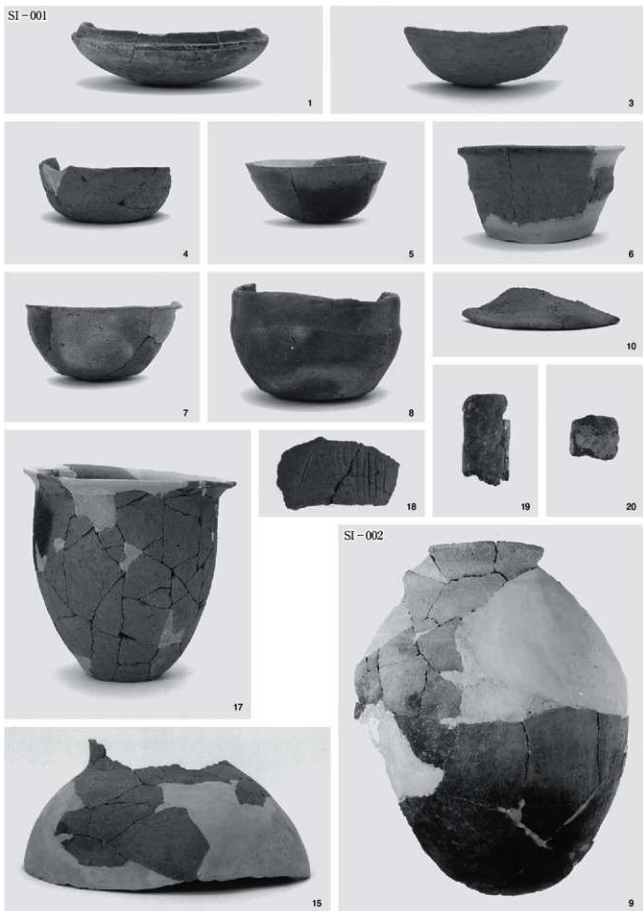


遺構外出土 縄文時代石器

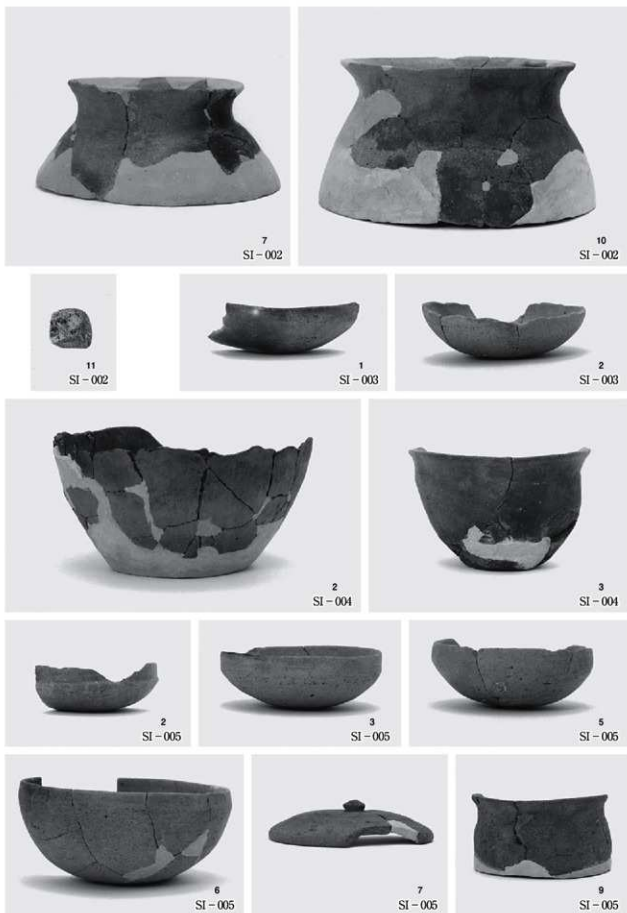


縄文時代遺物 (8)

SI-001



古墳時代以降遺物 (1)



古墳時代以降遺物 (2)

SI-011



1



2



4



6



10



13



14



17



15



16



18

SI-012



1



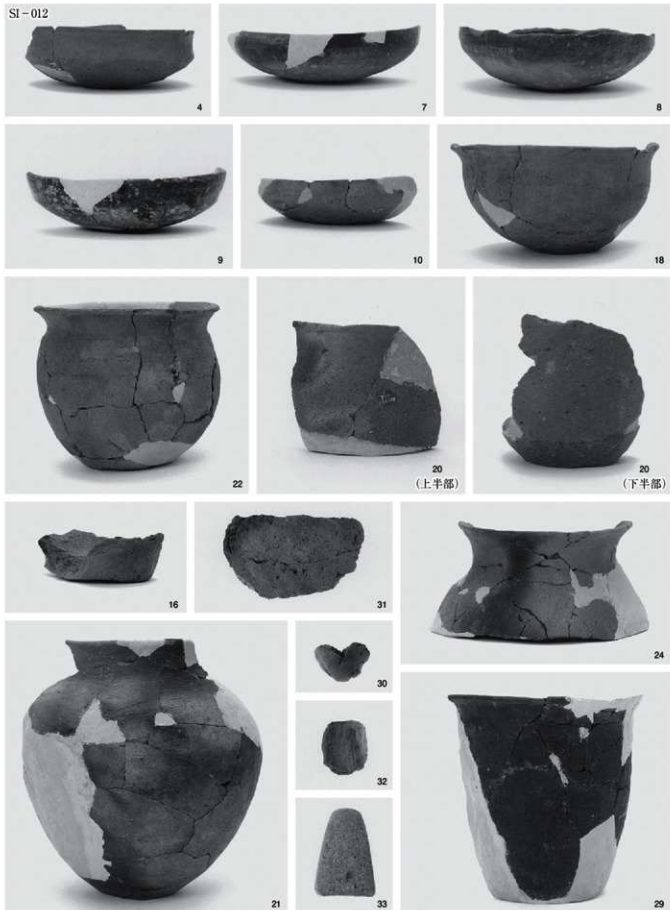
1



2

古墳時代以降遺物 (3)

SI-012



古墳時代以降遺物 (4)

SI-013



1



2



4



5



6



7



8



10



18



11



13



19

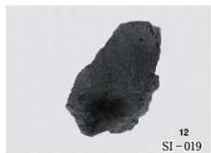


20



21

古墳時代以降遺物 (5)



古墳時代以降遺物 (6)

SI-024



5



6



7



8



12



13



14

古墳時代以降遺物 (7)

SI-024



古墳時代以降遺物 (8)

SI-024



19



20



29



1



2



30



3



4



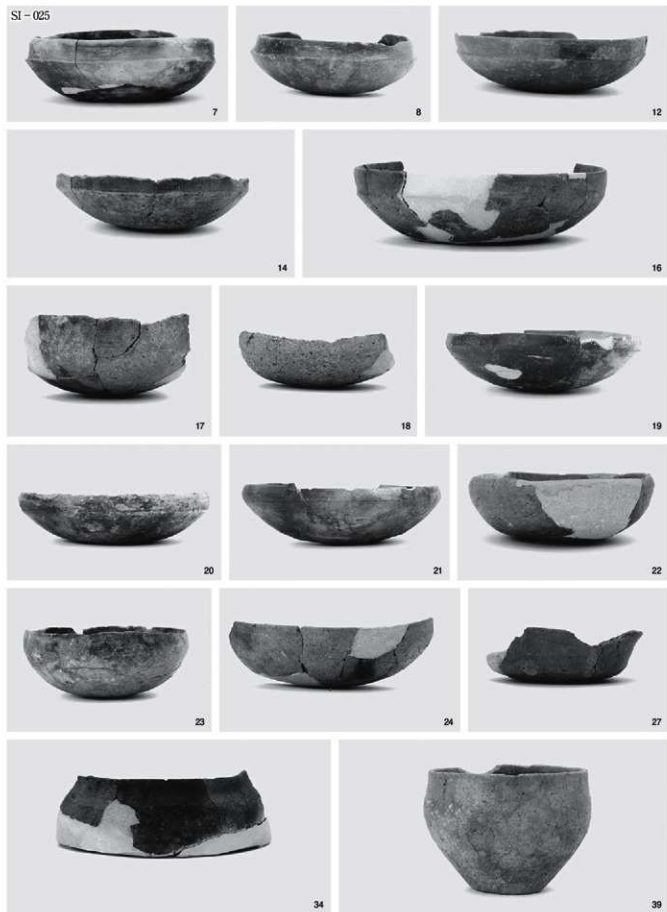
5



6

古墳時代以降遺物 (9)

SI-025



古墳時代以降遺物 (10)

SI-025



30



40



31



43



44



46



36



37



38

SI-201



1



2



3

古墳時代以降遺物 (11)

SI-201



4



6



7



10



12



1
SK-026



1
SD-007



2
SK-026



1
SD-014



2
SD-014



1
SD-015



2
SD-027



1
10D-85



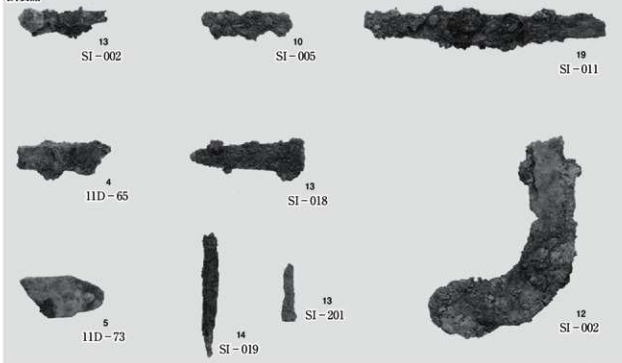
3
9D-05



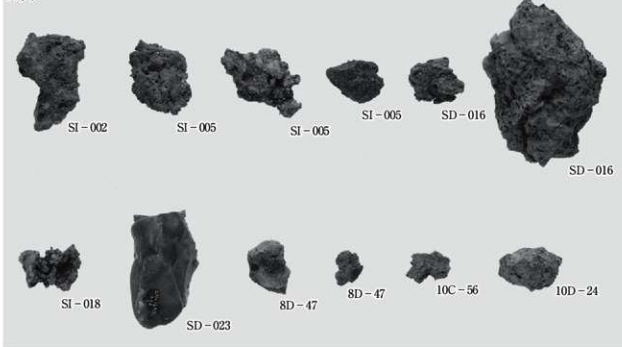
2
トレンチア 7 (2)

古墳時代以降遺物 (12)

鉄製品



スラグ



近世



古墳時代以降遺物 (13)

成井原山向遺跡



調査前第1地点 北から



調査前第2・3地点 第1地点から



調査前第1・2地点 第3地点から



調査前第3地点 成井猪穴崎遺跡から



3-7T 北から



5B-96 下層確認グリッド セクション

調査前、上層確認調査状況、土層



SI-001・002 完掘 西から



SI-001 遺物出土状況 南から



SI-001・002 南側斜面遺物出土状況 西から



SI-001 カマド完掘 南西から



SI-001・002 南側斜面遺物出土状況 西から



SI-003 完掘 東から

SI-001, SI-002, SI-003



SI-003 カマド完掘 東から



SI-003 遺物出土状況 東から



SI-003 遺物出土状況 南から



SI-003 北側遺物出土状況 西から



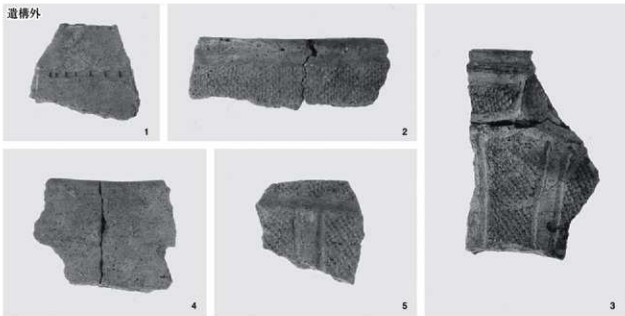
SK-001 完掘 南西から



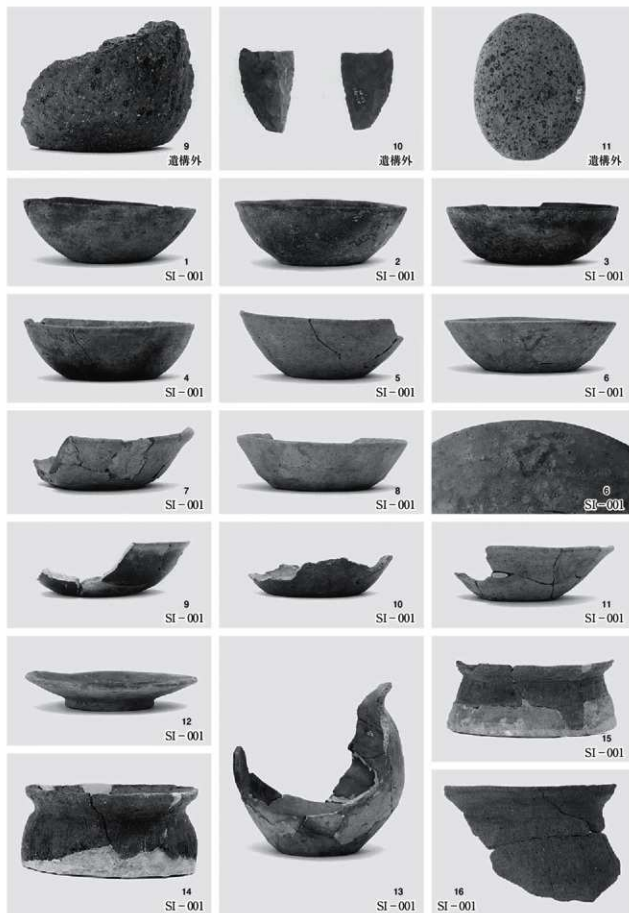
SK-001 切セクション 南から

SI-003, SK-001

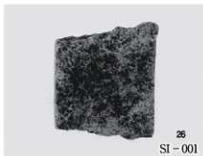
遺構外



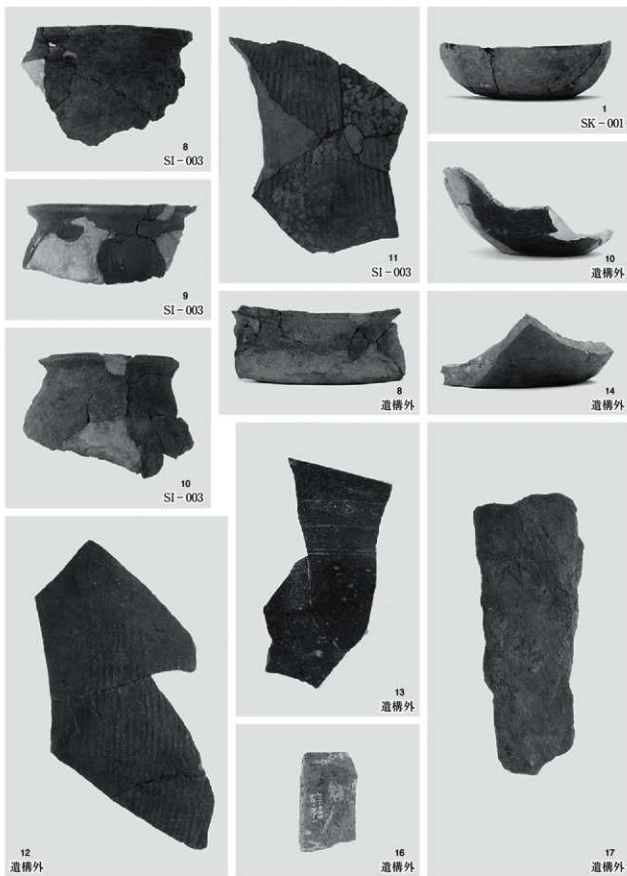
縄文時代遺物 (1)



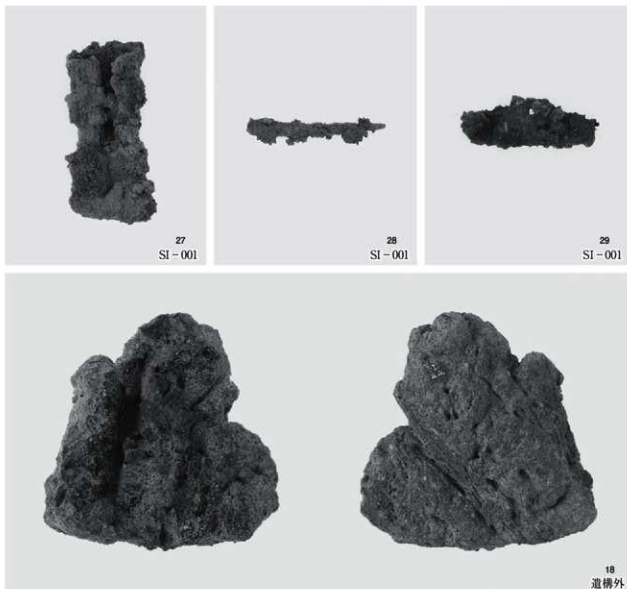
縄文時代遺物（2）、奈良・平安時代遺物（1）



奈良・平安時代遺物(2)



奈良・平安時代遺物(3)



27
SI-001

28
SI-001

29
SI-001

18
遺構外

奈良・平安時代遺物（4）

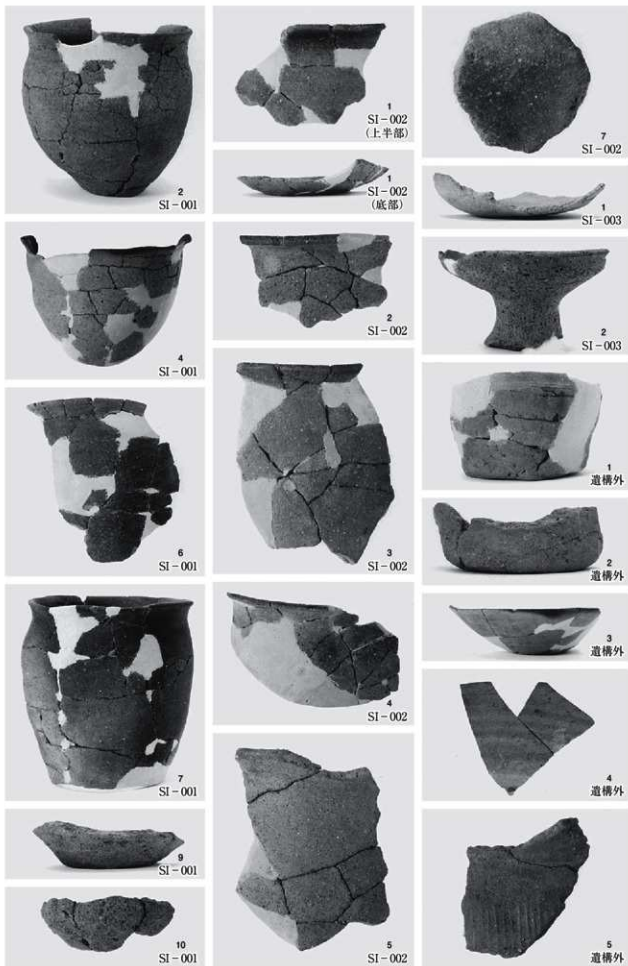
成井猪穴崎遺跡



上層確認調査状況。土層, SI-001



SI-002, SI-003



古墳時代遺物

報告書抄録

ふりがな	しゅとけんちゅうおうれんらくじどうしゃうまいぞうぶんかざいちょうきょうこくしょ							
書名	首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書							
副書名	成田市倉水高台遺跡、倉水内野北遺跡、倉水内野南遺跡、青山小峰遺跡、稲荷山道分台遺跡、成井原山遺跡、成井原山向遺跡、成井原六崎遺跡							
巻次	25							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第727集							
編著者名	藤 淳一、相京邦彦、平井真紀子							
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市渡渡809番地の2 TEL.043-424-4848							
発行年月日	西暦2014年3月26日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
倉水高台遺跡	成田市青山字富ノ木65-314か	211	082	35度51分41秒	140度23分23秒	20101015～20111102	1,020㎡	
倉水内野北遺跡(1)	成田市倉水内野64-114か	211	068-1	35度51分22秒	140度23分25秒	20060417～20060703	11,350㎡	
倉水内野北遺跡(2)	成田市倉水字中山67-114か	211	068-2	35度51分26秒	140度23分27秒	20061101～20061130	2,880㎡	
倉水内野北遺跡(3)	成田市倉水字中山69-114か	211	068-3	35度51分28秒	140度23分28秒	20110201～20110314	4,842㎡	
倉水内野南遺跡(1)	成田市倉水字内野6214か	211	070-1	35度51分14秒	140度23分21秒	20060703～20060831	5,480㎡	
倉水内野南遺跡(2)	成田市倉水小峰410-512か	211	070-2	35度51分7秒	140度17分17秒	20070224～20070225	370㎡	
倉水内野南遺跡(3)	成田市倉水内野160-114か	211	070-3	35度51分12秒	140度23分18秒	20070402～20070626	9,410㎡	
青山小峰遺跡(1)	成田市倉水小峰406-16	211	073-1	35度51分59秒	140度23分18秒	20070201～20070223	2,160㎡	道路建設に伴う埋蔵文化財調査
青山小峰遺跡(2)	成田市倉水字小峰406-1414か	211	073-2	35度51分5秒	140度23分18秒	20110525～20110531	740㎡	
稲荷山道分台遺跡	成田市稲荷山字道分台408-1314か	211	084	35度50分58秒	140度23分13秒	20110318～20110330 20110406～20110524	7,670㎡	
成井原山遺跡(1)	成田市成井原山29812か	211	069-1	35度50分43秒	140度23分11秒	20060424～20061031	11,380㎡	
成井原山遺跡(2)	成田市成井原山314-214か	211	069-2	35度50分46秒	140度23分11秒	20070402～20070531	3,120㎡	
成井原山遺跡(3)	成田市成井原山320-412か	211	069-3	35度50分50秒	140度23分11秒	20110411～20110531	6,610㎡	
成井原山向遺跡	成田市成井原字ノ下向895-8412か	211	085	35度50分34秒	140度23分7秒	20111011～20111208	5,260㎡	
成井原六崎遺跡	成田市成井原字作890-212か	211	079	35度50分24秒	140度23分4秒	20091201～20091225	3,360㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
倉水高台遺跡	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代 近世	なし なし なし		縄文土器・石器 土師器・須恵器 銅鏡			
倉水内野北遺跡(1)	包蔵地	旧石器時代 縄文時代	石器出土地点2ヶ所 隔穴1基、土坑10基		石器 縄文土器・石器			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉水内野北遺跡(2)	包蔵地	旧石器時代 縄文時代	石器集中地点2カ所、石器出土地点1カ所 遺物集中地点1カ所	石器 縄文土器・石器	
倉水内野北遺跡(3)	包蔵地	旧石器時代 縄文時代 古墳時代	石器集中地点1カ所 遺物集中地点1カ所 土師器集中地点1カ所	石器 縄文土器・石器 土師器	
倉水内野南遺跡(1)	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	石器出土地点1カ所 竪穴住居跡2軒、陥穴3基、土坑3基 竪穴住居跡1軒	石器 縄文土器・石器 弥生土器・石器	
倉水内野南遺跡(2)	包蔵地	-	なし	なし	
倉水内野南遺跡(3)	包蔵地	旧石器時代 中世	石器出土地点1カ所 溝1条	石器	
青山小峠遺跡(1)	包蔵地	旧石器時代 縄文時代	石器集中地点1カ所 なし	石器 縄文土器・石器	
青山小峠遺跡(2)	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器・石器	
福岡山追分台遺跡	包蔵地	縄文時代	遺物集中地点1カ所	縄文土器・石器・礫・礫片	
成井原山遺跡(1)	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代 中世	なし 竪穴住居跡11軒 溝5条	縄文土器・石器 土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄器	
成井原山遺跡(2)	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	土坑1基 竪穴住居跡6軒 土坑墓1基 溝4条	縄文土器・石器 土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄器 須恵器	奈良・平安時代 土坑墓は周辺で 初見
成井原山遺跡(3)	包蔵地	旧石器時代 縄文時代 中世	石器集中地点1カ所 土坑2基 溝2条((2)調査の続き)	礫片 縄文土器・石器	縄文時代袋状土 坑は周辺で初見
成井原山向遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	なし 竪穴住居跡3軒、土坑1基	縄文土器・石器 土師器・須恵器・石製品・鉄器	
成井第六崎遺跡	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡3軒 なし	土師器・須恵器・土製品 土師器・須恵器	
<p>要約 倉水内野北遺跡と福岡山追分台遺跡は、同一台地の北と南にあって、縄文時代早期の時期・内容を異にする遺物集が見られる。 成井地区の3遺跡は、周辺の調査成果と考え合わせると、古墳時代後期から奈良・平安時代の大規模な集落跡の部分と考えられる。</p>					

千葉県教育振興財団調査報告第727集

首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書25

—成田市倉水高台遺跡・倉水内野北遺跡・倉水内野南遺跡・青山小峰遺跡
・稲荷山追分台遺跡・成井原山遺跡・成井原山向遺跡・成井猪穴崎遺跡—

平成26年3月26日発行

編 集	公益財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	国土交通省関東地方整備局 常 総 国 道 事 務 所 土浦市川口1-1-26 アーバンスクエア土浦ビル4F
	公益財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	株式会社 エリート情報社 印刷出版局 成田市東和田415-10
